

双葉町 住民意向調査 報告書

平成26年3月

復興庁
福島県
双葉町

双葉町 住民意向調査

報告書

目次

I 調査の概要	1
1-1 調査目的.....	3
1-2 調査内容.....	3
1-3 調査設計.....	3
1-4 回収結果.....	3
1-5 報告書の見方.....	3
II 回答者の属性	5
2-1 回答者の属性.....	7
III 調査結果	11
3-1 現在の状況.....	13
3-1-1 現在の避難先自治体.....	13
3-1-2 世帯構成・人数.....	15
3-1-3 職業.....	20
3-1-4 住居形態.....	30
3-1-5 自動車保有.....	36
3-1-6 ペットの有無.....	37
3-2 復興公営住宅の入居意向.....	38
3-2-1 復興公営住宅への入居希望.....	38
3-2-2 復興公営住宅の入居を希望する理由.....	42
3-2-3 復興公営住宅の入居を現時点で判断できない理由.....	43
3-2-4 入居を希望する地域と家族構成.....	44
3-2-5 分散して入居する場合の住居形態.....	49
3-2-6 分散して避難している家族との同居意向.....	50
3-2-7 復興公営住宅に入居を希望する自治体を選んだ理由.....	52
3-2-8 復興公営住宅の近隣に必要な施設・機能.....	56
3-2-9 復興公営住宅に入居する場合に必要なもの.....	58
3-2-10 復興公営住宅以外の避難期間中の住居.....	60
3-2-11 現在の住居で継続して暮らしたい理由.....	62
3-2-12 避難期間中、転居を希望する自治体.....	65
3-2-13 避難期間中、転居する場合の住宅形態.....	67
3-2-14 持ち家を購入または建築するにあたって困っていること.....	68
3-2-15 復興公営住宅を希望しなかった理由.....	69
3-2-16 避難期間中の住宅や居住環境についての意見.....	70
3-2-17 避難期間中の生活において、困っていることや改善を求めること.....	72

3-3 将来の意向	74
3-3-1 双葉町への帰還意向	74
3-3-2 双葉町への帰還を判断する上で必要と思う情報	80
3-3-3 帰還まで待てる年数	85
3-3-4 帰還する場合の住居形態	87
3-3-5 帰還する場合に元の持ち家以外を希望する理由	91
3-3-6 現時点で戻らないと決めている理由	92
3-3-7 帰還しない場合に居住したい自治体	95
3-3-8 帰還せず別の自治体に転居する場合の住居形態	100
3-3-9 帰還しない場合に今後の生活において求める支援	101
3-3-10 双葉町に戻らない場合の所有していた不動産の扱い	103
3-4 その他	105
3-4-1 現在、ご家族に介護が必要な方がいるか否か	105
3-4-2 現在の介護保険施設等の利用状況	106
3-4-3 利用している施設の種類	107
3-4-4 現在、施設を利用していない理由	108
3-4-5 特別養護老人ホームが再開した場合の利用意向	109
3-4-6 町からの情報の入手方法	110
3-4-7 特に知りたい、関心がある情報	111
3-4-8 現時点の状況下での電話帳の作成について	112
3-5 意見・要望	113
IV 参考資料	129
4-1 使用調査票	131

I 調査の概要

1-1 調査目的

本調査は、双葉町住民の復興公営住宅の希望など、避難期間中の生活環境の整備や、帰還に向けた諸施策を適切に実施するための基礎資料とすることを目的とする。

1-2 調査内容

※4-1 使用調査票を参照のこと

1-3 調査設計

(1) 調査地域	双葉町
(2) 調査対象と標本数	世帯の代表者 3,394 世帯
(3) 調査手法	郵送にて配布・回収（自記式）
(4) 調査期間	平成 25 年 10 月 10 日（木）～平成 25 年 10 月 24 日（木）
(5) 調査主体	復興庁、福島県、双葉町
(6) 調査機関	株式会社サーベイリサーチセンター

1-4 回収結果

有効回収数 1,731 世帯（有効回収率 51.0%）

1-5 報告書の見方

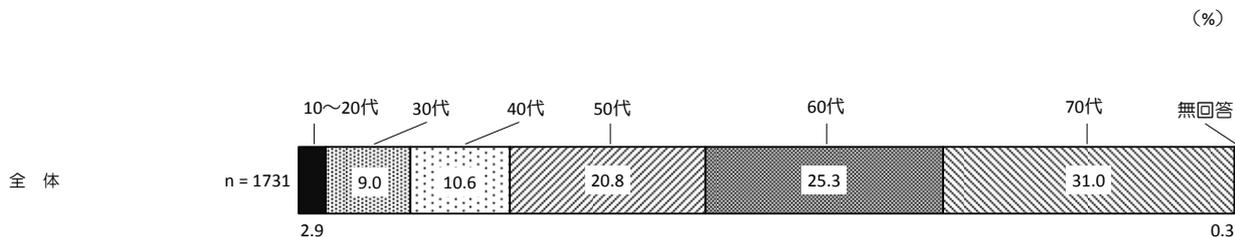
- ・調査数（n=Number of cases）とは、回答者総数あるいは分類別の回答者数のことである。
- ・回答の構成比は百分率であらわし、小数点第 2 位を四捨五入して算出している。従って、回答比率の合計が 100%にならない場合がある。
- ・回答者が 2 つ以上の回答をすることができる多肢選択式の質問においては、全ての選択肢の比率を合計すると 100%を超える。
- ・図表において、比率が少ない選択肢については、比率の表示を省略している場合がある。
- ・図表および文章中で、選択肢の語句等を一部簡略化している場合がある。
- ・調査数（n 値）が少数（概ね 30 を下回る）のものは、回答構成比の信頼性が低いため、文章中の分析では言及していない。

II 回答者の属性

2-1 回答者の属性

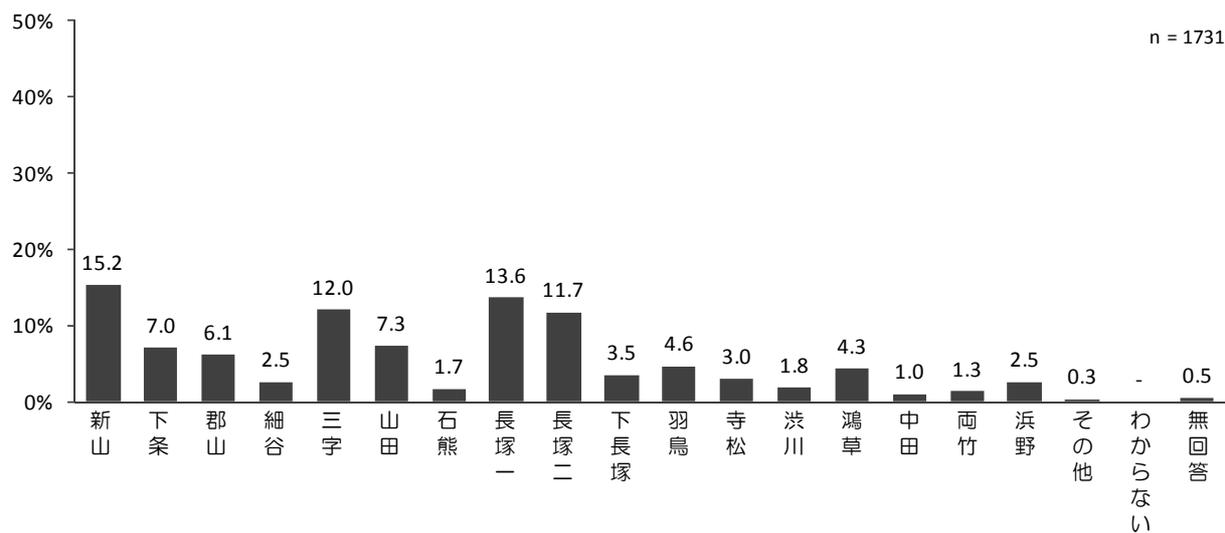
(1) 年齢

<図表2-1-1 年齢>



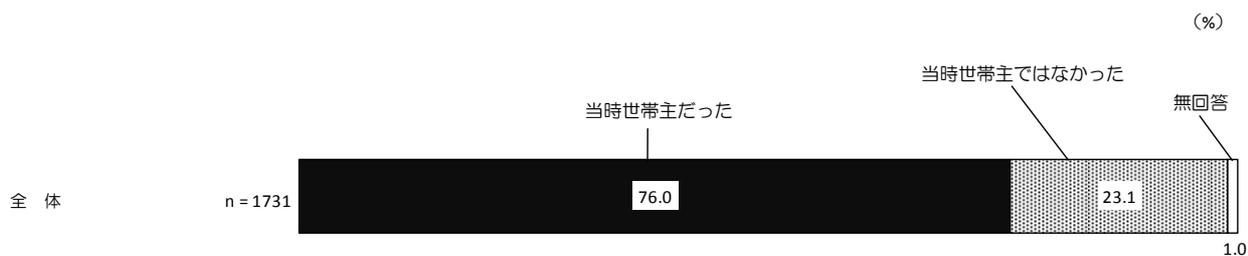
(2) 震災発生当時居住していた行政区

<図表2-1-2 震災発生当時居住していた行政区>



(3) 震災発生当時の世帯での立場

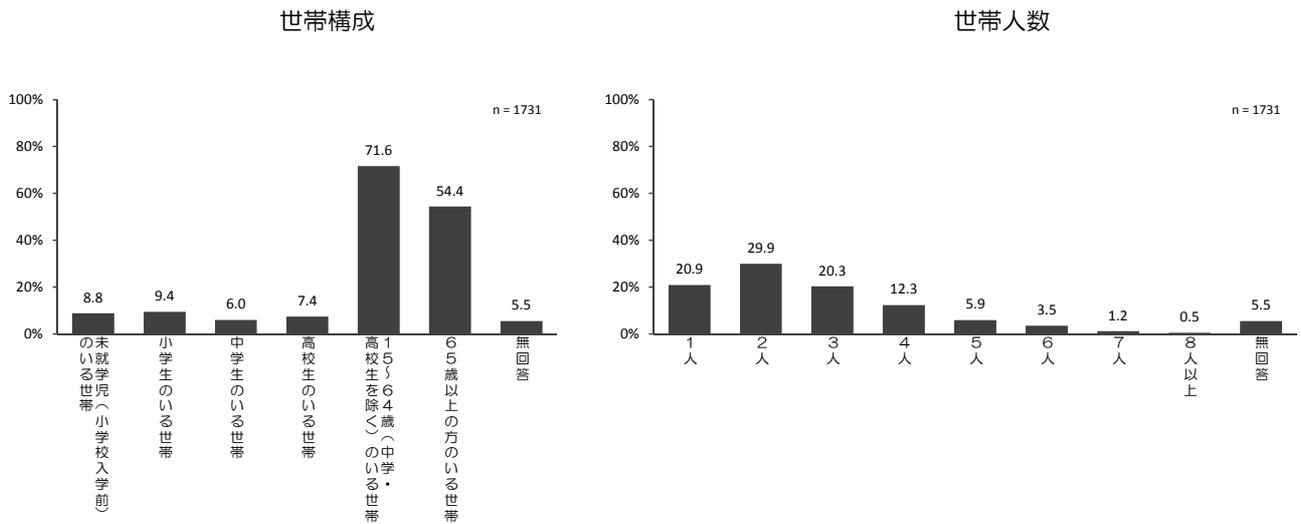
<図表2-1-3 震災発生当時の世帯での立場>



II 回答者の属性

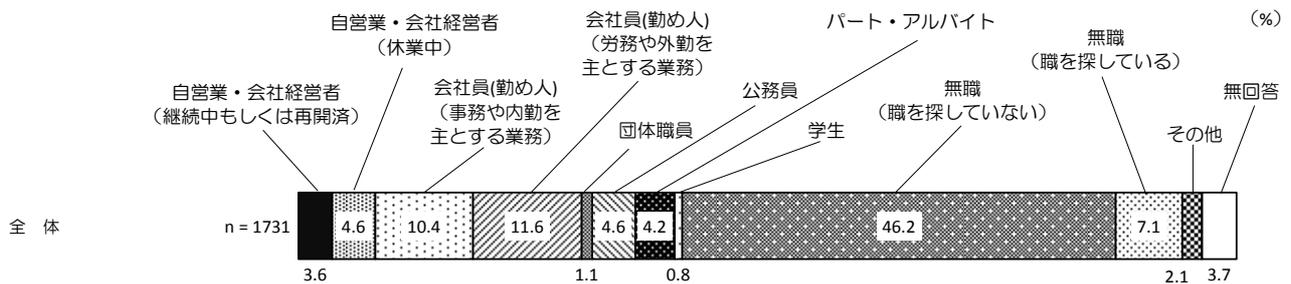
(4) 世帯構成・人数

<図表2-1-4 現在の世帯構成・人数>

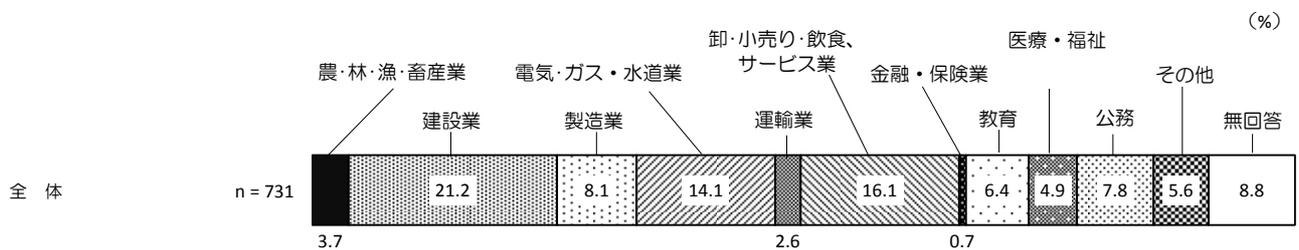


(5) 職業

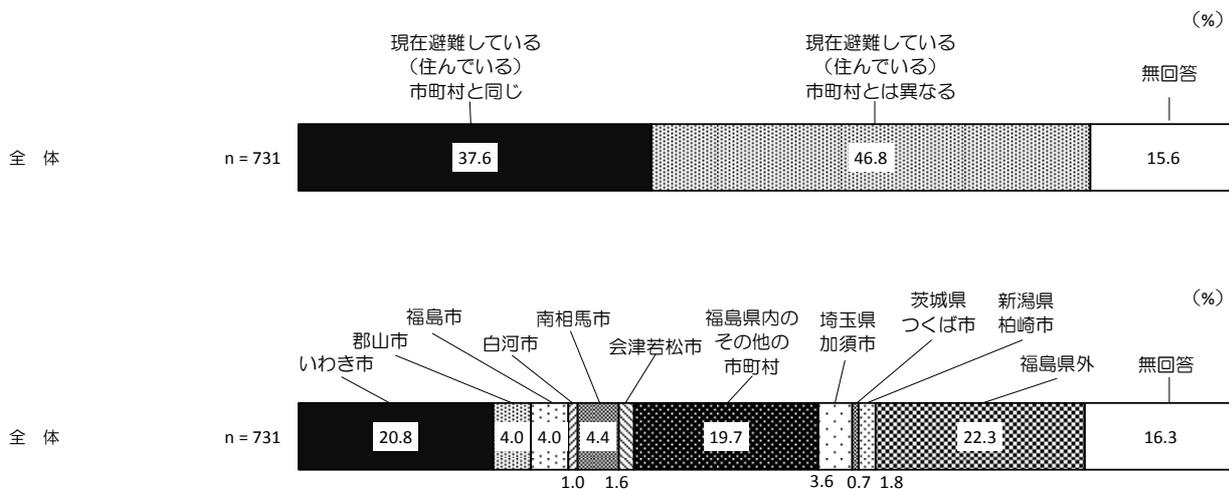
<図表2-1-5 現在の職業(就業形態)>



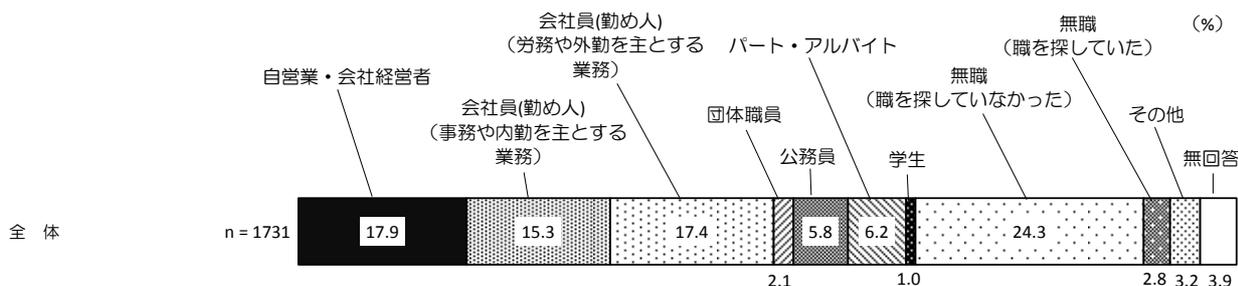
<図表2-1-6 現在の業種>



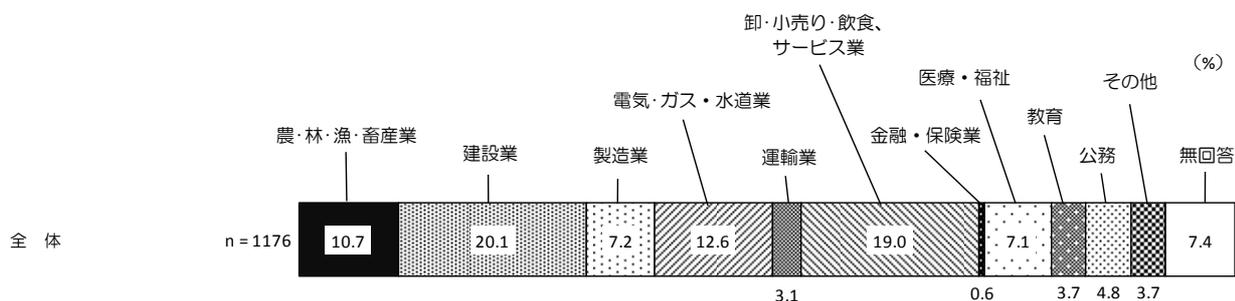
<図表2-1-7 現在の就業先>



<図表2-1-8 震災発生当時の職業(就業形態)>

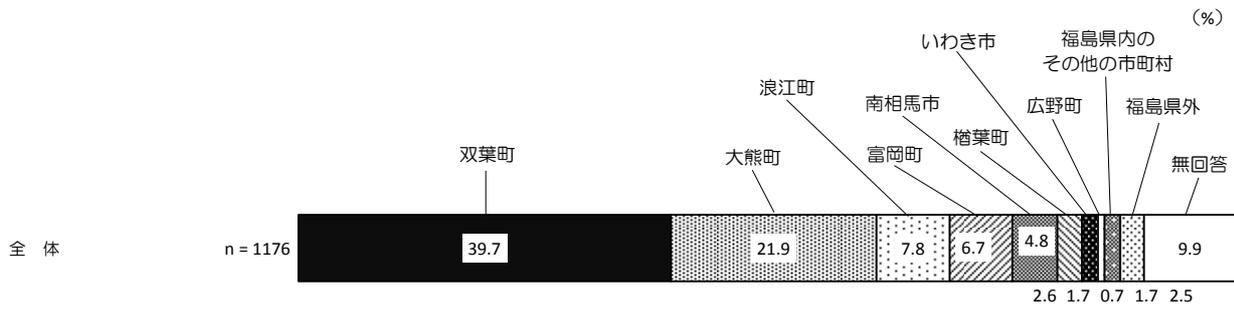


<図表2-1-9 震災発生当時の業種>



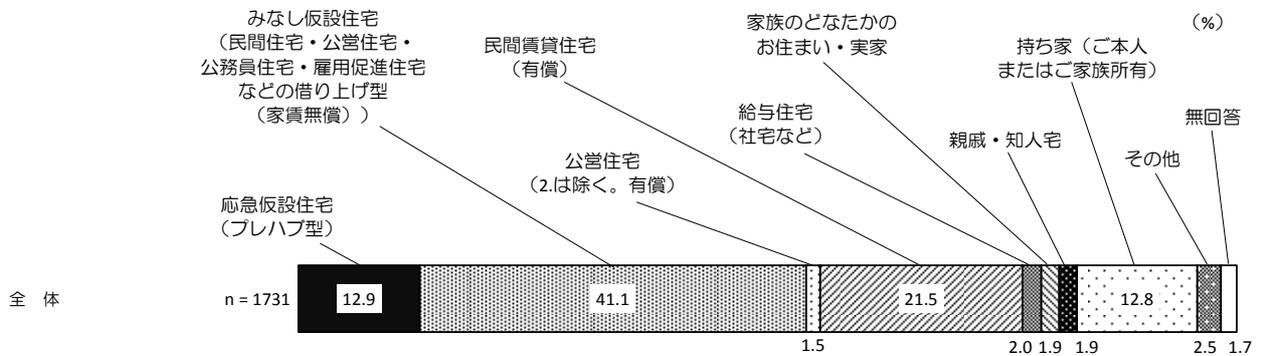
II 回答者の属性

<図表2-1-10 震災発生当時の就業先>

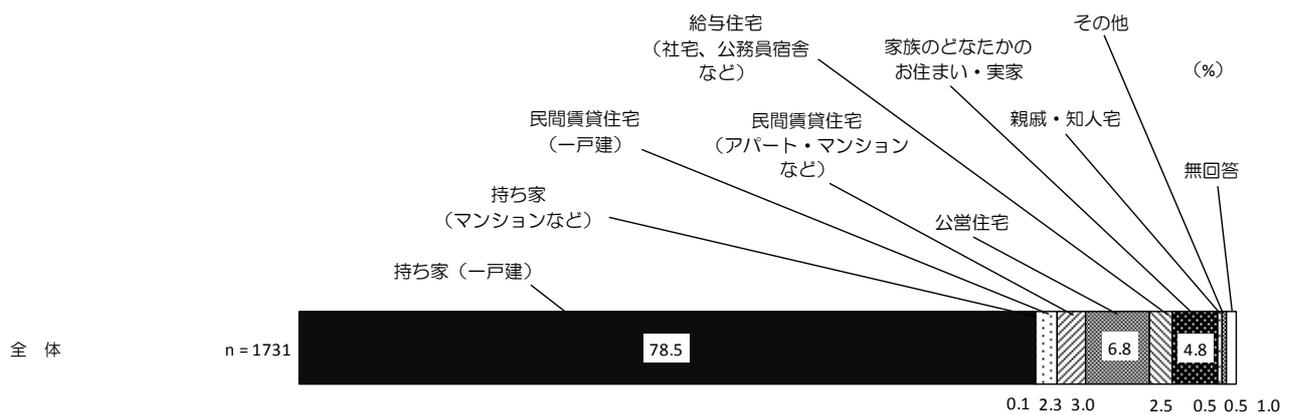


(6) 住居形態

<図表2-1-11 現在の住居形態>



<図表2-1-12 震災発生当時の住居形態>



III 調査結果

3-1 現在の状況

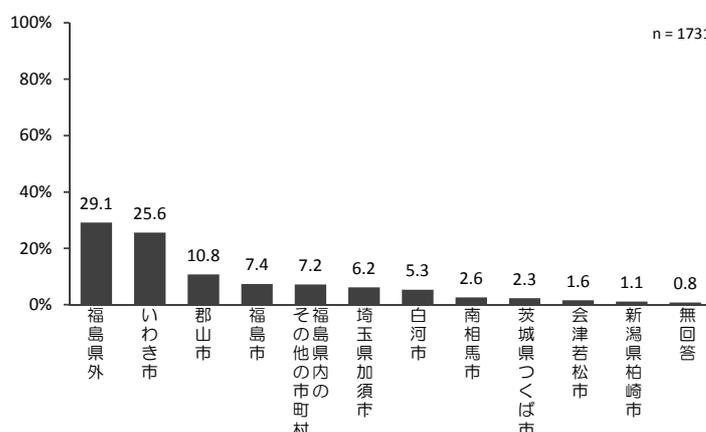
3-1-1 現在の避難先自治体

問7 あなたが現在避難されている先の自治体を教えてください。(〇は1つ)

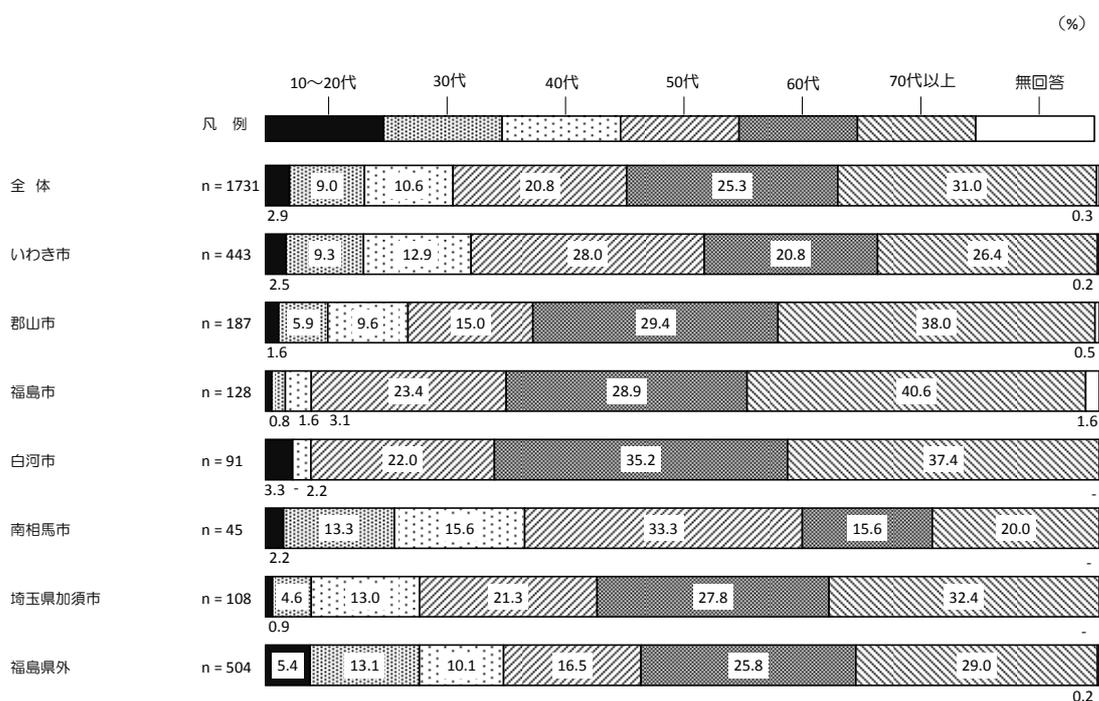
現在の避難先自治体については、「福島県外」が29.1%と最も高く、次いで「いわき市」が25.6%、「郡山市」が10.8%となっている。

避難先として主要な自治体について、世帯主の年齢構成をみると、白河市は「60代」以上が72.6%と7割以上を占め、福島市(69.5%)、郡山市(67.4%)、埼玉県加須市(60.2%)も「60代」以上が6~7割近くを占める。一方、いわき市(47.2%)、南相馬市(35.6%)、福島県外(54.8%)は、先の3自治体と比べ、「60代」以上が占める割合は低くなっている。

<図表3-1-1-1 現在の避難先自治体>



<図表3-1-1-2 主な避難先自治体の世帯主の年齢構成>



III 調査結果

震災発生時の居住行政区別にみると、三字、下長塚、渋川、浜野では「いわき市」が3割となっている。

<図表3-1-1-3 避難先自治体（居住行政区別）>

	n	(%)						
		いわき市	郡山市	福島市	白河市	南相馬市	埼玉県加須市	福島県外
全 体	1731	25.6	10.8	7.4	5.3	2.6	6.2	29.1
新山	263	25.9	11.8	6.5	5.7	2.3	5.3	30.8
下条	122	24.6	13.9	8.2	4.9	2.5	4.9	26.2
郡山	106	19.8	5.7	9.4	6.6	1.9	17.0	25.5
細谷	44	27.3	13.6	6.8	4.5	-	4.5	36.4
三字	207	33.8	10.1	4.8	2.4	1.9	5.8	30.9
山田	126	23.8	15.1	7.1	6.3	2.4	7.1	27.0
石熊	29	27.6	24.1	10.3	-	3.4	-	17.2
長塚一	235	23.8	13.2	6.0	7.2	3.4	4.3	29.4
長塚二	203	19.2	11.8	6.9	4.4	1.5	3.4	35.0
下長塚	60	31.7	6.7	18.3	3.3	3.3	5.0	16.7
羽鳥	80	26.3	6.3	7.5	6.3	6.3	8.8	25.0
寺松	52	26.9	11.5	9.6	7.7	3.8	1.9	26.9
渋川	32	31.3	6.3	-	25.0	-	6.3	25.0
鴻草	74	24.3	5.4	13.5	1.4	5.4	8.1	31.1
中田	18	22.2	5.6	5.6	-	-	5.6	22.2
両竹	23	17.4	-	8.7	4.3	-	17.4	34.8
浜野	43	39.5	2.3	4.7	-	2.3	14.0	32.6
その他	6	-	16.7	-	-	-	-	33.3

3-1-2 世帯構成・人数

(1) 震災発生当時の世帯での立場

問4 あなたは、震災発生当時、世帯主でしたか。(〇は1つ)

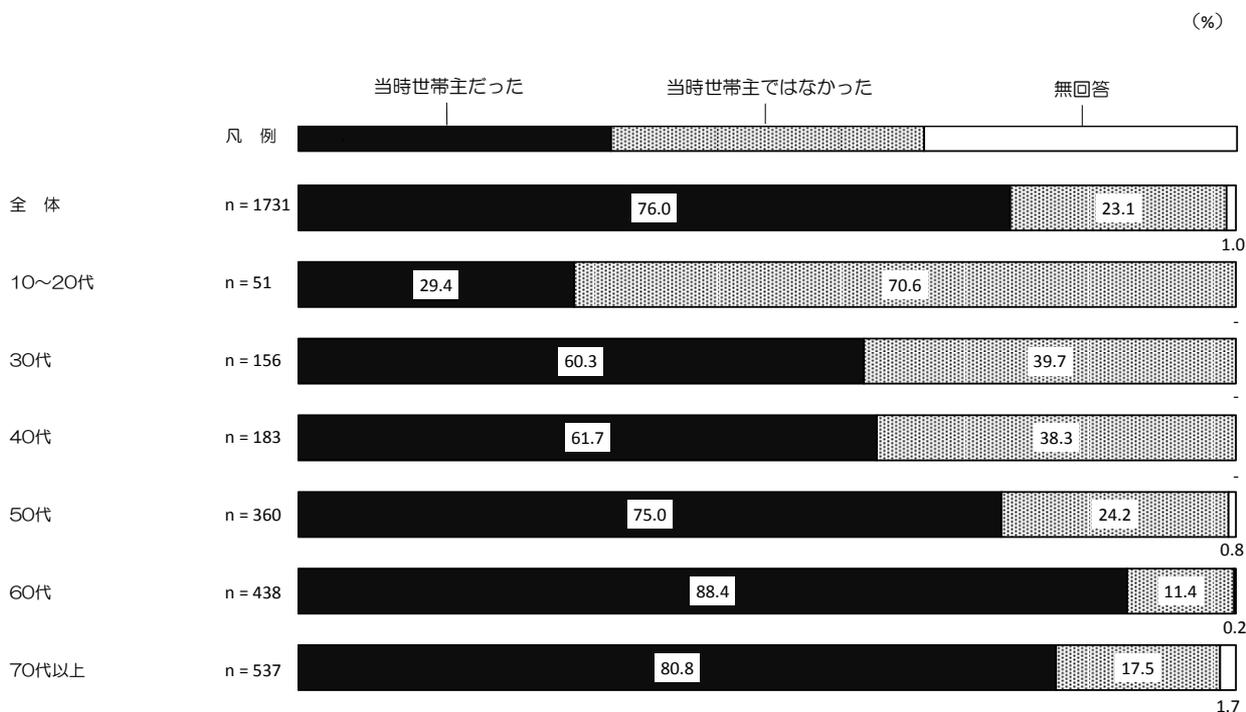
震災発生当時の世帯での立場については、「当時世帯主だった」が76.0%、「当時世帯主ではなかった」が23.1%となっている。

世帯主の年齢別にみると、概ね年齢が高くなるにつれ、「当時世帯主だった」の割合が高くなっており、60代では88.4%、70代以上では80.8%となっており8割を超えている。

<図表3-1-2-1 震災発生当時の世帯での立場>



<図表3-1-2-2 震災発生当時の世帯での立場(世帯主の年齢別)>



III 調査結果

(2) 現在の世帯構成・人数

問8 現在と震災発生当時の世帯構成についてうかがいます。

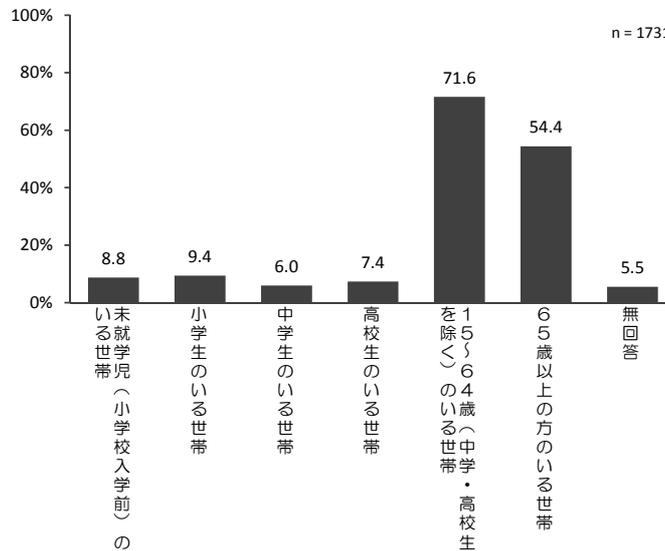
(1) 現在、あなたを含めて一緒に住んでいる方の人数を教えてください。あなた自身を含めて、現在の年齢・学齢にあてはまる人数でご回答ください。(人数で回答)

①現在の世帯構成

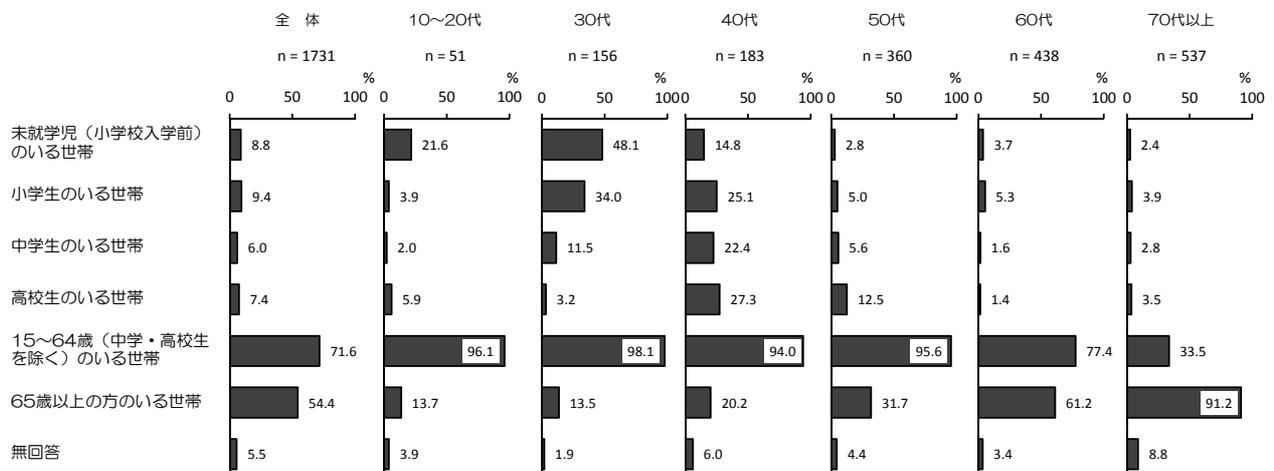
現在の世帯構成は、「15～64歳（中学・高校生を除く）のいる世帯」は71.6%となっている。高校生以下（「未就学児」「小学生」「中学生」「高校生」）が同居する世帯はそれぞれ1割程度、一方、「65歳以上のいる世帯」は54.4%となっている。

世帯主の年齢別にみると、「15～64歳（中学・高校生を除く）のいる世帯」は、概ねいずれの年齢でも高くなっている。また30代では「未就学児(小学校入学前)のいる世帯」(48.1%)、「小学生のいる世帯」(34.0%)が3割を超えている。

<図表3-1-2-3 現在の世帯構成>



<図表3-1-2-4 現在の世帯構成 (世帯主の年齢別)>

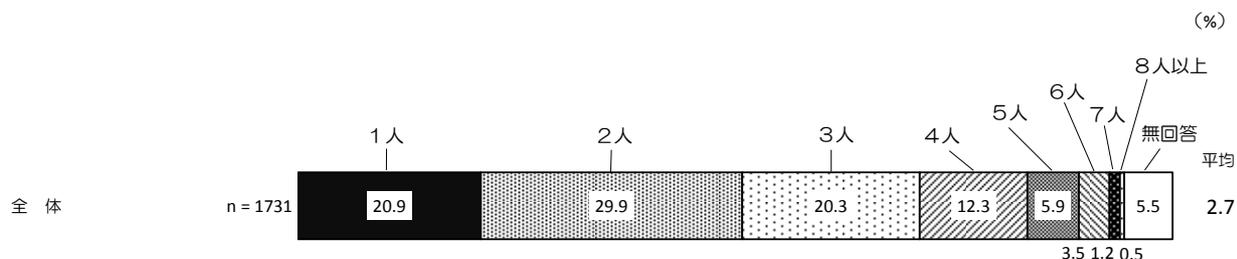


②現在の世帯人数

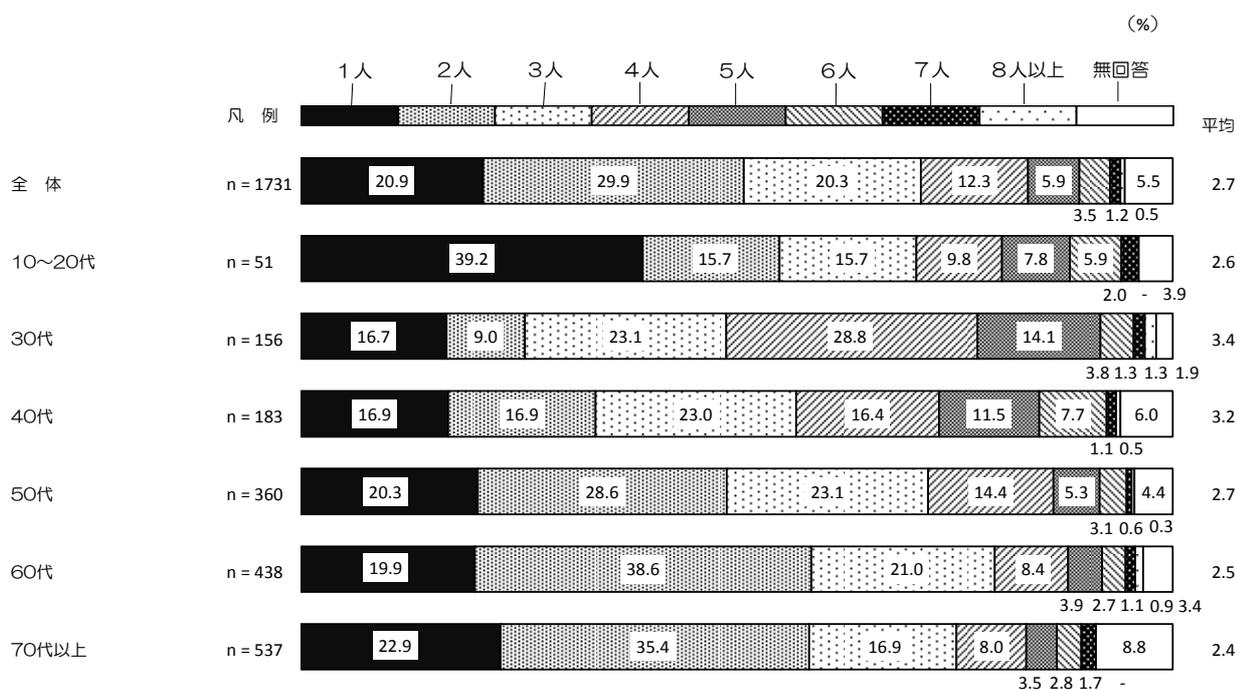
現在の世帯人数については、「2人」が29.9%と最も高く、次いで「1人」が20.9%、「3人」が20.3%となり、平均人数は2.7人となっている。

世帯主の年齢別にみると、「2人」は60代（38.6%）、「1人」は10～20代（39.2%）で4割近くとなる。また、50代以上では「1人～2人」が増加し、50代が48.9%、60代が58.5%、70代以上が58.3%となっている。

<図表3-1-2-5 現在の世帯人数>



<図表3-1-2-6 現在の世帯人数（世帯主の年齢別）>



III 調査結果

(3) 世帯の分散状況

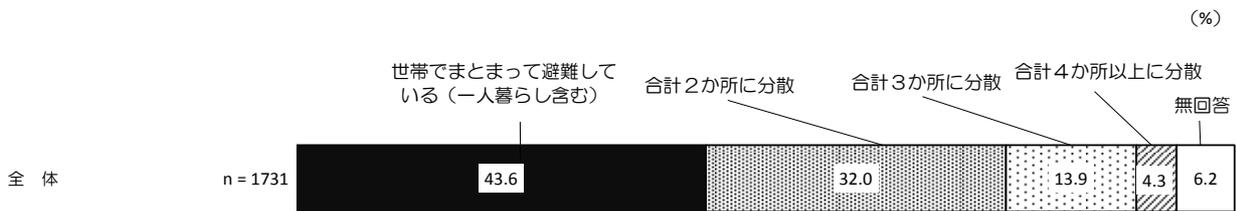
問8 現在と震災発生当時の世帯構成についてうかがいます。

(2) 震災発生当時一緒にお住まいであったご家族は、現在、何か所に分散してお住まいですか。(〇は1つ)

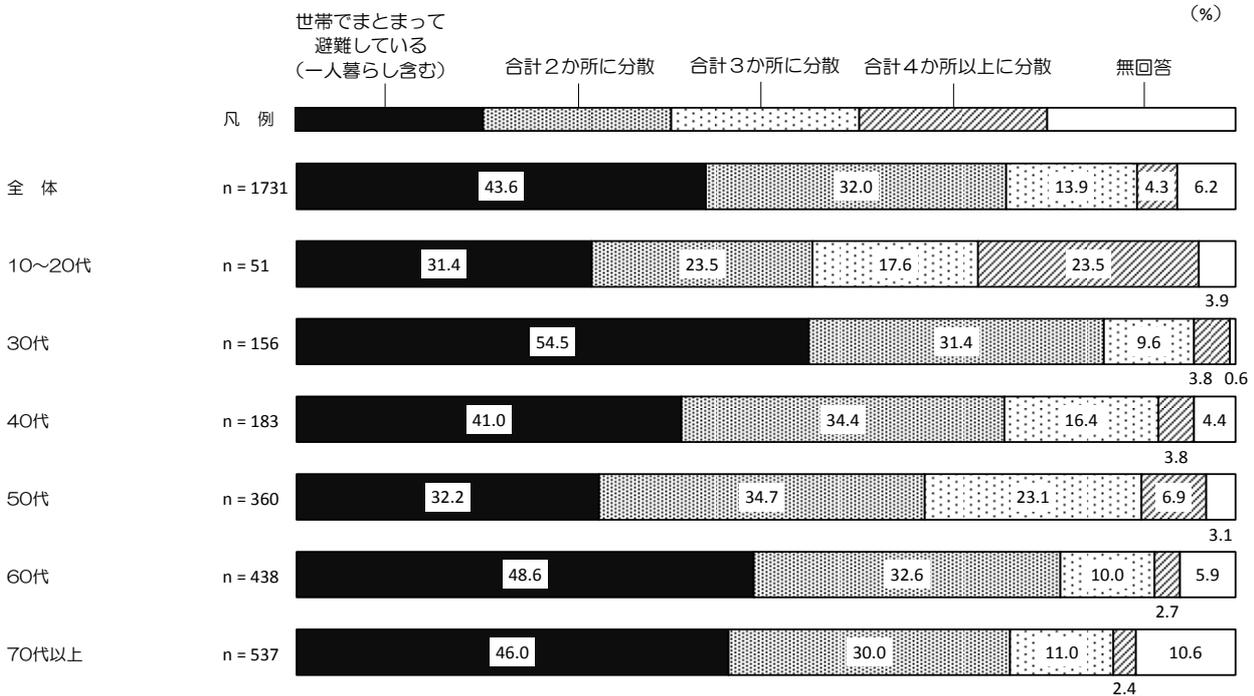
世帯の分散状況については、「世帯でまとまって避難している（一人暮らし含む）」が43.6%と最も高く、次いで「合計2か所に分散」が32.0%、「合計3か所に分散」が13.9%となっている。

世帯主の年齢別にみると、「世帯でまとまって避難している（一人暮らし含む）」が、50代を除きいずれの年齢でも最も高くなっており、30代（54.5%）では半数を占めている。一方、10～20代では「合計4か所以上に分散」が23.5%となっており、他の年齢と比べ高くなっている。

<図表3-1-2-7 世帯の分散状況>

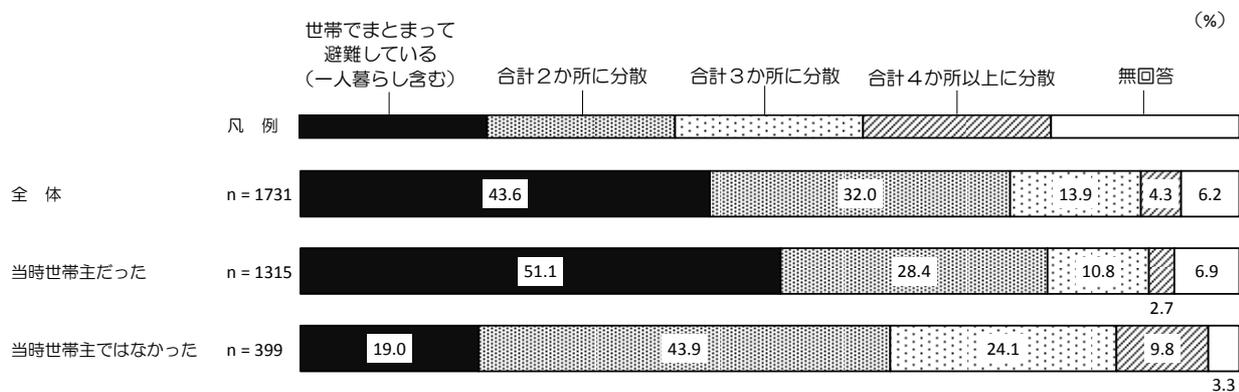


<図表3-1-2-8 世帯の分散状況（世帯主の年齢別）>



震災発生時の世帯での立場別にみると、当時世帯主だったという世帯は「世帯でまとまって避難している（一人暮らし含む）」が51.1%で半数を占める。一方、当時世帯主ではなかった世帯は19.0%で2割弱にとどまっている。当時世帯主ではなかった世帯では、「合計2か所に分散」が43.9%と半数弱、「合計3か所に分散」も24.1%となっている。

<図表3-1-2-9 世帯の分散状況（震災発生時の世帯での立場別）>



III 調査結果

3-1-3 職業

(1) 現在の職業（就業形態）

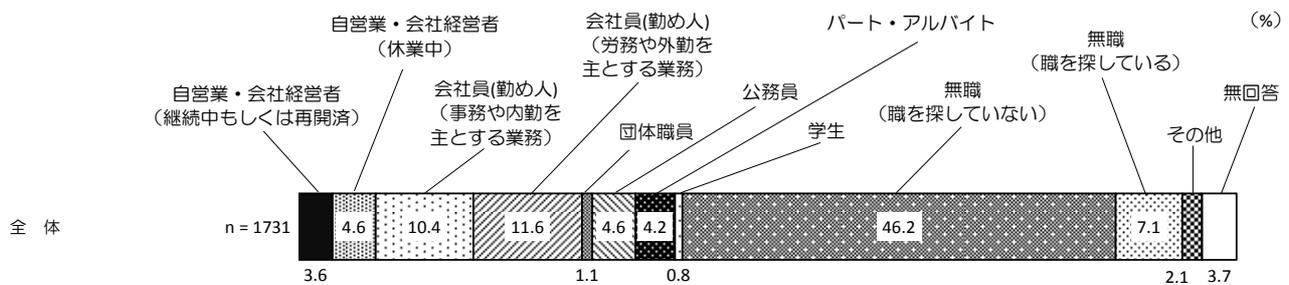
問2 現在のあなたの職業を教えてください。仕事に就いている方は、業種・就業先の所在自治体も教えてください。
 なお、2つ以上の職業を持っている場合は、主な収入源になっている職業を教えてください。

(1) 職業（就業形態）(〇は1つ)

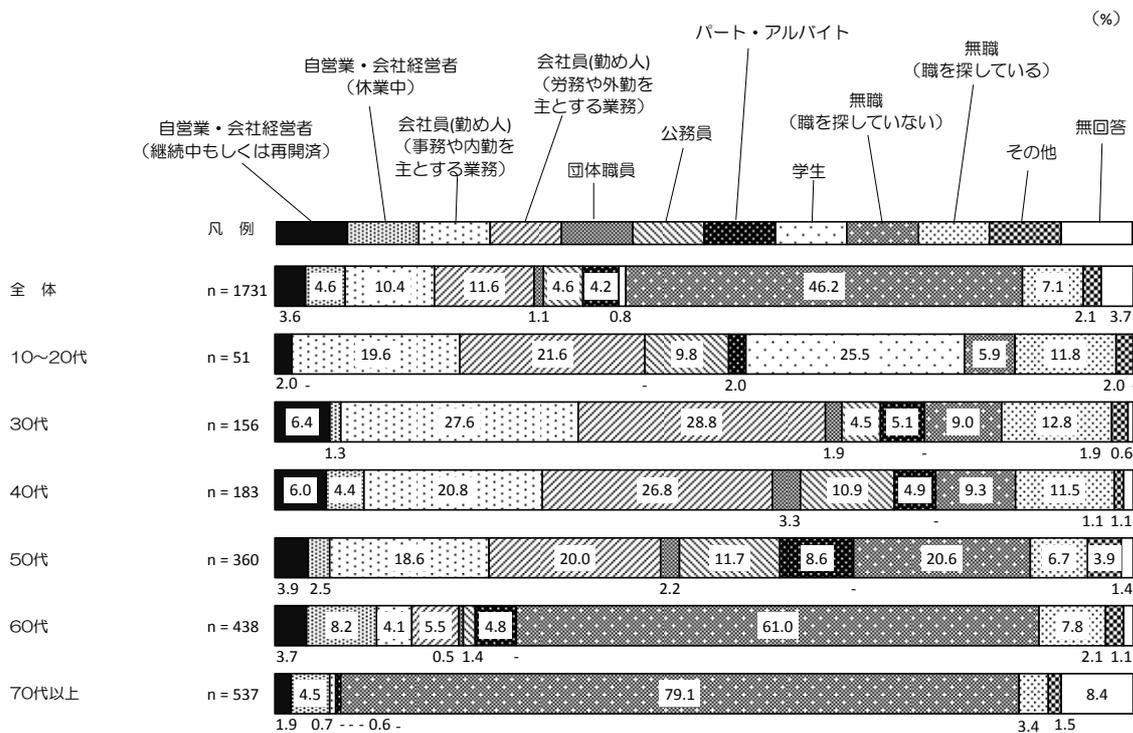
現在の職業（就業形態）については、「無職（職を探していない）」が46.2%と最も高く、次いで「会社員（勤め人）（労務や外勤を主とする業務）」が11.6%、「会社員（勤め人）（事務や内勤を主とする業務）」が10.4%となっている。

世帯主の年齢別にみると、「無職（職を探していない）」と「無職（職を探している）」を合わせた無職は、10～20代で17.7%、30代で21.8%、40代で20.8%、50代で27.3%と2割前後となっている。

<図表3-1-3-1 現在の職業>

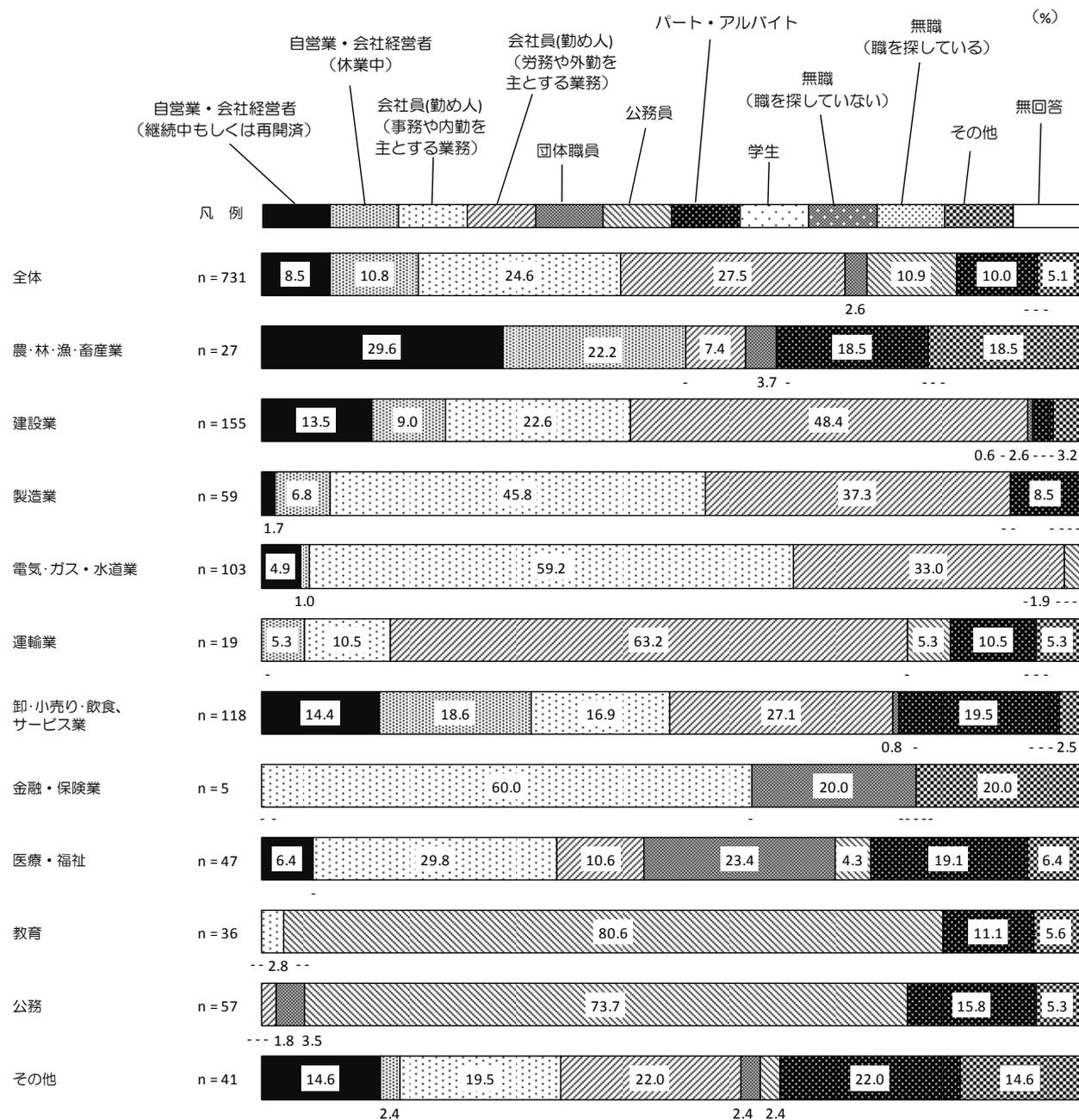


<図表3-1-3-2 現在の職業（世帯主の年齢別）>



現在の業種別にみると、建設業では「会社員(勤め人) (労務や外勤を主とする業務)」(48.4%)、電気・ガス・水道業では「会社員(勤め人) (事務や内勤を主とする業務)」(59.2%)、製造業では「会社員(勤め人) (事務や内勤を主とする業務)」(45.8%) が他の業種と比べ高くなっている。

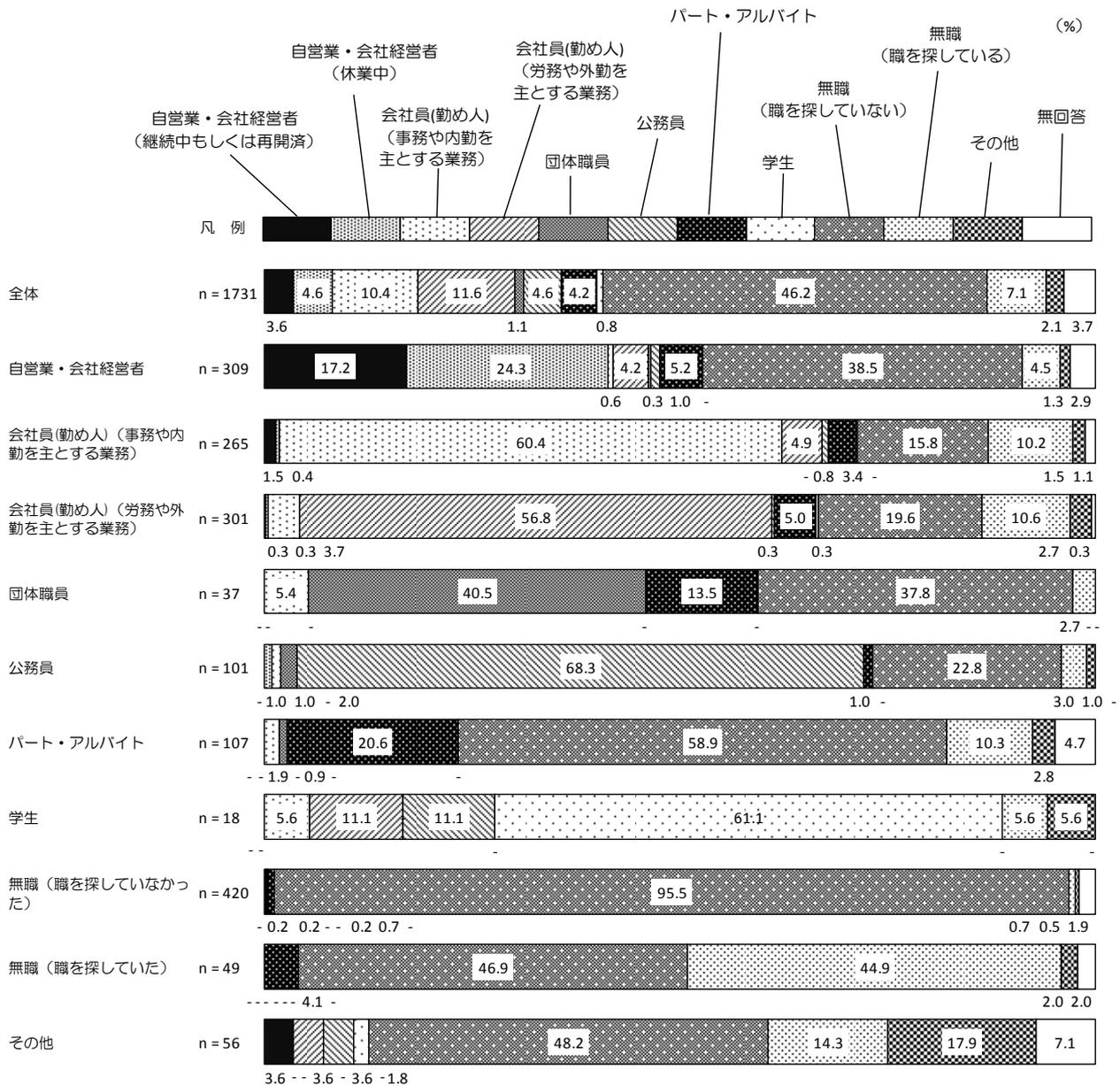
<図表3-1-3-3 現在の職業(現在の業種別)>



III 調査結果

震災発生当時の職業別みると、当時、会社員（勤め人）（事務や内勤を主とする業務）、会社員（勤め人）（労務や外勤を主とする業務）、公務員であった人の6割前後は、現在も同じ職業に就いている。一方、当時、パート・アルバイトであった人の7割近くは、現在は「無職（職を探している、職を探していない）」となっている。また、当時、無職（職を探していた）人の4割強が、現在は「無職（職を探していない）」となっている。

<図表3-1-3-4 現在の職業（震災発生当時の職業別）>



(2) 現在の業種

問2 現在のあなたの職業を教えてください。仕事に就いている方は、業種・就業先の所在自治体も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っている場合は、主な収入源になっている職業を教えてください。

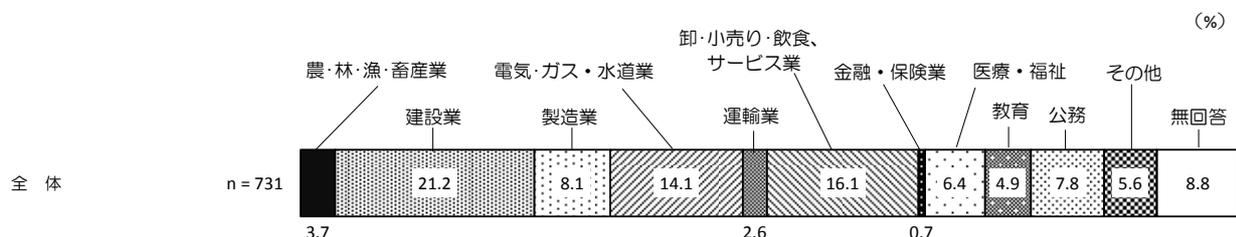
【仕事に就いている方(問2(1)で「1」から「7」、「11」と回答した方)にうかがいます。】

(2) 業種 (〇は1つ)

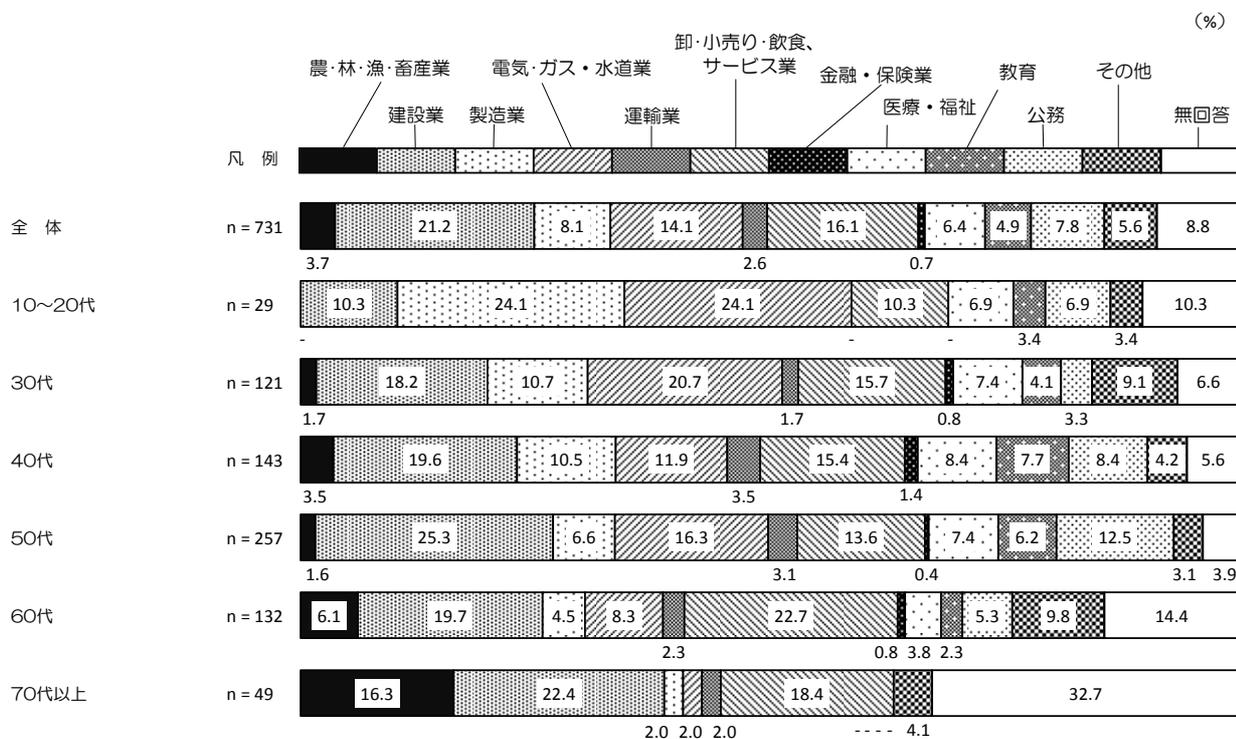
現在の業種については、「建設業」が21.2%と最も高く、次いで「卸・小売り・飲食、サービス業」が16.1%、「電気・ガス・水道業」が14.1%となっている。

世帯主の年齢別にみると、「建設業」は、50代が25.3%、70代以上が22.4%、「卸・小売り・飲食、サービス業」は、60代が22.7%、70代以上が18.4%、「電気・ガス・水道業」は、30代が20.7%となっており、他の年齢に比べ高くなっている。

<図表3-1-3-5 現在の業種>



<図表3-1-3-6 現在の業種(世帯主の年齢別)>



III 調査結果

(3) 現在の就業先

問2 現在のあなたの職業を教えてください。仕事に就いている方は、業種・就業先の所在自治体も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っている場合は、主な収入源になっている職業を教えてください。

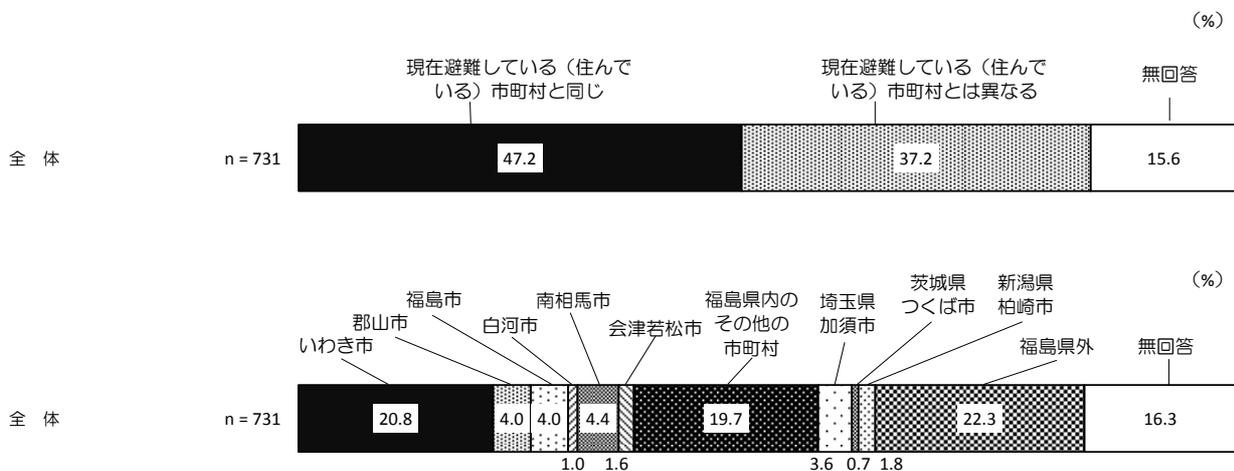
【仕事に就いている方(問2(1)で「1」から「7」、「11」と回答した方)にうかがいます。】

(3) 就業先の所在自治体

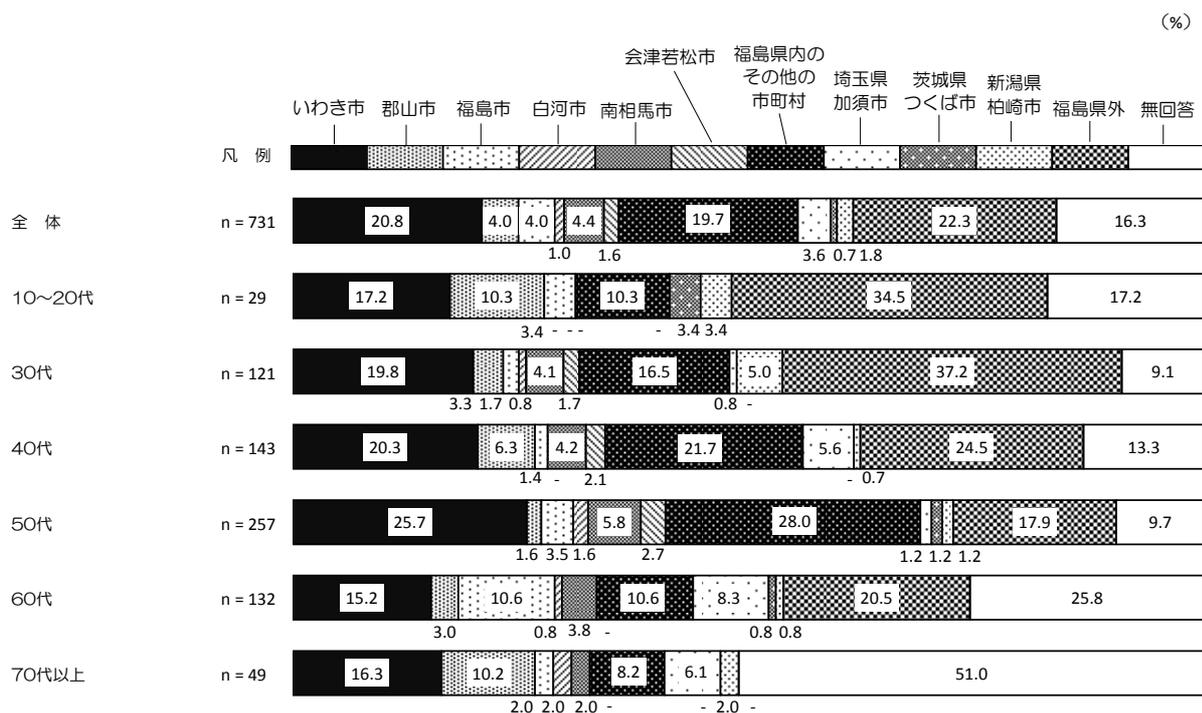
現在の就業先自治体については、「現在避難している(住んでいる)市町村と同じ」が47.2%、「現在避難している(住んでいる)市町村とは異なる」が37.2%となっている。具体的な自治体は、「福島県外」が22.3%と最も高く、次いで「いわき市」(20.8%)、「福島県内のその他の市町村」(19.7%)となっている。

世帯主の年齢別にみると、「福島県外」は30代(37.2%)で3割を超え、他の年齢と比べ高くなっている。

<図表3-1-3-7 現在の就業先>

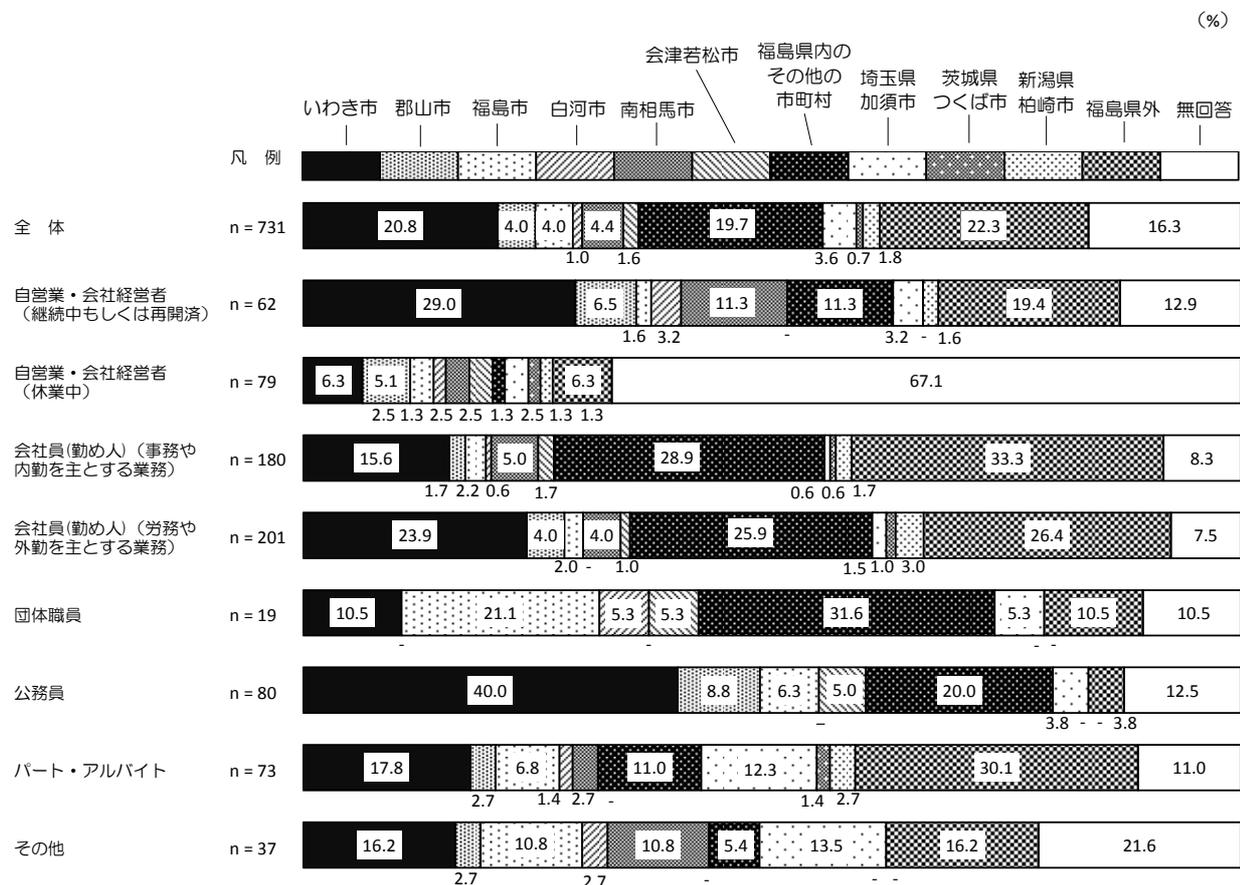


<図表3-1-3-8 現在の就業先(世帯主の年齢別)>



現在の職業別に見ると、「福島県外」は、会社員（勤め人）（事務や内勤を主とする業務）（33.3%）、パート・アルバイト（30.1%）が3割を超え、会社員（勤め人）（労務や外勤を主とする業務）は26.4%で、他の職業に比べ高くなっている。また、「いわき市」は、自営業・会社経営者（継続中もしくは再開済）が29.0%で、他の職業に比べ高くなっている。

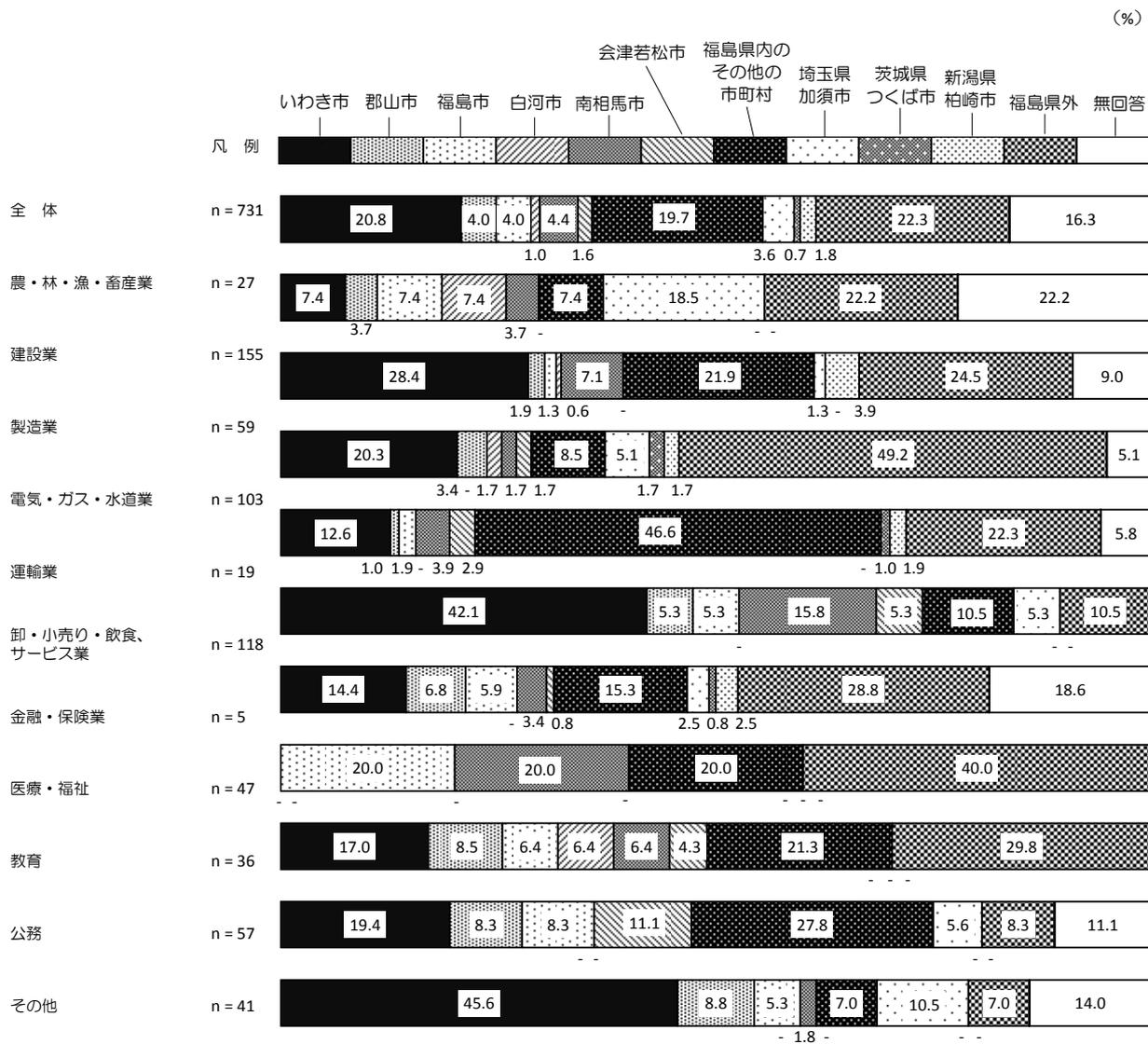
<図表3-1-3-9 現在の就業先（現在の職業別）>



III 調査結果

現在の業種別にみると、製造業では「福島県外」（49.2%）、建設業では「いわき市」（28.4%）、電気・ガス・水道業では「福島県内のその他の市町村」（46.6%）が他の業種と比べ高くなっている。

＜図表3-1-3-10 現在の就業先（現在の業種別）＞



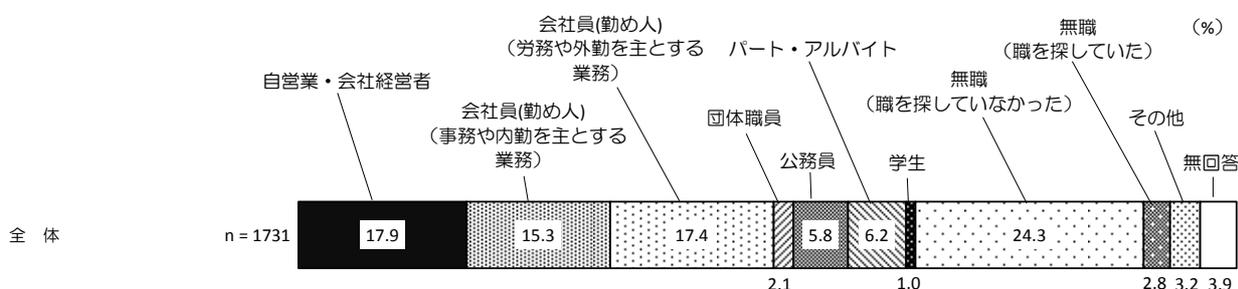
(4) 震災発生当時の職業（就業形態）

問5 震災発生当時の、あなたの職業を教えてください。当時、仕事に就いていた方は、業種・就業先の所在自治体も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っていた場合は、主な収入源になっていた職業を教えてください。
 (1) 職業（就業形態）(〇は1つ)

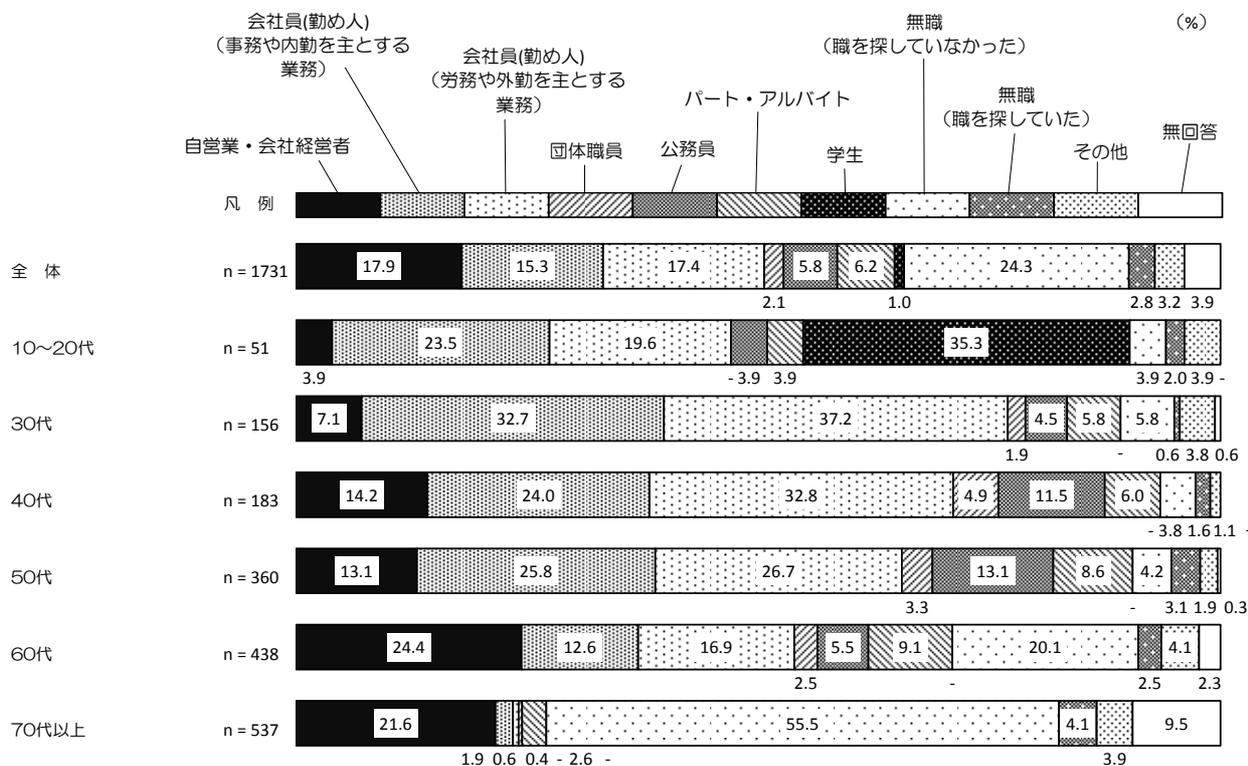
震災発生当時の職業については、「無職（職を探していなかった）」が24.3%と最も高く、次いで「自営業・会社経営者」が17.9%、「会社員（勤め人）（労務や外勤を主とする業務）」が17.4%となっている。

世帯主の年齢別にみると、概ね年齢が高くなるにつれ「自営業・会社経営者」の割合が高くなっている。一方、「会社員（勤め人）（事務や内勤、労務や外勤を主とする業務の合計）」は、30代では69.9%、40代では56.8%、50代では52.5%となっており、30～50代の5～7割近くの方は震災発生当時、会社員（勤め人）であった。

<図表3-1-3-11 震災発生当時の職業>



<図表3-1-3-12 震災発生当時の職業（世帯主の年齢別）>



III 調査結果

(5) 震災発生当時の業種

問5 震災発生当時の、あなたの職業を教えてください。当時、仕事に就いていた方は、業種・就業先の所在自治体も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っていた場合は、主な収入源になっていた職業を教えてください。

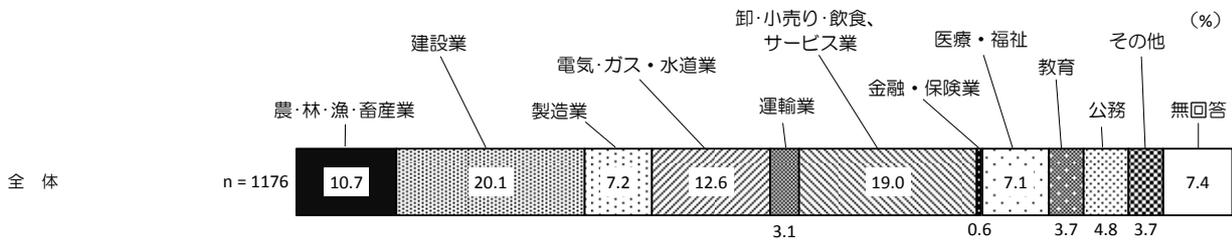
【仕事に就いていた方(問5(1)で「1」から「6」、「10」と回答した方)にうかがいます。】

(2) 業種 (〇は1つ)

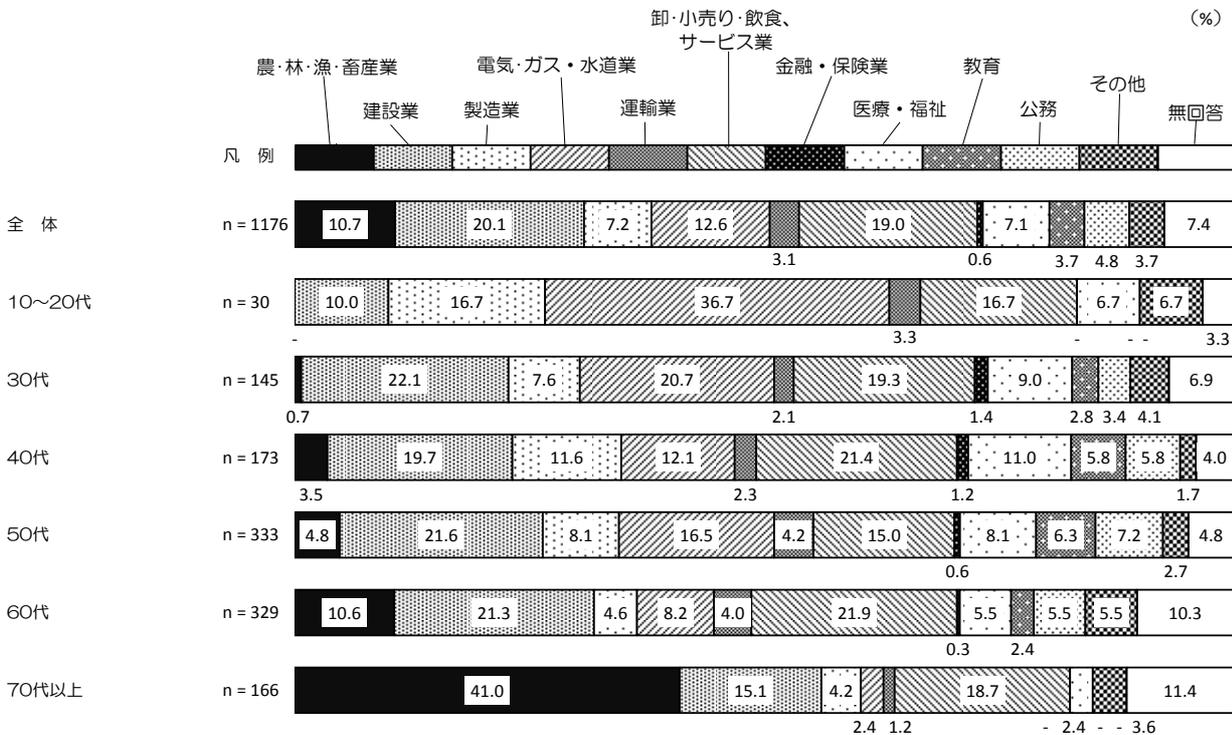
震災発生当時の業種については、「建設業」が20.1%と最も高く、次いで「卸・小売り・飲食、サービス業」が19.0%、「電気・ガス・水道業」が12.6%となっている。

世帯主の年齢別にみると、「建設業」は、10~20代は10.0%、30~50代はいずれの年代も2割前後となっている。「卸・小売り・飲食、サービス業」は、年齢による差はあまりない。一方、「電気・ガス・水道業」は、10~20代では36.7%となっており、他の年齢と比べ高くなっている。

<図表3-1-3-13 震災発生当時の業種>



<図表3-1-3-14 震災発生当時の業種(世帯主の年齢別)>



(6) 震災発生当時の就業先

問5 震災発生当時の、あなたの職業を教えてください。当時、仕事に就いていた方は、業種・就業先の所在自治体も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っていた場合は、主な収入源になっていた職業を教えてください。

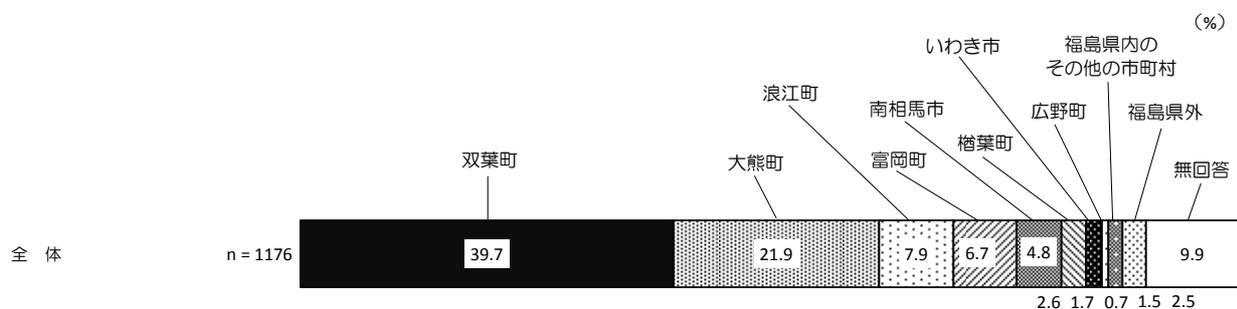
【仕事に就いていた方(問5(1)で「1」から「6」、「10」と回答した方)にうかがいます。】

(3) 就業先の所在自治体

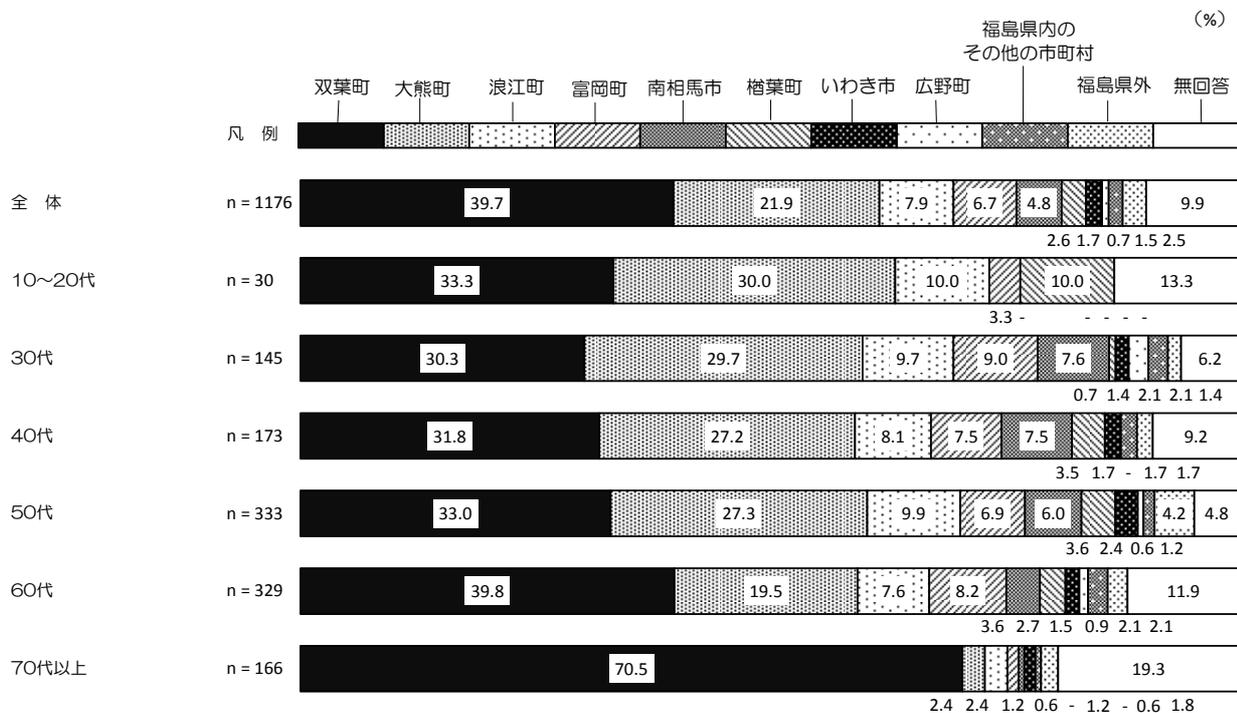
震災発生当時の就業先自治体については、「双葉町」が39.7%と最も高く、次いで「大熊町」が21.9%、「浪江町」が7.9%となっている。

世帯主の年齢別にみると、「双葉町」は70代以上では70.5%となっており、他の年齢と比べ高くなっているが、10~60代ではいずれの年齢も3割台となっている。

<図表3-1-3-15 震災発生当時の就業先>



<図表3-1-3-16 震災発生当時の就業先(世帯主の年齢別)>



III 調査結果

3-1-4 住居形態

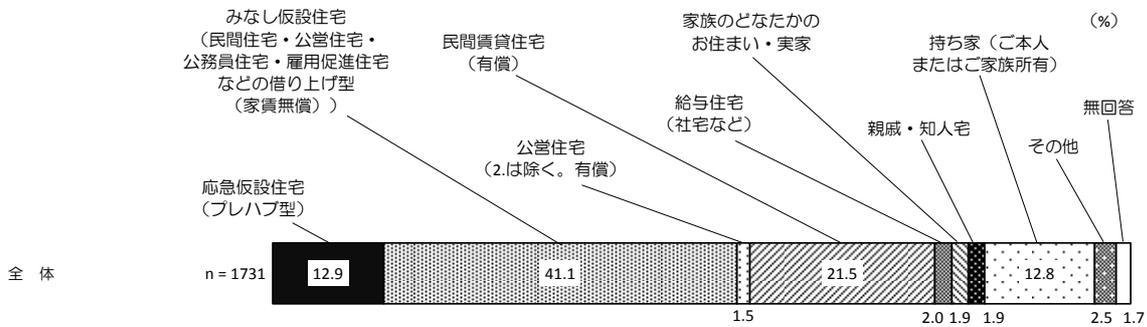
(1) 現在の住居形態

問9 現在お住まいになっている住宅はどのような住居形態ですか。(〇は1つ)

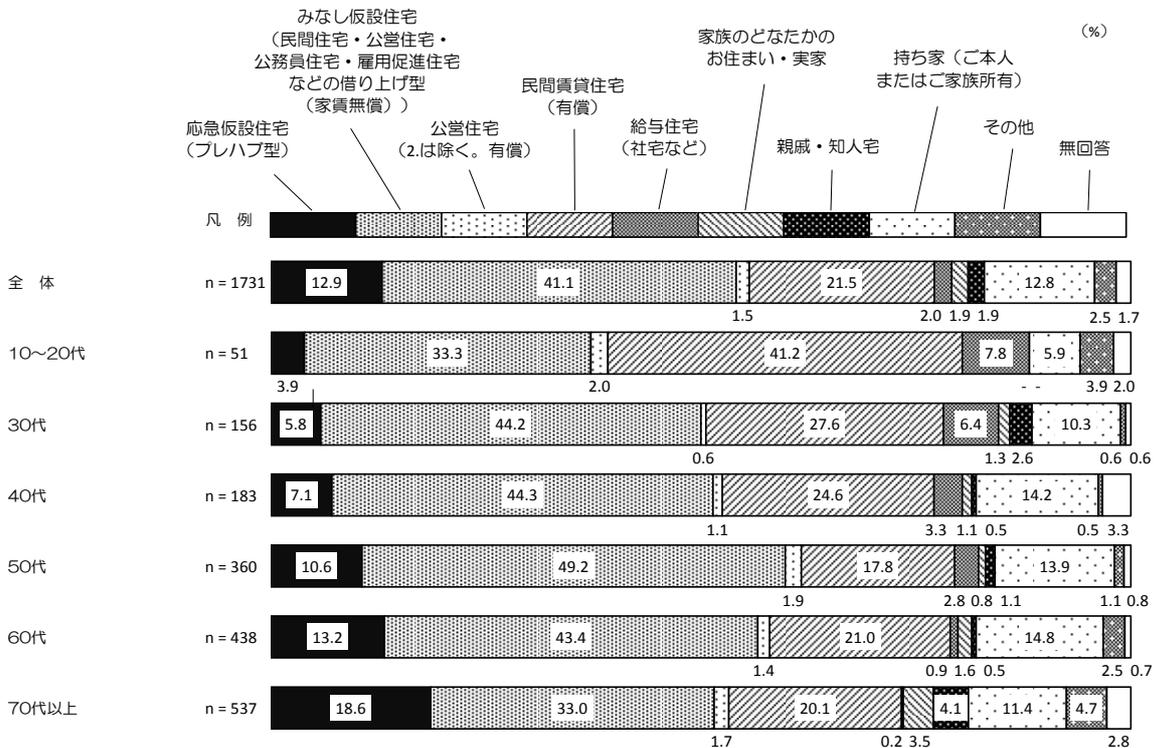
現在の住居形態については、「みなし仮設住宅（民間住宅・公営住宅・公務員住宅・雇用促進住宅などの借り上げ型（家賃無償）」が41.1%と最も高く、次いで「民間賃貸住宅（有償）」が21.5%、「応急仮設住宅（プレハブ型）」が12.9%となっている。

世帯主の年齢別にみると、「みなし仮設住宅（民間住宅・公営住宅・公務員住宅・雇用促進住宅などの借り上げ型（家賃無償）」は、30～60代ではいずれの年齢も最も高くなっているが、10～20代では「民間賃貸住宅（有償）」が41.2%で最も高くなっている。

<図表3-1-4-1 現在の住居形態>

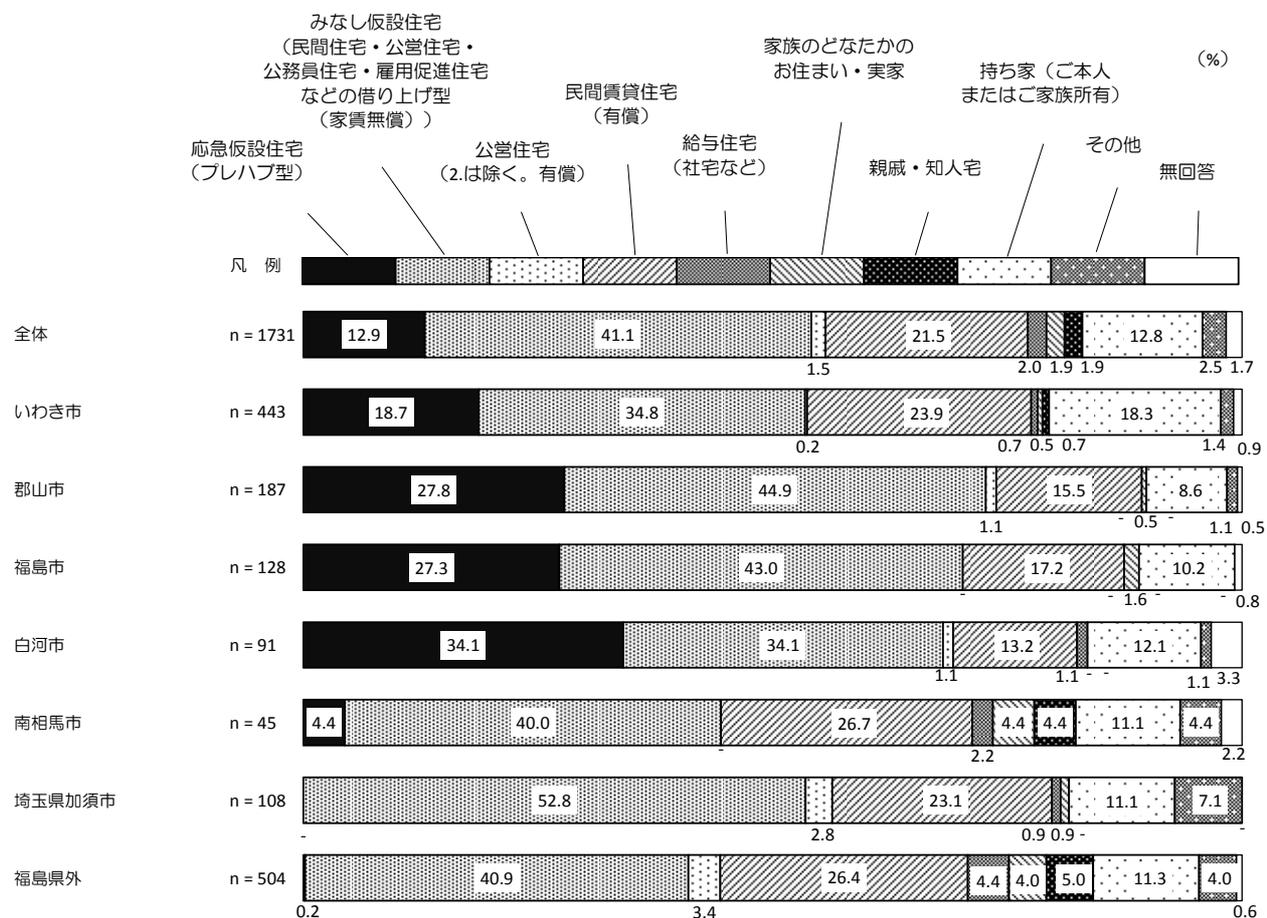


<図表3-1-4-2 現在の住居形態 (世帯主の年齢別)>



主な避難先自治体別にみると、埼玉県加須市は「みなし仮設住宅（民間住宅・公営住宅・公務員住宅・雇用促進住宅などの借り上げ型（家賃無償）」が52.8%で半数を占める。一方、「応急仮設住宅（プレハブ型）」は、白河市（34.1%）、郡山市（27.8%）、福島市（27.3%）、いわき市（18.7%）では他の避難先自治体と比べ高くなっている。

<図表3-1-4-3 現在の住居形態（主な避難先自治体別）>

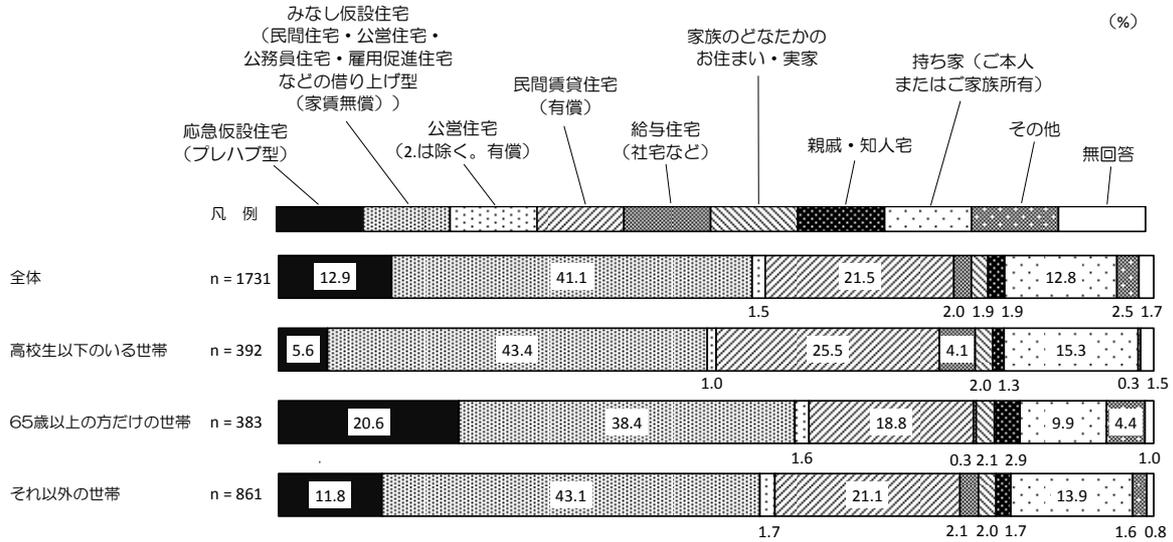


III 調査結果

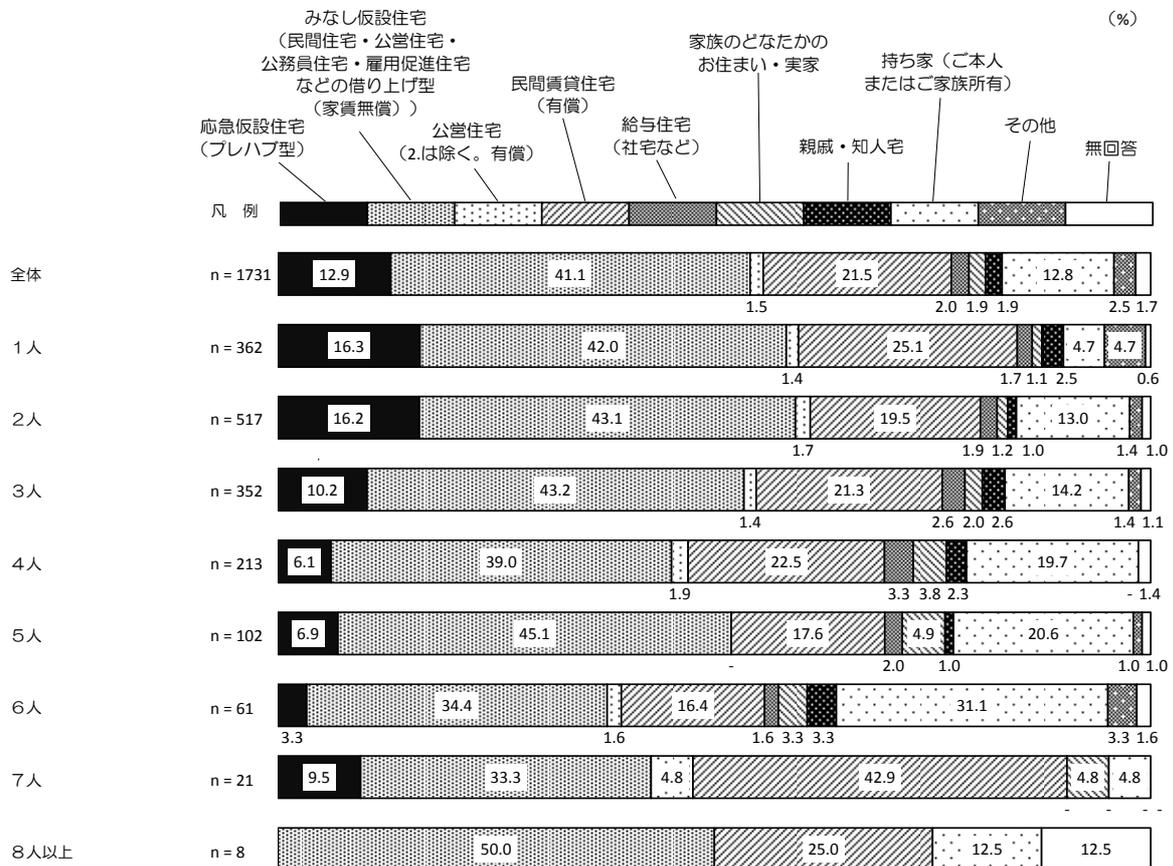
現在の世帯構成別にみると、「みなし仮設住宅（民間住宅・公営住宅・公務員住宅・雇用促進住宅などの借り上げ型（家賃無償）」は、いずれの世帯構成でも最も高くなっている。「応急仮設住宅（プレハブ型）」は、65歳以上の方だけの世帯が20.6%で、他の世帯と比べ高くなっている。

現在の世帯人数別にみると、「みなし仮設住宅（民間住宅・公営住宅・公務員住宅・雇用促進住宅などの借り上げ型（家賃無償）」は、いずれの世帯人数でも最も高くなっている。

<図表3-1-4-4 現在の住居形態（現在の世帯構成別）>

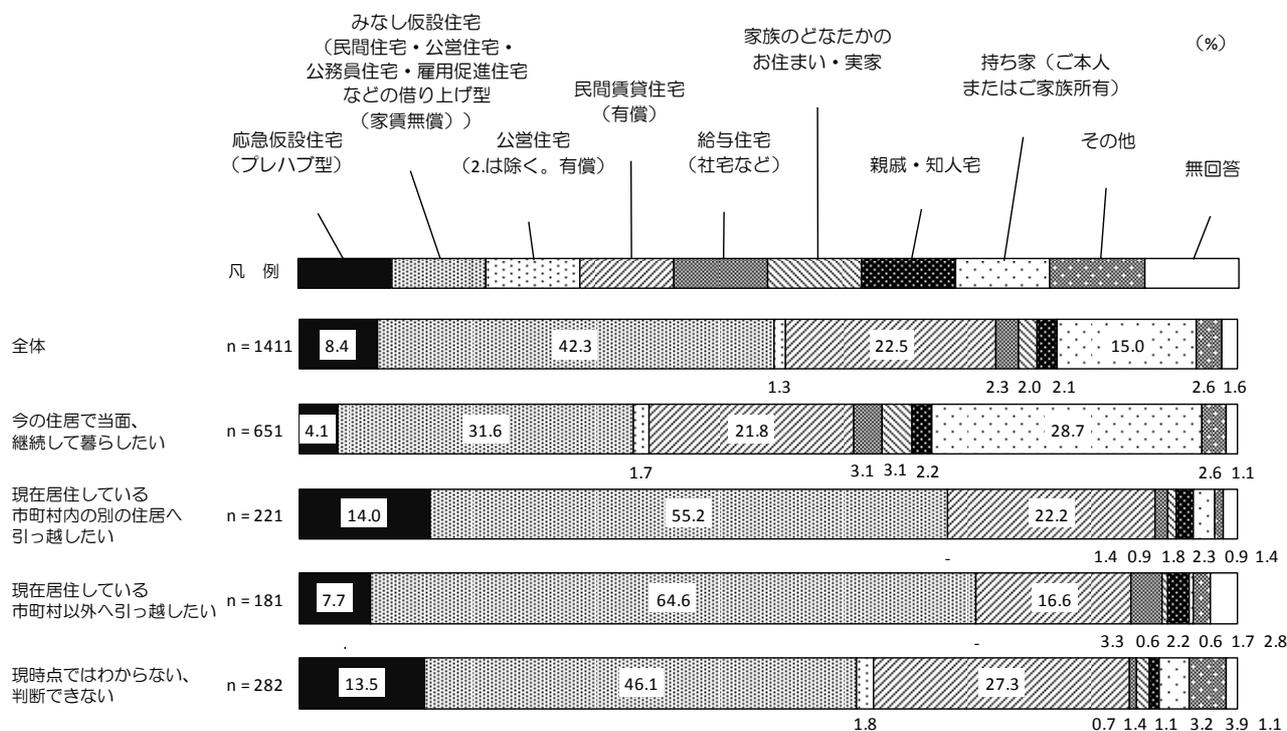


<図表3-1-4-5 現在の住居形態（現在の世帯人数別）>



入居しない場合の今後の避難期間中の住居別にみると、「みなし仮設住宅（民間住宅・公営住宅・公務員住宅・雇用促進住宅などの借り上げ型（家賃無償）」は、いずれの入居しない場合の住居でも最も高くなっている。一方、「持ち家（ご本人またはご家族所有）」は、今の住居で当面、継続して暮らしたいでは28.7%となっており、他の入居しない場合の今後の避難期間中の住居に比べ高くなっている。

<図表3-1-4-6 現在の住居形態（入居しない場合の今後の避難期間中の住居別）>



III 調査結果

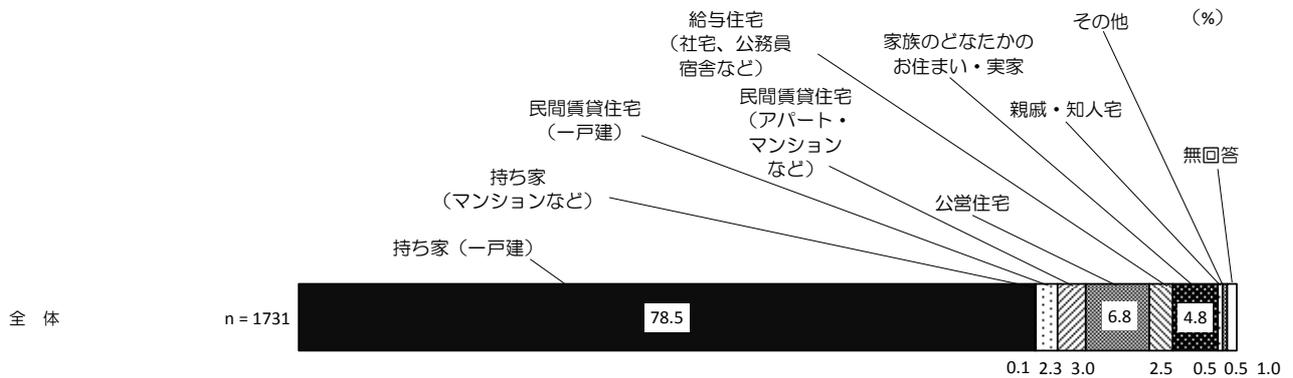
(2) 震災発生当時の住居形態

問6 震災発生当時にお住まいだった住宅は、どのような形態でしたか。(〇は1つ)

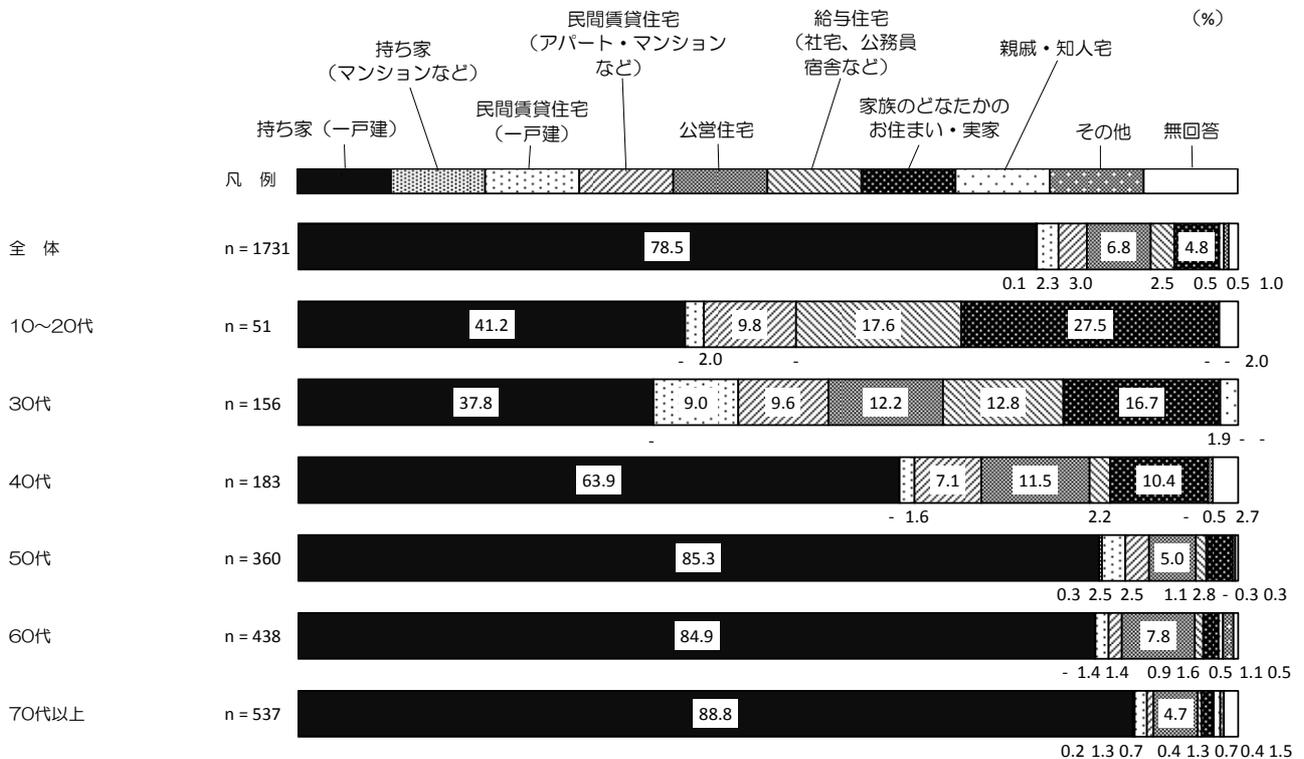
震災発生当時の住居形態については、「持ち家（一戸建）」が78.5%と最も高く、「持ち家（マンションなど）」(0.1%)を合わせたく持ち家>は78.6%となっている。

世帯主の年齢別にみると、「持ち家（一戸建）」は年齢が高くなるにつれ高くなり、70代以上では88.8%と9割近くを占める。一方、「家族のどなたかのお住まい・実家」は若年層で高く、10~20代では27.5%、30代では16.7%となっている。

<図表3-1-4-7 震災発生当時の住居形態>



<図表3-1-4-8 震災発生当時の住居形態（世帯主の年齢別）>



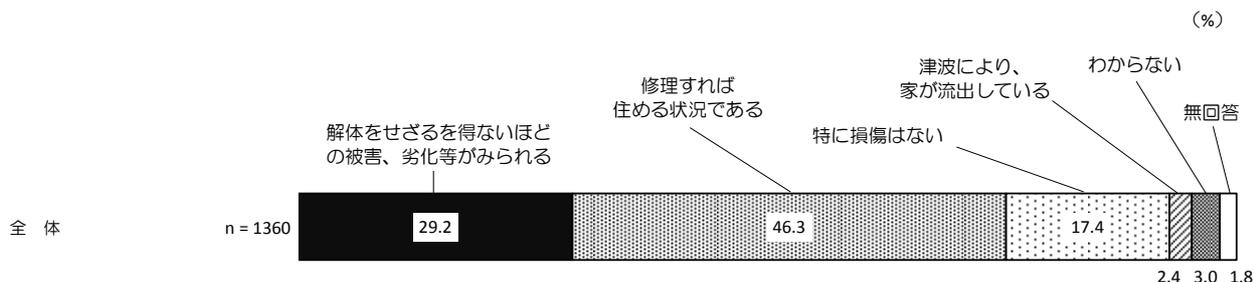
(3) 震災発生当時の住宅の状況

【問6で「1.持ち家（一戸建）」「2.持ち家（マンションなど）」と回答した方にうかがいます。】

問6-1 震災発生当時にお住まいだった住宅は、現在どのような状況ですか。（〇は1つ）

震災発生当時の住宅の状況については、「修理すれば住める状況である」が46.3%と最も高く、次いで「解体をせざるを得ないほどの被害、劣化等がみられる」が29.2%、「特に損傷はない」が17.4%となっている。

<図表3-1-4-9 震災発生当時の住宅の状況>



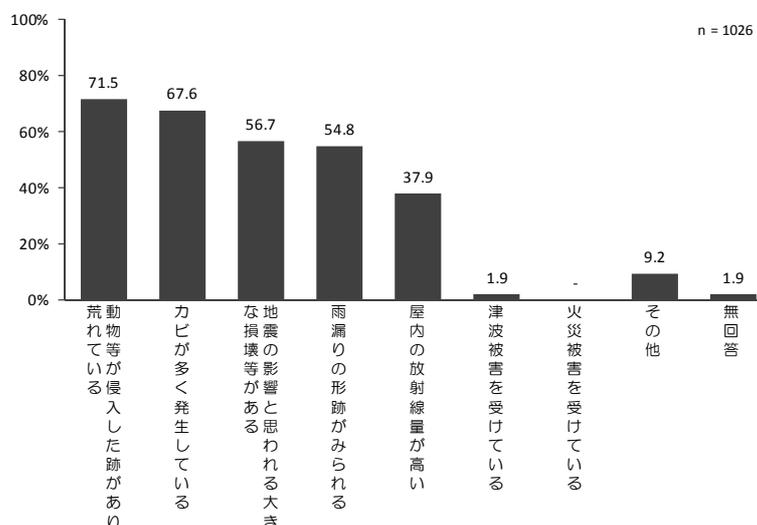
(4) 震災発生当時の住宅の具体的な被害内容

【問6-1で「1.解体をせざるを得ないほどの被害、劣化等がみられる」「2.修理すれば住める状況である」と回答した方にうかがいます。】

問6-2 震災発生当時にお住まいだった住宅は、現在どのような被害や劣化等がありますか。（〇はいくつでも）

震災発生当時の住宅の具体的な被害内容については、「動物等が侵入した跡があり荒れている」が71.5%と最も高く、次いで、「カビが多く発生している」が67.6%、「地震の影響と思われる大きな損壊等がある」が56.7%となっている。

<図表3-1-4-10 震災発生当時の住宅の具体的な被害内容>



III 調査結果

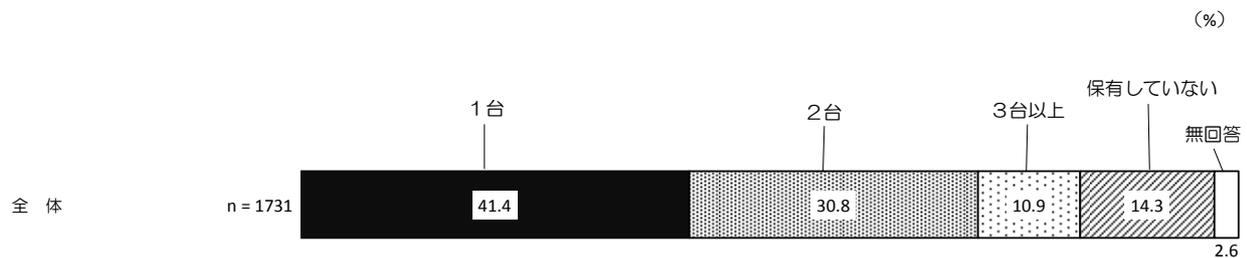
3-1-5 自動車保有

問 10 現在、自動車は何台保有していますか。(〇は1つ)

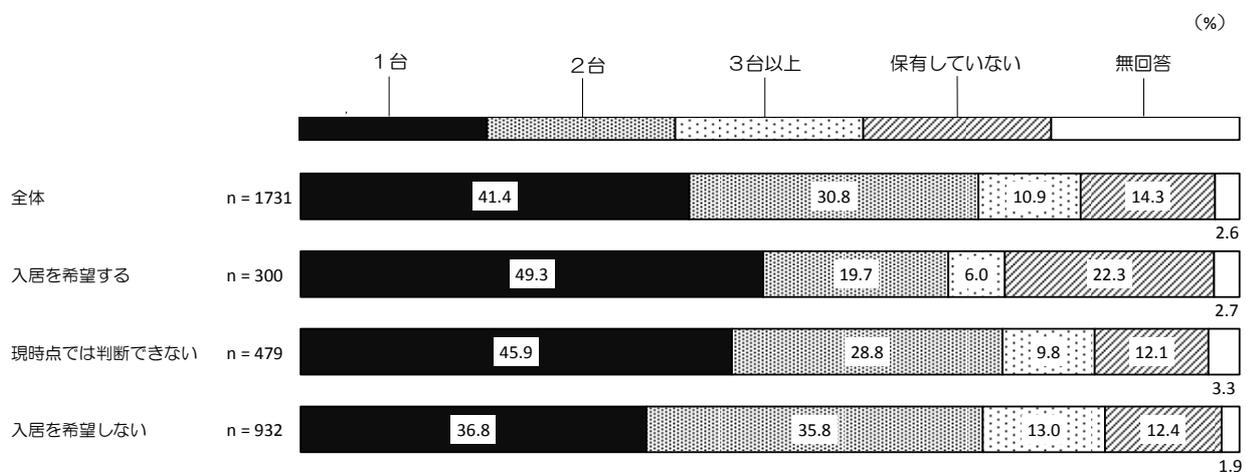
自動車保有については、「1台」が41.4%、「2台」が30.8%、「3台以上」が10.9%、「保有していない」が14.3%となっている。

復興公営住宅への入居希望別にみると、「2台以上」は、入居を希望する世帯が25.7%、入居を希望しない世帯が48.8%となっており、入居を希望しない世帯の方が自動車を2台以上保有している割合が高くなっている。

<図表3-1-5-1 自動車保有>



<図表3-1-5-2 自動車保有（復興公営住宅への入居希望別）>

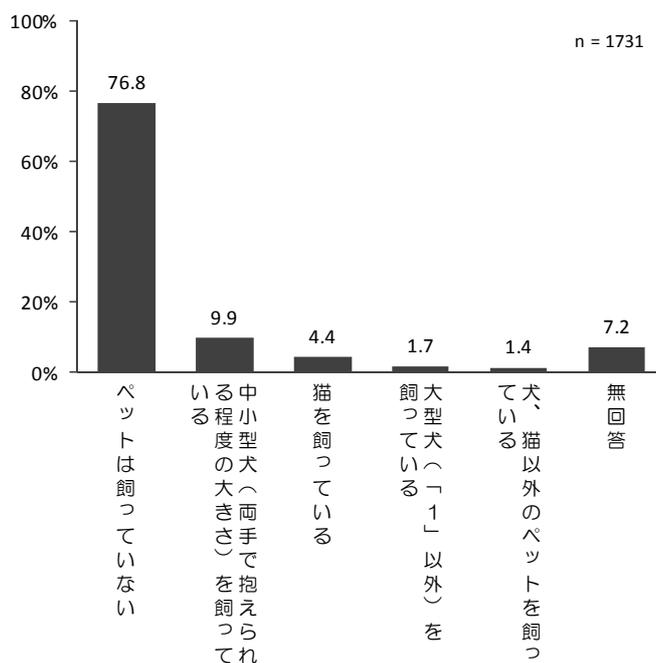


3-1-6 ペットの有無

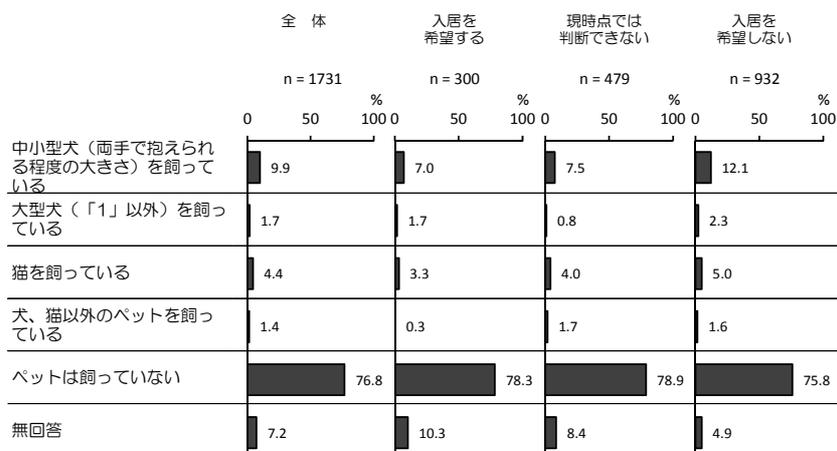
問 11 現在、ペットを飼っていますか。(〇はいくつでも)

ペットの有無については、「ペットは飼っていない」が76.8%と最も高く、約8割を占めている。
 復興公営住宅への入居希望別にみると、いずれも「ペットは飼っていない」が最も高くなっており、いずれも7割を超えているが、復興公営住宅への入居希望別の差はあまり見られない。

<図表3-1-6-1 ペットの有無>



<図表3-1-6-2 ペットの有無(復興公営住宅への入居希望別)>



III 調査結果

3-2 復興公営住宅の入居意向

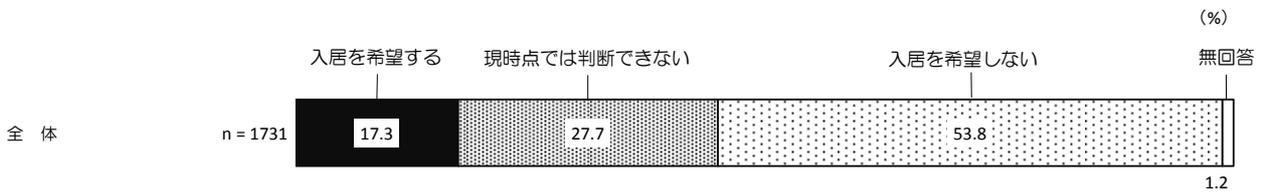
3-2-1 復興公営住宅への入居希望

問 12 現在、福島県は前ページに記載しました通り、復興公営住宅の整備を予定しています。あなたのご家族は、復興公営住宅への入居を希望しますか。(〇は1つ)

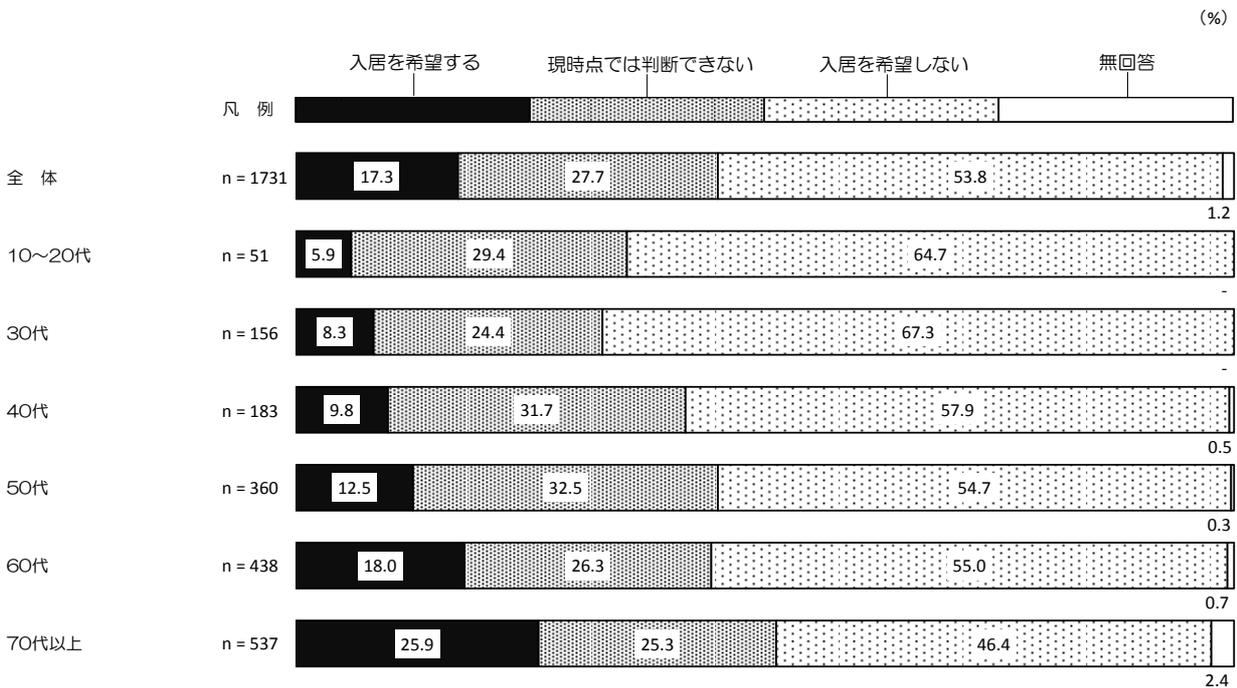
復興公営住宅への入居希望については、「入居を希望しない」が53.8%と最も高く、次いで、「現時点では判断できない」が27.7%、「入居を希望する」が17.3%となっている。

世帯主の年齢別にみると、「入居を希望しない」は、いずれの年齢でも最も高いが、年齢が高くなるにつれ「入居を希望する」割合が高くなっている。

<図表3-2-1-1 復興公営住宅への入居希望>



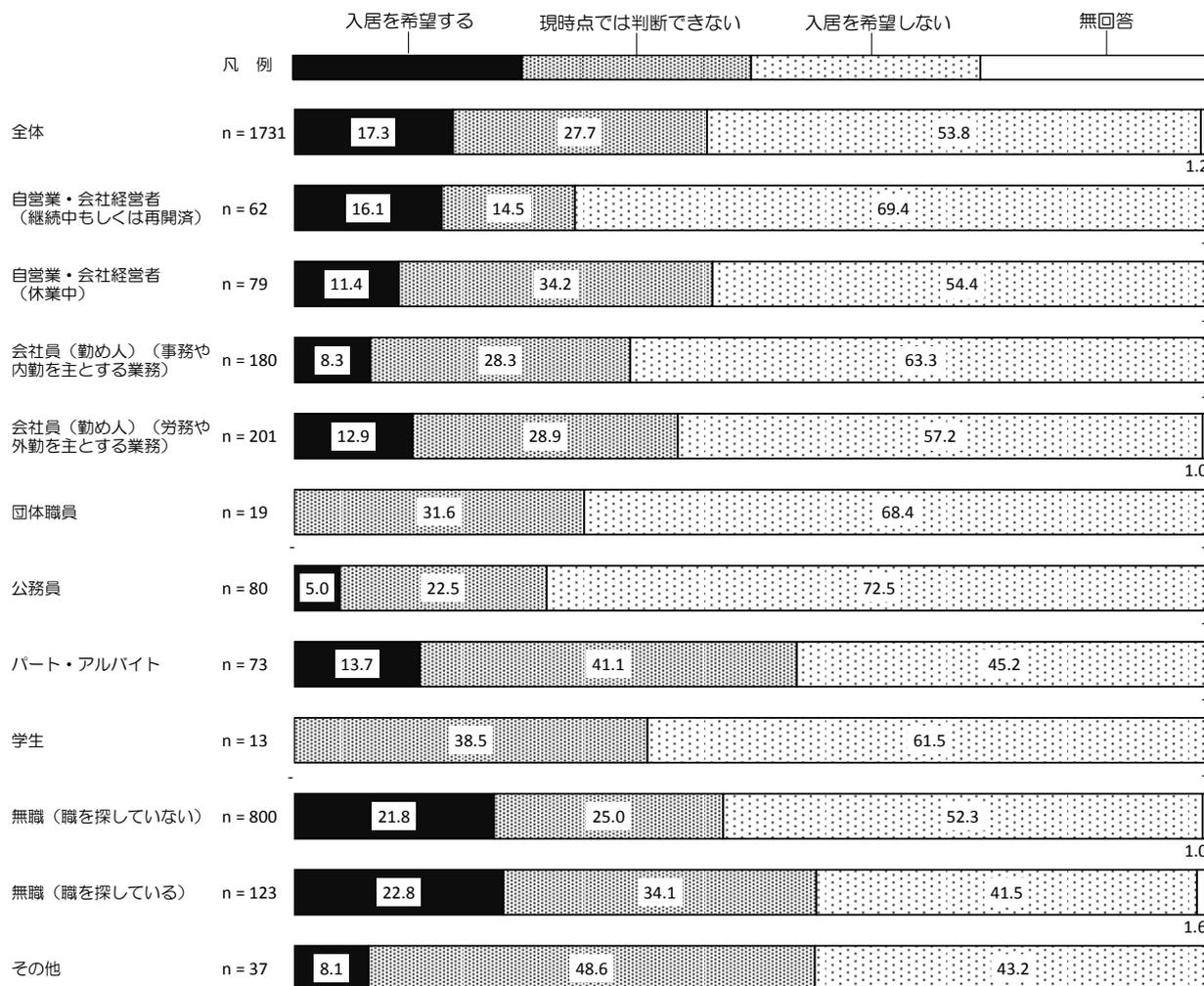
<図表3-2-1-2 復興公営住宅への入居希望（世帯主の年齢別）>



現在の職業別にみると、「入居を希望する」は無職（職を探している）（22.8%）、無職（職を探していない）（21.8%）が、他の職業と比べ高くなっている。

<図表3-2-1-3 復興公営住宅への入居希望（現在の職業別）>

(%)

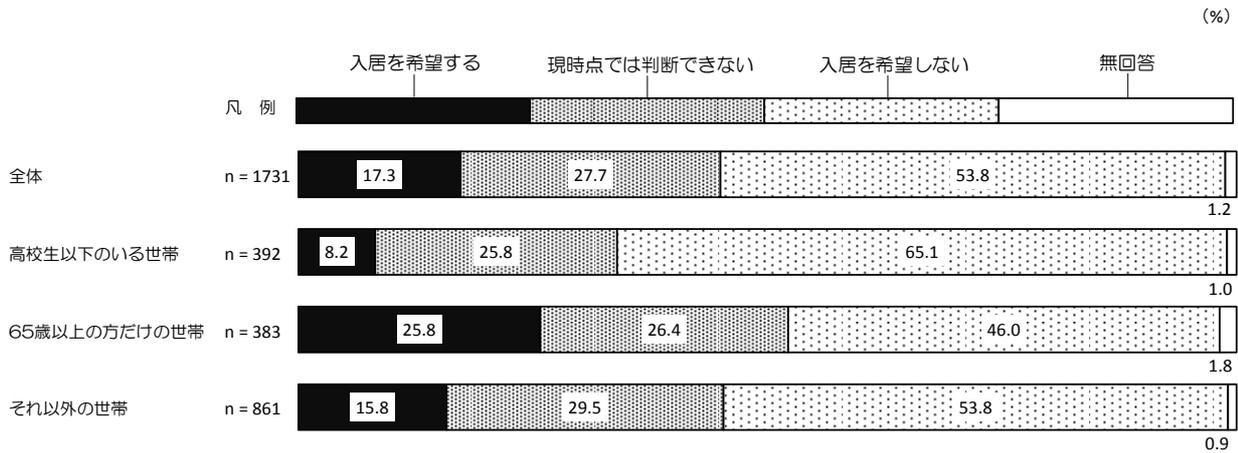


III 調査結果

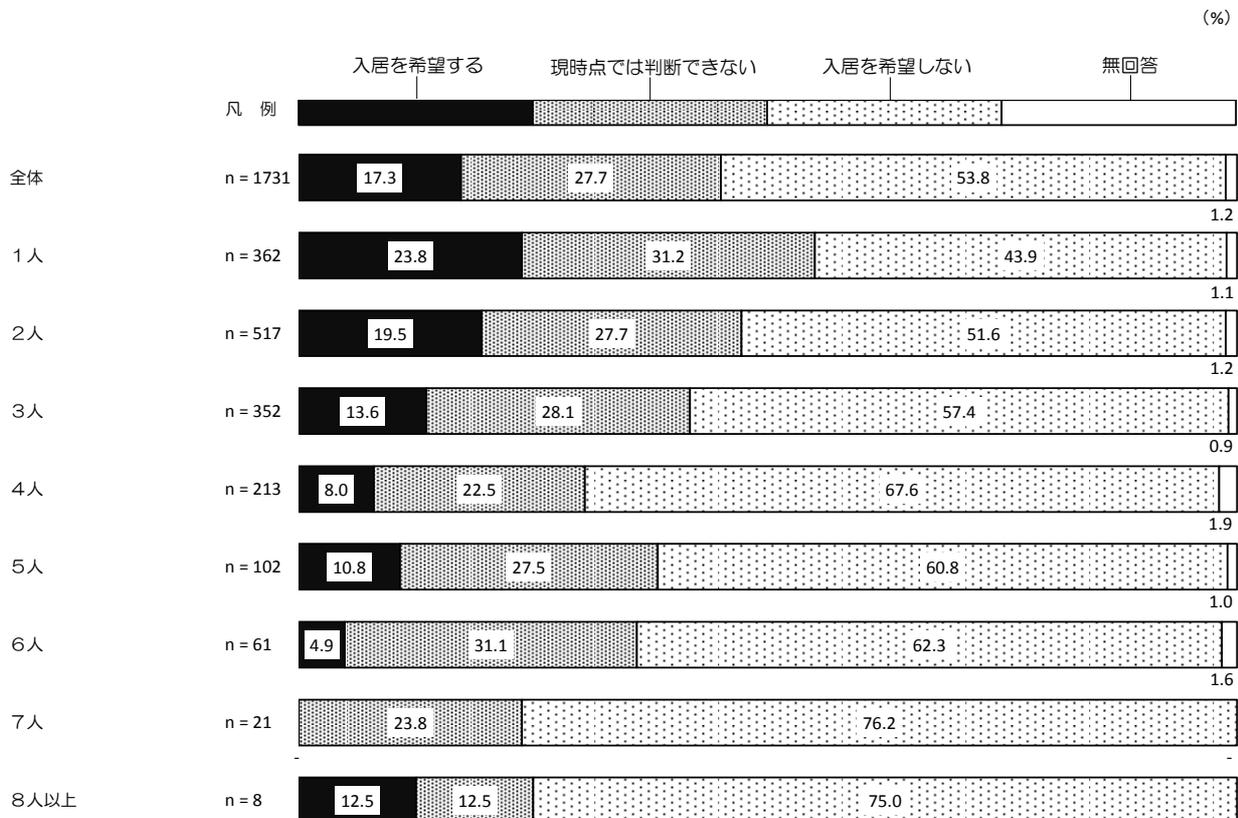
現在の世帯構成別にみると、「入居を希望する」は65歳以上の方だけの世帯で25.8%となっており、他の世帯構成と比べ高くなっている。

現在の世帯人数別にみると、「入居を希望する」は1人が23.8%、2人が19.5%で、他の世帯構成よりも高くなっている。一方、4人以上の世帯構成では、「入居を希望しない」がいずれの世帯構成でも6割以上となっている。

＜図表3-2-1-4 復興公営住宅への入居希望（現在の世帯構成別）＞

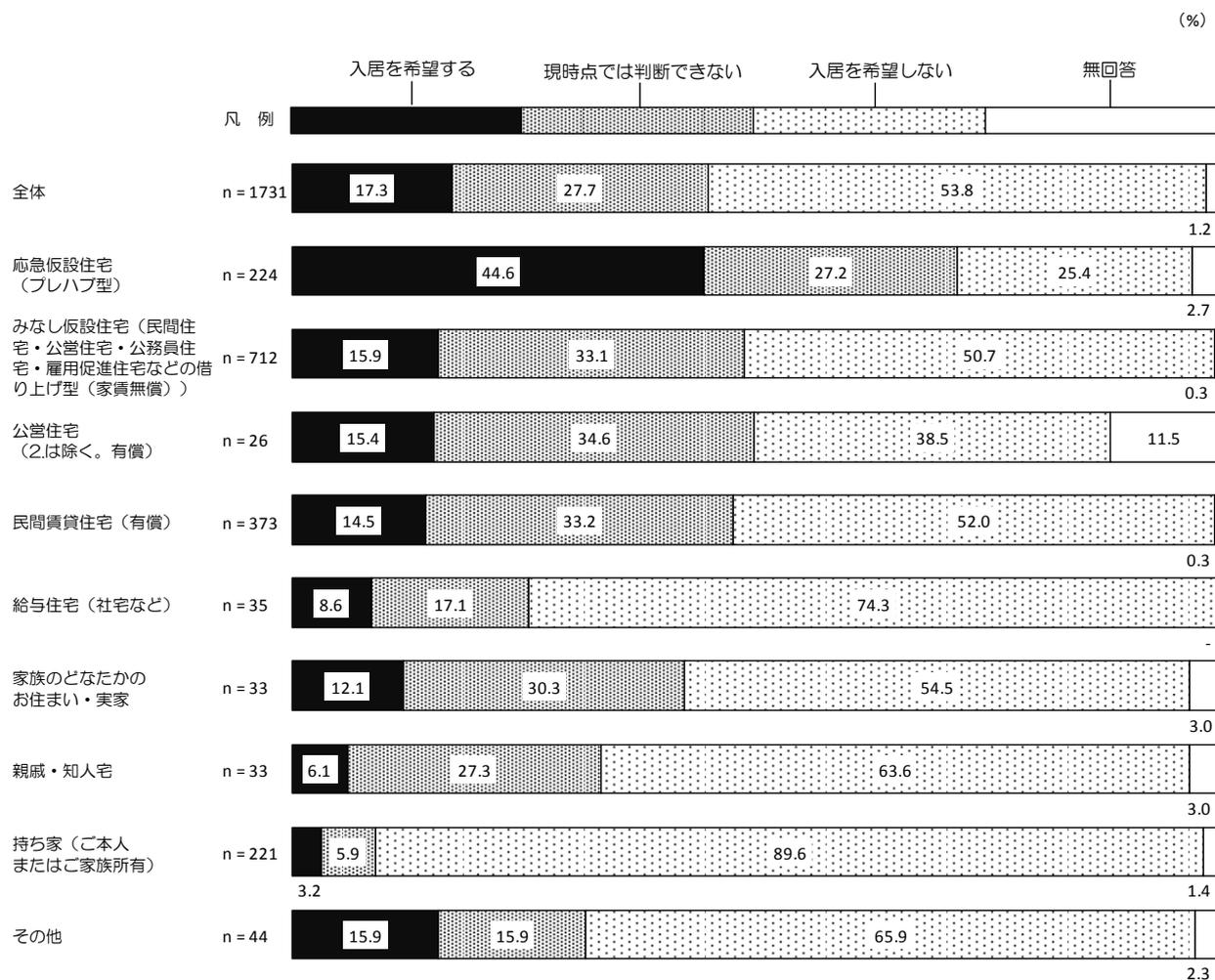


＜図表3-2-1-5 復興公営住宅への入居希望（現在の世帯人数別）＞



現在の住居形態別にみると、「入居を希望する」は、応急仮設住宅（プレハブ型）では 44.6%となっており、他の住居形態と比べ高くなっている。

<図表3-2-1-6 復興公営住宅への入居希望（現在の住居形態別）>



III 調査結果

3-2-2 復興公営住宅の入居を希望する理由

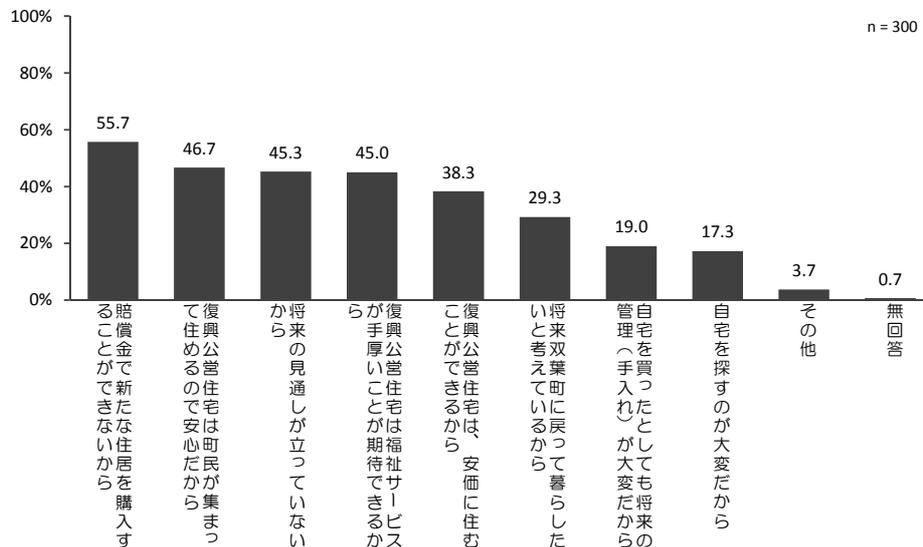
【問 12 で「1.入居を希望する」と回答した方にうかがいます。】

問 12-1 復興公営住宅への入居を希望する理由は何ですか。(〇はいくつでも)

復興公営住宅の入居を希望する理由については、「賠償金で新たな住居を購入することができないから」が 55.7%と最も高く、次いで「復興公営住宅は町民が集まって住めるので安心だから」が 46.7%、「将来の見通しが立っていないから」が 45.3%となっている。

世帯主の年齢別にみると、「賠償金で新たな住居を購入することができないから」は、50代では 68.9%、「復興公営住宅は町民が集まって住めるので安心だから」は、70代以上では 56.1%となっており、他の年齢と比べ高くなっている。

<図表3-2-2-1 復興公営住宅の入居を希望する理由>



<図表3-2-2-2 復興公営住宅の入居を希望する理由(世帯主の年齢別)>

理由	全体 (n=300)		10~20代 (n=3)		30代 (n=13)		40代 (n=18)		50代 (n=45)		60代 (n=79)		70代以上 (n=139)	
	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	
賠償金で新たな住居を購入することができないから	55.7	33.3	46.2	61.1	68.9	53.2	54.0							
復興公営住宅は町民が集まって住めるので安心だから	46.7	-	53.8	27.8	42.2	39.2	56.1							
将来の見通しが立っていないから	45.3	-	61.5	55.6	44.4	48.1	43.2							
復興公営住宅は福祉サービスが手厚いことが期待できるから	45.0	-	23.1	38.9	33.3	35.4	57.6							
復興公営住宅は、安価に住むことができるから	38.3	33.3	53.8	55.6	40.0	34.2	36.7							
将来双葉町に戻って暮らしたいと考えているから	29.3	-	23.1	22.2	24.4	30.4	32.4							
自宅を買ったとしても将来の管理(手入れ)が大変だから	19.0	-	7.7	5.6	26.7	20.3	19.4							
自宅を探すのが大変だから	17.3	100.0	30.8	16.7	20.0	19.0	12.9							
その他	3.7	-	7.7	16.7	2.2	1.3	3.6							
無回答	0.7	-	-	-	-	1.3	-							

3-2-3 復興公営住宅の入居を現時点で判断できない理由

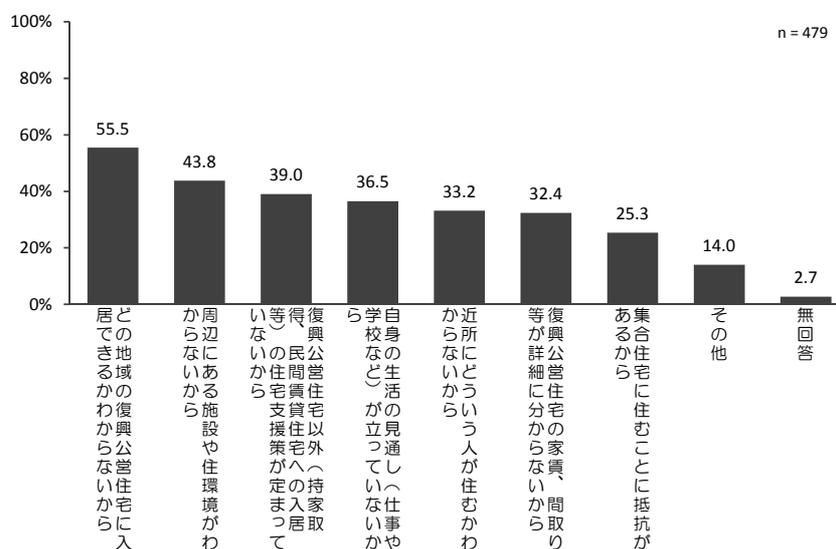
【問 12 で「2.現時点では判断できない」と回答した方にうかがいます。】

問 12-2 復興公営住宅への入居を現時点で判断できない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

復興公営住宅の入居を現時点で判断できない理由については、「どの地域の復興公営住宅に入居できるかわからないから」が55.5%と最も高く、次いで「周辺にある施設や住環境がわからないから」が43.8%、「復興公営住宅以外（持家取得、民間賃貸住宅への入居等）の住宅支援策が定まっていないから」が39.0%となっている。

世帯主の年齢別にみると、「どの地域の復興公営住宅に入居できるかわからないから」は、60代では63.5%、「自身の生活の見通し（仕事や学校など）が立っていないから」は、30代では65.8%、40代では58.6%となっており、他の年齢と比べ高くなっている。

<図表3-2-3-1 復興公営住宅の入居を現時点で判断できない理由>



<図表3-2-3-2 復興公営住宅の入居を現時点で判断できない理由（世帯主の年齢別）>

理由	全体	10~20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
	n = 479 %	n = 15 %	n = 38 %	n = 58 %	n = 117 %	n = 115 %	n = 136 %
どの地域の復興公営住宅に入居できるかわからないから	55.5	33.3	55.3	43.1	56.4	63.5	55.9
周辺にある施設や住環境がわからないから	43.8	46.7	31.6	32.8	48.7	47.8	44.1
復興公営住宅以外（持家取得、民間賃貸住宅への入居等）の住宅支援策が定まっていないから	39.0	33.3	26.3	39.7	42.7	44.3	35.3
自身の生活の見通し（仕事や学校など）が立っていないから	36.5	80.0	65.8	58.6	52.1	22.6	12.5
近所になんかという人が住むかわからないから	33.2	20.0	28.9	22.4	35.0	40.0	33.1
復興公営住宅の家賃、間取り等が詳細に分からないから	32.4	40.0	36.8	34.5	35.9	34.8	24.3
集合住宅に住むことに抵抗があるから	25.3	26.7	18.4	27.6	32.5	24.3	20.6
その他	14.0	6.7	5.3	8.6	12.8	11.3	22.8
無回答	2.7	-	-	3.4	0.9	1.7	5.9

III 調査結果

3-2-4 入居を希望する地域と家族構成

【復興公営住宅へ入居を検討する方（問 12 で「1.入居を希望する」、「2.現時点では判断できない」と回答した方）にうかがいます。】「2.現時点では判断できない」と回答した方は、入居するとすればという仮定でお答えください。

問 12-3 復興公営住宅に入居するに当たって、希望する地域と家族構成をお聞かせください。

なお、全員がまとまって同じ住戸に入居する場合と世帯の一部しか復興公営住宅には入居しない（例：親世帯は復興公営住宅に入居するが、子供世帯は賃貸住宅に入居する等）場合は「1世帯目」のみご記入ください。

現在は一緒に住んでいるが、復興公営住宅に入居する際には、別々に入居したい（例：親世帯と子供世帯はそれぞれ一戸の住戸に住みたい等）場合は「1世帯目」と「2世帯目」の両方にご記入ください。

<1世帯目>

(1) 最も希望する自治体を教えてください。(〇は1つ)

(2) 入居する家族構成をご記入ください。(人数で回答)

<2世帯目>

(3) 復興公営住宅へ分散して入居する場合、2世帯目はどちらを希望しますか。(〇は1つ)

【問 12-3 (3) で「3. 別の地域の復興公営住宅」と回答した方にうかがいます。】

(4) 最も希望する自治体を教えてください。(〇は1つ)

(5) 入居する家族構成をご記入ください。(人数で回答)

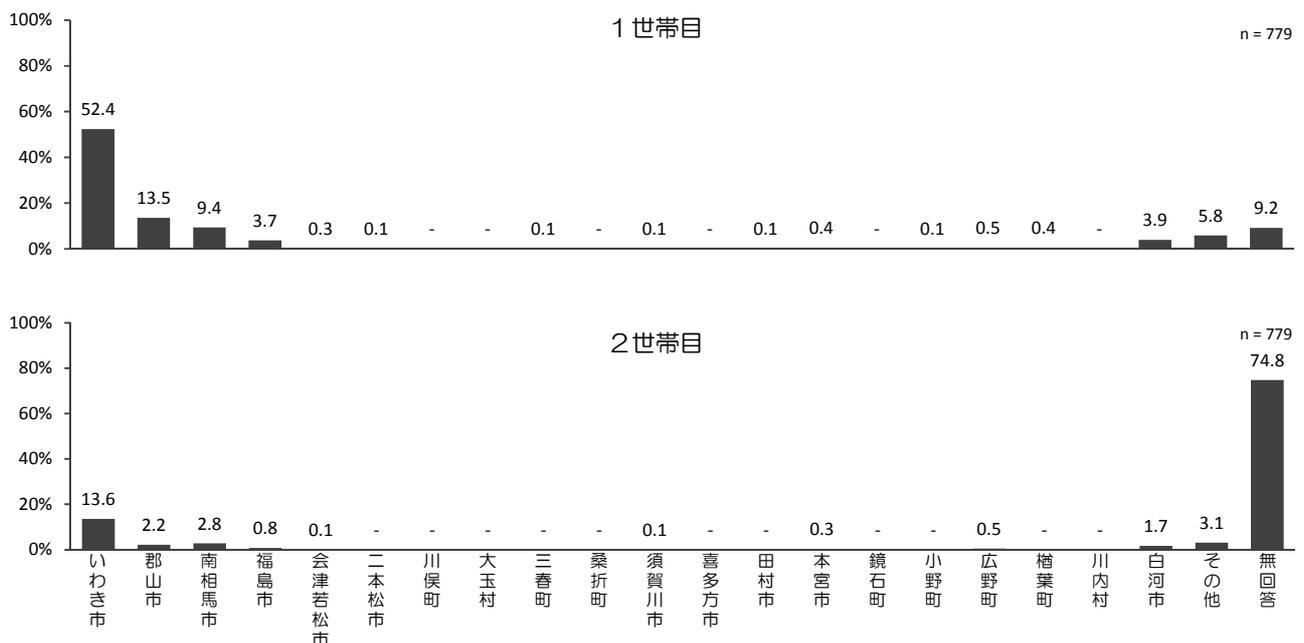
入居を希望する地域<1世帯目>については、「いわき市」が52.4%と最も高く、約半数を占めている。

入居を希望する世帯人数<1世帯目>については、「2人」が30.8%と最も高く、次いで「1人」が21.4%、「3人」が17.7%となっている。世帯構成<1世帯目>としては、「15~64歳（中学・高校生を除く）のいる世帯」が61.1%と最も高く、次いで「65歳以上の方のいる世帯」が55.2%となっている。

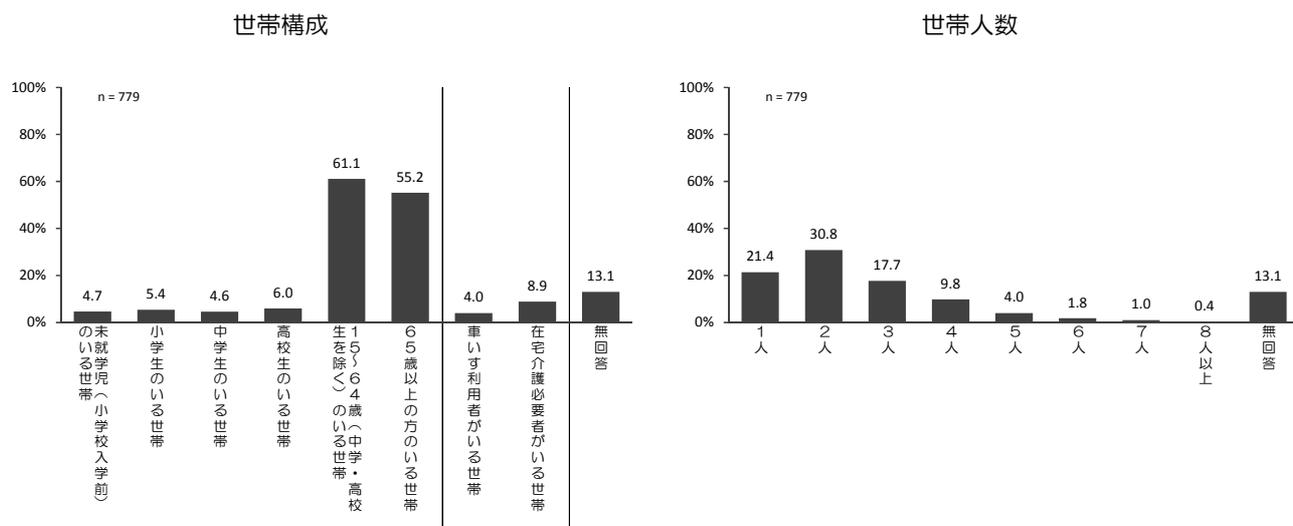
<2世帯目>についても「いわき市」が13.6%と最も高くなっている。

入居を希望する世帯人数<2世帯目>は、「1人」と「2人」がともに7.2%となっている。世帯構成<2世帯目>としては、「15~64歳（中学・高校生を除く）のいる世帯」が8.3%、「65歳以上の方のいる世帯」が6.9%となっている。

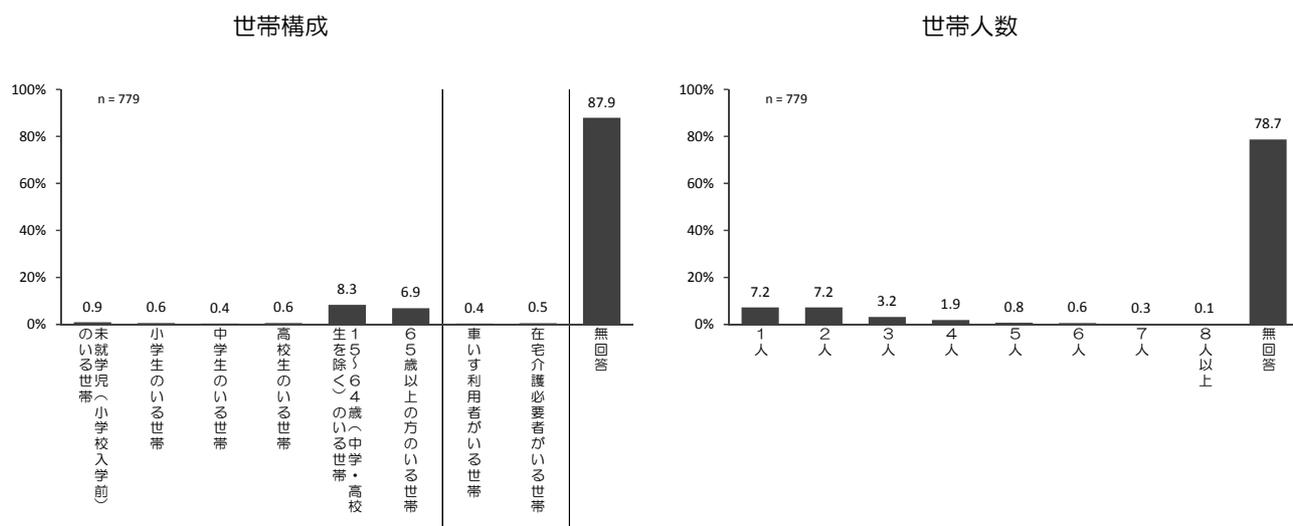
<図表3-2-4-1 入居を希望する地域>



<図表3-2-4-2 入居を希望する世帯構成・人数（1世帯目）>



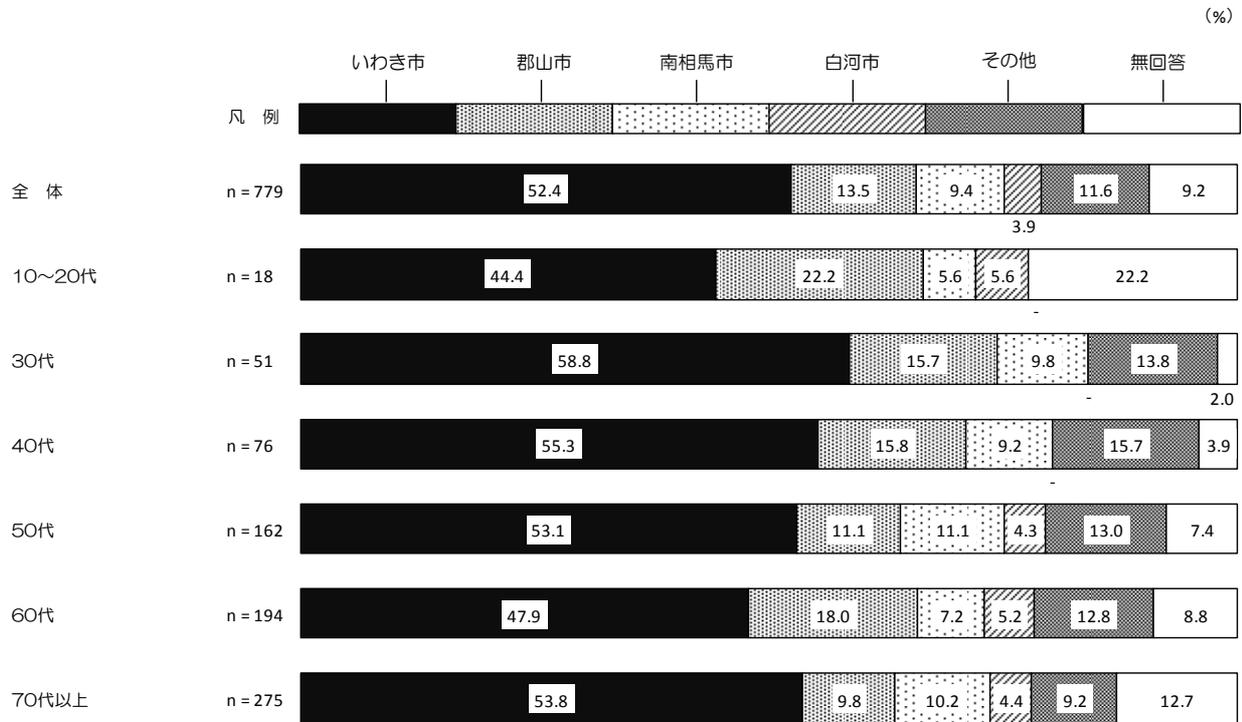
<図表3-2-4-3 入居を希望する世帯構成・人数（2世帯目）>



Ⅲ 調査結果

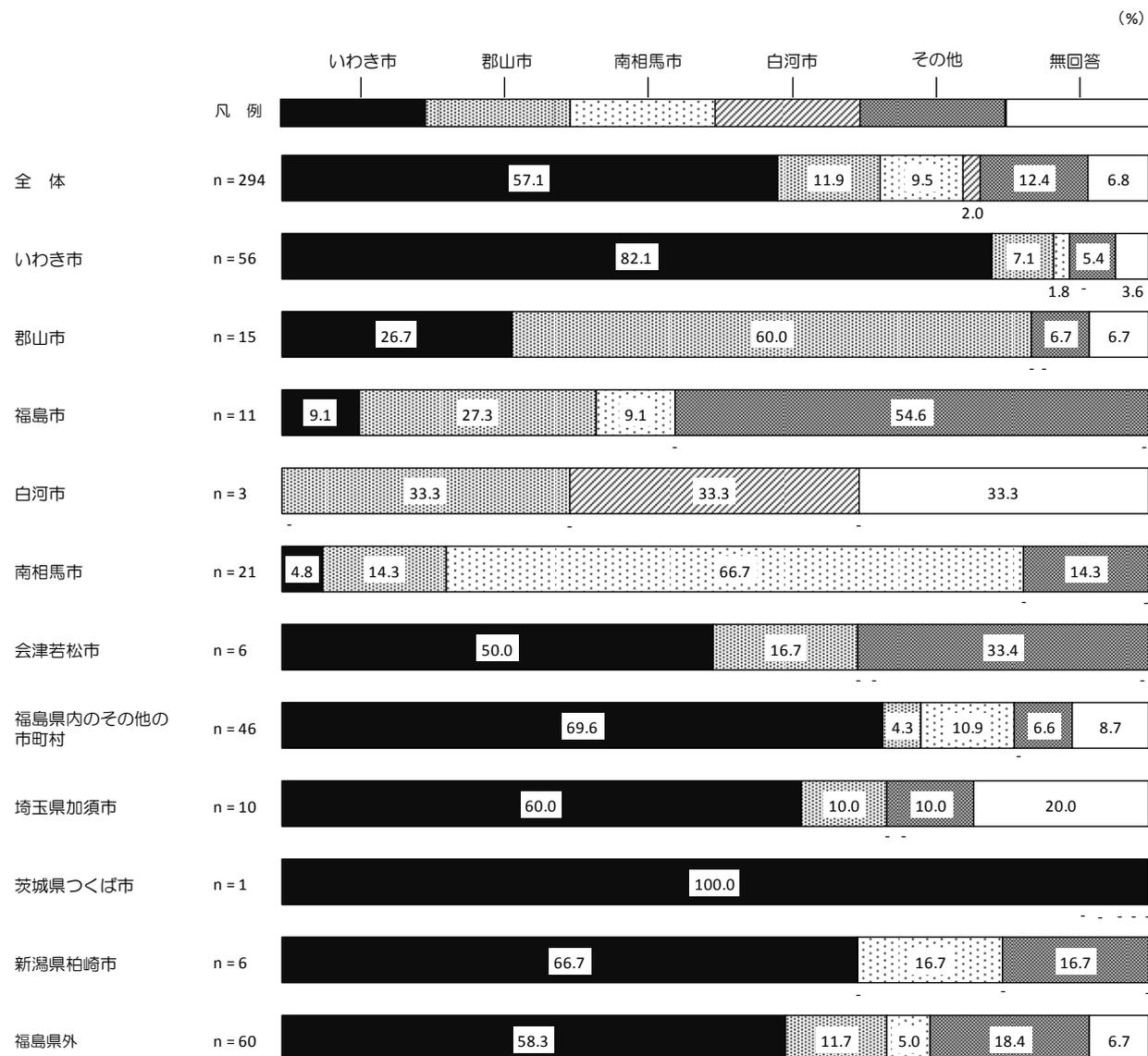
1世帯目の入居を希望する地域について、世帯主の年齢別にみると、「いわき市」がいずれの年齢でも最も高くなっている。

＜図表3-2-4-4 入居を希望する地域（1世帯目）（世帯主の年齢別）＞



1世帯目の入居を希望する地域について、現在の就業先別にみると、現在、いわき市で就業している8割強が、また、福島県内のその他の市町村、福島県外でも6~7割が、「いわき市」での入居を希望している。

<図表3-2-4-5 入居を希望する地域（1世帯目）（現在の就業先別）>

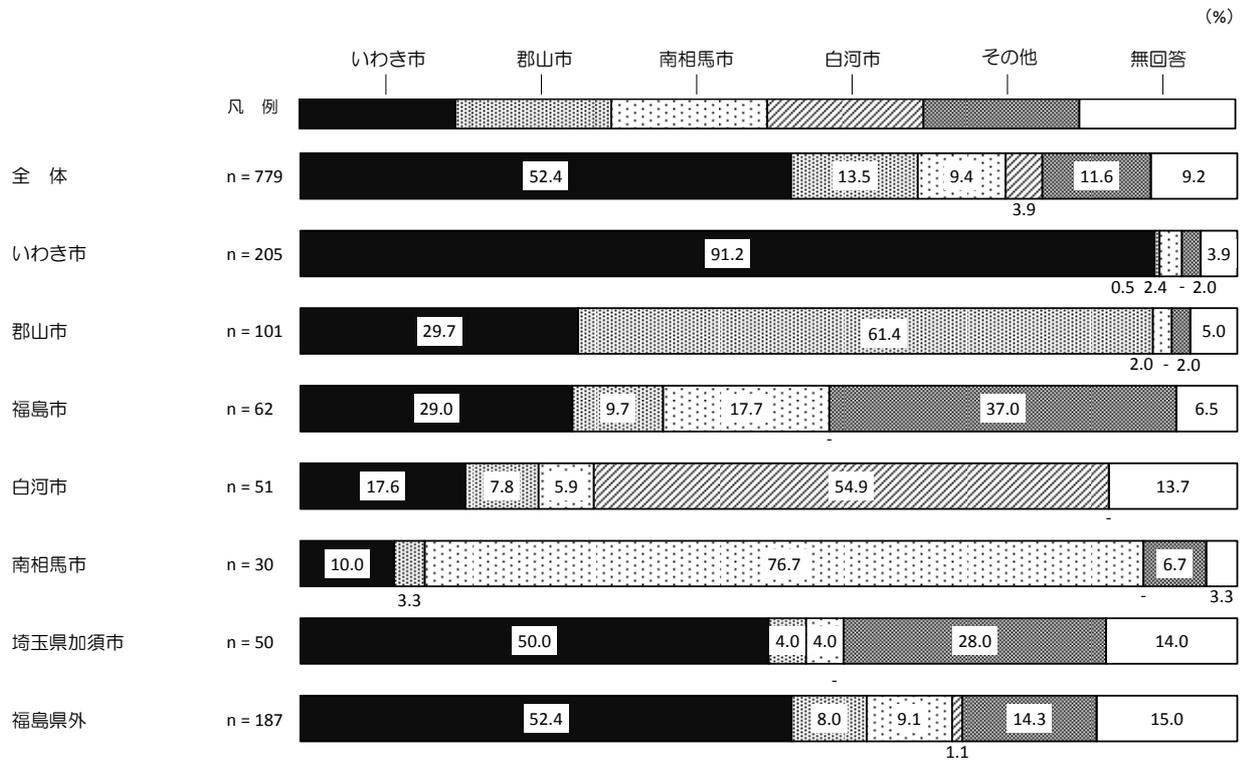


III 調査結果

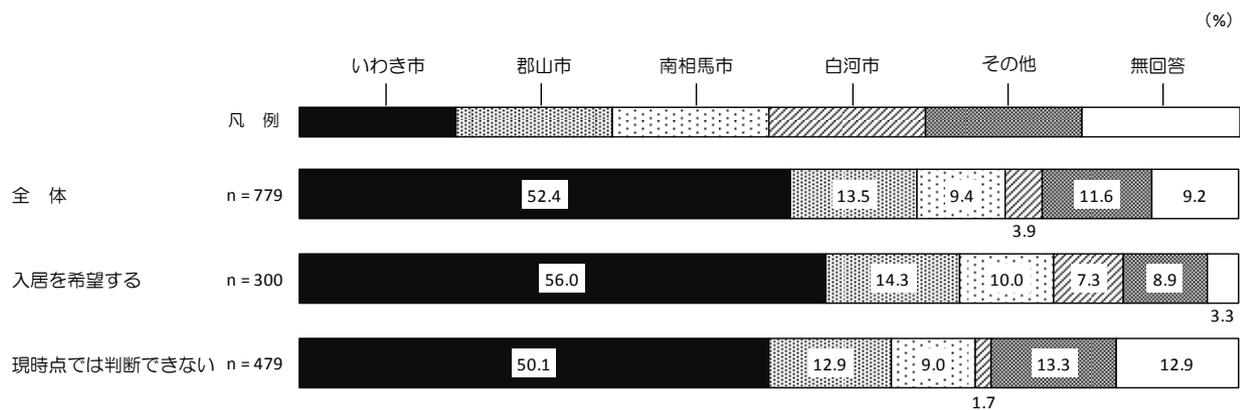
1世帯目の入居を希望する地域について、主な避難先自治体別にみると、いわき市に避難している9割強が、また、福島県外、埼玉県加須市では5割が、「いわき市」への入居を希望している。また郡山市、白河市に避難している6割前後が同じ自治体への入居を希望している。

復興公営住宅への入居希望別にみると、入居を希望する世帯のうち、5割強が「いわき市」を希望している。

<図表3-2-4-6 入居を希望する地域（1世帯目）（主な避難先自治体別）>



<図表3-2-4-7 入居を希望する地域（1世帯目）（入居希望別）>



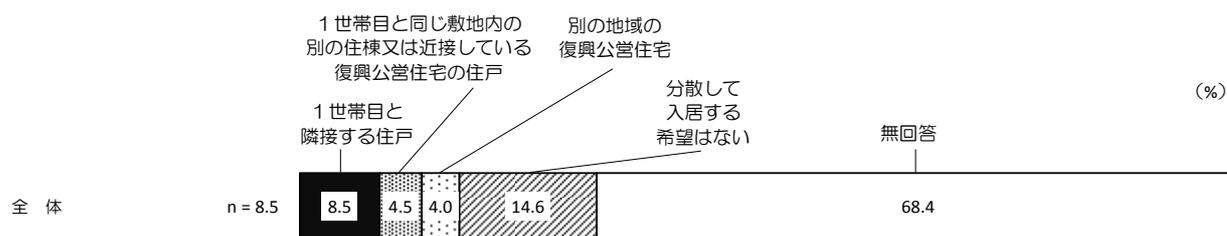
3-2-5 分散して入居する場合の住居形態

<2世帯目>

(3) 復興公営住宅へ分散して入居する場合、2世帯目はどちらを希望しますか。(〇は1つ)

分散して入居する場合の住居形態<2世帯目>については、「分散して入居する希望はない」が14.6%と最も高く、次いで「1世帯目と隣接する住戸」が8.5%、「1世帯目と同じ敷地内の別の住棟又は近接している復興公営住宅の住戸」が4.5%、「別の地域の復興公営住宅」が4.0%となっている。

<図表3-2-5-1 分散して入居する場合の住居形態(2世帯目)>



III 調査結果

3-2-6 分散して避難している家族との同居意向

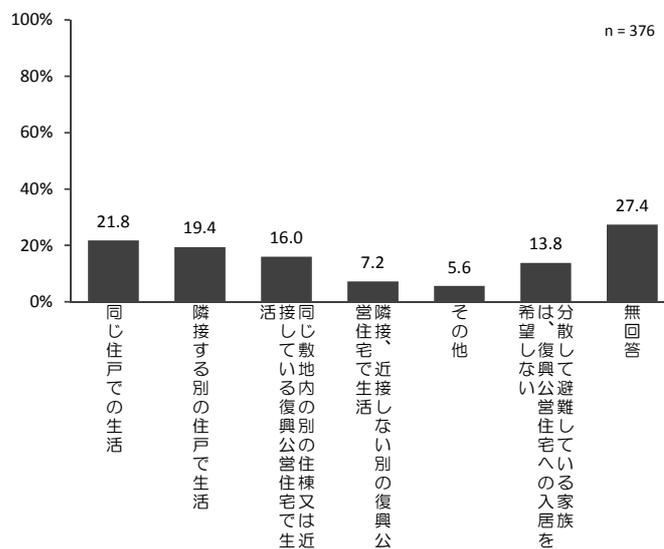
【現在分散して避難されている方（問8(2)で「2.合計2か所に分散」「3.合計3か所に分散」「4.合計4か所以上に分散」と回答した方）にうかがいます。】

問12-4 復興公営住宅に入居する場合、分散して避難している家族との同居について、どのような形を希望しますか。（〇はいくつでも）

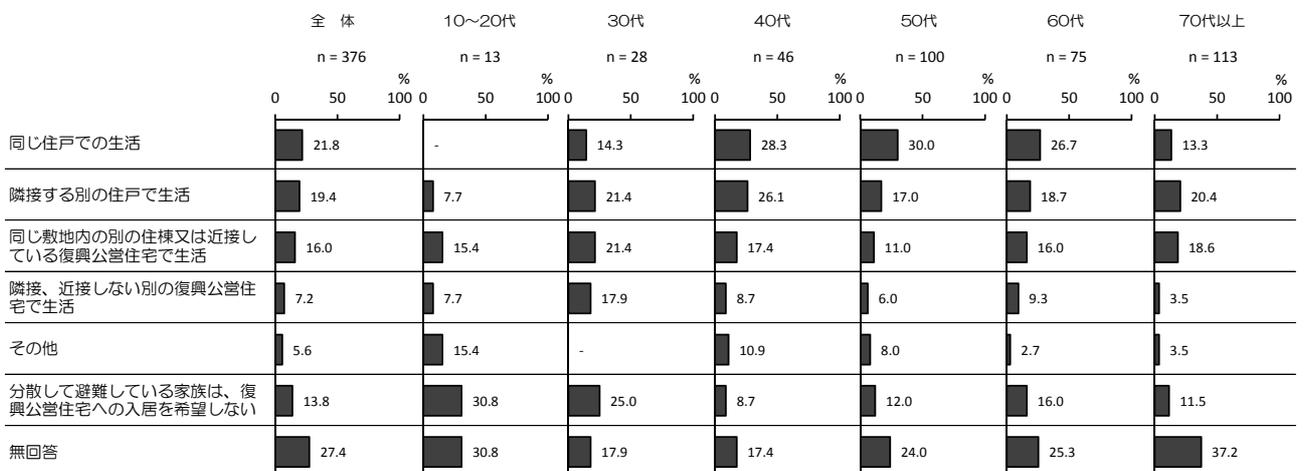
分散して避難している家族との同居意向については、「同じ住戸での生活」が21.8%と最も高く、次いで「隣接する別の住戸で生活」が19.4%、「同じ敷地内の別の住棟又は近接している復興公営住宅で生活」が16.0%となっている。

世帯主の年齢別にみると、「同じ住戸での生活」は、50代（30.0%）、60代（26.7%）で他の年齢に比べ高くなっている。

<図表3-2-6-1 分散して避難している家族との同居意向>

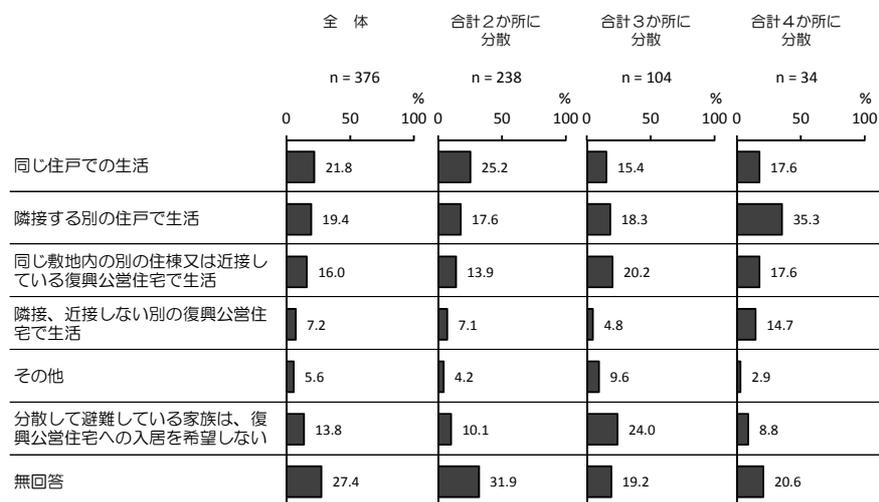


<図表3-2-6-2 分散して避難している家族との同居意向（世帯主の年齢別）>



分散して入居する場合の住居形態別にみると、合計 2 か所に分散している世帯では、「同じ住戸で生活」（25.2%）が最も高い。一方、合計 3 か所に分散では、「分散して避難している家族は、復興公営住宅への入居を希望しない」（24.0%）、合計 4 か所に分散では、「隣接する別の住戸で生活」（35.3%）が最も高くなっている。

<図表3-2-6-3 分散して避難している家族との同居意向（分散して入居する場合の住居形態別）>



Ⅲ 調査結果

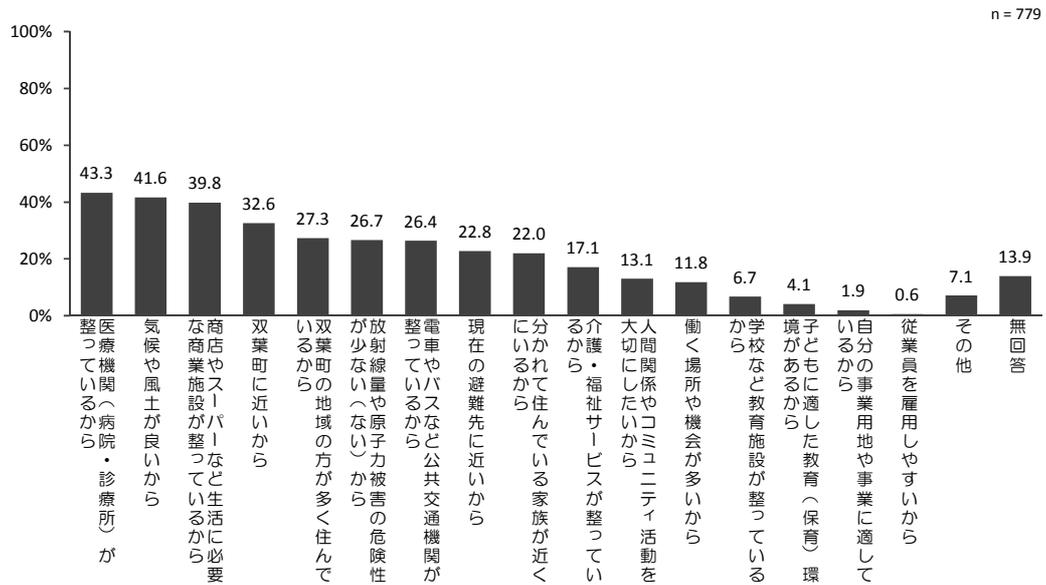
3-2-7 復興公営住宅に入居を希望する自治体を選んだ理由

【復興公営住宅へ入居を検討する方（問12で「1.入居を希望する」、「2.現時点では判断できない」と回答した方）にうかがいます。】「2.現時点では判断できない」と回答した方は、入居するとすればという仮定でお答えください。

問12-5 あなたが希望する自治体としてご回答になられた理由はどのような理由ですか。（〇はいくつでも）

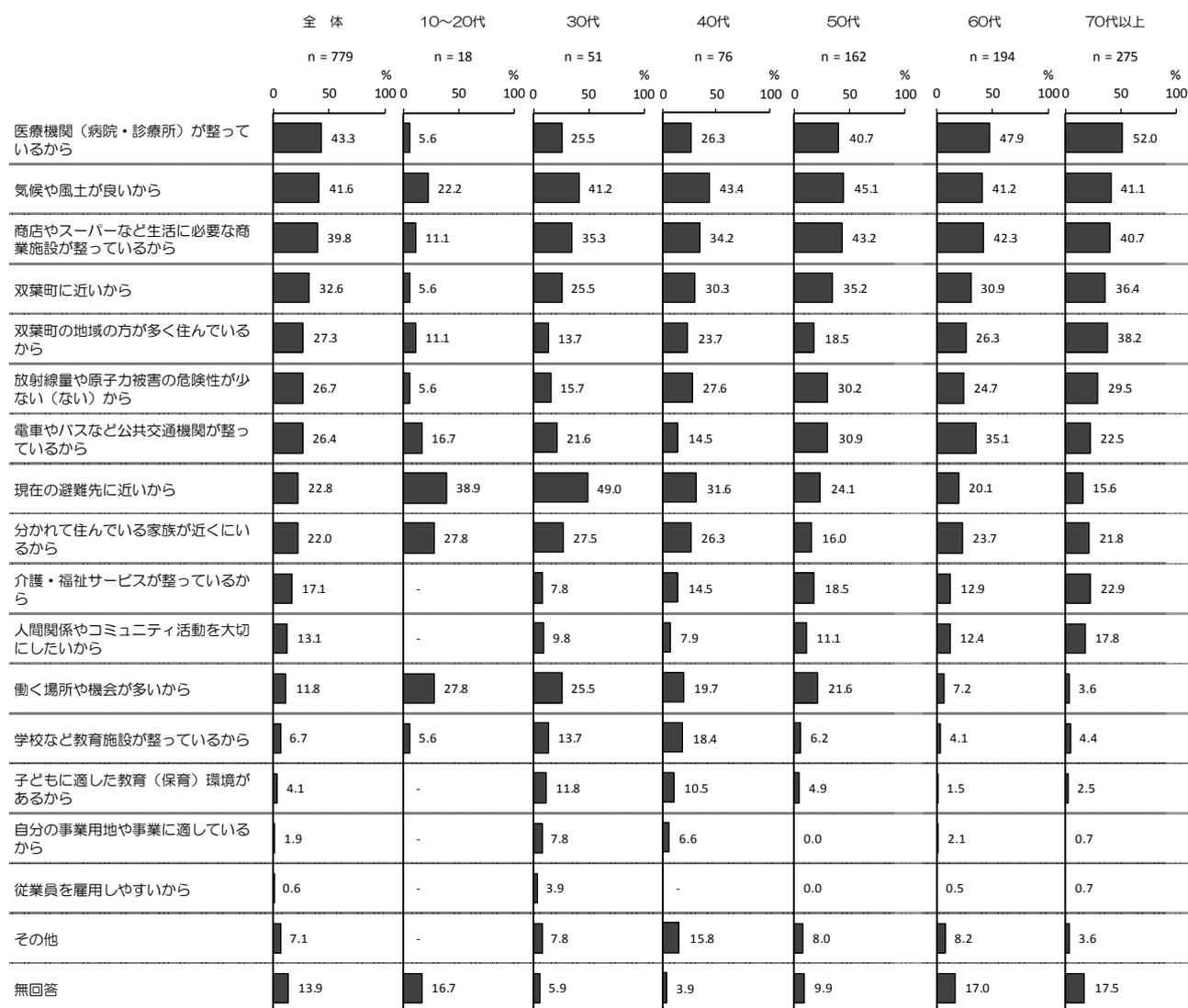
復興公営住宅に入居を希望する自治体を選んだ理由については、「医療機関（病院・診療所）が整っているから」が43.3%と最も高く、次いで「気候や風土が良いから」が41.6%、「商店やスーパーなど生活に必要な商業施設が整っているから」が39.8%となっている。

<図表3-2-7-1 復興公営住宅に入居を希望する自治体を選んだ理由>



世帯主の年齢別にみると、「医療機関（病院・診療所）が整っているから」は60代以上で、「商店やスーパーなど生活に必要な商業施設が整っているから」は50代以上で高くなっている。また、「現在の避難先に近いから」、「働く場所や機会が多いから」は30～50代で、「学校など教育施設が整っているから」、「子どもに適した教育（保育）環境があるから」は30～40代で高くなっている。

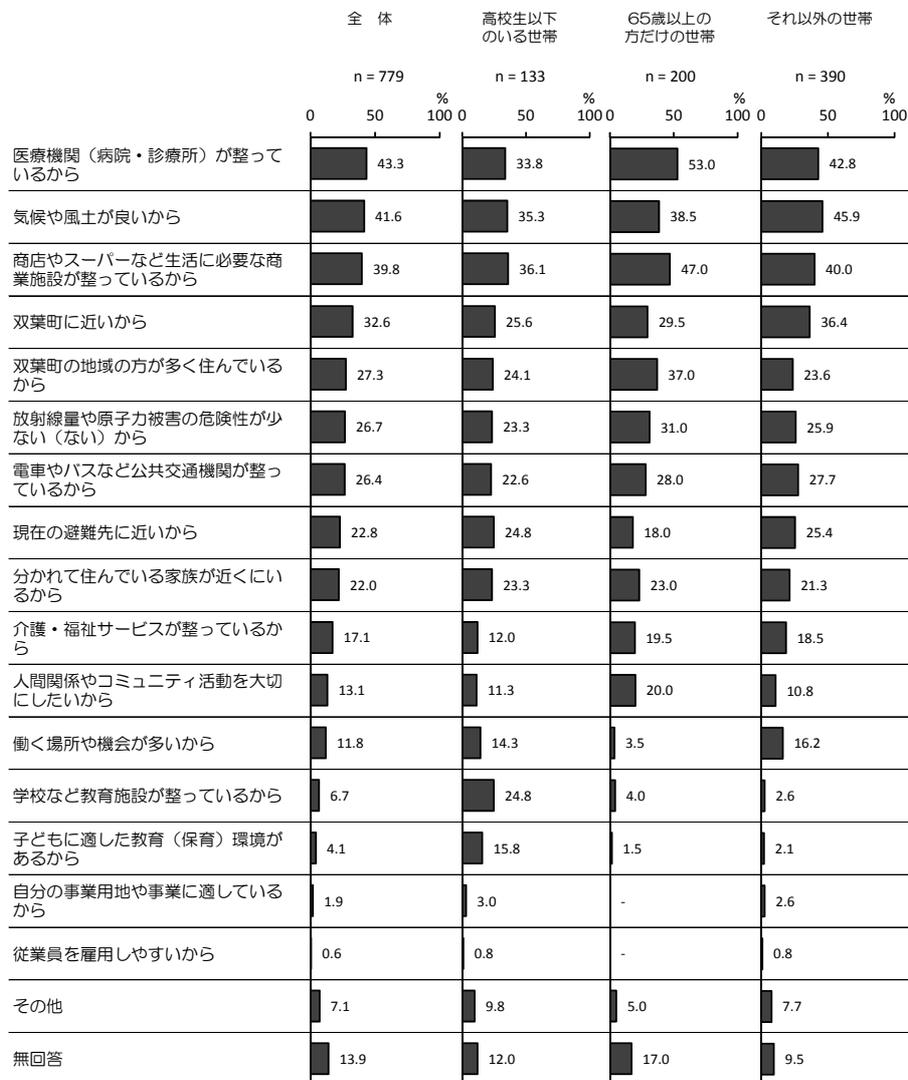
<図表3-2-7-2 復興公営住宅に入居を希望する自治体を選んだ理由（世帯主の年齢別）>



III 調査結果

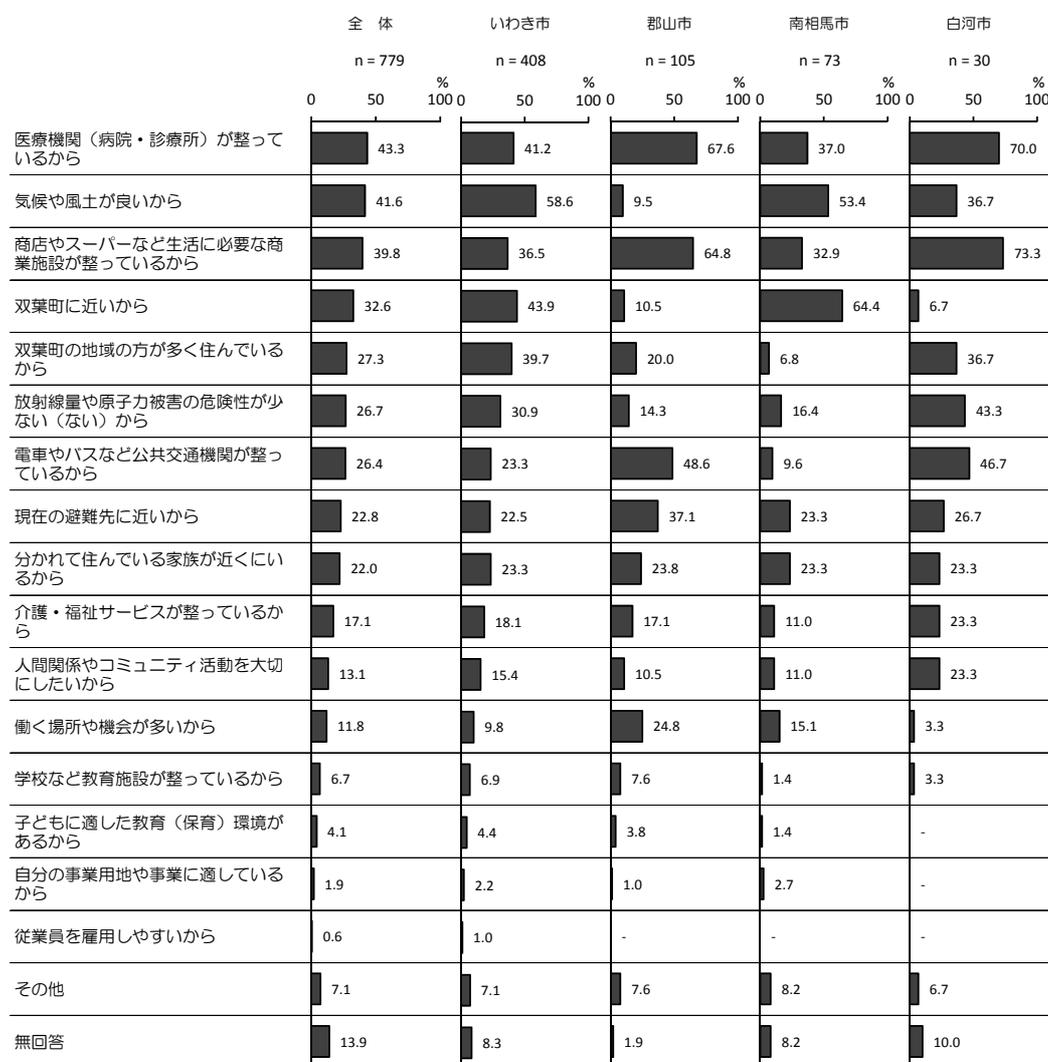
現在の世帯構成別にみると、「医療機関（病院・診療所）が整っているから」、「商店やスーパーなど生活に必要な商業施設が整っているから」は65歳以上の方だけの世帯で高い。一方、「学校など教育施設が整っているから」（24.8%）、「子供に適した教育（保育）環境があるから」（15.8%）は高校生以下のいる世帯で高くなっている。

<図表3-2-7-3 復興公営住宅に入居を希望する自治体を選んだ理由（現在の世帯構成別）>



入居を希望する自治体（1世帯目）別にみると、「医療機関（病院・診療所）が整っているから」は、白河市（70.0%）、郡山市（67.6%）が他の自治体と比べ高くなっている。また「気候や風土が良いから」は、いわき市（58.6%）、南相馬市（53.4%）が、「商店やスーパーなど生活に必要な商業施設が整っているから」は、白河市（73.3%）、郡山市（64.8%）が他の自治体と比べ高くなっている。

<図表3-2-7-4 復興公営住宅に入居を希望する自治体を選んだ理由（入居を希望する自治体別）>



III 調査結果

3-2-8 復興公営住宅の近隣に必要な施設・機能

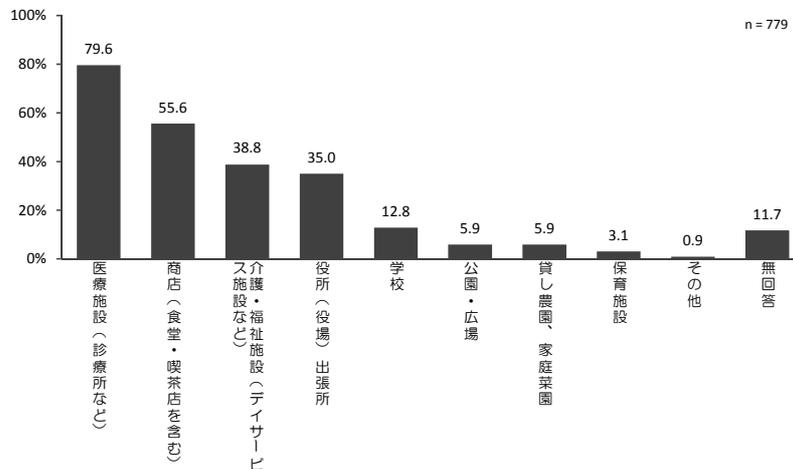
【復興公営住宅へ入居を検討する方（問 12 で「1.入居を希望する」、「2.現時点では判断できない」と回答した方）にうかがいます。】「2.現時点では判断できない」と回答した方は、入居するとすればという仮定でお答えください。

問 12-6 復興公営住宅に入居する場合に、その住宅に近接する施設、機能として必要だと思うものは何ですか。（〇は3つまで）

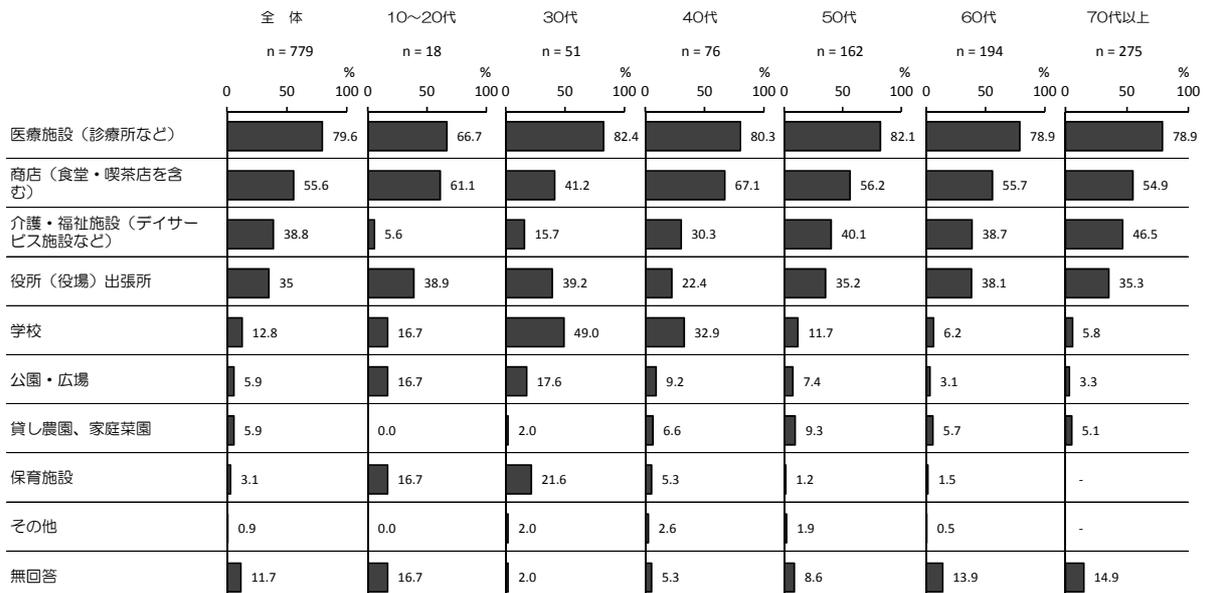
復興公営住宅の近隣に必要な施設・機能については、「医療施設（診療所など）」が79.6%と最も高く、次いで「商店（食堂・喫茶店を含む）」が55.6%、「介護・福祉施設（デイサービス施設など）」が38.8%、「役所（役場）出張所」が35.0%となっている。

世帯主の年齢別にみると、「医療施設（診療所など）」は、いずれの年齢でも8割前後と高い割合となっている。一方、「学校」は、30代で49.0%と他の年齢と比べ高くなっている。

<図表3-2-8-1 復興公営住宅の近隣に必要な施設・機能>



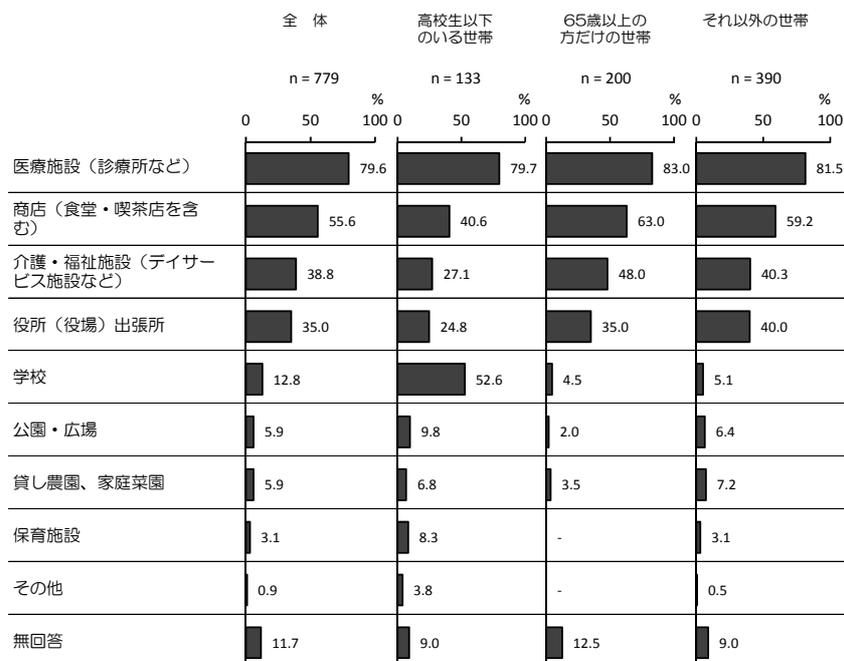
<図表3-2-8-2 復興公営住宅の近隣に必要な施設・機能（世帯主の年齢別）>



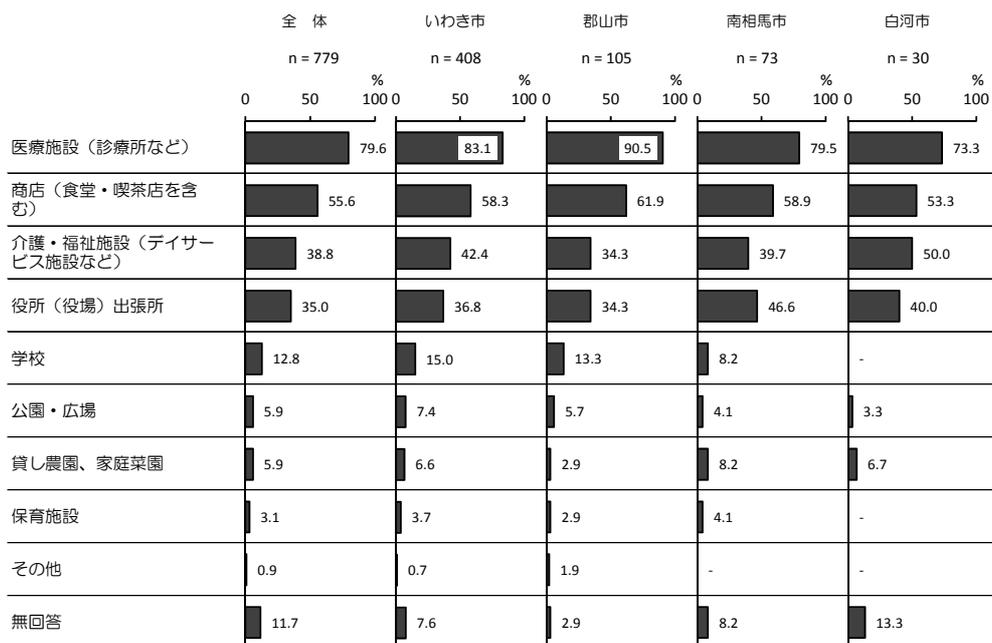
現在の世帯構成別にみると、「医療施設（診療所など）」は、いずれの世帯構成も8割前後と高い割合となっている。一方、「学校」は、高校生以下のいる世帯で52.6%となっており、他の世帯構成に比べ高くなっている。

入居を希望する自治体別にみると、いずれの自治体も「医療施設（診療所など）」が最も高いが、特に郡山市はその割合が90.5%となっており、他の入居を希望する地域と比べ高くなっている。

<図表3-2-8-3 復興公営住宅の近隣に必要な施設・機能（現在の世帯構成別）>



<図表3-2-8-4 復興公営住宅の近隣に必要な施設・機能（入居を希望する自治体別）>



III 調査結果

3-2-9 復興公営住宅に入居する場合に必要なもの

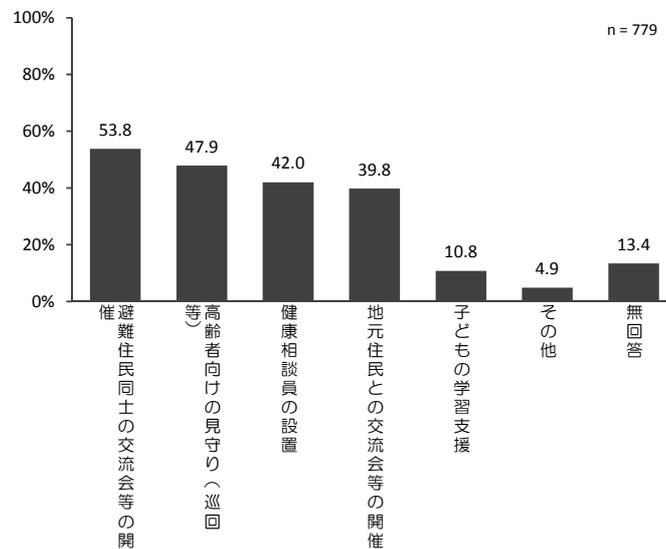
【復興公営住宅へ入居を検討する方（問 12 で「1.入居を希望する」、「2.現時点では判断できない」と回答した方）にうかがいます。】「2.現時点では判断できない」と回答した方は、入居するとすればという仮定でお答えください。

問 12-7 復興公営住宅に入居する場合に、快適な生活を送るために必要だと思うものは何ですか。（〇は3つまで）

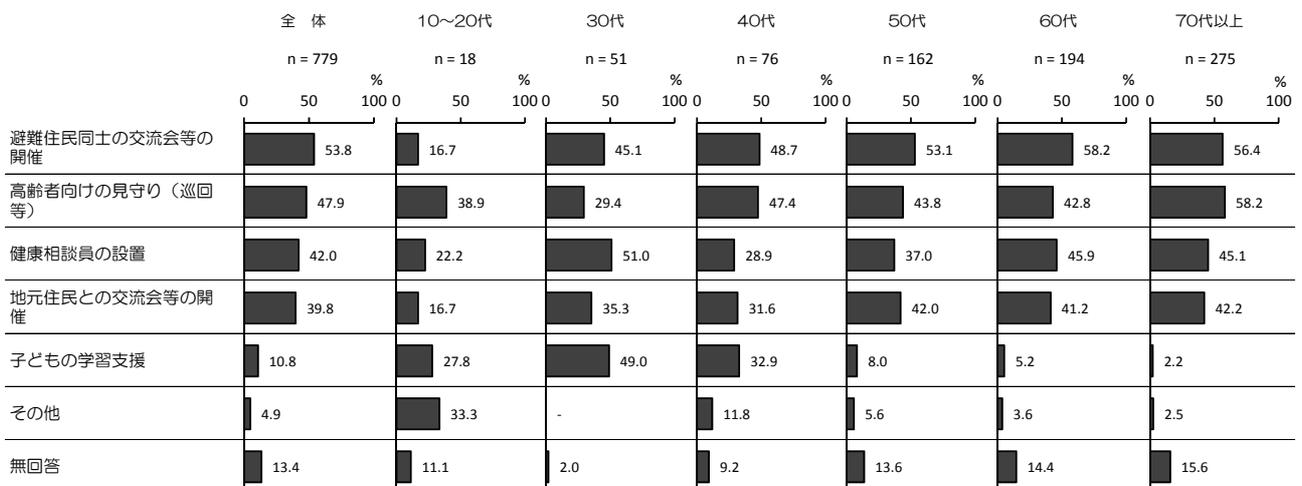
復興公営住宅に入居する場合に必要なものについては、「避難住民同士の交流会等の開催」が 53.8%と最も高く、次いで「高齢者向けの見守り（巡回等）」が 47.9%、「健康相談員の設置」が 42.0%となっている。

世帯主の年齢別にみると、「避難住民同士の交流会等の開催」は 60代以上で、「高齢者向けの見守り（巡回等）」は 70代以上で、「健康相談員の設置」は 30代と 60代以上で高くなっている。「子どもの学習支援」は 30代～40代で高くなっている。

<図表3-2-9-1 復興公営住宅に入居する場合に必要なもの>



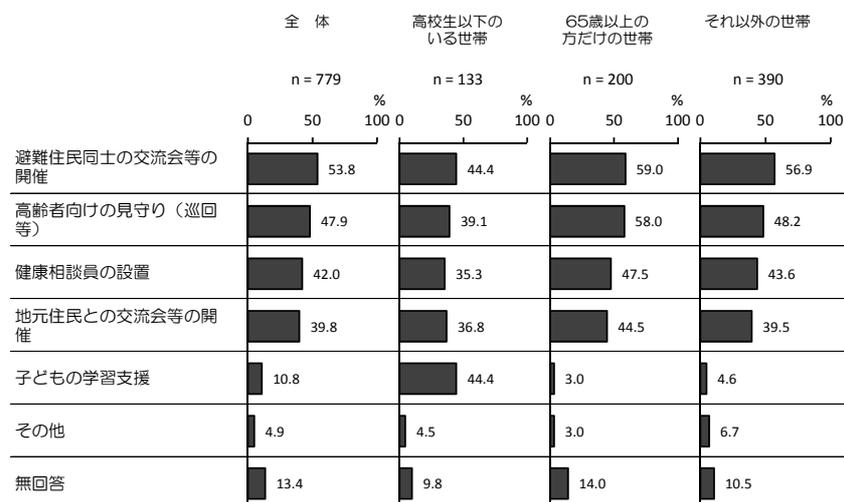
<図表3-2-9-2 復興公営住宅に入居する場合に必要なもの（世帯主の年齢別）>



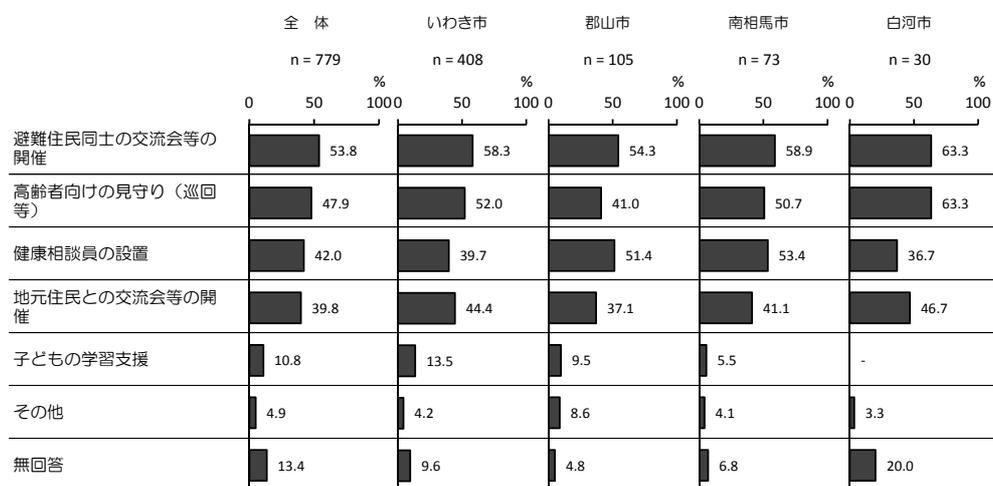
現在の世帯構成別にみると、「避難住民同士の交流会等の開催」は65歳以上の方だけの世帯が59.0%、それ以外の世帯が56.9%と高く、「高齢者向けの見守り（巡回等）」は65歳以上の方だけの世帯で58.0%と高くなっている。「子どもの学習支援」は高校生以下のいる世帯（44.4%）で高くなっている。

入居を希望する自治体（1世帯目）別にみると、「避難住民同士の交流会等の開催」は、白河市（63.3%）で6割を超え高くなっている。

<図表3-2-9-3 復興公営住宅に入居する場合に必要なもの（現在の世帯構成別）>



<図表3-2-9-4 復興公営住宅に入居する場合に必要なもの（入居を希望する自治体別）>



III 調査結果

3-2-10 復興公営住宅以外の避難期間中の住居

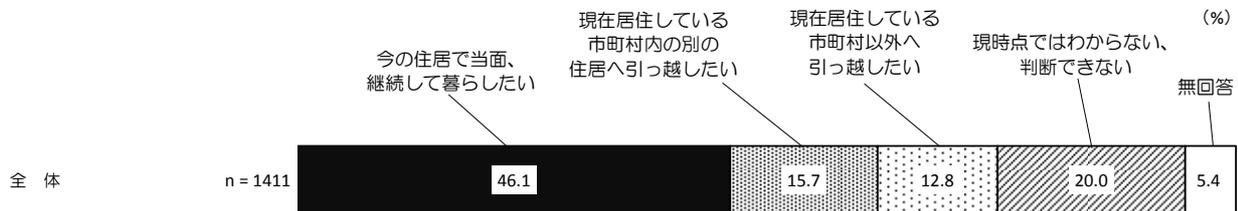
【問12で「2.現時点では判断できない」「3.入居を希望しない」と回答した方にうかがいます。】「2.現時点では判断できない」と回答した方は、入居しないとすればという仮定でお答えください。

問12-8 あなたは今後の避難期間中の住居をどのようにお考えですか。(〇は1つ)

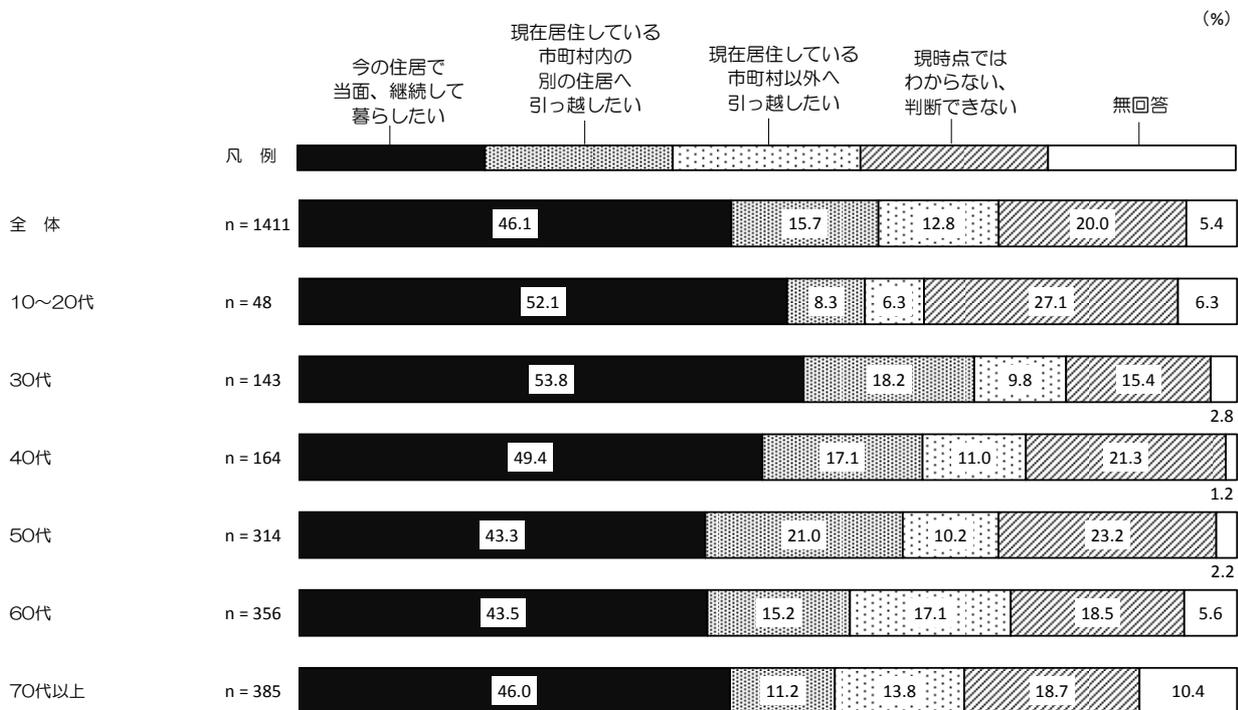
復興公営住宅以外の避難期間中の住居については、「今の住居で当面、継続して暮らしたい」が46.1%と最も高く、次いで「現時点ではわからない、判断できない」が20.0%、「現在居住している市町村内の別の住居へ引っ越したい」が15.7%、「現在居住している市町村以外へ引っ越したい」が12.8%となっている。

世帯主の年齢別にみると、「今の住居で当面、継続して暮らしたい」は、10代～40代が50代以上に比べ高くなっている。また、10～20代では「現時点ではわからない、判断できない」(27.1%)が他の年齢に比べ高くなっている。

<図表3-2-10-1 復興公営住宅以外の避難期間中の住居>



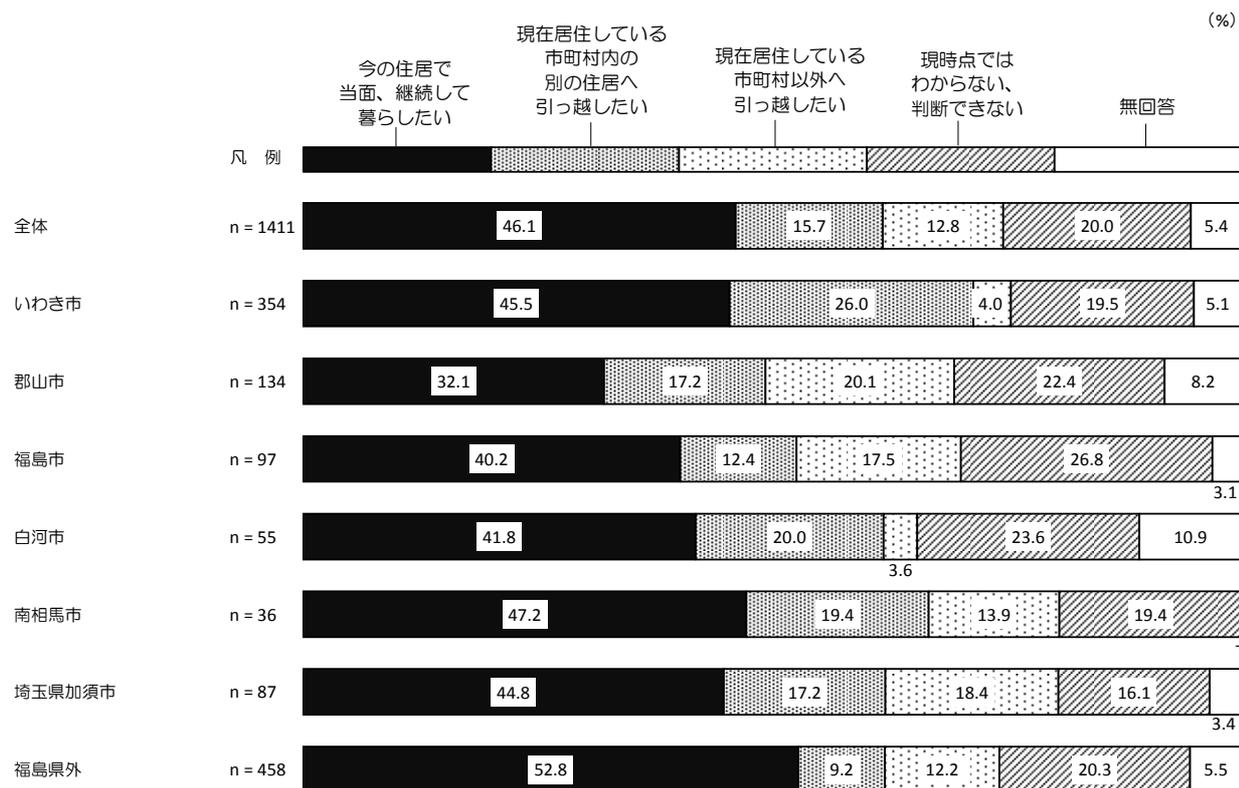
<図表3-2-10-2 復興公営住宅以外の避難期間中の住居(世帯主の年齢別)>



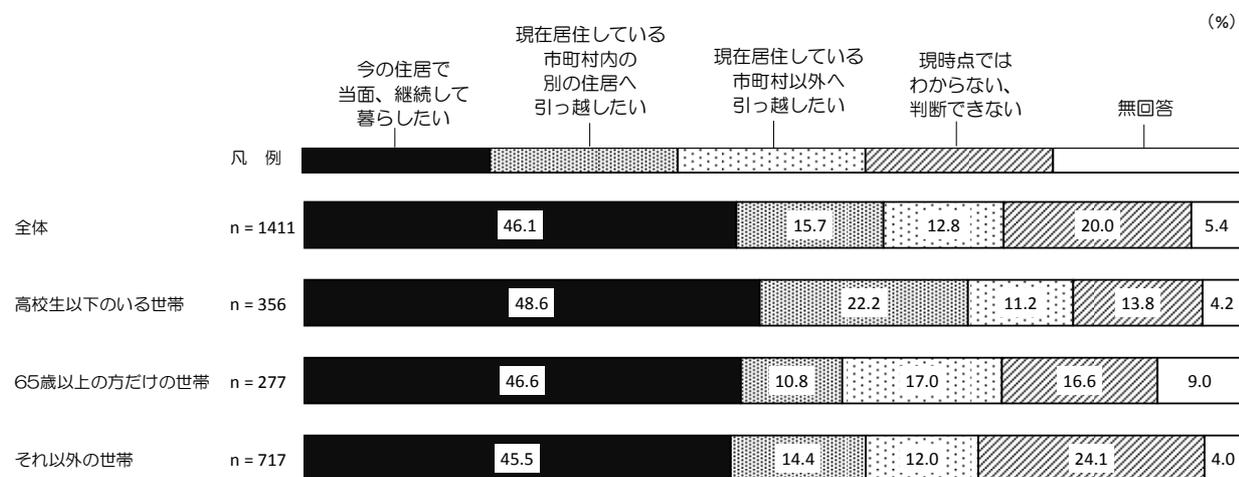
主な避難先自治体別にみると、「今の住居で当面、継続して暮らしたい」は、福島県外が52.8%で、他の避難先自治体と比べ高くなっている。一方、郡山市では「今の住居で当面、継続して暮らしたい」は32.1%で、「現在居住しているところから引っ越したい」(37.3%)（「現在居住している市町村内の別の住居へ引っ越したい」(17.2%)、「現在居住している市町村以外へ引っ越したい」(20.1%)の合計)を下回る。

現在の世帯構成別にみると、「今の住居で当面、継続して暮らしたい」は、いずれの世帯構成でも最も高くなっている。

＜図表3-2-10-3 復興公営住宅以外の避難期間中の住居（主な避難先自治体別）＞



＜図表3-2-10-4 復興公営住宅以外の避難期間中の住居（現在の世帯構成別）＞



III 調査結果

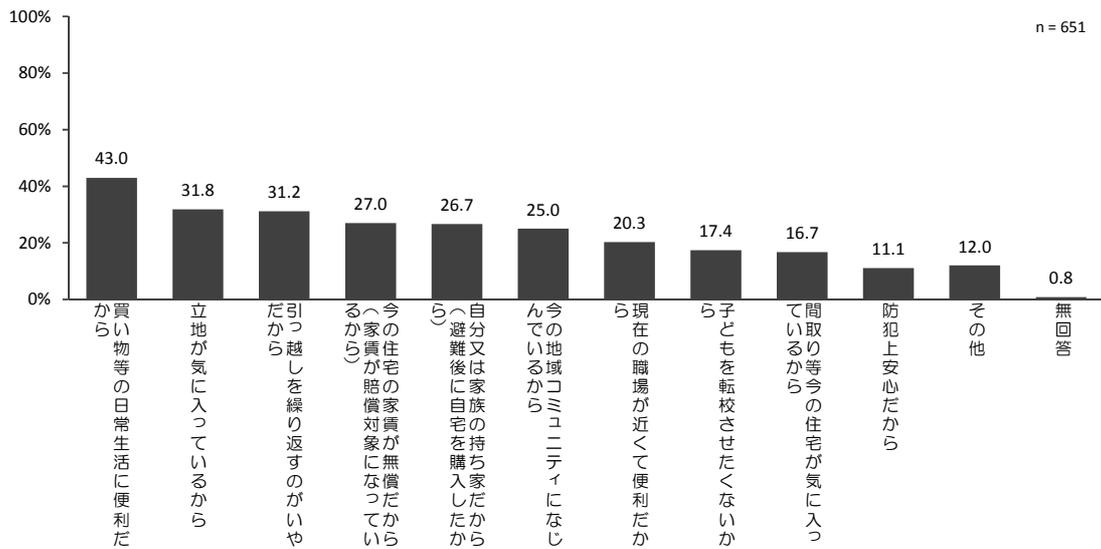
3-2-1 1 現在の住居で継続して暮らしたい理由

【問 12-8 で「1.今の住居で当面、継続して暮らしたい」と回答した方にうかがいます。】

問 12-9 今の住居で継続して暮らしたい理由は何ですか。(〇はいくつでも)

現在の住居で継続して暮らしたい理由については、「買い物等の日常生活に便利だから」が 43.0%と最も高く、次いで「立地が気に入っているから」が 31.8%、「引っ越しを繰り返すのがいやだから」が 31.2%となっている。

<図表3-2-11-1 現在の住居で継続して暮らしたい理由>



世帯主の年齢別にみると、「買い物等の日常生活に便利だから」は、60代が54.2%で他の年齢に比べ高くなっている。「子どもを転校させたくないから」は、30代が45.5%、40代が51.9%で他の年齢に比べ高くなっている。

主な避難先自治体別にみると、「買い物等の日常生活に便利だから」は、郡山市では65.1%、埼玉県加須市では53.8%、「立地が気に入っているから」は、郡山市では51.2%となっており、他の避難先自治体と比べて高くなっている。

<図表3-2-11-2 現在の住居で継続して暮らしたい理由（世帯主の年齢別）>

	全体 n = 651		10~20代 n = 25		30代 n = 77		40代 n = 81		50代 n = 136		60代 n = 155		70代以上 n = 177	
	0	%	0	%	0	%	0	%	0	%	0	%	0	%
買い物等の日常生活に便利だから	43.0		36.0		36.4		40.7		40.4		54.2		40.1	
立地が気に入っているから	31.8		36.0		19.5		27.2		32.4		41.3		29.9	
引っ越しを繰り返すのがいやだから	31.2		24.0		35.1		44.4		30.1		31.6		24.9	
今の住宅の家賃が無償だから（家賃が賠償対象になっているから）	27.0		28.0		23.4		24.7		25.0		34.2		24.9	
自分又は家族の持ち家だから（避難後に自宅を購入したから）	26.7		-		13.0		27.2		29.4		36.1		26.0	
今の地域コミュニティになじんでいるから	25.0		28.0		28.6		13.6		22.8		24.5		30.5	
現在の職場が近くて便利だから	20.3		48.0		24.7		32.1		37.5		11.0		4.0	
子どもを転校させたくないから	17.4		4.0		45.5		51.9		14.7		5.2		4.0	
間取り等今の住宅が気に入っているから	16.7		36.0		11.7		19.8		11.0		18.1		18.1	
防犯上安心だから	11.1		12.0		5.2		8.6		7.4		12.3		16.4	
その他	12.0		24.0		10.4		12.3		4.4		7.7		20.3	
無回答	0.8		-		-		1.2		-		1.3		1.1	

<図表3-2-11-3 現在の住居で継続して暮らしたい理由（主な避難先自治体別）>

	n	理由											無回答 (%)
		か買 ら 物 等 の 日 常 生 活 に 便 利 だ ら う	立 地 が 気 に 入 っ て い る か ら	引 越 し を 繰 り 返 す の が い や だ ら う	今 の 住 宅 の 家 賃 が 無 償 だ ら う （ 家 賃 が 賠 償 対 象 に な っ て い る か ら）	自 分 又 は 家 族 の 持 ち 家 だ ら う （ 避 難 後 に 自 宅 を 購 入 し た か ら）	今 の 地 域 コ ミ ュ ニ テ ィ に な じ ん で い る か ら	現 在 の 職 場 が 近 く て 便 利 だ ら う	子 ど も を 転 校 さ せ た く な い か ら	間 取 り 等 今 の 住 宅 が 気 に 入 っ て い る か ら	防 犯 上 安 心 だ ら う	そ の 他	
全体	651	43.0	31.8	31.2	27.0	26.7	25.0	20.3	17.4	16.7	11.1	12.0	0.8
いわき市	161	42.2	33.5	28.6	23.0	36.6	21.7	21.7	16.1	16.1	9.3	7.5	0.6
郡山市	43	65.1	51.2	37.2	34.9	27.9	25.6	16.3	14.0	25.6	14.0	7.0	-
福島市	39	38.5	20.5	30.8	30.8	35.9	20.5	10.3	10.3	7.7	15.4	10.3	-
白河市	23	47.8	39.1	21.7	30.4	43.5	30.4	8.7	13.0	26.1	4.3	4.3	-
南相馬市	17	29.4	17.6	29.4	17.6	23.5	29.4	23.5	5.9	35.3	17.6	5.9	-
埼玉県加須市	39	53.8	25.6	33.3	41.0	25.6	35.9	17.9	28.2	10.3	-	10.3	-
福島県外	242	41.3	33.1	32.6	26.9	16.5	25.2	22.3	20.2	15.3	14.0	16.9	1.7

III 調査結果

現在の世帯構成別にみると、「買い物等の日常生活に便利だから」は、世帯構成による差はあまりみられない。「立地が気に入っているから」は、それ以外の世帯では34.7%で、他の世帯構成と比べ高くなっている。

<図表3-2-11-4 現在の住居で継続して暮らしたい理由（現在の世帯構成別）>

	n	買い物等の日常生活に便利だから	立地が気に入っているから	引っ越しを繰り返すのがいやだから	今の住宅の家賃が無償だから（家賃が賠償対象になつていないから）	自分又は家族の持ち家だから（避難後に自宅を購入したから）	今の地域コミュニティになじんでいるから	現在の職場が近くて便利だから	子どもを転校させたくないから	間取り等今の住宅が気に入っているから	その他	防犯上安心だから	無回答
全体	651	43.0	31.8	31.2	27.0	26.7	25.0	20.3	17.4	16.7	12.0	11.1	0.8
高校生以下のいる世帯	173	42.2	26.6	33.5	23.1	30.6	24.9	22.0	63.0	15.0	6.9	8.1	0.6
65歳以上の方だけの世帯	129	41.9	31.8	28.7	33.3	20.9	34.9	0.8	0.8	17.1	19.4	17.1	0.8
それ以外の世帯	326	44.2	34.7	30.7	27.3	27.6	21.2	26.7	0.9	17.5	11.7	10.1	0.9

3-2-12 避難期間中、転居を希望する自治体

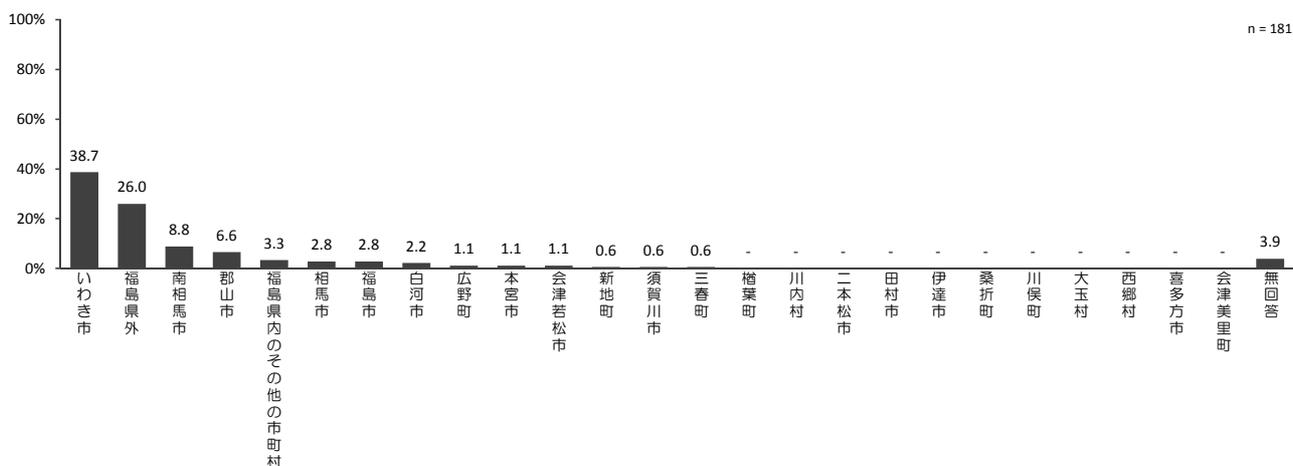
【問 12-8 で「3.現在居住している市町村以外へ引っ越したい」と回答した方にうかがいます。】

問 12-10 避難期間中に、転居を希望される自治体を教えてください。(〇は1つ)

避難期間中、転居を希望する自治体については、「いわき市」が 38.7%と最も高く、次いで「福島県外」が 26.0%となっている。

主な避難先自治体別にみると、福島県外に避難している世帯では、「福島県外」が 39.3%、「いわき市」が 33.9%となっており、希望する自治体が分かれる。

<図表3-2-12-1 避難期間中、転居を希望する自治体>



<図表3-2-12-2 避難期間中、転居を希望する自治体(主な避難先自治体別)>

	n	(%)				
		いわき市	南相馬市	郡山市	白河市	福島県外
全体	181	38.7	8.8	6.6	2.2	26.0
いわき市	14	-	7.1	14.3	-	42.9
郡山市	27	51.9	25.9	-	-	11.1
福島市	17	47.1	17.6	5.9	5.9	17.6
白河市	2	100.0	-	-	-	-
南相馬市	5	40.0	-	20.0	20.0	-
埼玉県加須市	16	62.5	6.3	-	-	31.3
福島県外	56	33.9	1.8	7.1	1.8	39.3

Ⅲ 調査結果

現在の世帯構成別にみると、65歳以上の方だけの世帯では、「いわき市」が51.1%となっており、およそ半数の世帯は、いわき市への転居を希望している。一方、高校生以下のいる世帯では、「いわき市」、「福島県外」がともに35.0%となっており、65歳以上の方だけの世帯と比べ、転居を希望する自治体が分かれる。

<図表3-2-1 2-3 避難期間中、転居を希望する自治体（現在の世帯構成別）>

	n	(%)				
		いわき市	南相馬市	郡山市	白河市	福島県外
全体	181	38.7	8.8	6.6	2.2	26.0
高校生以下のいる世帯	40	35.0	-	5.0	2.5	35.0
65歳以上の方だけの世帯	47	51.1	19.1	4.3	2.1	14.9
それ以外の世帯	86	33.7	7.0	9.3	2.3	27.9

3-2-13 避難期間中、転居する場合の住宅形態

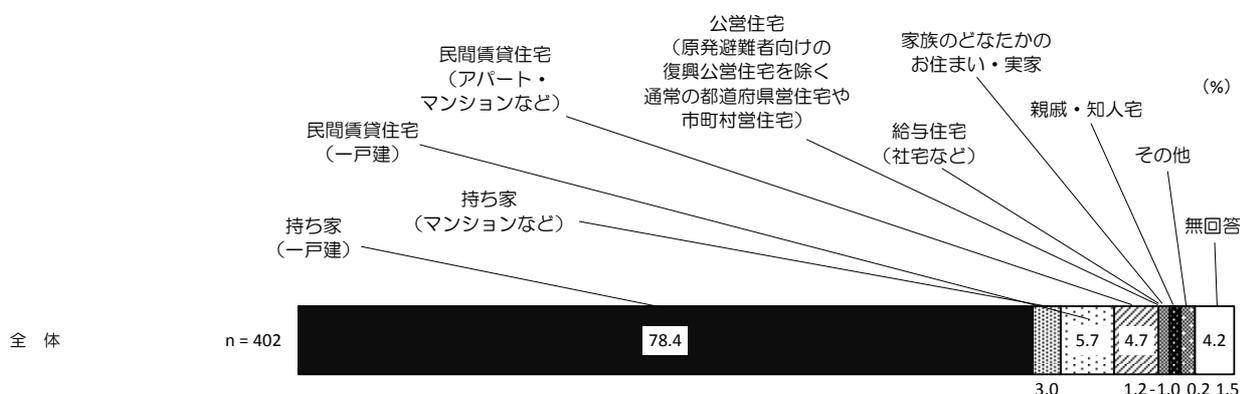
【問 12-8で「2.現在居住している市町村内の別の住居へ引っ越したい」「3.現在居住している市町村以外へ引っ越したい」と回答した方にうかがいます。】

問 12-11 避難期間中の現在の居住地から他への避難先への移動を希望する場合、希望する住宅はどのような形態ですか。(〇は1つ)

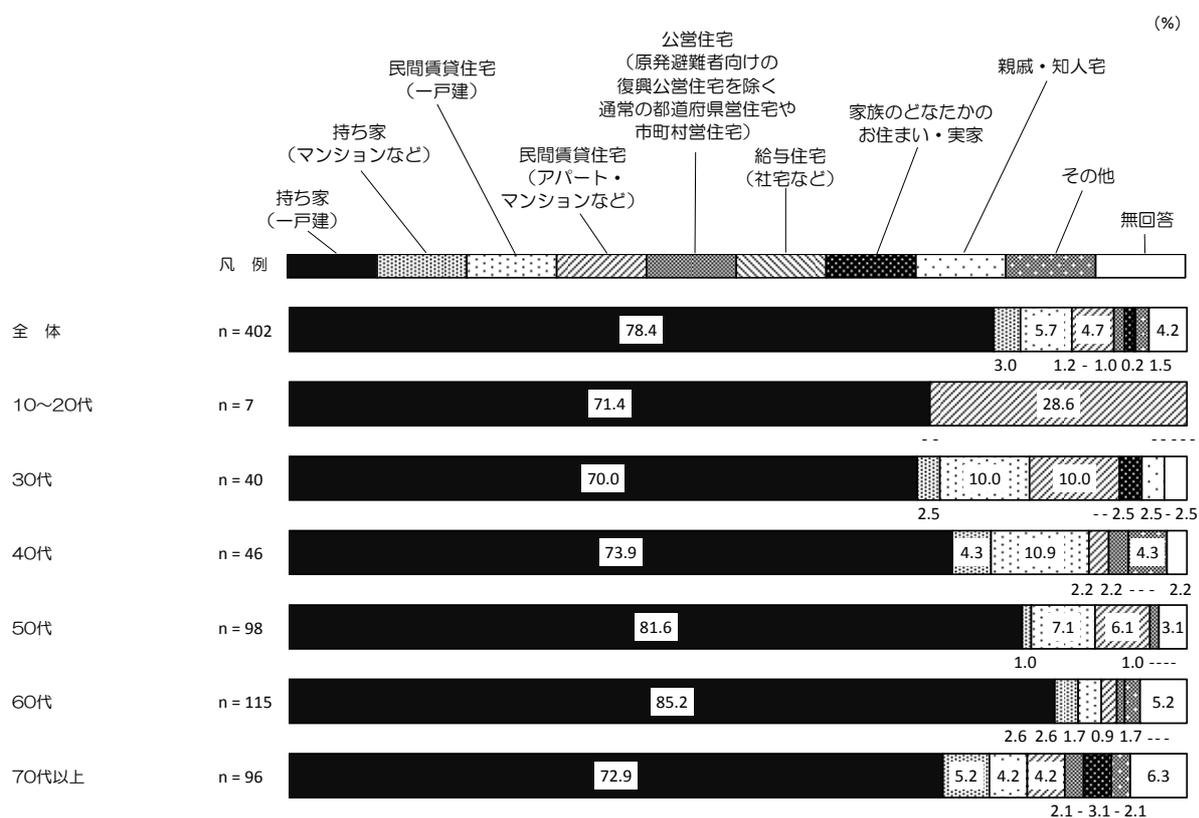
避難期間中、転居する場合の住宅形態については、「持ち家（一戸建）」が78.4%と最も高く、約8割を占めている。

世帯主の年齢別にみると、「持ち家（一戸建）」がいずれの年齢も最も高くなっている。

＜図表3-2-13-1 避難期間中、転居する場合の住宅形態＞



＜図表3-2-13-2 避難期間中、転居する場合の住宅形態（世帯主の年齢別）＞



III 調査結果

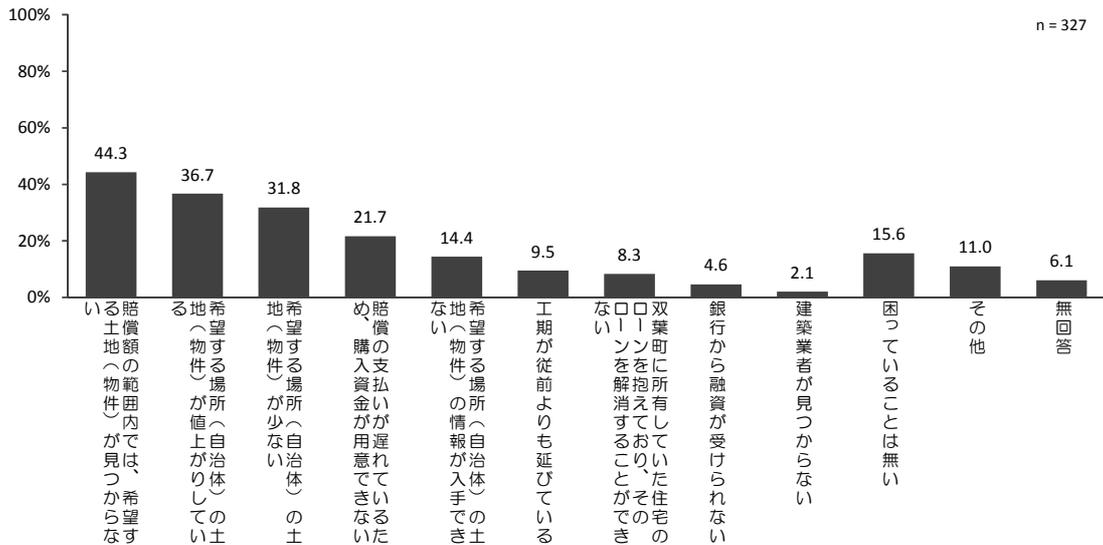
3-2-14 持ち家を購入または建築するにあたって困っていること

【問 12-11 で「1.持ち家(一戸建)」「2.持ち家(マンションなど)」と回答した方にうかがいます。】

問 12-12 持ち家を購入または建築されるにあたって困っていることはありますか。(〇はいくつでも)

持ち家を購入または建築するにあたって困っていることについては、「賠償額の範囲内では、希望する土地(物件)が見つからない」が44.3%と最も高く、次いで、「希望する場所(自治体)の土地(物件)が値上がりしている」が36.7%、「希望する場所(自治体)の土地(物件)が少ない」が31.8%となっている。

<図表3-2-14-1 持ち家を購入または建築するにあたって困っていること>



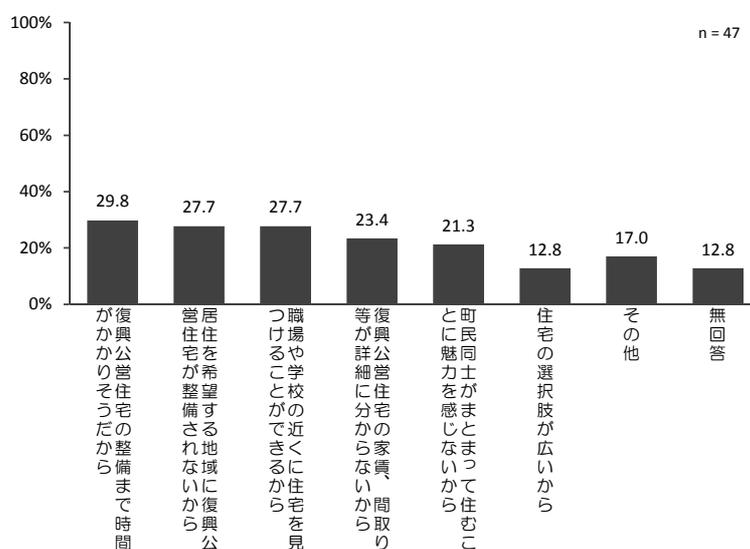
3-2-15 復興公営住宅を希望しなかった理由

【問 12-11 で「3.民間賃貸住宅(一戸建)」「4.民間賃貸住宅(アパート・マンションなど)」「5.公営住宅(原発避難者向けの復興公営住宅を除く通常の都道府県営住宅や市町村営住宅)」と回答した方にかかっています。】

問 12-13 復興公営住宅を希望しなかった理由は何ですか。(〇はいくつでも)

復興公営住宅を希望しなかった理由については、「復興公営住宅の整備まで時間がかかりそうだから」が29.8%と最も高く、次いで、「居住を希望する地域に復興公営住宅が整備されないから」、「職場や学校の近くに住宅を見つけることができるから」がともに27.7%となっている。

<図表3-2-15-1 復興公営住宅を希望しなかった理由>



Ⅲ 調査結果

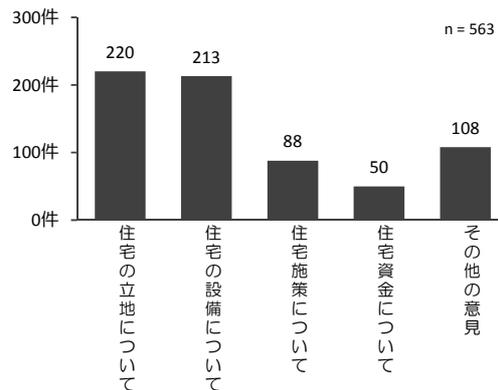
3-2-16 避難期間中の住宅や居住環境についての意見

問 12-14 避難期間中の住宅や居住環境についてご意見があればお書きください。

避難期間中の住居や居住環境についての意見について、563 件の回答があった。

意見を内容により分類したところ、「住宅の立地について」が 220 件と最も多く、次いで「住宅の設備について」が 213 件、「住宅施策について」が 88 件となっている。

〈図表 3-2-16-1 避難期間中の住宅や居住環境についての意見〉



主な意見は以下のとおり。

【住宅の立地について】

- アパート前の道路の交通量が非常に多く、加えて下水道工事を 1 年間近くすぐ脇で実施され、夜勤から帰宅後、眠れなかったり、何も手につかない程。もっと静かで、広い場所を避難場所として選定しておけばと後悔するばかりです。(50代)
- 私達の避難場所は、駅や街道の側で、毎日睡眠不足でストレスがたまっています。震災前は、昔からの静かな場所で生活していましたので、とても憂鬱です。それで、今身体は健康状態が悪化しています。早く復興公営住宅に入居したいです。(60代)
- 大型商業施設はあるが、毎日利用する商店やスーパーなど生活に必要な商業施設が現居住地から遠くがあり、車が運転できない高齢者には苦痛である。(70代以上)

【住宅の設備について】

- 一時帰宅をして、持ち出したくても、現在のアパートには保管できるほどのスペースがないので、困っています。(40代)
- 現在、借り上げ住宅に住んでいるが、1 階ではあるが、玄関までに 20 段位の階段がある。高齢者 2 人いるが、階段に手すりがない為、毎回転倒のリスクが非常に高く、居住環境は悪い。でも、いわき市には物件がなく、転居できない。(50代)
- アパートは年配者には危険（特に風呂、トイレ）な造りで、いつ事故がおきてもおかしくない状況です。出来れば福祉の方に見に来てほしいです。(70代以上)

〔住宅施策について〕

- 県外で避難し、賃貸住宅を借りている人も、県内と同じように引っ越しした後も、県からの借り上げアパートとしてほしい。(10～20代)
- 福島県内は借上げ住宅になっているのに、同じ町民で県外にいる為、避難先の都道府県管理は不自然。現在借上げ住宅になっていない世帯は、町か福島県で助成し、町民の負担を減らすべきだと思う。(40代)
- 現在家族がバラバラに住んでいます。子供が県外(埼玉県)で学校に通っている為に、動けません。最初に借上げにしたアパートから動けず、狭いアパートで家族が全員集まることが出来ません。県外でも、2回まで引越しが出来る様に(借上げにする)なれば助かります。(50代)

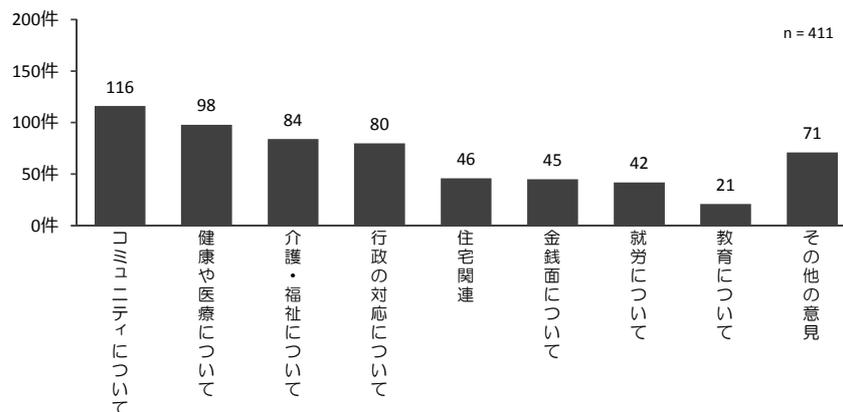
Ⅲ 調査結果

3-2-17 避難期間中の生活において、困っていることや改善を求めること

問 12-15 避難期間中の生活において困っていること、改善を求めることがあればお書きください。(医療、教育、介護・福祉、就労、コミュニティなど)

避難期間中の生活において、困っていることや改善を求めることについて、411件の回答があった。意見を内容により分類したところ、「コミュニティについて」が116件と最も多く、次いで「健康や医療について」が98件、「介護・福祉について」が84件となっている。

<図表3-2-17-1 避難期間中の生活において、困っていることや改善を求めること>



主な意見は以下の通りのおり。

【コミュニティについて】

- いわき市避難所等で実施の町行事（だるま市、盆踊り、等）に参加できなくしています。遠方からの参加の便を図る様な改善をいただけないかと思ひます。(50代)
- コミュニティの難しさはあります。(初めて始める難しさもあります)仮設の隣人的なこと、都会的な無関心的なコミュニティです。なじみづらいですが、なじまないと思う覚悟での再出発です(不安)。(60代)
- いわき市内に役場があるのでやむを得ないと思ひますが、いわき方面に双葉町民が集中してきております。双葉町には最も近い南相馬市にはあまり避難されていないので、コミュニティの若干の不足があるかと思ひます。町もいろいろと配慮してやって頂いていますが、町の出張所みたいな出先機関があれば良いと考えています。(70代以上)

【健康や医療について】

- 双葉町に住んでいるときは、予防接種の案内などのお知らせが届いていたが、避難してからは医療機関などを自分で探し、行わなければならない不便。(30代)
- かかりつけの医者ではなかったため、持病があると最初から説明。検査がありとても苦労した。受けた医療が全てわかる情報公開があればいい。避難先という事で苦労した。もっとすみやかに手続きできる手段があればいいと思う。(50代)
- 病院、介護施設が近くになく、行き帰りが大変です。(70代以上)

[介護・福祉について]

- 介護については不安に思っています。現在、同居の母は健康で介護を受けてはいないが、数年先に介護を受けるようになった場合、いわき市は満杯で受入先がない。双葉町対応の老人施設があればと思う。(50代)。
- 現在はまだ元気にしておりますので、大丈夫ですが、今後、母が介護のお世話になる場合、不安です。住民票は双葉にありますので、東京都の介護関係のお世話になることができるかどうか。(60代)
- 介護・福祉などを受ける環境が無く、交流も無い為、交流できる環境がもっとあれば良いと思う。(70代)

III 調査結果

3-3 将来の意向

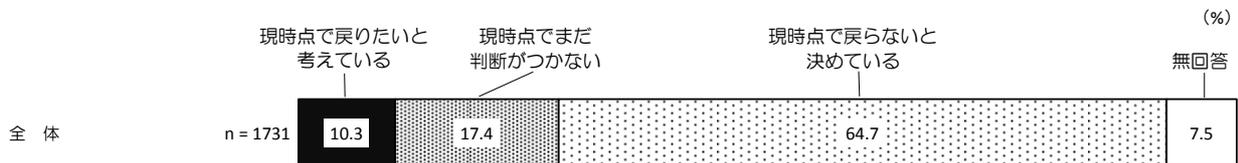
3-3-1 双葉町への帰還意向

問 13 将来、双葉町の避難指示が解除された後の双葉町への帰還について、現時点でどのようにお考えですか。（現在一緒にお住まいの家族の一部だけでも戻りたいと考えている場合は「1」を選んでください）（〇は1つ）

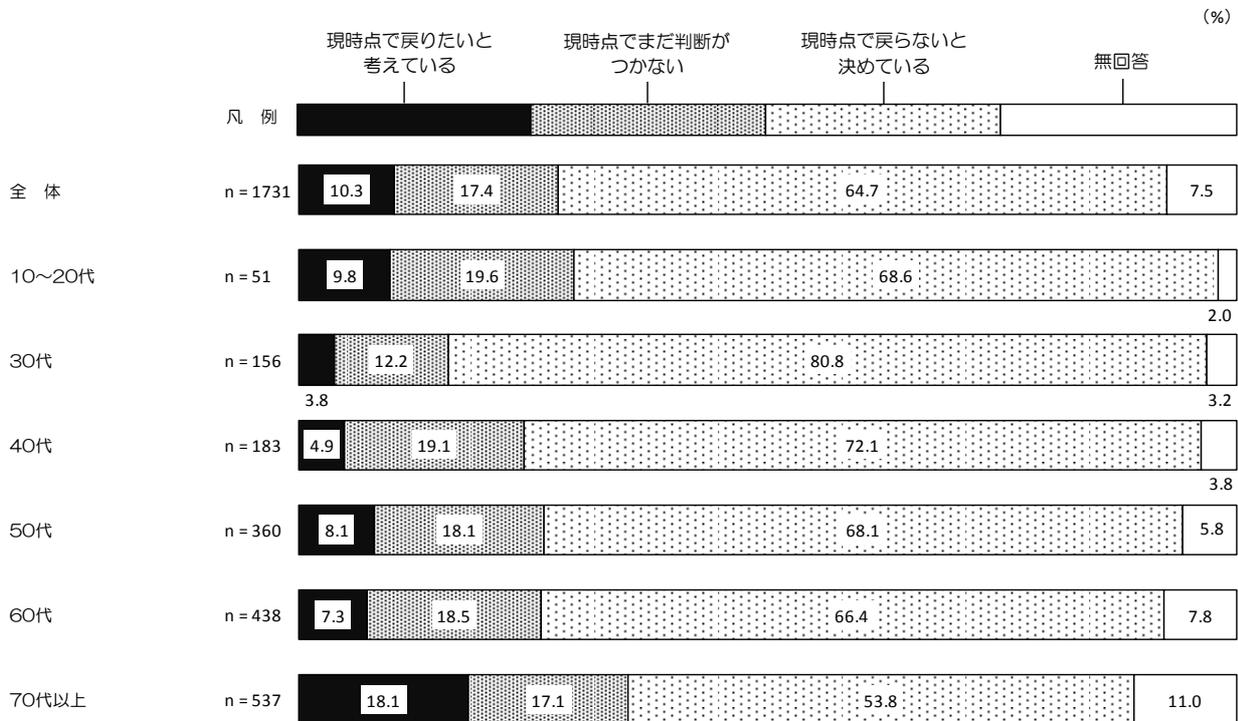
双葉町への帰還意向については、「現時点で戻らないと決めている」が64.7%と最も高く、次いで、「現時点でまだ判断がつかない」が17.4%、「現時点で戻りたいと考えている」が10.3%となっている。

世帯主の年齢別にみると、「現時点で戻りたいと考えている」は、70代以上では18.1%となっており、他の年齢に比べ高くなっている。一方、「現時点で戻らないと決めている」は、30代では80.8%、40代では72.1%となっており、他の年齢に比べ高くなっている。

<図表3-3-1-1 双葉町への帰還意向>

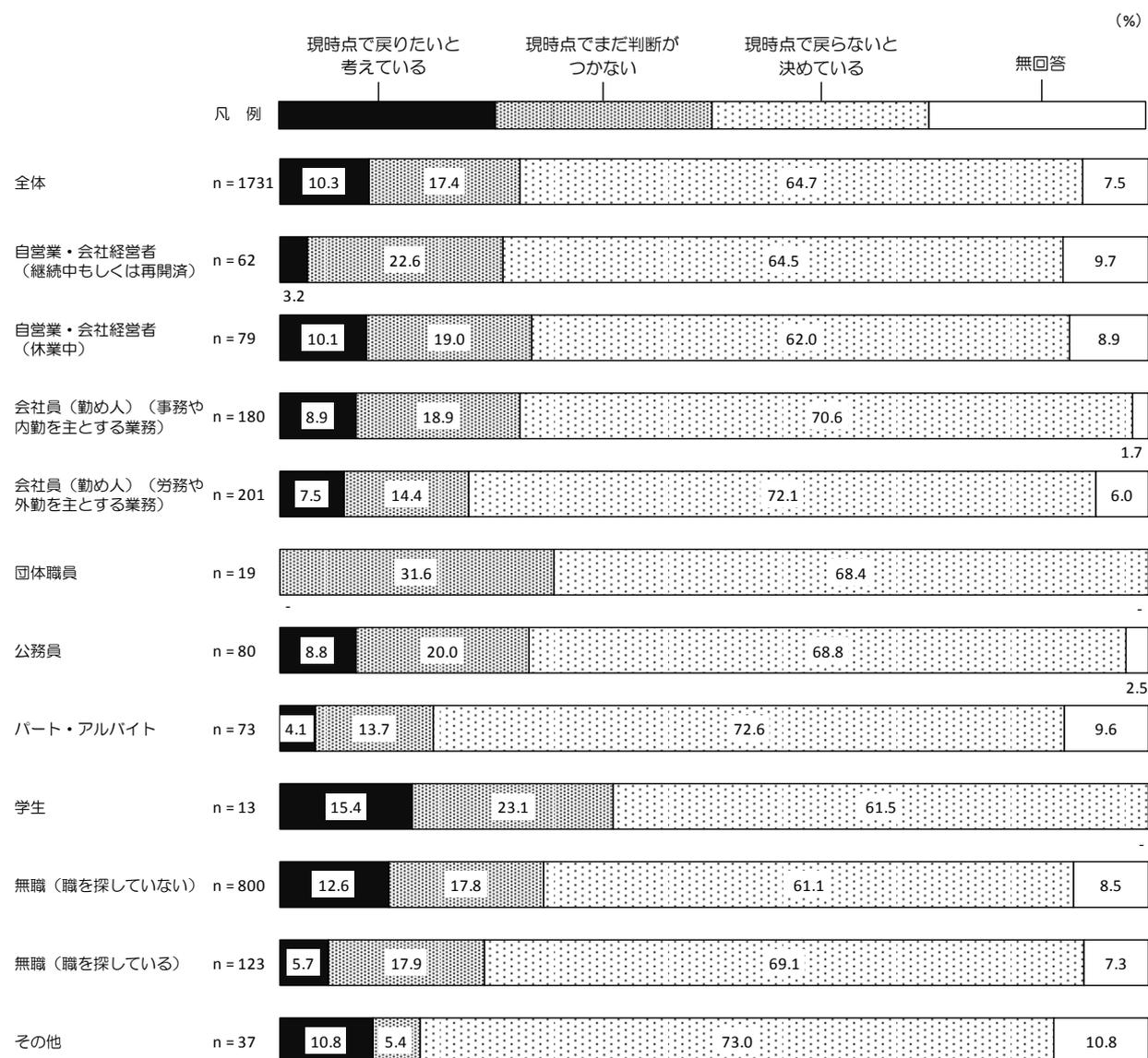


<図表3-3-1-2 双葉町への帰還意向（世帯主の年齢別）>



現在の職業別にみると、「現時点で戻りたいと考えている」は、無職（職を探していない）では12.6%となっており、他の職業に比べ高くなっている。一方、その他（10.8%）、自営業・会社経営者（休業中）（10.1%）ではわずかに1割を超えるが、他の職業は軒並み1割を下回る。一方、「現時点で戻らないと決めている」は、パート・アルバイト（72.6%）、会社員（勤め人）（労務や外勤を主とする業務）（72.1%）、会社員（勤め人）（事務や内勤を主とする業務）（70.6%）、その他（73.0%）では7割を超え、他の職業と比べ高くなっている。

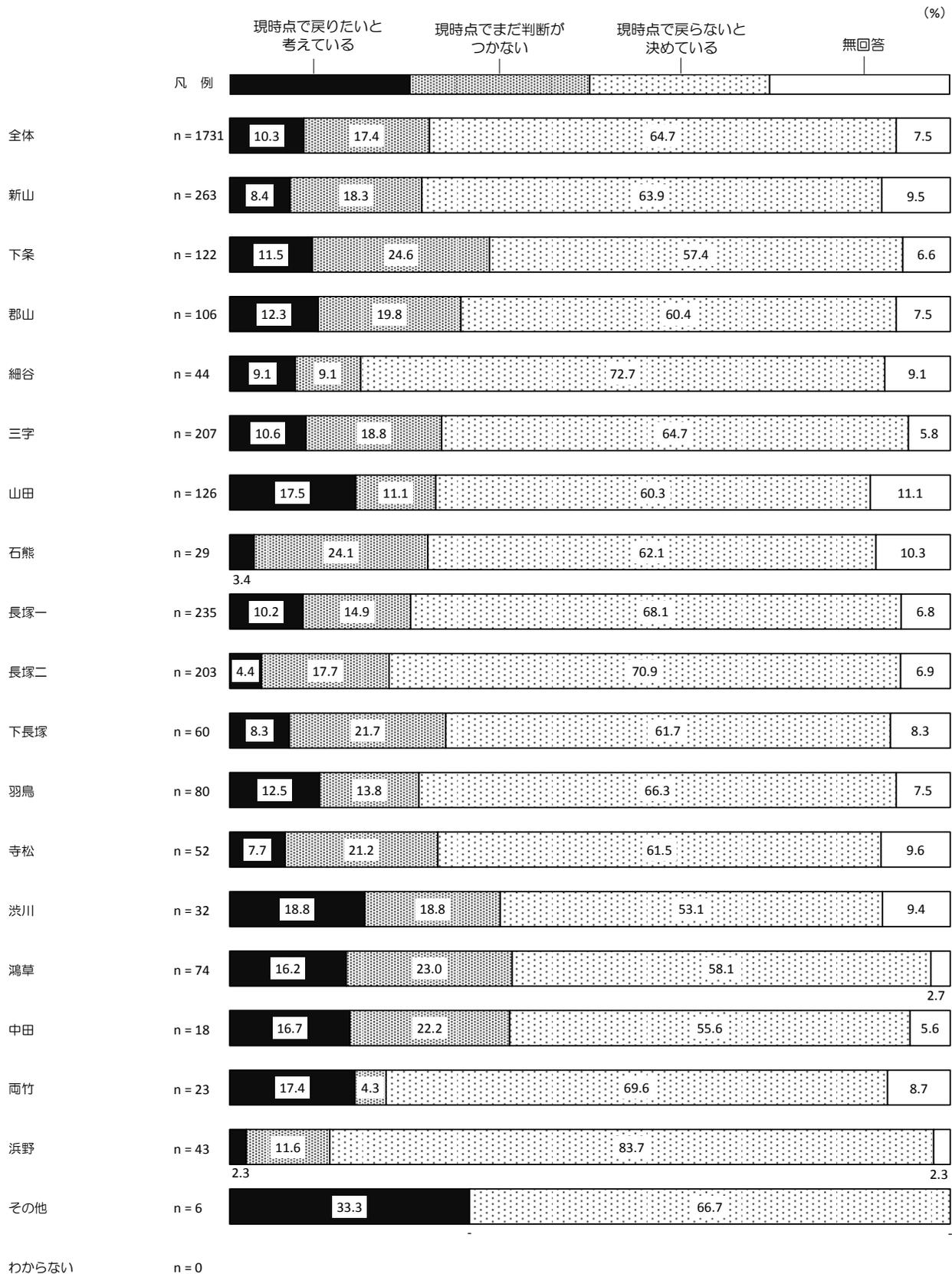
<図表3-3-1-3 双葉町への帰還意向（現在の職業別）>



III 調査結果

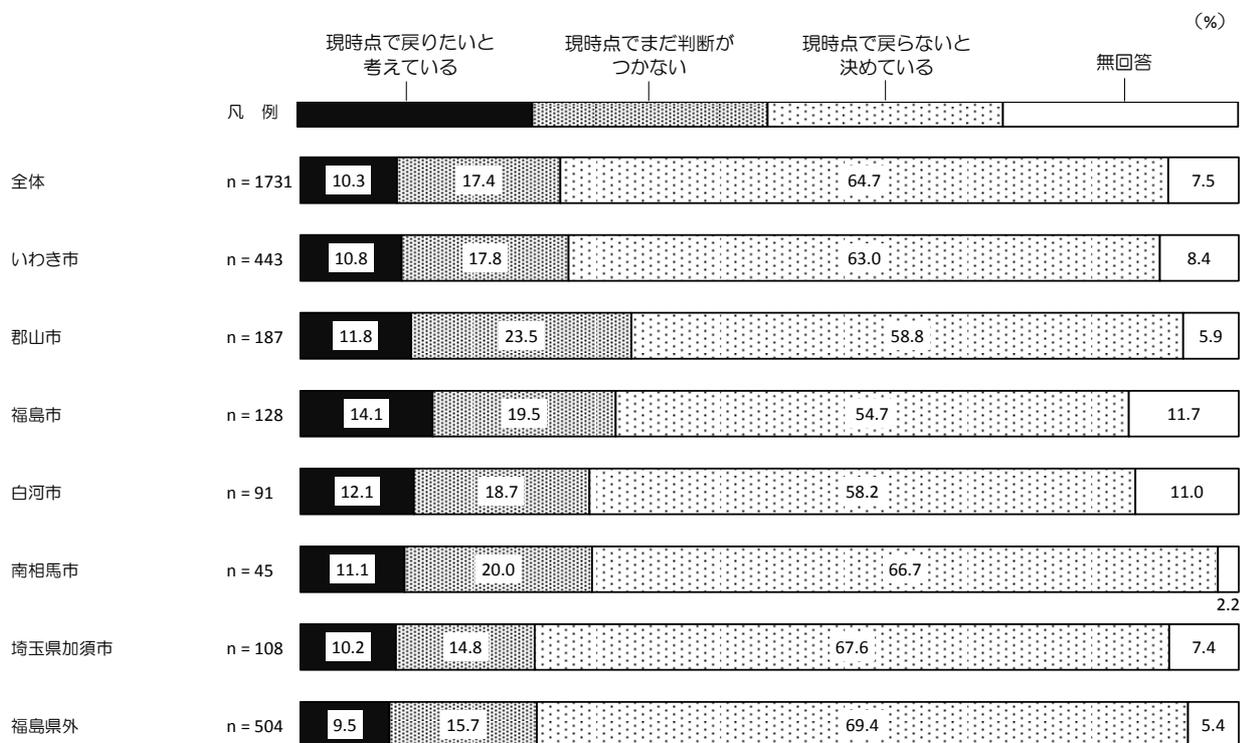
震災発生時の居住行政区別にみると、「現時点で戻りたいと考えている」は、渋川(18.8%)、山田(17.5%)、鴻草(16.2%)が、他の居住行政区に比べ高くなっている。

<図表3-3-1-4 双葉町への帰還意向(居住行政区別)>



主な避難先自治体別にみると、「現時点で戻りたいと考えている」は、福島市では 14.1%となっており、他の避難先自治体に比べやや高くなっているが、いずれの避難先自治体も 1 割前後となっている。

<図表3-3-1-5 双葉町への帰還意向（主な避難先自治体別）>

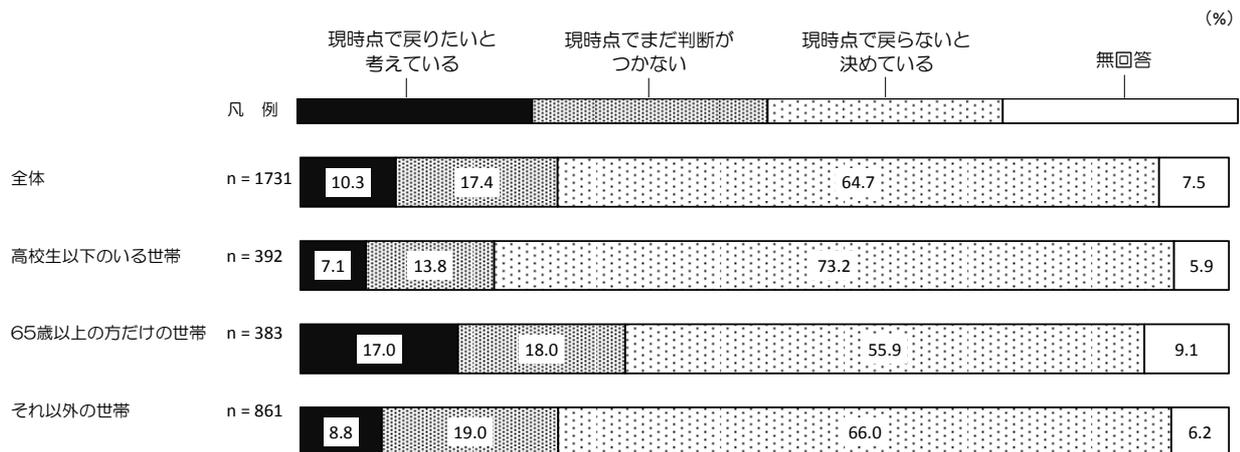


III 調査結果

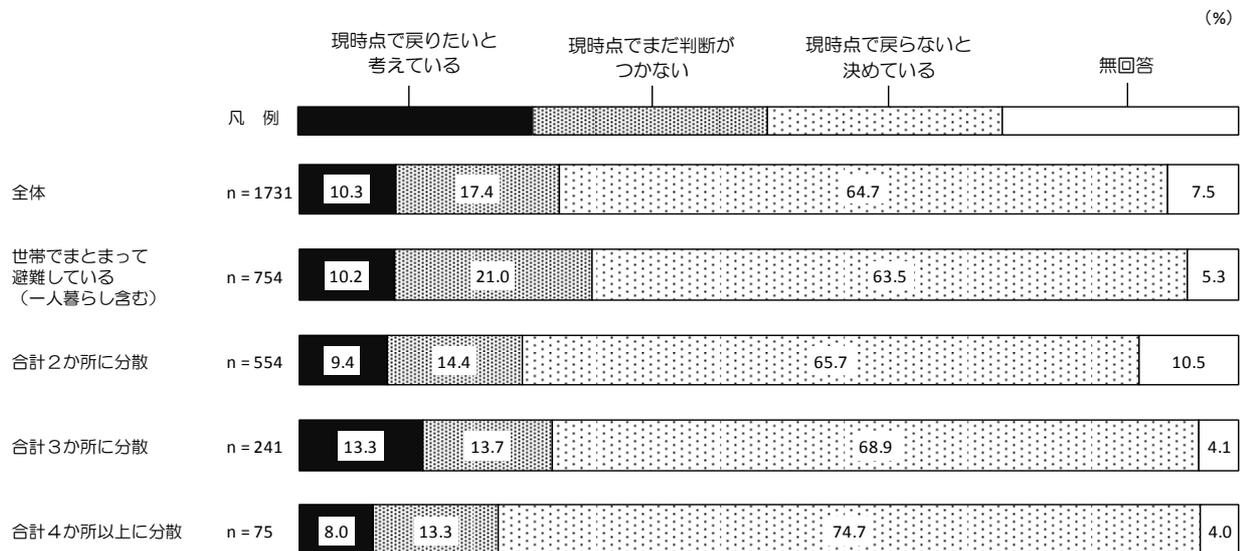
現在の世帯構成別にみると、「現時点で戻りたいと考えている」は、65歳以上の方だけの世帯では17.0%となっており、他の世帯構成と比べ高くなっている。一方、「現時点で戻らないと決めている」は、高校生のいる世帯では73.2%となっており、他の世帯構成と比べ高くなっている。

世帯の分散状況別にみると、「現時点で戻りたいと考えている」は、合計3か所に分散では13.3%で他の世帯の分散状況に比べやや高くなっているが、他の分散状況は1割を下回る。

<図表3-3-1-6 双葉町への帰還意向（現在の世帯構成別）>

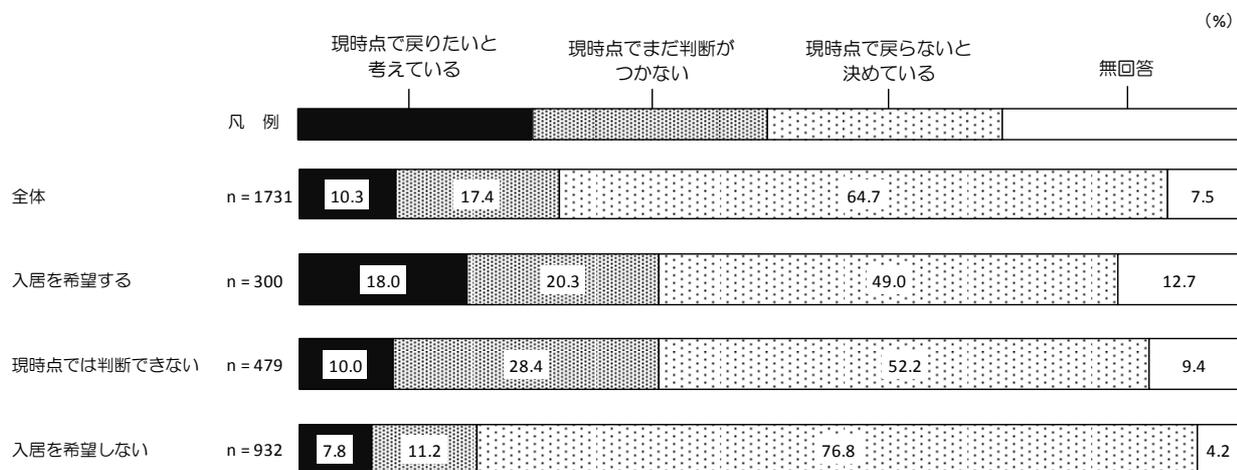


<図表3-3-1-7 双葉町への帰還意向（世帯の分散状況別）>



復興公営住宅への入居希望別にみると、入居を希望しない世帯うち76.8%は「現時点で戻らないと決めている」としている。

<図表3-3-1-8 双葉町への帰還意向（復興公営住宅への入居希望別）>



III 調査結果

3-3-2 双葉町への帰還を判断する上で必要と思う情報

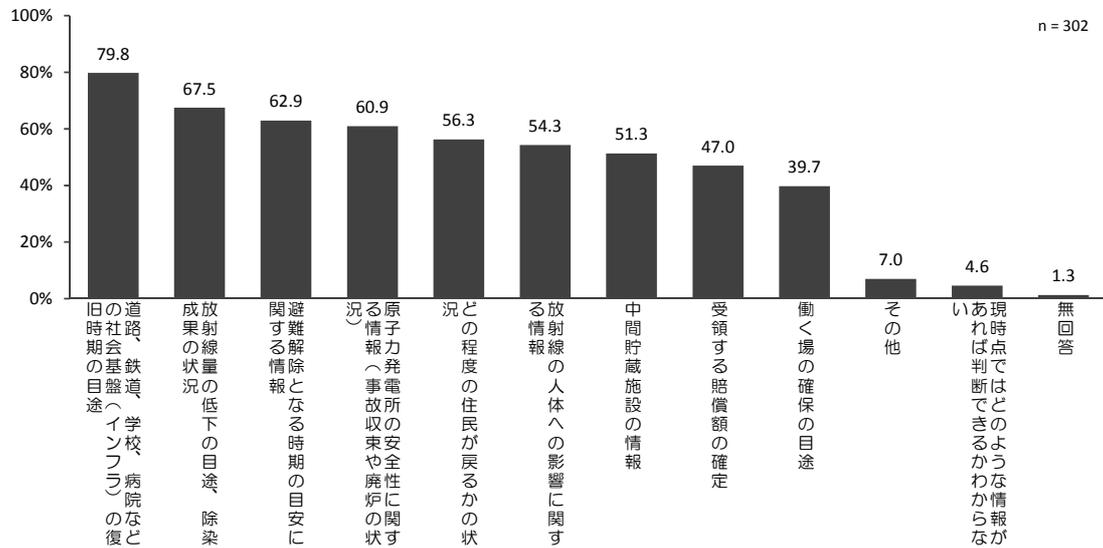
(1) 双葉町への帰還を判断する上で必要と思う情報

【問 13 で「2. 現時点でまだ判断がつかない」と回答した方にうかがいます。】

問 13-1 双葉町へ戻ることを判断する上で必要と思う情報等について、あてはまるものをすべて教えてください。
(○はいくつでも)

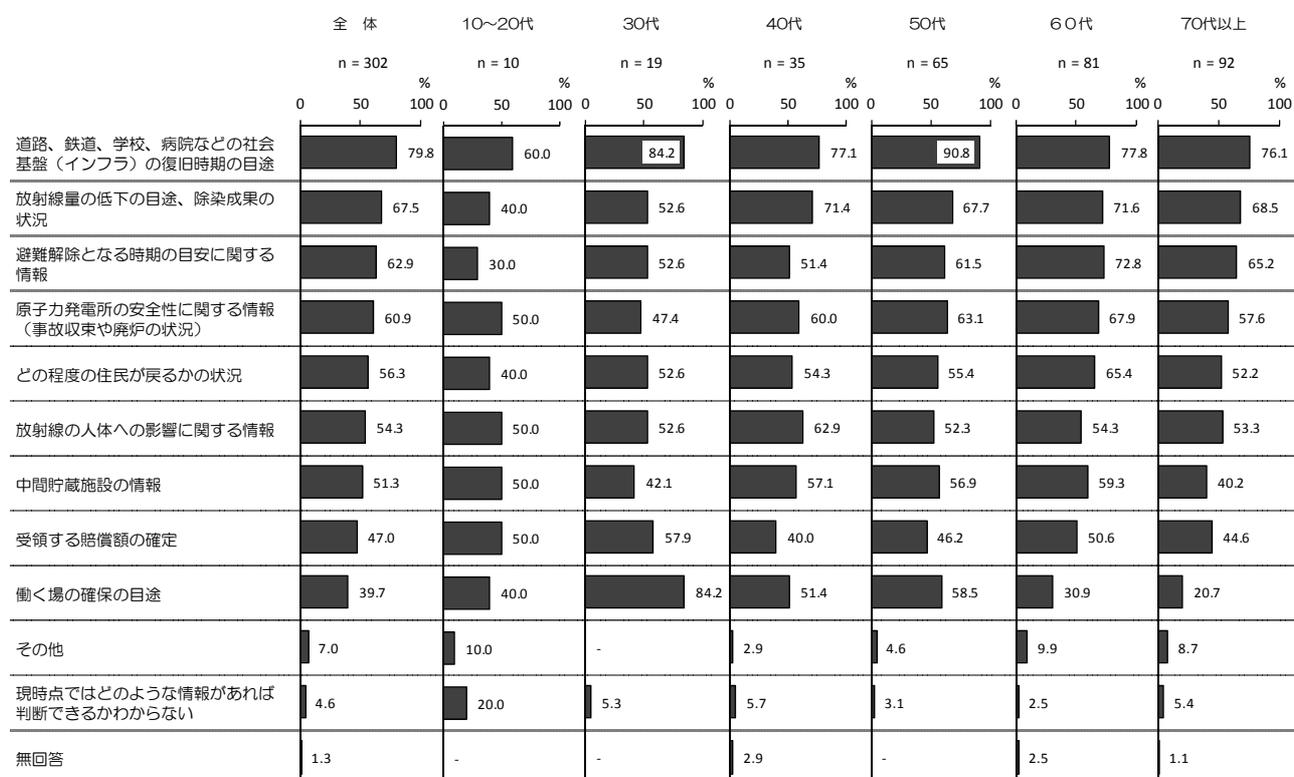
双葉町への帰還を判断する上で必要と思う情報については、「道路、鉄道、学校、病院などの社会基盤（インフラ）の復旧時期の目途」が 79.8%と最も高く、次いで「放射線量の低下の目途、除染成果の状況」が 67.5%、「避難解除となる時期の目安に関する情報」が 62.9%となっている。

<図表 3-3-2-1 双葉町への帰還を判断する上で必要と思う情報>



世帯主の年齢別にみると、「道路、鉄道、学校、病院などの社会基盤（インフラ）の復旧時期の目途」が、いずれの年齢でも最も高くなっている。

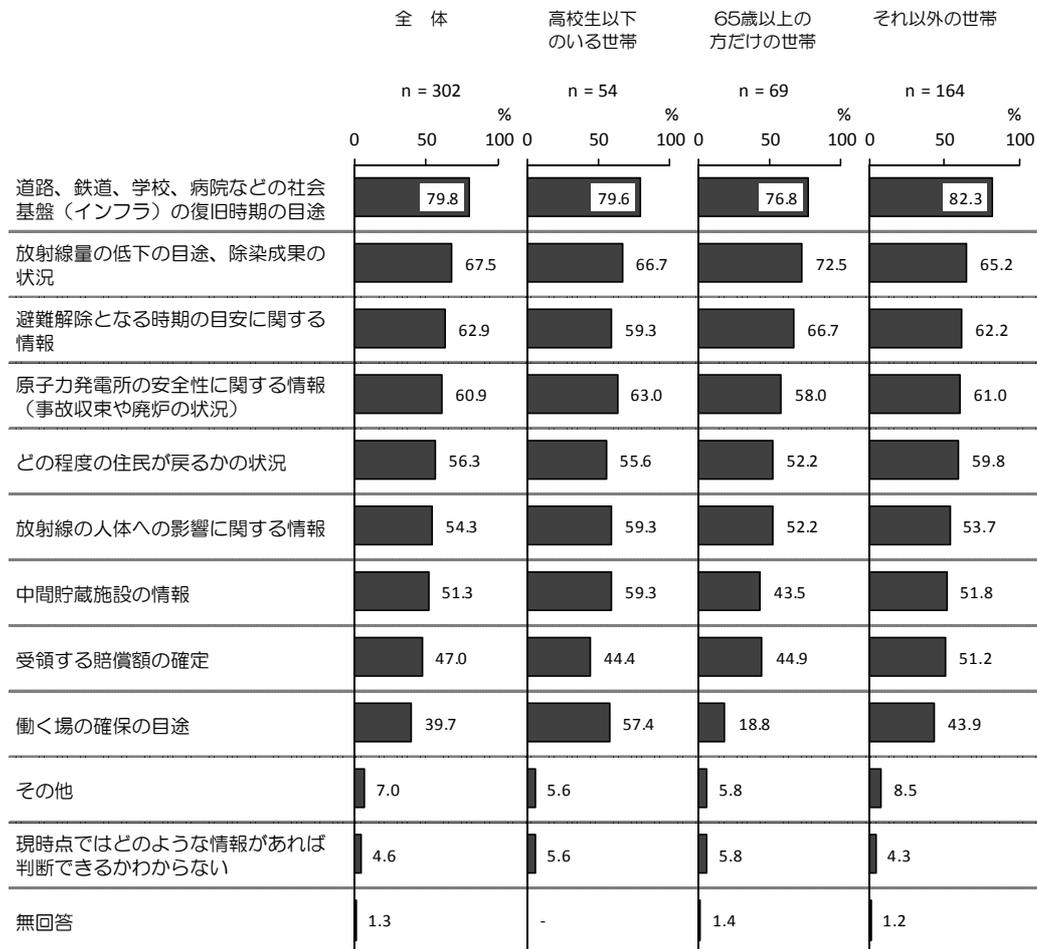
<図表3-3-2-2 双葉町への帰還を判断する上で必要と思う情報（世帯主の年齢別）>



III 調査結果

現在の世帯構成別にみると、「道路、鉄道、学校、病院などの社会基盤（インフラ）の復旧時期の目途」がいずれの世帯構成でも最も高くなっている。また、高校生以下のいる世帯では「働く場の確保の目途」（57.4%）が6割弱で、他の世帯構成と比べ高くなっている。

<図表3-3-2-3 双葉町への帰還を判断する上で必要と思う情報（現在の世帯構成別）>



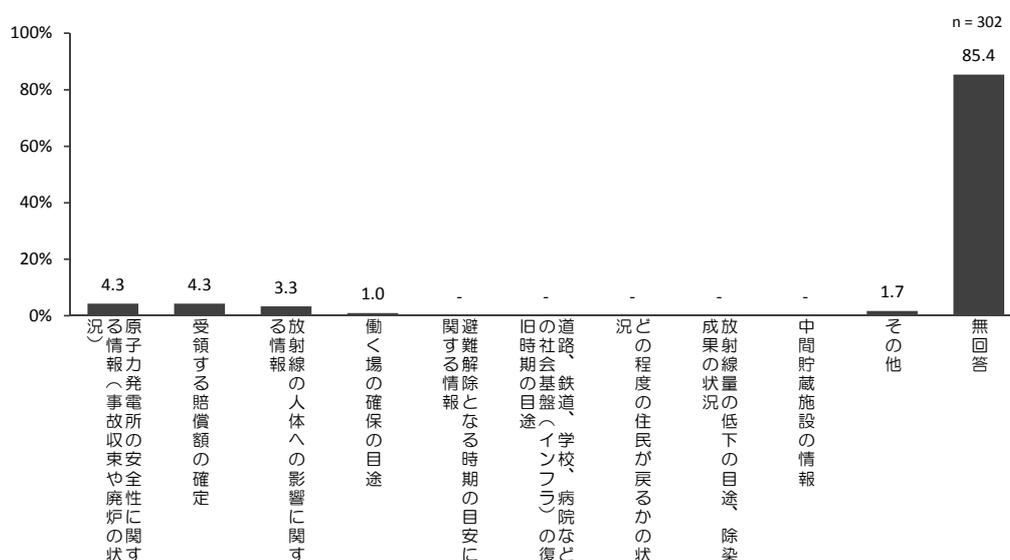
(2) 双葉町への帰還を判断する上で必要と思う情報のうち、重視するもの

【問 13-1 で「1」から「10」と回答した方にうかがいます。】

問 13-2 上記(問 13-1)で選んだ情報等のうち、重視したいものを3つまで選んで、選択肢番号の欄にご記入下さい。そして、その情報等について、どのような条件であれば戻りたいと考えますか。具体的な条件の内容をお書きください。

双葉町への帰還を判断する上で必要と思う情報については、「原子力発電所の安全性に関する情報(事故収束や廃炉の状況)」、「受領する賠償額の確定」がともに 4.3%、「放射線の人体への影響に関する情報」が 3.3%となっている。

<図表3-3-2-4 双葉町への帰還を判断する上で必要と思う情報(3つまで) >



上位項目の主な意見は以下のとおり。

[原子力発電所の安全性に関する情報(事故収束や廃炉の状況)]

- 現状の放射性物質ダダ漏れ、汚染水の流出がなくなること。具体的な廃炉の見通しがたつこと。(20代)
- 溶けた燃料が回収されれば(50代)
- 核燃料取出し完了時期、汚染水処理。(60代)
- 定期的な情報公開はもちろん、事故等の際の素早い情報公開(60代)
- 事故収束し、廃炉になり、放射線量が下がれば。(60代)
- 廃炉にどのくらいかかるか。(60代)
- 原子力発電所の安全性に関する情報(発電所建屋の屋根なしでは収束でない)(60代)
- 放射線量が少なく危険性が少ない、子供たちが戻れるような環境(70代以上)
- メルトダウンしたのが完全に取りのぞいた時(70代以上)
- 事故収束や廃炉による新たな放射能漏れはないか(70代以上)

Ⅲ 調査結果

[受領する賠償額の確定]

- すべてにおいて震災前の状況に戻り、納得する賠償額の確定。(40代)
- 賠償が確実に実行されるのか。(50代)
- 家が建てられる位頂ければ。(50代)
- 家が新築できるくらい受領できれば。(60代)
- 帰れないと判断して、土地を買い上げる措置があればそれに従うが、現在は判断しかねる。(60代)
- 生活する資金が必要。(70代以上)
- 賠償により家屋の点検、復旧が出来る。(70代以上)
- 賠償額の基準の引上げ。(70代以上)

[放射線の人体への影響に関する情報]

- 全く「0」じゃないなら無理です。(20代)
- 人体への影響がはっきりし、対策ができれば。(30代)
- 子供達が成人し、夫婦だけの老後になった時に、人体への影響も気にせず自分の家が住める状態だったら。(40代)
- 完全に安全であるとあれば。(50代)
- 放射線が人体に影響がなければ。(60代)
- 放射線の人体への影響に関する情報あればよい。(70代以上)
- 人体への影響が完全になくなれば。(70代以上)

3-3-3 帰還まで待てる年数

【問 13 で「1.現時点で戻りたいと考えている」「2. 現時点でまだ判断がつかない」と回答した方にうかがいます。】

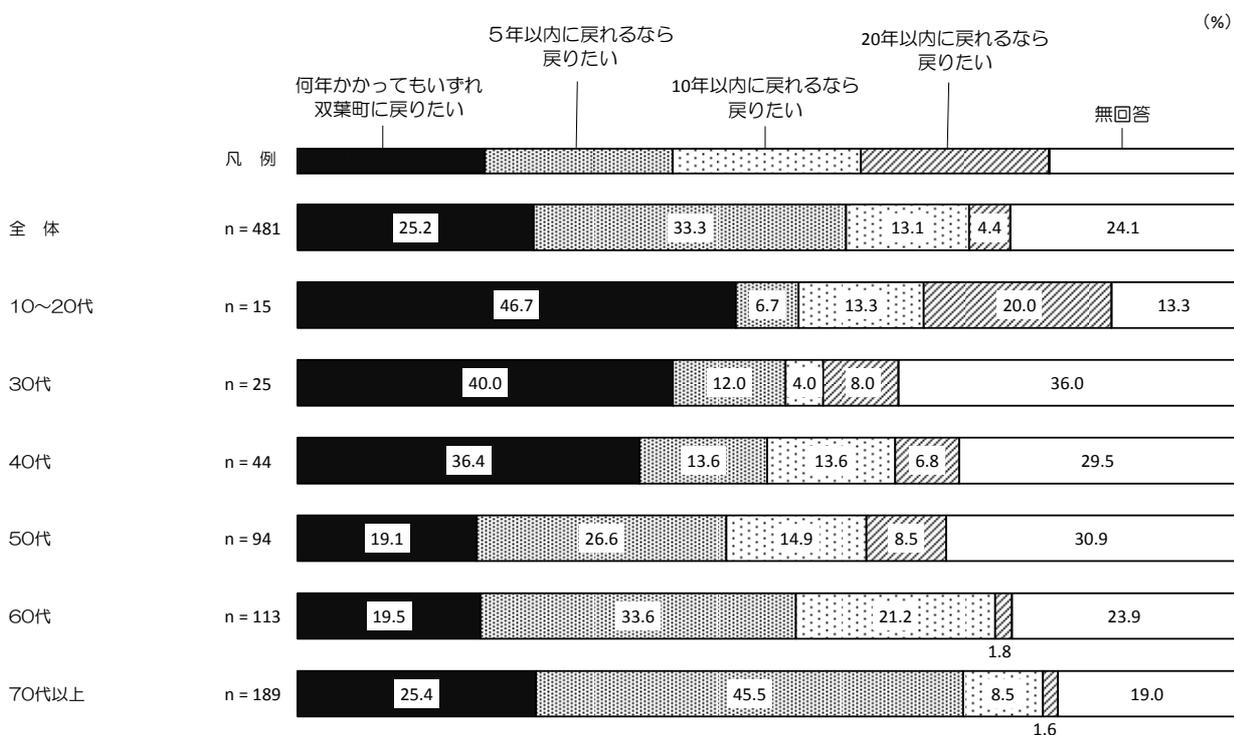
問 13-3 帰還まで何年まで待つことができますか (〇は1つ)

帰還まで待てる年数については、「5年以内に戻れるなら戻りたい」が33.3%と最も高く、次いで、「何年かかってもいずれ双葉町に戻りたい」が25.2%、「10年以内に戻れるなら戻りたい」が13.1%となっている。世帯主の年齢別にみると、「5年以内に戻れるなら戻りたい」は、年齢が高くなるにつれ割合も高くなっており、70代以上では45.5%で半数弱を占める。

<図表3-3-3-1 帰還まで待てる年数>



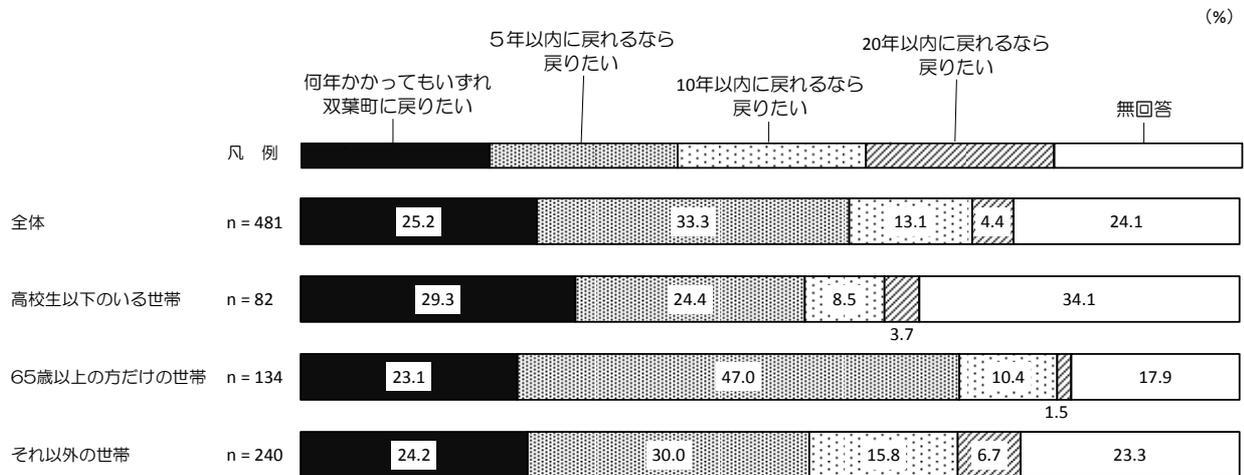
<図表3-3-3-2 帰還まで待てる年数(世帯主の年齢別)>



III 調査結果

現在の世帯構成別にみると、「5年以内に戻れるなら戻りたい」は、65歳以上の方だけの世帯では47.0%となっており、他の世帯構成に比べ高くなっている。

<図表3-3-3-3 帰還まで待てる年数（現在の世帯構成別）>



3-3-4 帰還する場合の住居形態

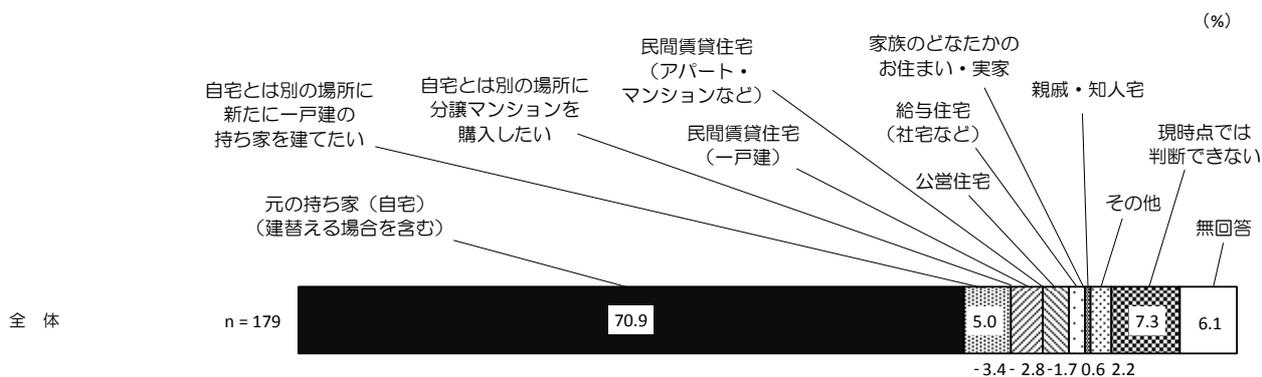
【問 13 で「1.現時点で戻りたいと考えている」と回答した方にうかがいます。】

問 13-4 帰還した場合のお住まいは、どのような形態を希望されますか。(〇は1つ)

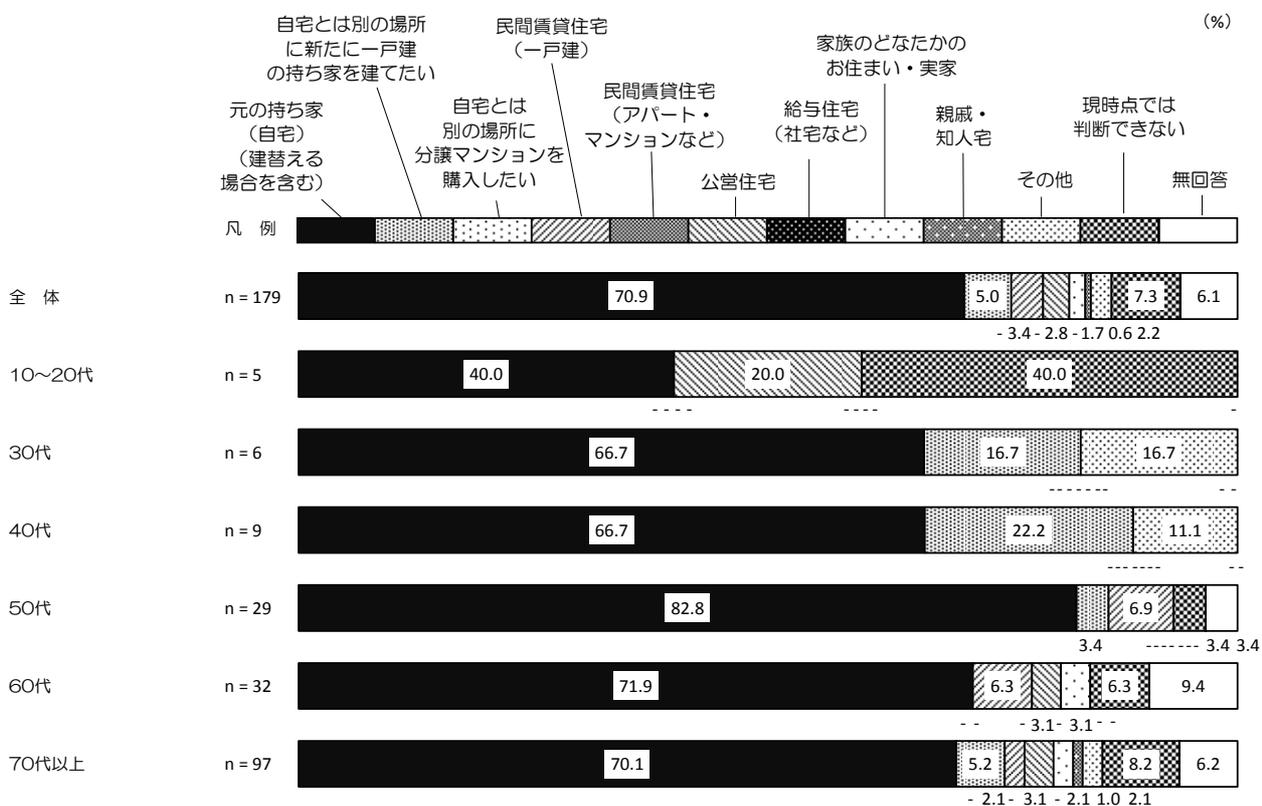
帰還する場合の住居形態については、「元の持ち家(自宅)(建替える場合を含む)」が70.9%と最も高く、全体の7割を占めている。

世帯主の年齢別にみると、「元の持ち家(自宅)(建替える場合を含む)」は、いずれの年齢でも最も高くなっている。

<図表3-3-4-1 帰還する場合の住居形態>



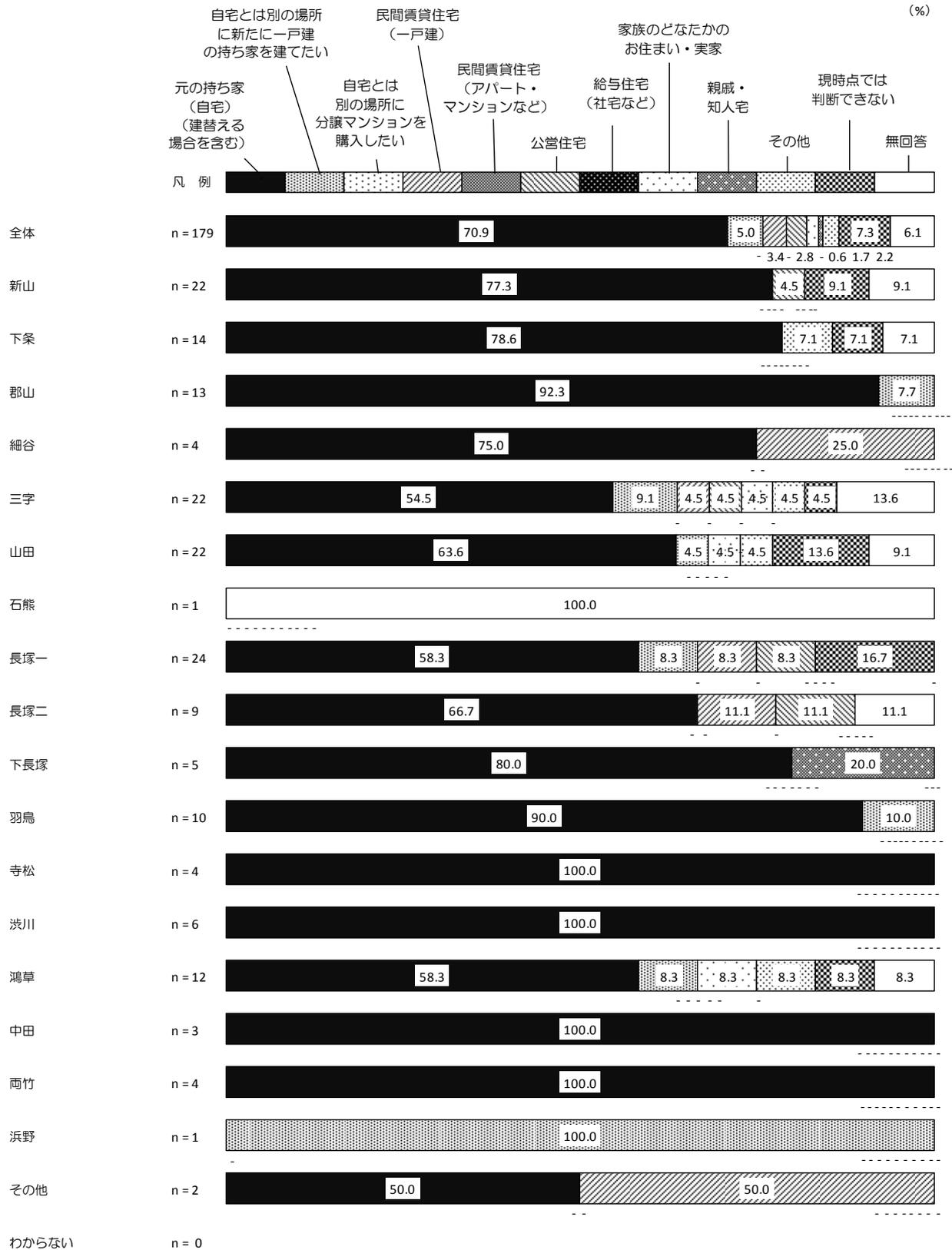
<図表3-3-4-2 帰還する場合の住居形態(世帯主の年齢別)>



III 調査結果

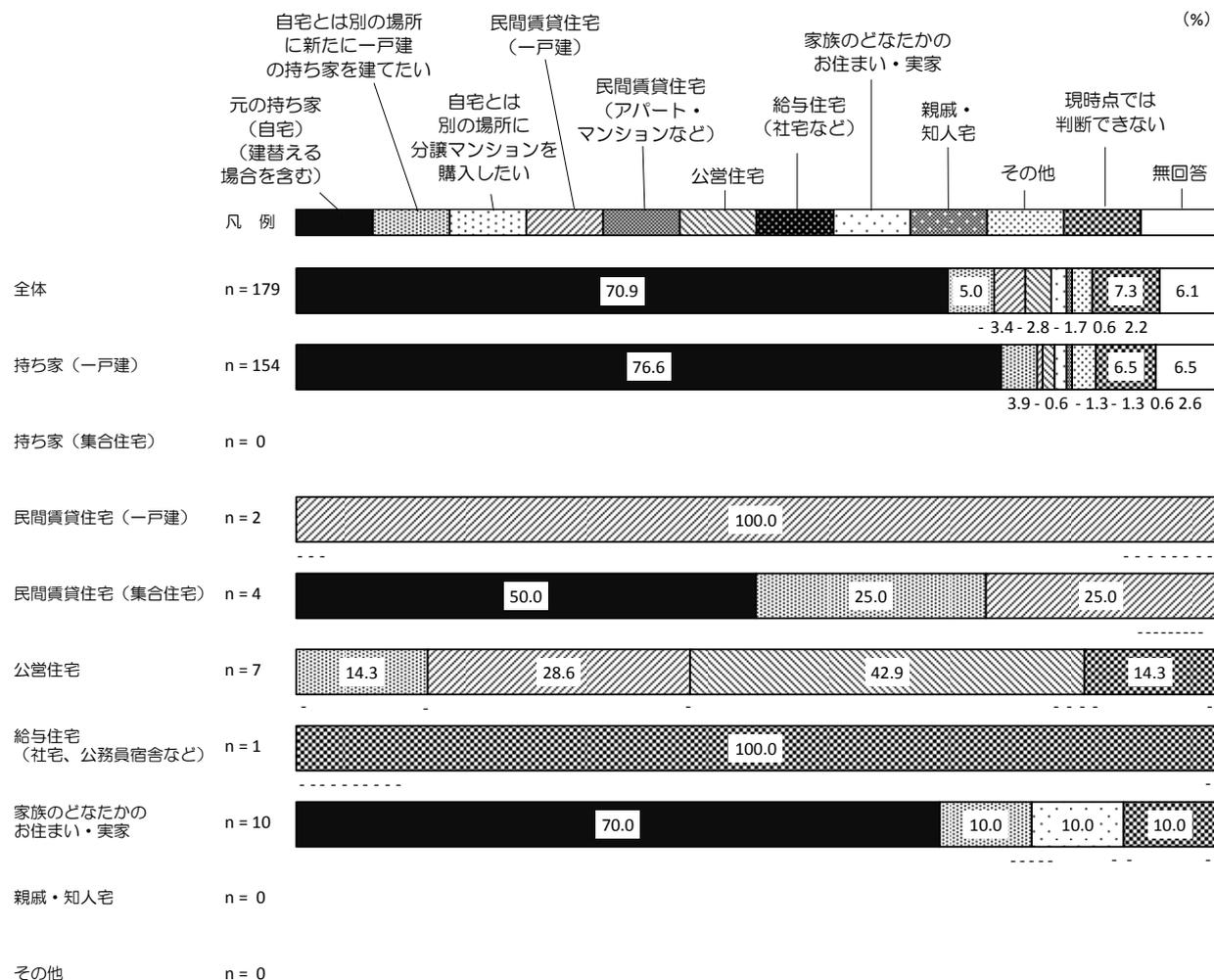
居住行政区別にみると、「元の持ち家（自宅）（建替える場合を含む）」は、いずれの居住区でも最も高くなっている。

<図表3-3-4-3 帰還する場合の住居形態（居住行政区別）>



震災時の住居形態別にみると、持ち家（一戸建）では「元の持ち家（自宅）（建替える場合を含む）」が76.6%と最も高くなっている。

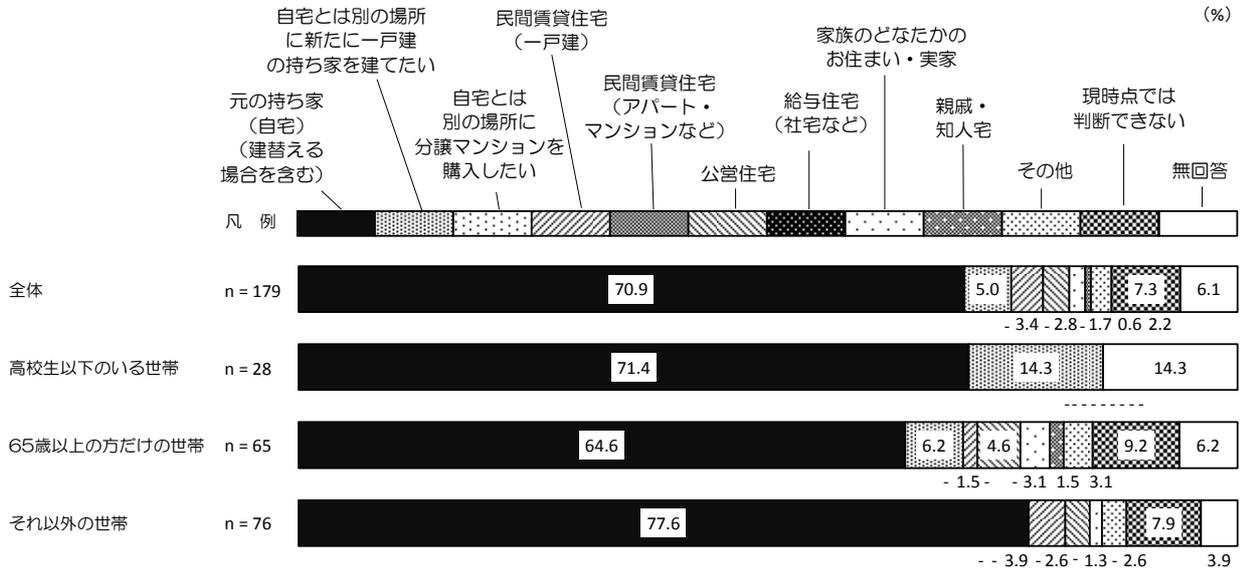
<図表3-3-4-4 帰還する場合の住居形態（震災時の住居形態別）>



III 調査結果

現在の世帯構成別にみると、「元の持ち家（自宅）（建替える場合を含む）」は、いずれの世帯構成でも最も高くなっている。

<図表3-3-4-5 帰還する場合の住居形態（現在の世帯構成別）>



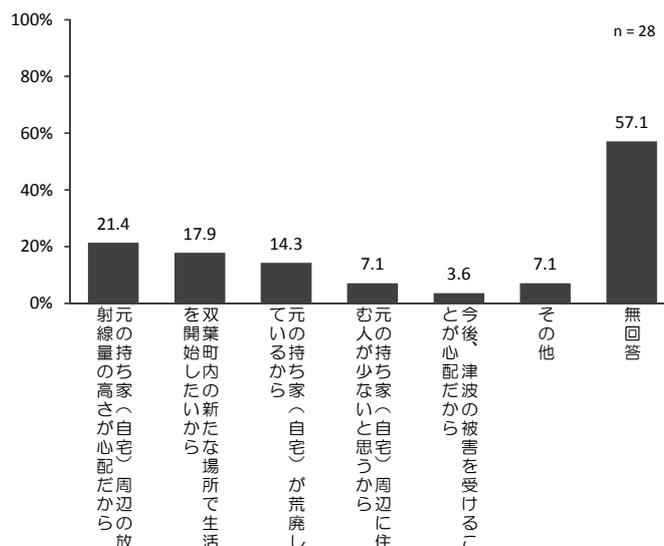
3-3-5 帰還する場合に元の持ち家以外を希望する理由

【問 13-4 で「2」から「10」と回答した方にうかがいます。】

問 13-5 元の持ち家以外を希望される理由は、何ですか。(〇はいくつでも)

帰還する場合に元の持ち家以外を希望する理由については、「元の持ち家（自宅）周辺の放射線量の高さが心配だから」が 21.4%と最も高く、次いで「双葉町内の新たな場所で生活を開始したいから」が 17.9%、「元の持ち家（自宅）が荒廃しているから」が 14.3%となっている。

＜図表3-3-5-1 帰還する場合に元の持ち家以外を希望する理由＞



＜図表3-3-5-2 帰還する場合に元の持ち家以外を希望する理由（居住行政区別）＞

	n	(%)						
		元の持ち家（自宅）周辺の放射線量の高さが心配だから	双葉町内の新たな場所で生活を開始したいから	元の持ち家（自宅）が荒廃しているから	元の持ち家（自宅）周辺に住む人が少ないと思うから	今後、津波の被害を受けることが心配だから	その他	無回答
全体	28	21.4	17.9	14.3	7.1	3.6	7.1	57.1
新山	1	-	-	-	-	-	-	100.0
下条	1	-	-	-	-	-	-	100.0
郡山	1	-	-	100.0	-	100.0	-	-
細谷	1	-	-	-	-	-	-	100.0
三字	6	16.7	-	-	16.7	-	16.7	66.7
山田	3	33.3	66.7	33.3	-	-	-	33.3
石熊	-	-	-	-	-	-	-	-
長塚一	6	16.7	16.7	-	-	-	-	66.7
長塚二	2	50.0	-	-	-	-	-	50.0
下長塚	1	-	-	-	-	-	-	100.0
羽鳥	1	100.0	100.0	100.0	-	-	-	-
寺松	-	-	-	-	-	-	-	-
渋川	-	-	-	-	-	-	-	-
鴻草	3	33.3	-	33.3	33.3	-	33.3	33.3
中田	-	-	-	-	-	-	-	-
岡竹	-	-	-	-	-	-	-	-
浜野	1	-	100.0	-	-	-	-	-
その他	1	-	-	-	-	-	-	100.0
わからない	-	-	-	-	-	-	-	-

III 調査結果

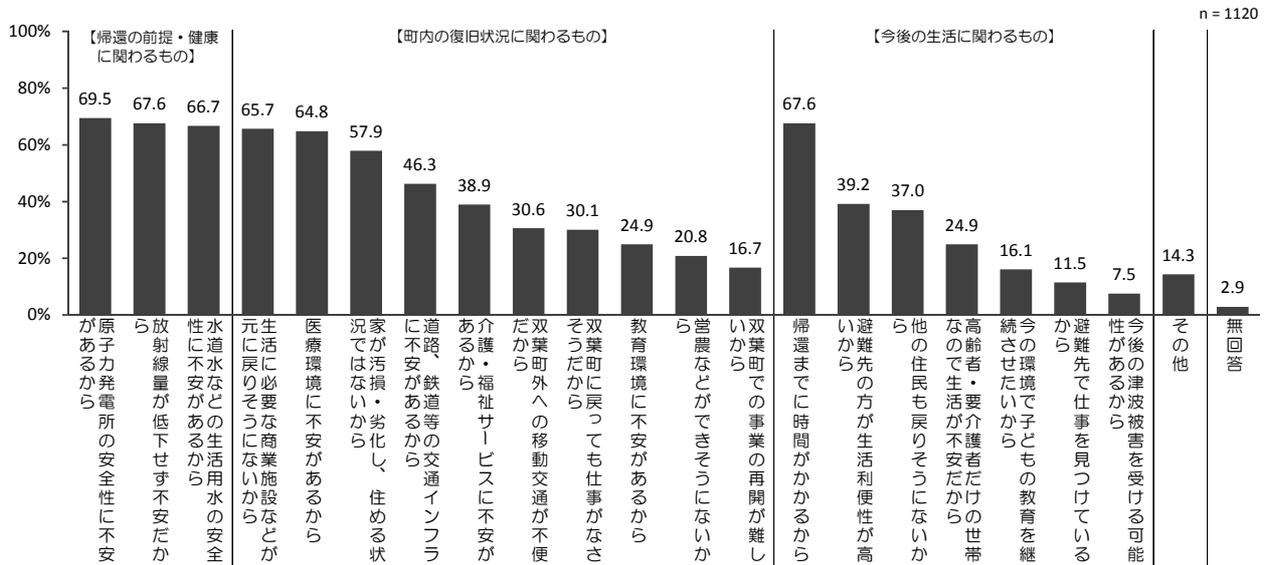
3-3-6 現時点で戻らないと決めている理由

【問 13 で「3. 現時点で戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

問 13-6 現時点で戻らないと決めている理由はどのようなことですか。(〇はいくつでも)

現時点で戻らないと決めている理由については、帰還の前提・健康に関わるものについては、「原子力発電所の安全性に不安があるから」が 69.5%と最も高く、次いで「放射線量が低下せず不安だから」が 67.6%、「水道水などの生活用水の安全性に不安があるから」が 66.7%となっている。町内の復旧状況に関わるものについては、「生活に必要な商業施設などが元に戻りそうにないから」が 65.7%と最も高く、次いで、「医療環境に不安があるから」が 64.8%、「家が汚損・劣化し、住める状況ではないから」が 57.9%となっている。今後の生活に関わるものについては、「帰還までに時間がかかるから」が 67.6%と最も高く、次いで「避難先の方が生活利便性が高いから」が 39.2%、「他の住民も戻りそうにないから」が 37.0%となっている。

<図表3-3-6-1 現時点で戻らないと決めている理由>



世帯主の年齢別にみると、帰還の前提・健康に関わるものについては、「原子力発電所の安全性に不安があるから」、「放射線量が低下せず不安だから」は年齢による違いはあまり見られない。「水道水などの生活用水の安全性に不安があるから」は30代（74.6%）、40代（74.2%）で他の年齢に比べ高くなっている。町内の復旧状況に関わるものについては、50代以上では「介護・福祉サービスに不安があるから」、10～50代では「双葉町に戻っても仕事がなさそうだから」、30～40代では「教育環境に不安があるから」が、他の年齢に比べ高くなっている。今後の生活に関わるものについては、30～40代では「今の環境で子どもの教育を継続させたいから」、10代～40代では「避難先で仕事を見つけているから」が、70代以上では「高齢者・要介護者だけの世帯なので生活が不安だから」が、他の年齢と比べ高くなっている。

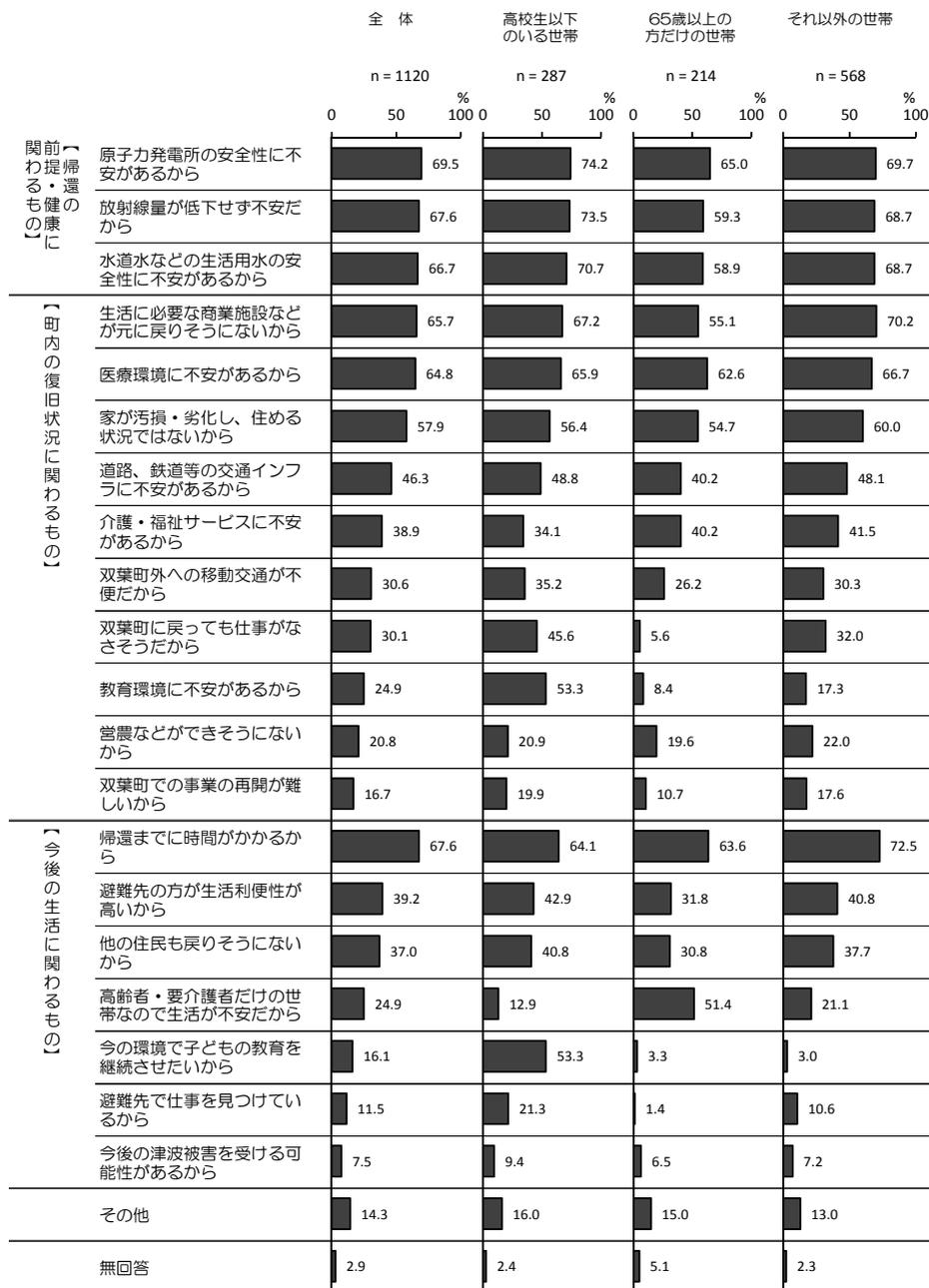
<図表3-3-6-2 現時点で戻らないと決めている理由（世帯主の年齢別）>

	全体 n = 1120	10～20代 n = 35		30代 n = 126		40代 n = 132		50代 n = 245		60代 n = 291		70代以上 n = 289		
		0	50	100	0	50	100	0	50	100	0	50	100	0
〔前提・健康に関わるもの〕	原子力発電所の安全性に不安があるから	69.5	68.6	74.6	73.5	73.5	69.1	63.0						
	放射線量が低下せず不安だから	67.6	68.6	76.2	72.0	71.0	67.0	59.9						
	水道水などの生活用水の安全性に不安があるから	66.7	68.6	74.6	74.2	70.2	67.4	56.4						
〔町内の復旧状況に関わるもの〕	生活に必要な商業施設などが元に戻りそうにないから	65.7	57.1	63.5	76.5	70.2	71.1	54.0						
	医療環境に不安があるから	64.8	51.4	61.1	65.9	67.3	71.1	59.5						
	家が汚損・劣化し、住める状況ではないから	57.9	57.1	59.5	52.3	66.1	57.4	53.6						
	道路、鉄道等の交通インフラに不安があるから	46.3	45.7	46.0	49.2	49.8	48.1	40.8						
	介護・福祉サービスに不安があるから	38.9	17.1	30.2	31.1	41.6	44.0	41.9						
	双葉町外への移動交通が不便だから	30.6	51.4	37.3	33.3	33.5	27.1	25.3						
	双葉町に戻っても仕事がなさそうだから	30.1	62.9	54.0	48.5	41.2	18.2	10.0						
	教育環境に不安があるから	24.9	34.3	55.6	45.5	23.3	16.8	10.7						
	営農などができそうにないから	20.8	20.0	12.7	13.6	24.5	25.8	19.7						
	双葉町での事業の再開が難しいから	16.7	20.0	18.3	18.9	18.8	19.9	9.7						
	〔今後の生活に関わるもの〕	帰還までに時間がかかるから	67.6	60.0	57.1	70.5	72.2	74.2	61.6					
避難先の方が生活利便性が高いから		39.2	51.4	35.7	41.7	38.8	45.0	32.9						
他の住民も戻りそうにないから		37.0	45.7	38.9	43.2	37.1	39.9	29.4						
高齢者・要介護者だけの世帯なので生活が不安だから		24.9	8.6	6.3	9.1	16.7	25.8	48.4						
今の環境で子どもの教育を継続させたいから		16.1	20.0	40.5	43.2	12.7	5.5	6.2						
避難先で仕事を見つけているから		11.5	51.4	26.2	25.8	13.9	2.4	1.0						
今後の津波被害を受ける可能性があるから		7.5	8.6	11.1	9.1	9.4	5.5	5.5						
その他		14.3	17.1	14.3	16.7	16.3	12.0	13.5						
無回答	2.9	0.0	0.8	0.8	1.6	1.7	6.9							

III 調査結果

現在の世帯構成別にみると、帰還の前提・健康に関わるものについては、「原子力発電所の安全性に不安があるから」、「放射線量が低下せず不安だから」、「水道水などの生活用水の安全性に不安があるから」のすべての理由で高校生以下のいる世帯は70%を超え、他の世帯構成に比べ高くなっている。町内の復旧状況に関わるものについては、高校生以下のいる世帯では、「教育環境に不安があるから」が53.3%、「双葉町に戻っても仕事がなさそうだから」が45.6%となっており、他の世帯構成と比べ高くなっている。今後の生活に関わるものについては、「帰還までに時間がかかるから」は、いずれの世帯構成も最も高い割合となっている。一方、「高齢者・要介護者だけの世帯なので生活が不安だから」は、65歳以上の方だけの世帯では51.4%、「今の環境で子どもの教育を継続させたいから」は、高校生以下のいる世帯では53.3%となっており、他の世帯構成と比べ高くなっている。

＜図表3-3-6-3 現時点で戻らないと決めている理由（現在の世帯構成別）＞



3-3-7 帰還しない場合に居住したい自治体

(1) 帰還しない場合の居住予定

【問 13 で「3. 現時点で戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

問 13-7 帰還しない場合に、居住を希望する自治体はどちらですか。その自治体を教えてください。

(1) 避難先の自治体にそのまま居住されるご予定ですか。(〇は1つ)

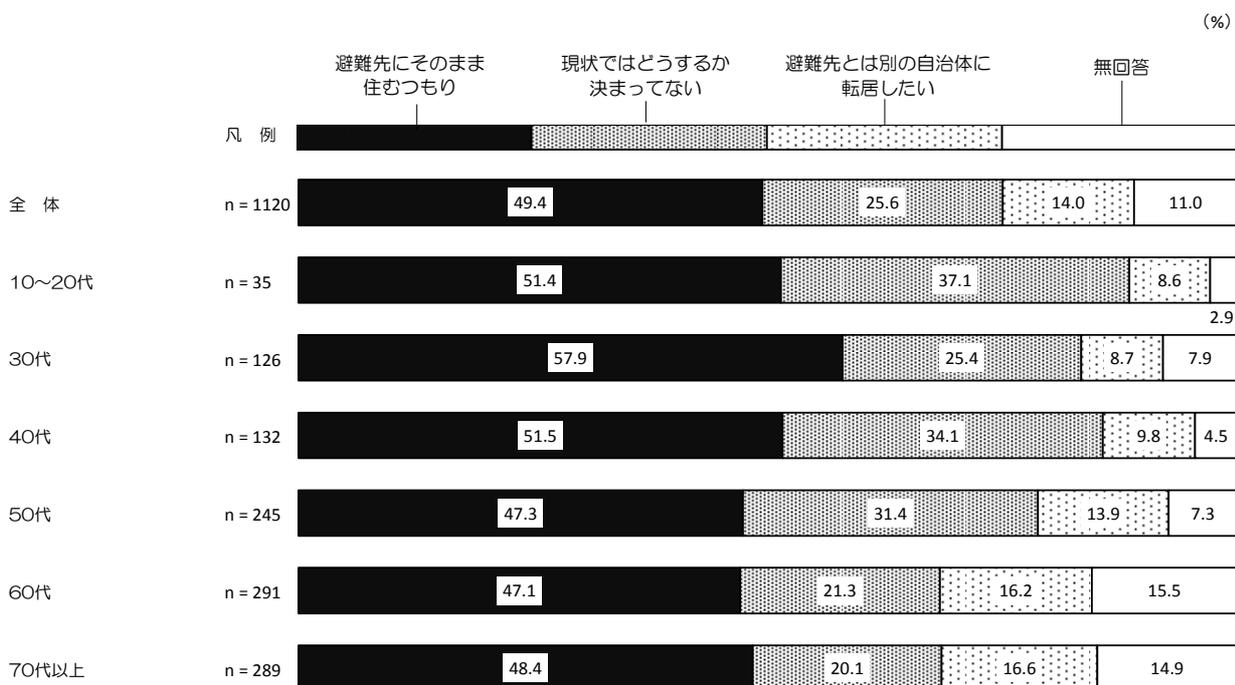
帰還しない場合の居住予定については、「避難先にそのまま住むつもり」が49.4%、「現状ではどうするか決まってない」が25.6%、「避難先とは別の自治体に転居したい」が14.0%となっている。

世帯主の年齢別にみると、「避難先にそのまま住むつもり」は、いずれの年齢でも最も高くなっている。

<図表3-3-7-1 帰還しない場合の居住予定>



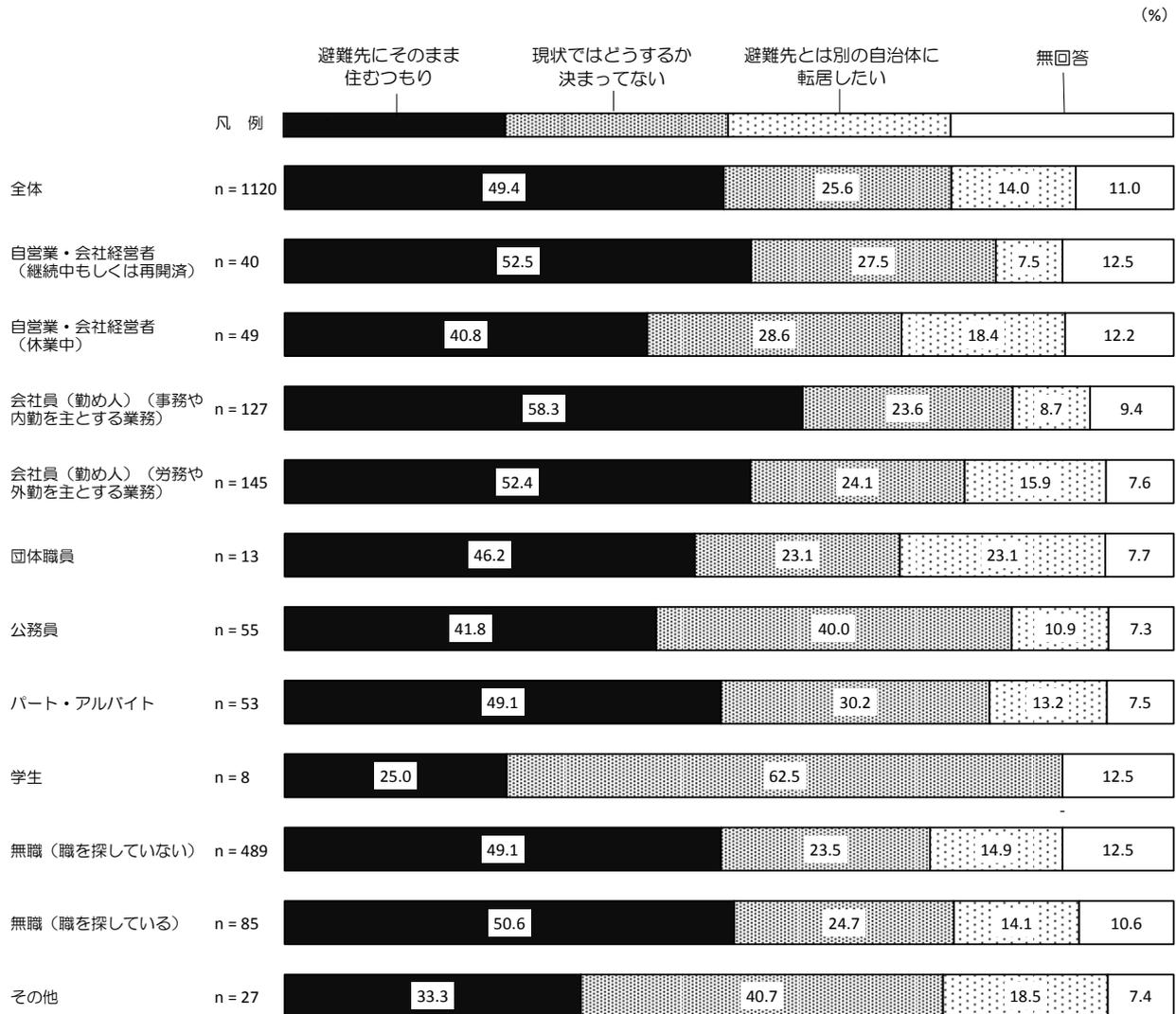
<図表3-3-7-2 帰還しない場合の居住予定（世帯主の年齢別）>



III 調査結果

現在の職業別にみると、「避難先にそのまま住むつもり」は、会社員（勤め人）（事務や内勤を主とする業務）（58.3%）、自営業・会社経営者（継続中もしくは再開済）（52.5%）、会社員（勤め人）（労務や外勤を主とする業務）（52.4%）、無職（職を探している）（50.6%）が5割を超えている。

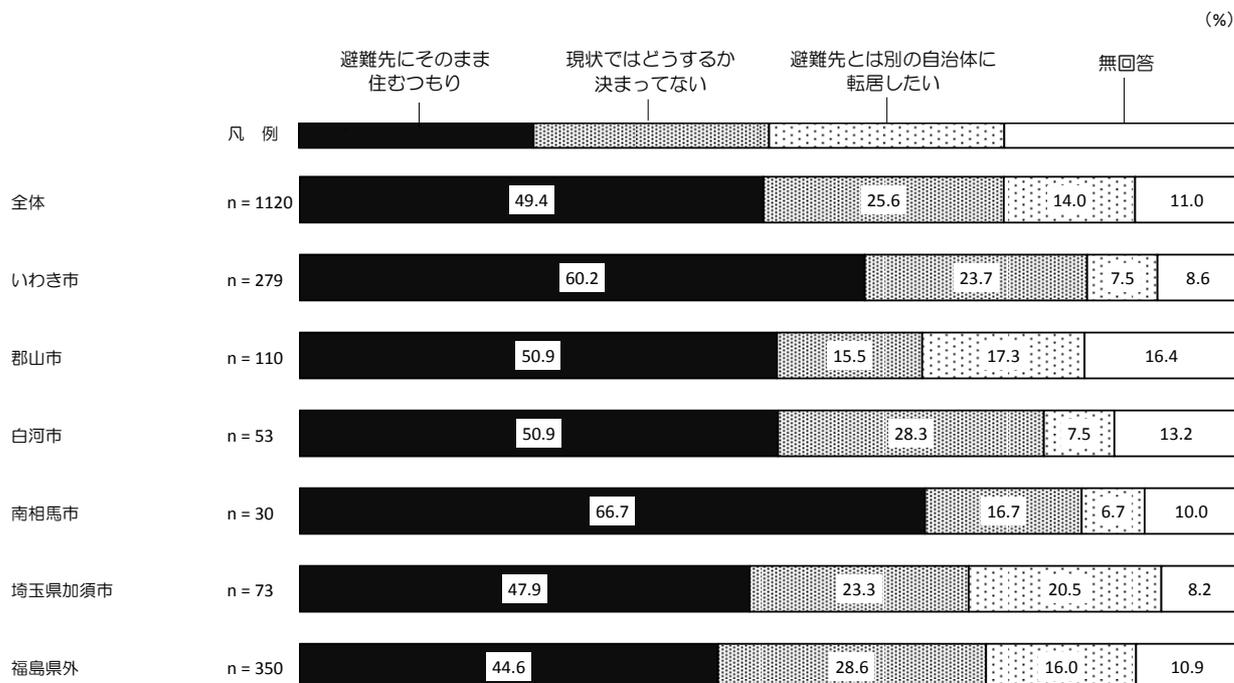
<図表3-3-7-3 帰還しない場合の居住予定（現在の職業別）>



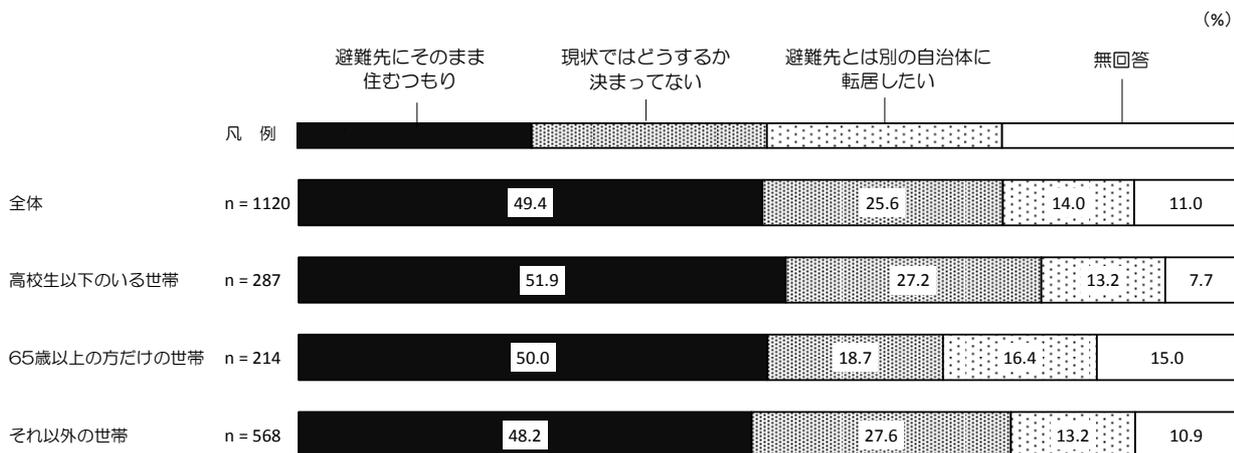
主な避難先自治体別にみると、「避難先にそのまま住むつもり」は、南相馬市(66.7%)、いわき市(60.2%)が6割を超え、他の避難先自治体と比べ高くなっている。

現在の世帯構成別にみると、「避難先にそのまま住むつもり」は、いずれの世帯構成でも最も高くなっている。

＜図表3-3-7-4 帰還しない場合の居住予定（主な避難先自治体別）＞



＜図表3-3-7-5 帰還しない場合の居住予定（現在の世帯構成別）＞



III 調査結果

(2) 転居を希望する自治体

【問 13 で「3. 現時点で戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

【問 13-7(1) で「3. 避難先とは別の自治体に転居したい」と回答した方にうかがいます。】

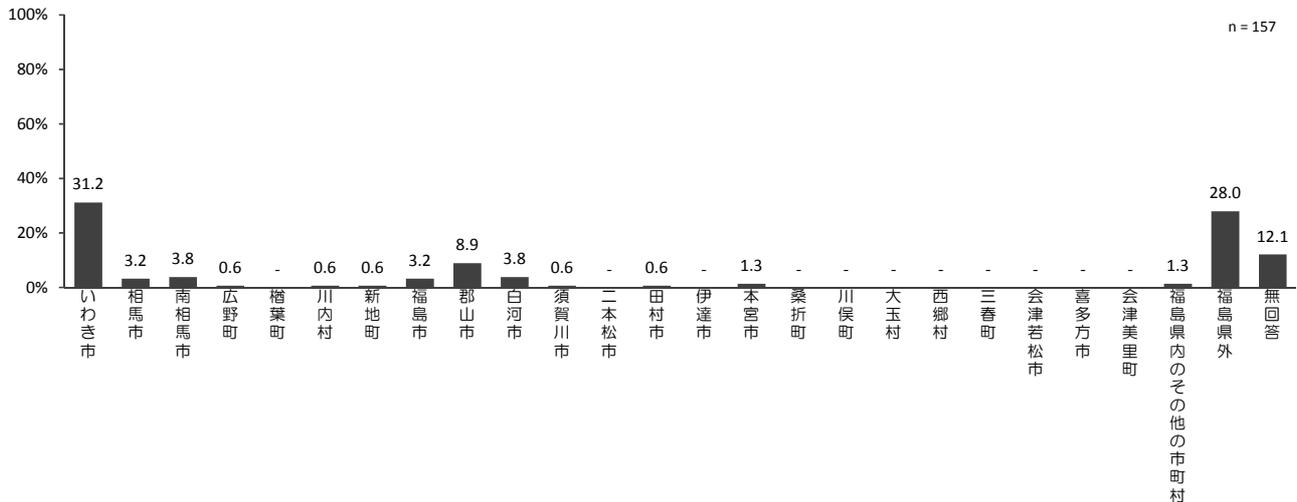
(2) 転居を希望される自治体を教えてください。(〇は1つ)

帰還しない場合に居住したい自治体については、「いわき市」が 31.2%と最も高く、次いで「福島県外」が 28.0%、「郡山市」が 8.9%となっている。

主な避難先自治体別にみると、福島県外に避難している世帯の 42.9%は「福島県外」、30.4%は「いわき市」を希望している。

なお、参考として、帰還しない場合の居住予定(問 13-7(1))で「避難先にそのまま住むつもり」とした世帯について、現在の避難先自治体(問 7)の回答を合算して集計した結果が<図表 3-3-7-7>下の表である。これをみると、現在、いわき市に避難している世帯のうち、8割強がそのまま「いわき市」に、郡山市に避難している世帯のうち、5割強がそのまま「郡山市」を希望している。

<図表 3-3-7-6 転居を希望する自治体>



<図表 3-3-7-7 転居を希望する自治体(主な避難先自治体別)>

※問 13-7(1) で「避難先にそのまま住むつもり」と回答した世帯も合算した場合

	n	いわき市	南相馬市	郡山市	白河市	福島県外
全体	157	31.2	3.8	8.9	3.8	28.0
いわき市	21	28.6	4.8	14.3	-	28.6
郡山市	19	36.8	21.1	10.5	5.3	5.3
福島市	12	41.7	-	-	8.3	16.7
白河市	4	25.0	-	-	25.0	-
南相馬市	2	-	-	50.0	50.0	-
埼玉県加須市	15	33.3	-	-	-	46.7
福島県外	56	30.4	-	5.4	1.8	42.9

	n	いわき市	南相馬市	郡山市	白河市	福島県外
全体	710	33.2	4.5	8.3	3.7	31.8
いわき市	189	84.1	1.1	2.1	-	3.7
郡山市	75	22.7	5.3	54.7	1.3	2.7
福島市	40	27.5	2.5	2.5	2.5	7.5
白河市	31	6.5	3.2	6.5	67.7	-
南相馬市	22	4.5	86.4	4.5	4.5	-
埼玉県加須市	50	16.0	-	-	-	68.0
福島県外	212	10.4	0.5	1.4	0.5	75.0

現在の世帯構成別にみると、「いわき市」は65歳以上の方だけの世帯（40.0%）、「福島県外」は高校生以下のいる世帯（34.2%）が、他の世帯構成に比べ高くなっている。

<図表3-3-7-8 転居を希望する自治体（現在の世帯構成別）>

		いわき市	南相馬市	郡山市	白河市	福島県外
	n					(%)
全体	157	31.2	3.8	8.9	3.8	28.0
高校生以下のいる世帯	38	28.9	2.6	18.4	2.6	34.2
65歳以上の方だけの世帯	35	40.0	11.4	2.9	2.9	20.0
それ以外の世帯	75	28.0	1.3	8.0	5.3	29.3

III 調査結果

3-3-8 帰還せず別の自治体に転居する場合の住居形態

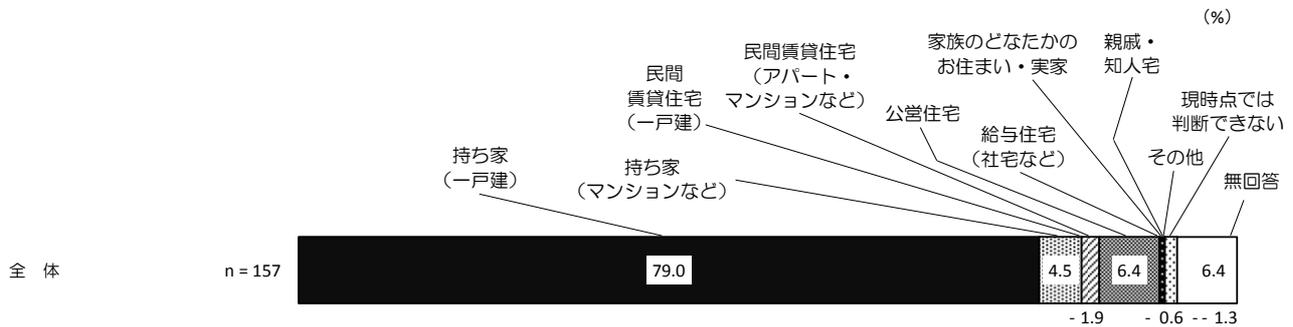
【問 13-7(1)で「3.避難先とは別の自治体に転居したい」と回答した方にうかがいます。】

問 13-8 転居する場合に、希望する住宅はどのような形態ですか。(〇は1つ)

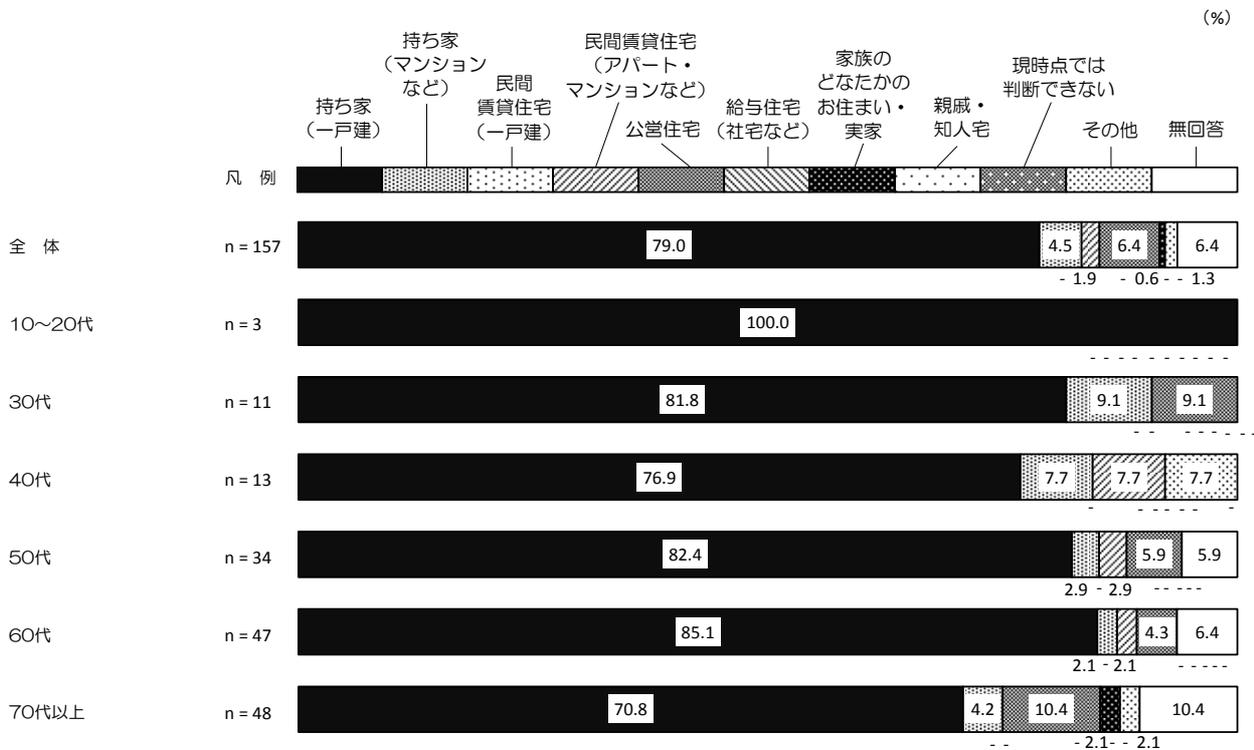
帰還せず別の自治体に転居する場合の住宅形態については、「持ち家（一戸建）」が79.0%と最も高く、全体のおよそ8割を占めている。

世帯主の年齢別にみても、「持ち家（一戸建）」はいずれの年齢でも最も高くなっている。

＜図表3-3-8-1 帰還せず別の自治体に転居する場合の住居形態＞



＜図表3-3-8-2 帰還せず別の自治体に転居する場合の住居形態（世帯主の年齢別）＞



3-3-9 帰還しない場合に今後の生活において求める支援

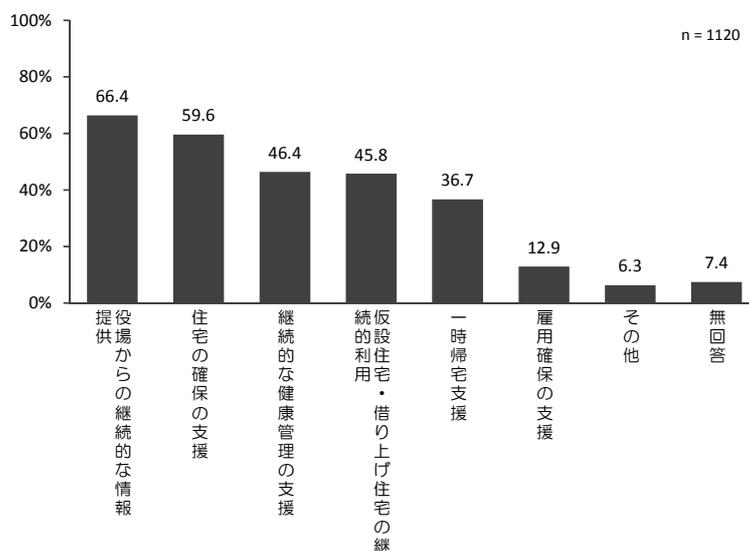
【問 13 で「3.現時点で戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

問 13-9 震災時に居住されていた双葉町に戻らない場合に、今後の生活においてどのような支援を求めますか。(〇はいくつでも)

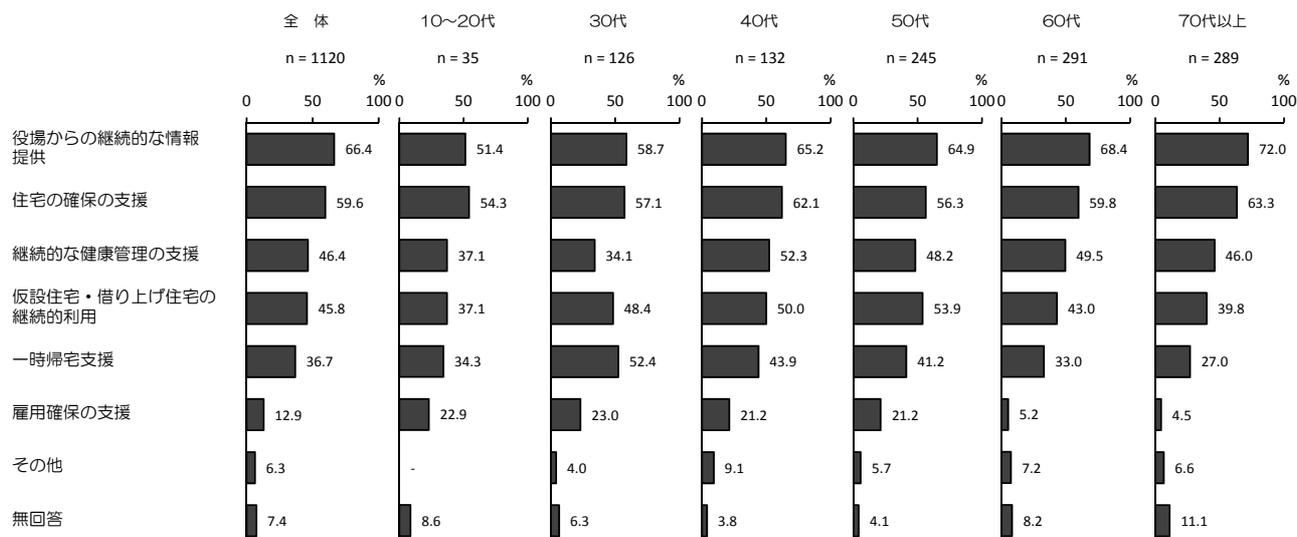
帰還しない場合に今後の生活において求める支援については、「役場からの継続的な情報提供」が 66.4% と最も高く、次いで「住宅の確保の支援」が 59.6%、「継続的な健康管理の支援」が 46.4% となっている。

世帯主の年齢別にみると、「役場からの継続的な情報提供」は、10～20代を除き、いずれの年齢も最も高くなっている。10～20代では「住宅の確保の支援」が 54.3% で最も高くなっている。

＜図表 3-3-9-1 帰還しない場合に今後の生活において求める支援＞



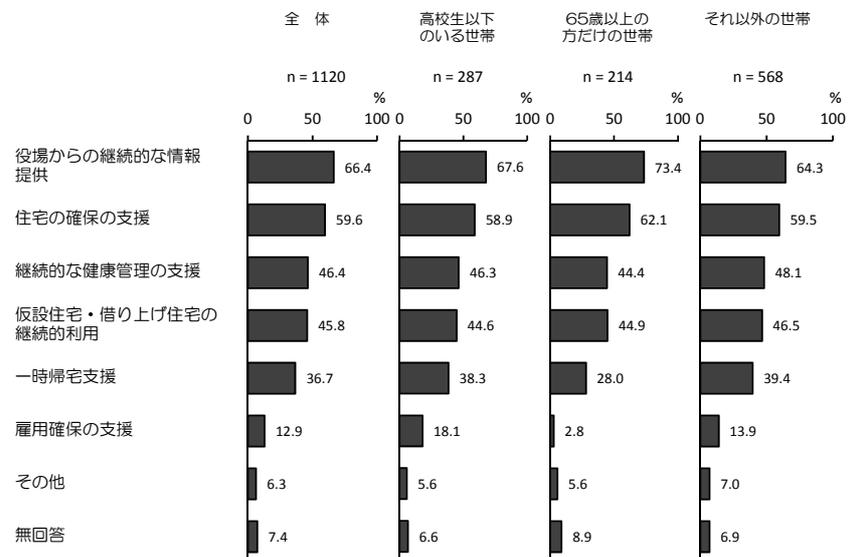
＜図表 3-3-9-2 帰還しない場合に今後の生活において求める支援（世帯主の年齢別）＞



III 調査結果

現在の世帯構成別にみると、「役場からの継続的な情報提供」がいずれの世帯構成でも最も高くなっている。

<図表3-3-9-3 帰還しない場合に今後の生活において求める支援（現在の世帯構成別）>



3-3-10 双葉町に戻らない場合の所有していた不動産の扱い

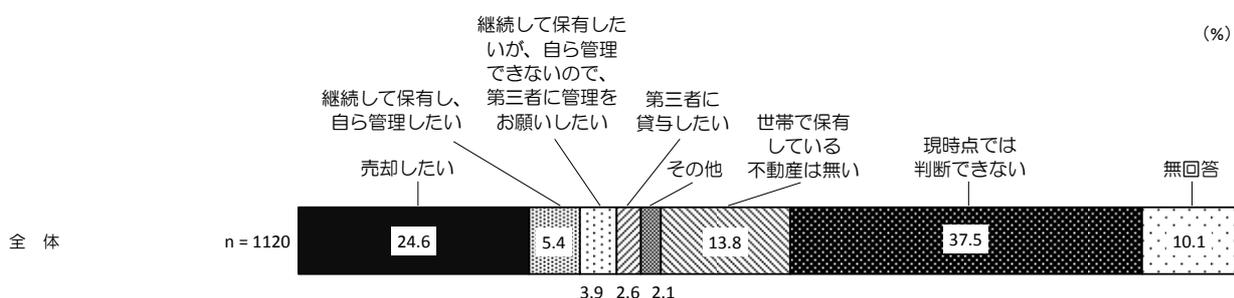
【問 13 で「3. 現時点で戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

問 13-10 震災時に居住されていた双葉町に戻らない場合、あなたの世帯で所有していた不動産はどうされるおつもりですか。(〇は1つ)

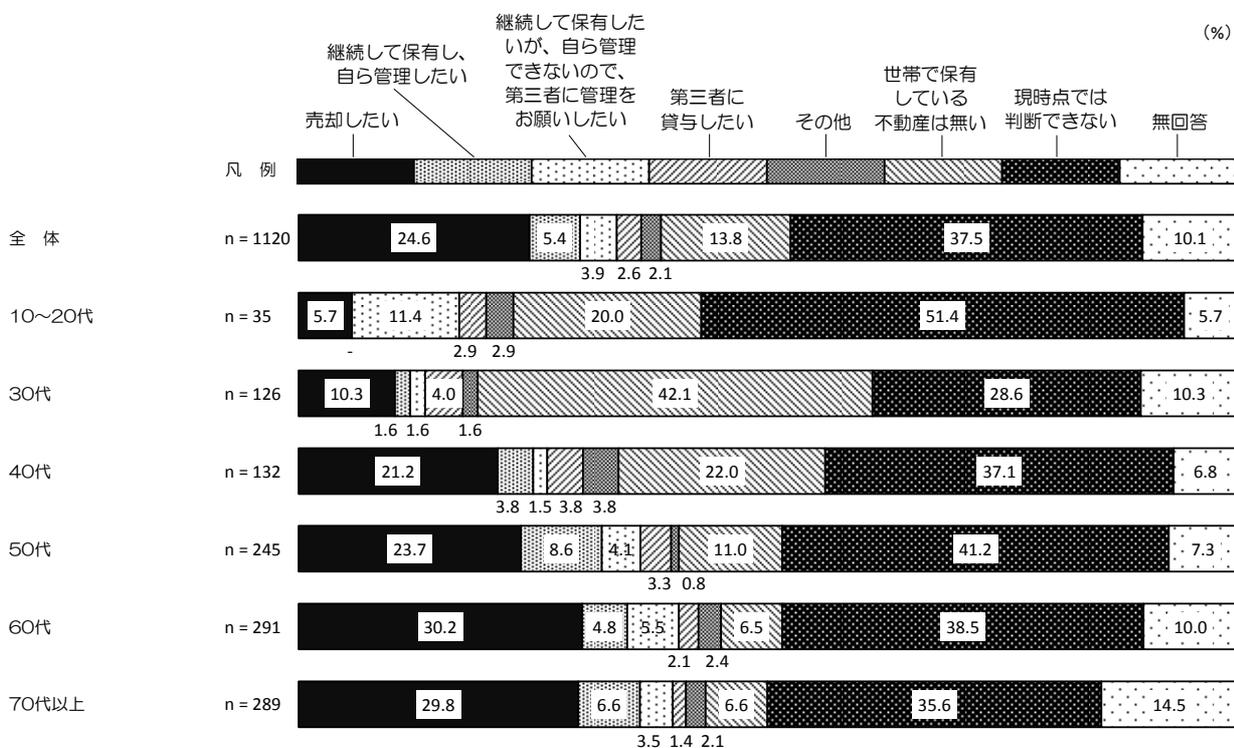
双葉町に戻らない場合の所有していた不動産の扱いについては、「現時点では判断できない」が37.5%と最も高く、次いで「売却したい」が24.6%となっている。

世帯主の年齢別でみると、「売却したい」は、概ね年齢が高くなるにつれ割合が高くなる。

<図表3-3-10-1 双葉町に戻らない場合の所有していた不動産の扱い>



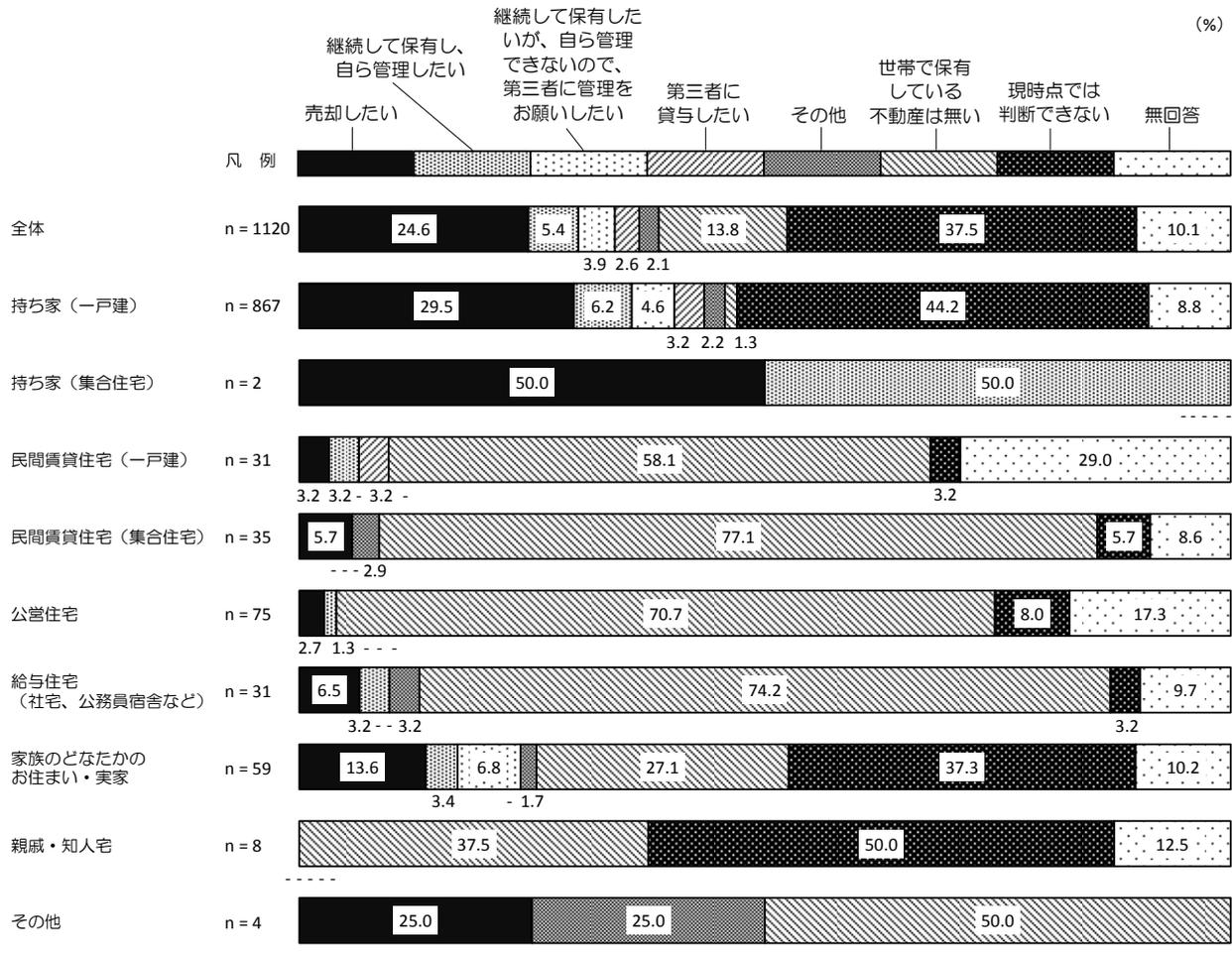
<図表3-3-10-2 双葉町に戻らない場合の所有していた不動産の扱い(世帯主の年齢別)>



III 調査結果

震災時の住居形態別でみると、持ち家（一戸建）であった世帯の4割強が「現時点では判断できない」としている。

＜図表3-3-10-3 双葉町に戻らない場合の所有していた不動産の扱い（震災時の住居形態別）＞



3-4 その他

3-4-1 現在、ご家族に介護が必要な方がいるか否か

問 14-1 現在、ご家族に介護が必要な方がいらっしゃいますか。(〇は1つ)

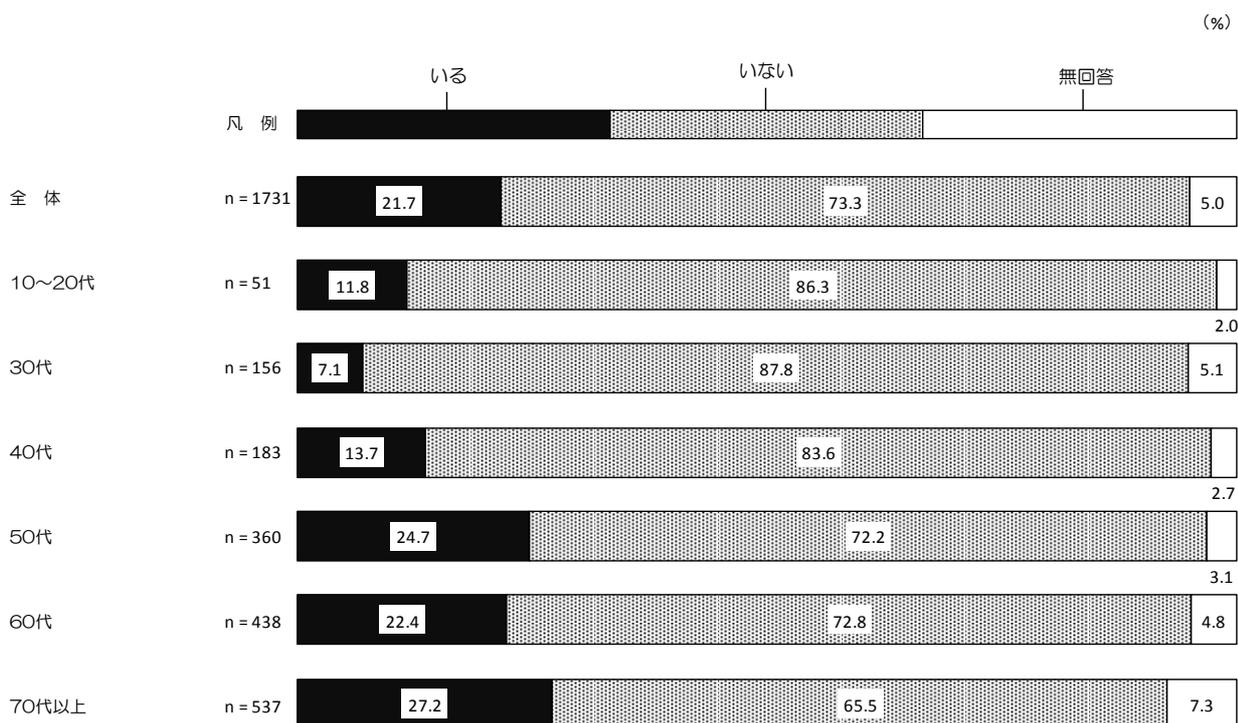
現在、ご家族に介護が必要な方がいるか否かについては、「いる」が21.7%、「いない」が73.3%となっている。

世帯主の年齢別にみると、「いる」は10～40代では2割を下回るが、50代以上では2割を上回る。

<図表3-4-1-1 現在、ご家族に介護が必要な方がいるか否か>



<図表3-4-1-2 現在、ご家族に介護が必要な方がいるか否か(世帯主の年齢別)>



III 調査結果

3-4-2 現在の介護保険施設等の利用状況

【問 14-1 で「1.いる」と回答した方にうかがいます。】

問 14-2 現在、介護保険施設等を利用していますか。(〇は1つ)

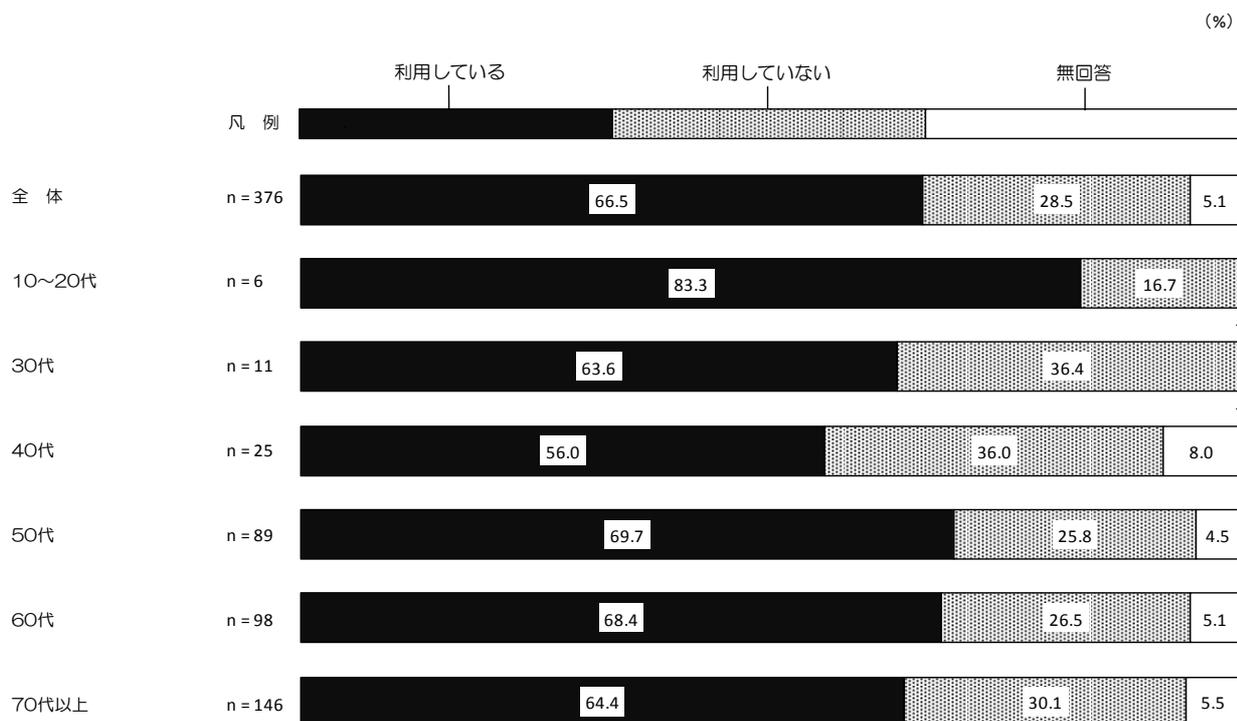
現在の介護保険施設等の利用状況については、「利用している」が 66.5%、「利用していない」が 28.5% となっている。

世帯主の年齢別にみると、「利用している」は、50～60代が他の年齢と比べやや高くなっている。

<図表3-4-2-1 現在の介護保険施設等の利用状況>



<図表3-4-2-2 現在の介護保険施設等の利用状況（世帯主の年齢別）>



3-4-3 利用している施設の種類

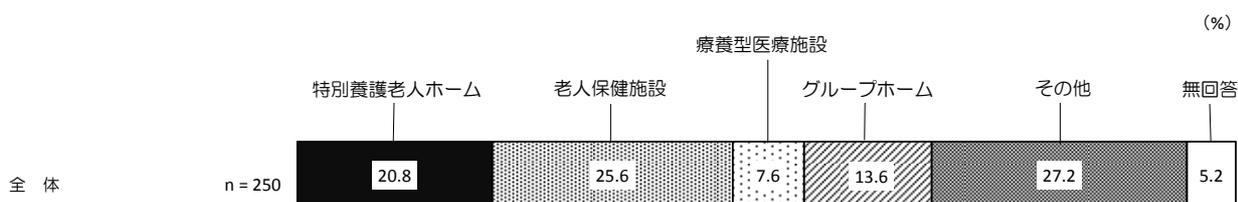
【問 14-2 で「1.利用している」と回答した方にうかがいます。】

問 14-3 現在、どのような施設を利用されていますか。(〇は1つ)

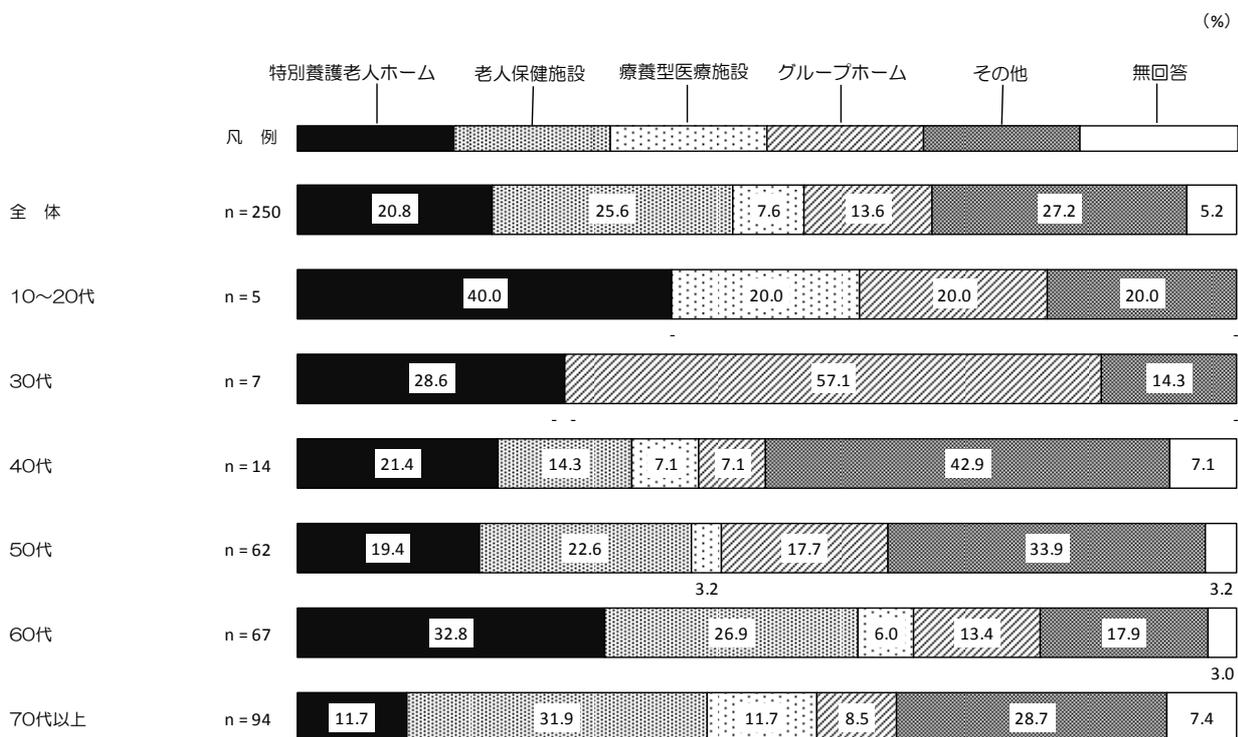
利用している施設の種類については、「その他」が27.2%と最も高く、次いで「老人保健施設」が25.6%、「特別養護老人ホーム」が20.8%となっている。

世帯主の年齢別にみると、60代では「特別養護老人ホーム」(32.8%)、70代以上では「老人保健施設」(31.9%)が最も高くなっている。

<図表3-4-3-1 利用している施設の種類>



<図表3-4-3-2 利用している施設の種類(世帯主の年齢別)>



Ⅲ 調査結果

3-4-4 現在、施設を利用していない理由

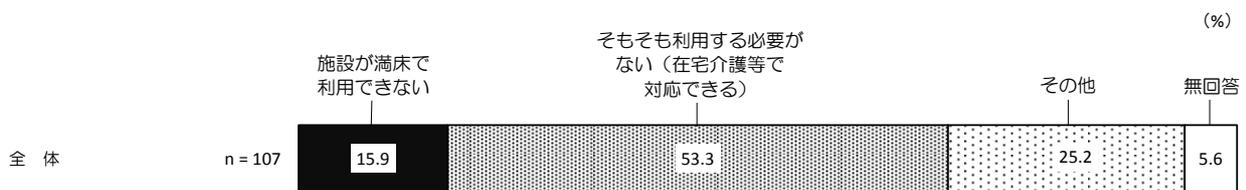
【問 14-2 で「2. 利用していない」と回答した方にうかがいます。】

問 14-4 現在利用していない理由は何ですか。(〇は1つ)

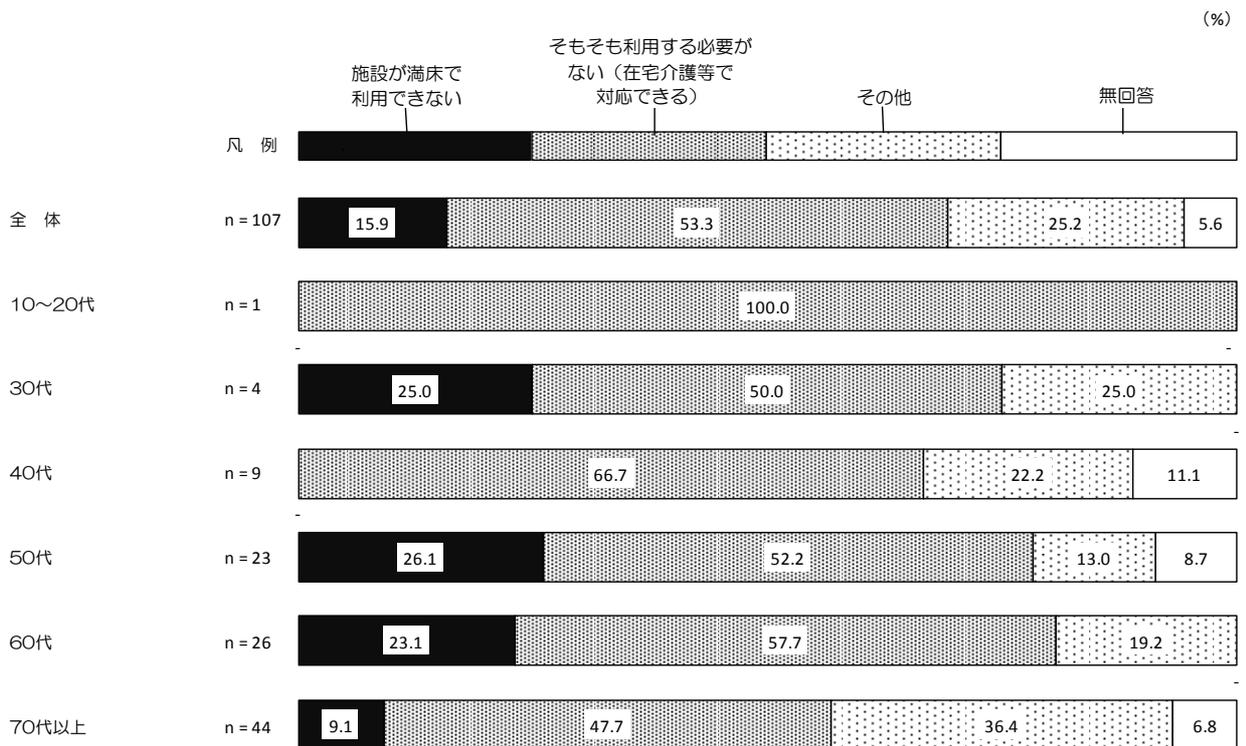
現在、施設を利用していない理由については、「そもそも利用する必要がない(在宅介護等で対応できる)」が53.3%で5割強を占める。「施設が満床で利用できない」は15.9%となっている。

世帯主の年齢別にみると、70代以上では「そもそも利用する必要がない(在宅介護等で対応できる)」が47.7%と最も高くなっている。

<図表3-4-4-1 現在、施設を利用していない理由>



<図表3-4-4-2 現在、施設を利用していない理由(世帯主の年齢別)>



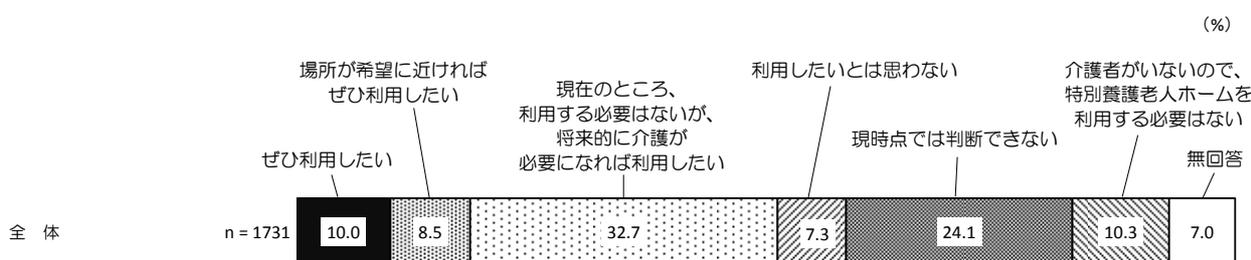
3-4-5 特別養護老人ホームが再開した場合の利用意向

【問 14-5 今後、双葉町の社会福祉法人が特別養護老人ホームを再開した場合、利用したいと考えますか。現在、避難先で利用されている方もご回答ください。なお、時期、場所については明確になっていませんが、場所については双葉町民が多い方面で検討中です。(〇は1つ)

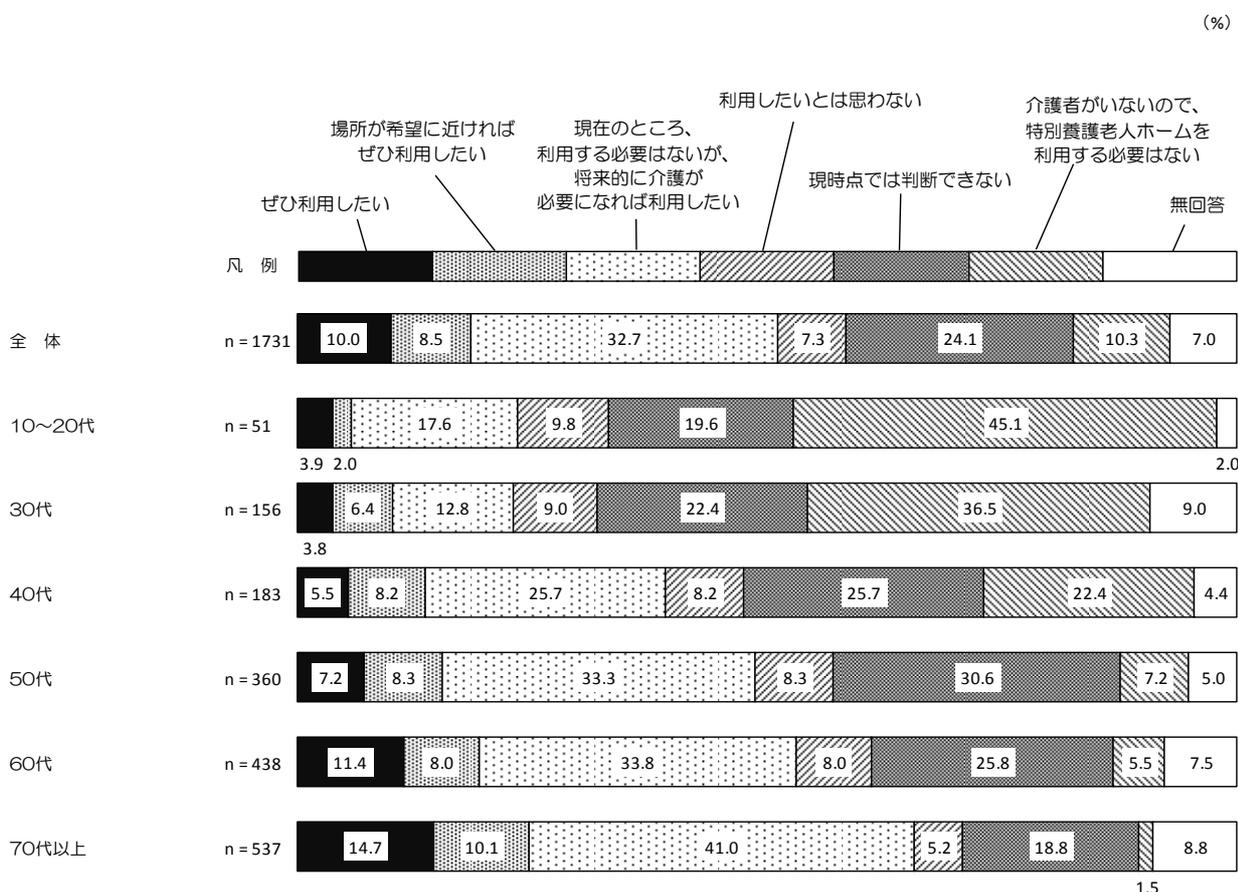
特別養護老人ホームが再開した場合の利用意向については、「現在のところ、利用する必要はないが、将来的に介護が必要になれば利用したい」が 32.7%と最も高く、次いで「現時点では判断できない」が 24.1%、「介護者がいないので、特別養護老人ホームを利用する必要はない」が 10.3%となっている。

世帯主の年齢別にみると、「現在のところ、利用する必要はないが、将来的に介護が必要になれば利用したい」は、概ね年齢が高くなるにつれ高くなっている。一方、「介護者がいないので、特別養護老人ホームを利用する必要はない」は年齢が高くなるにつれ低くなっている。

＜図表3-4-5-1 特別養護老人ホームが再開した場合の利用意向＞



＜図表3-4-5-2 特別養護老人ホームが再開した場合の利用意向（世帯主の年齢別）＞



III 調査結果

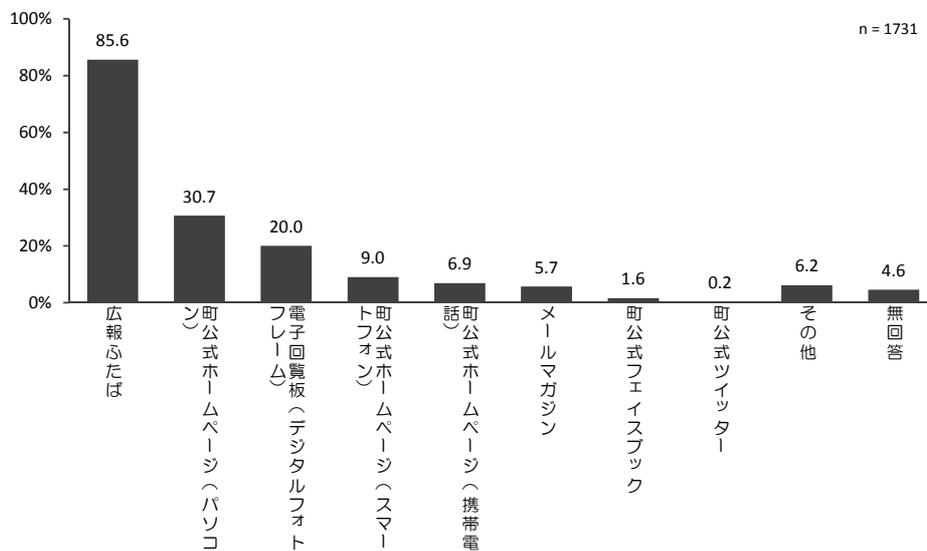
3-4-6 町からの情報の入手方法

問 15 あなたは町からの情報をどのような方法で入手していますか。(〇は3つまで)

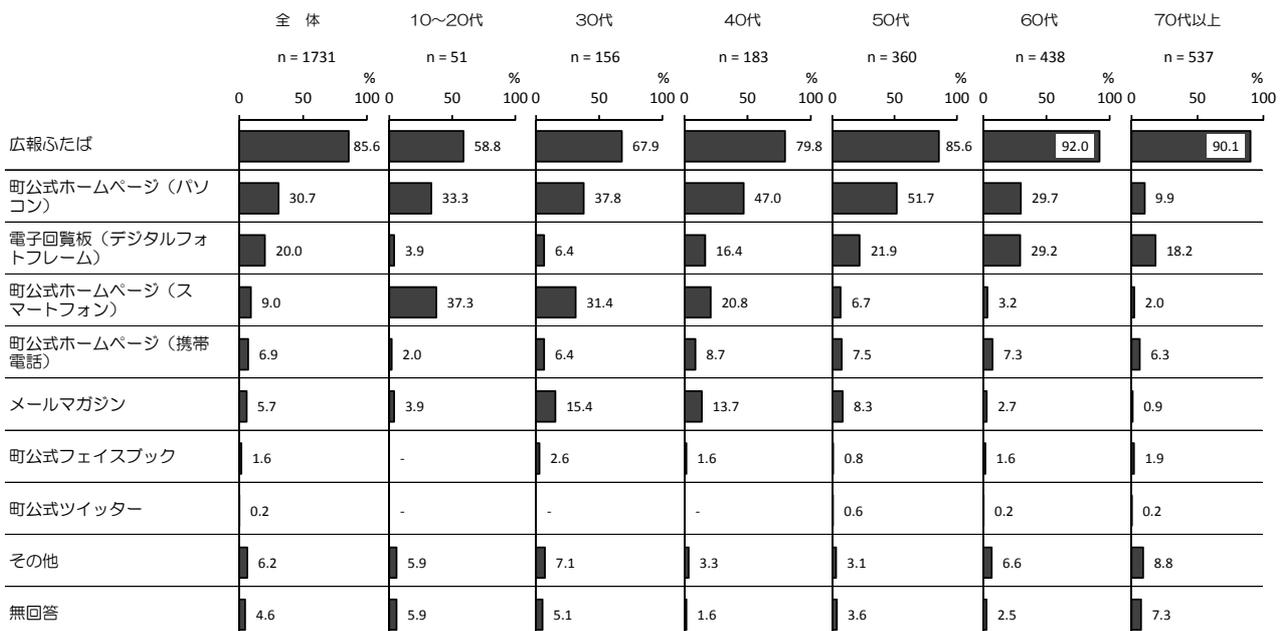
町からの情報の入手方法については、「広報ふたば」が85.6%と最も高く大半を占める。「町公式ホームページ（パソコン）」は30.7%、「電子回覧板（デジタルフォトフレーム）」は20.0%となっている。

世帯主の年齢別にみると、「広報ふたば」はいずれの年齢でも最も高いが、「町公式ホームページ（パソコン）」は、70代以上の割合が1割に満たない。「電子回覧板（デジタルフォトフレーム）」は、10～40代に比べ、50代以上が高くなっている。一方、「町公式ホームページ（スマートフォン）」は、50代以上に比べ、10～40代が高くなっている。

<図表3-4-6-1 町からの情報の入手方法>



<図表3-4-6-2 町からの情報の入手方法（世帯主の年齢別）>



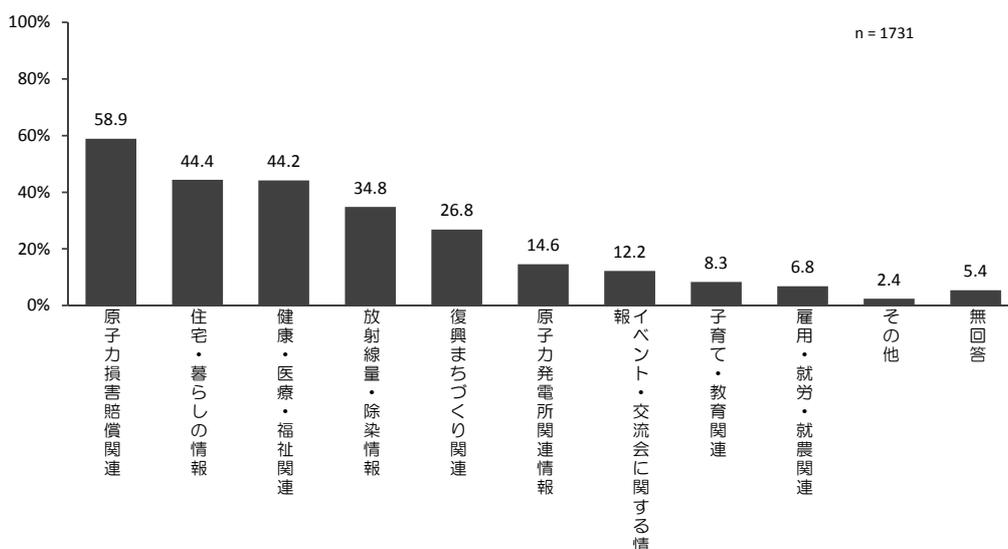
3-4-7 特に知りたい、関心がある情報

問 16 あなたが特に知りたい、関心がある情報は何か。(〇は3つまで)

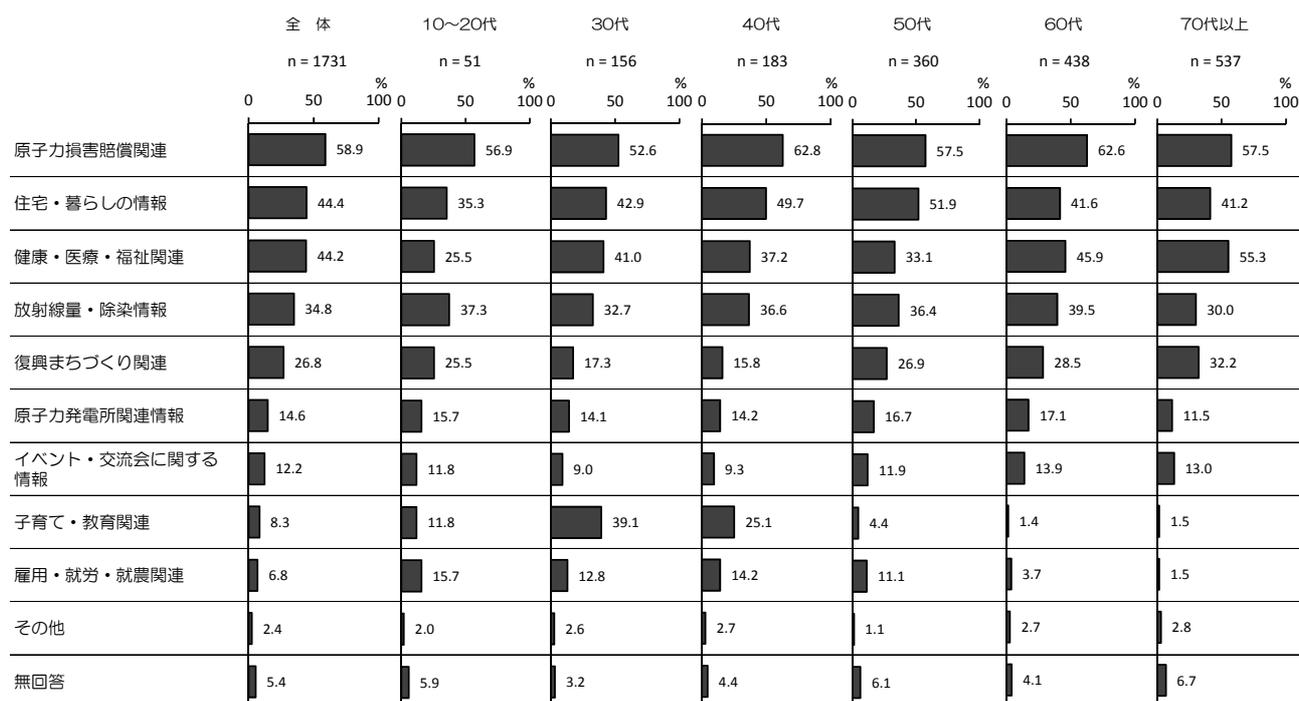
特に知りたい、関心がある情報については、「原子力損害賠償関連」が58.9%と最も高く、次いで「住宅・暮らしの情報」が44.4%、「健康・医療・福祉関連」が44.2%となっている。

世帯主の年齢別にみると、「原子力損害賠償関連」は、いずれの年齢でも最も高くなっている。「子育て・教育関連」は30代では39.1%、40代では25.1%となっており、他の年齢に比べ高くなっている。

<図表3-4-7-1 特に知りたい、関心がある情報>



<図表3-4-7-2 特に知りたい、関心がある情報（世帯主の年齢別）>



III 調査結果

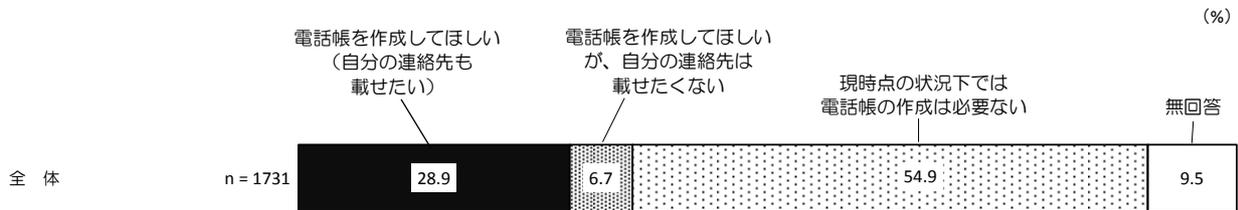
3-4-8 現時点の状況下での電話帳の作成について

問 17 全世帯のみなさまへの配布を前提として、町民同士が連絡を取り合うことができる仕組みとなる、電話帳（携帯電話番号や避難先住所などが掲載されたもの）の作成というアイデアがあります。一方で、電話帳の全戸配布については、町外や第三者への個人情報流出の危険性を懸念する意見もあります。あなたは、現時点の状況下での電話帳の作成について、どのようにお考えですか。（〇は1つ）

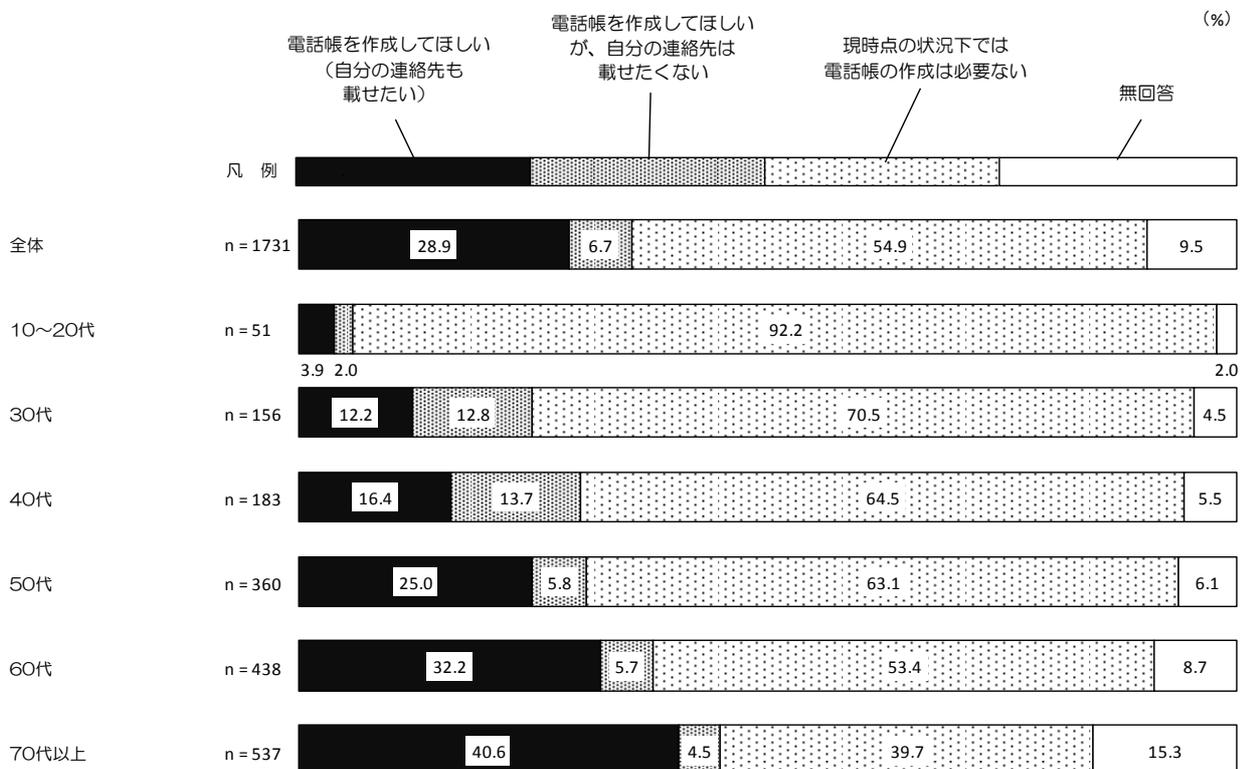
現時点の状況下での電話帳の作成については、「電話帳を作成してほしい（自分の連絡先も載せたい）」は28.9%、「電話帳を作成してほしいが、自分の連絡先は載せたくない」は6.7%、「現時点の状況下では電話帳の作成は必要ない」は54.9%となっている。

世帯主の年齢別にみると、「電話帳を作成してほしい（自分の連絡先も載せたい）」は、年齢が高くなるにつれ割合が高くなり、「現時点の状況下では電話帳の作成は必要ない」は年齢が高くなるにつれ割合が低くなっている。

<図表3-4-8-1 現時点の状況下での電話帳の作成について>



<図表3-4-8-2 現時点の状況下での電話帳の作成について（世帯主の年齢別）>



3-5 意見・要望

問 18 国や自治体への要望、復興に対するあなたの展望やお気持ちなどをご自由にお書きください。

国や自治体への要望、復興に対する展望や気持ちなどについて、799 世帯から回答があった。ここでは、記入された回答を下記項目に分類し、代表的なものを抜粋して掲載する。

<p>●生活について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難生活の長期化への不安 ・元の生活が取り戻せるかどうかの不安 ・元の生活、安定した生活の回復 ・元の生活に戻ることにあきらめ ・現在の生活の経済的な不安について ・現在の生活の健康に関する不安について ・現在の生活の仕事・学業に関する不安について ・その他現在の生活の不安について ・将来の生活の経済的な不安について ・将来の生活の健康に関する不安について ・将来の生活の仕事・学業に関する不安について ・その他将来の生活の不安について ・生活（再建）支援について ・その他 	<p>●除染について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・除染作業の意義について ・除染作業にかかる費用の他への活用について ・除染作業の効果などについて ・除染作業の実施箇所などについて ・除染作業の早期・迅速・的確な実施について ・除染作業スケジュール明確化について ・中間貯蔵施設について ・その他
<p>●震災発生前の居住地について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・帰還困難区域への立入りについて ・帰還困難区域等の設定について ・所有する住まい・土地の買取りについて ・自宅の現状（被害状況）について ・自宅の再建・改築・解体について ・その他 	<p>●復旧・復興について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・復旧・復興の遅れ、長期化について ・復旧・復興スケジュールについて ・復旧・復興の進め方（地域の開発、再編、その他）について ・町村合併について ・ライフライン・インフラの整備について ・社会福祉施設の整備について ・住民の参加・自助努力について ・早期の原状回復・復興実現について ・その他
<p>●賠償について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・賠償内容・方法について ・賠償の取り組みの迅速化、方針やスケジュール明確化について ・その他所有する住まい・土地に対する賠償について ・その他 	<p>●原発の安全性について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・廃炉作業の迅速な実施について ・その他廃炉作業について ・その他
<p>●帰還について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・帰還への不安 ・帰還可能時期の明確化について ・帰還したい ・帰還しない ・帰還に関する施策について ・帰還を望まない人への対応について ・その他 	<p>●原発事故に対する対応について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政や東電の対応について ・対応の長期化、遅れについて ・情報の開示・発信について ・中長期的スケジュールについて ・その他
<p>●避難期間中及び将来の住宅について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・復興公営住宅の早期・迅速な建設について ・復興公営住宅の建設地・形態等について ・復興公営住宅に係る経済的負担について ・復興公営住宅入居が可能かどうかの不安 ・復興公営住宅への入居について ・居住場所の確保について ・借上げ住宅について ・その他 	<p>●その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後のエネルギー政策について ・行政に対する謝意、励まし ・その他

※掲載する文章は原文を基本とするが、固有名詞が含まれている場合や長文の場合などは、一部省略している。

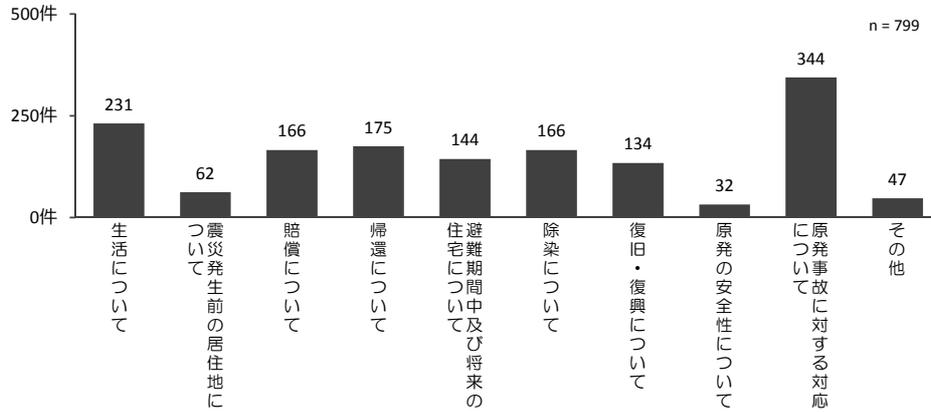
※一世帯の回答の内容が、複数のテーマにわたる場合は、それぞれの項目へ分類している。

Ⅲ 調査結果

まず、10の大項目についての、分類結果は下図のとおりとなった。

「原発事故に対する対応について」が344件と最も多く、次いで「生活について」が231件、「帰還について」が175件などとなっている。

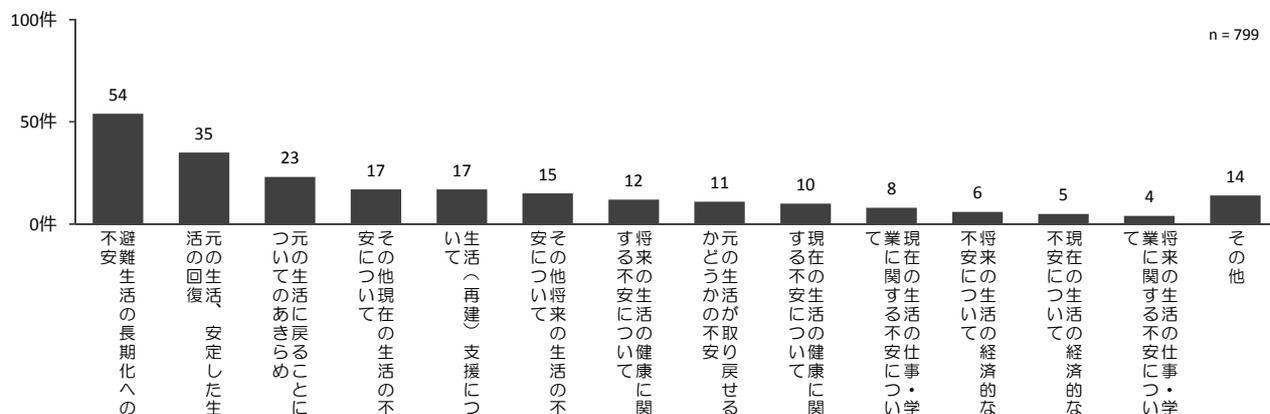
<図表3-5-1 意見に係る記入内容の分類結果>



(1) 生活について

健康・生活についての具体的な意見としては、「避難生活の長期化への不安」が54件と最も多く、次いで「元の生活、安定した生活の回復」が35件、「元の生活に戻ることにあきらめ」が23件などとなっている。

<図表3-5-2 生活について>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

[避難生活の長期化への不安]

- 早期に復興住宅を作って落ちついた生活を取り戻したい。まだ何年もの年月がかかると思うと、少し気が重くなる。最近のニュース等を見ると、双葉町を含む原子力発電所の近くの町々は、原子力が安定するまで帰れない、帰れる時期は到底今生きている内に戻れない現実を知ると、とてもむなしくなる。そういう環境を打開するためには、現在より、社会保障、福祉の充実、サービスの提供をよりいっそう我れに与え、精神的不安をとり除いてもらいたい。(50代)
- 毎日のように、新聞や、テレビ等で、復興という言葉を目にするが、具体的に目に見えてくるものが何もありません。今回の原発事故では私達の描いていた老後の生活設計は完全に崩されてしまいました。今後も個々の意見を尊重し、生活(特に住宅)の確保、支援を続けてほしい。(60代)
- 高齢者にとっては10年後、20年後のことは論外。現在の生活をどうするか、安心して生活でき、落ち着いて最期を迎えることができる終の住み家のことが心配。復興住宅を建設するにあたっては、将来ずっと住めるよう一戸建ての住宅があってもいいのではないかと。(70代以上)

[元の生活、安定した生活の回復]

- いわき市に新居を購入したので、高齢の両親のためにもいわき市の福祉サービスやサークル活動に参加できればよいと思う。双葉に帰還することは現時点で不可能だと思う。住民それぞれが住んでいる市町村の住民になるのがベストではないのかと思う。原子力損害賠償をきちんとさせ、1日も早く落ち着いて生活できる環境を整えてほしい。(50代)
- 双葉町にもどる為には、具体的な展望がない事が、残念です。小さい子供達が自由に暮らしができる事を望みます。ただただ双葉町で生活したいのです。(60代)
- 復興公営住宅の家賃の案内に1人暮らしの世帯の事が1例もありません。高齢者の1人世帯は復興住宅の入居には該当しないのですか。私はなけなしのお金を頭金にして娘夫婦と同居して10年、震災に遭いました。死ぬまで住居に困らないと思っておりましたが、賠償金では家は買えず、子供は職を失い、ローンの支払も残っているようで将来が不安です。贅沢は望んでいません。安心して暮らせませうようよろしく御願ひ致します。(70代以上)

Ⅲ 調査結果

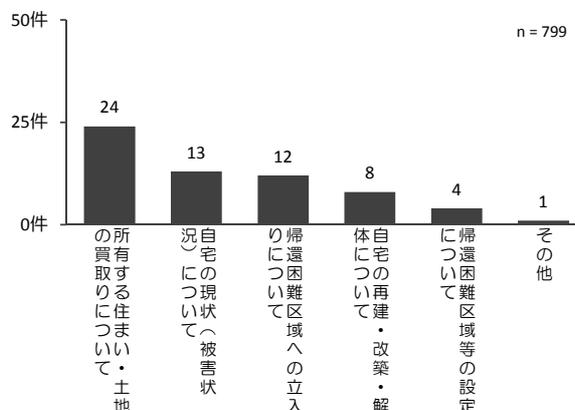
[元の生活に戻ることにあきらめ]

- 町の現状（放射線量や住宅等の被災）や原発の廃炉作業の進捗状況等を見ても、町への帰還は無理と考える。残された人生を有意義に過ごすためにも「帰還不可能宣言」を国がすべきであると考え。そして、家屋・土地の買い上げをしてもらいたい。「双葉は心のふるさと」としました。（50代）
- 今回の原子力災害は東京電力の責任は当然だが、原子力発電事業は国策によって進められたものであり、国も責任は重大であると思います。私達被災地は、家も土地も水も自然すべてを失ってしまい、家族もバラバラな生活をしているのが現状です。私達は双葉町の自宅には戻って住んで生活することは出来ないだろうと思っています。私には子供や孫達に実家やふるさとを失った事大変申しわけないと思っています。（60代）
- 高齢なので夫婦2人でいつまでいられるのか心配。又、自宅と土地の補償についても結果を出してほしい。双葉にはもどりたいが無理とあきらめざるを得ない。くやしい気持ちもある。帰宅するたびにひどくなる現状をみるのがつらいです。（70代以上）

(2) 震災発生前の居住地について

震災発生前の居住地についての具体的な意見としては、「所有する住まい・土地の買取りについて」が24件と最も多く、次いで「自宅の状況（被害状況）について」が13件、「帰還困難区域への立ち入りについて」が12件などとなっている。

<図表3-5-3 震災発生前の居住地について>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【所有する住まい・土地の買取りについて】

- とにかく早く賠償を進める様にしてほしい。双葉に残った建物や土地は最後には国に買い取ってもらいたい。東電だけの土地、建物の賠償では少なく、今現在の場所では買えないので国に考えてもらいたい。（40代）
- 双葉町には戻らない為、土地（宅地、田、畑、山林）を国で買い取ってほしい。（60代）
- 国は国策として行って来た事を認めて、責任を持って前端的に原発事故の対応をすべきである。特に放射線量が高い地域については、国策として、土地の国有化等を計るべきである。（70代以上）

【自宅の現状（被害状況）について】

- 2年7ヶ月過ぎた今でも、家屋は老朽化し、田畑あたり一面荒廃し、見るに絶えない。（50代）
- 表廻りは雑草と牛のふん、家の中には、ねずみのふんが足の踏み場が無い程迄に部屋中であって、片付けをする気にもならない様な昨今です。早く、なんとかして欲しいものです。（60代）
- ネズミ被害がひどいので駆除してほしい。雨漏りがひどいので早急に修繕してほしい。（70代以上）

【帰還困難区域への立ち入りについて】

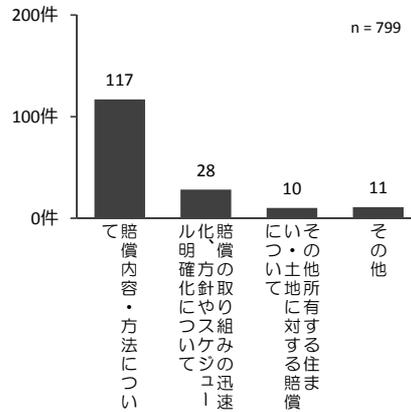
- 好きな時に、一時立ち入りが出来ない為、ネズミ処理の対策を考えてほしい。一時立ち入りで自宅に行くと気分が滅入る。防護服着用で室内の掃除や片付けをするので長時間はられない。自宅の物は使えない物も多く、ゴミとして全て片付けてスッキリさせたいので、ゴミ集収について考えてほしい。まだまだ大事な物は自宅へ置いてあるので、運び出すべきか、そのままにしておくべきかととても悩む。（40代）
- 一時立ち入りの規制があり、自由に立ち入りが出来ない為、家の片付けができないので自由に立ち入りができるようにしてほしい。（家の中が荒れほうだいになる）帰宅するごとに草が生えて自宅に入ることが困難である。（60代）
- 一時立ち入りしても、電気、水道が使えないので掃除が出来ずトイレも使用出来ない為早急に使えるようにして下さい。（70代以上）

III 調査結果

(3) 賠償について

賠償についての具体的な意見としては、「賠償内容・方法について」が117件と最も多く、次いで「賠償の取り組みの迅速化、方針やスケジュール明確化について」が28件、「その他所有する住まい・土地に対する賠償について」が10件などとなっている。

<図表3-5-4 賠償について>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【賠償内容・方法について】

- 借り上げ住宅の期間を延長してもらわないと、経済的に生活ができないので、帰れるまでは、延長してほしい。福島県外に復興公営住宅を建設してほしい。将来、健康被害がもし出た場合は、国が責任を持って、補償してほしい。(20代)
- 帰宅出来るまで、現在の医療、高速などの補償を継続してもらいたい。又、廃炉に40年超とも言われライフラインの復旧など、以前の双葉町に住めるころは、自分の時代ではなく子供達の時代である。ゆえに、世代交代になっても故郷への思いは同じなので、補償などの問題も継続してもらいたい。(50代)
- 国や東電から、土地や家を建てる賠償金がほしい。元の美しい双葉町に戻してほしい。国、東電は我々の生活や人生をボロボロにした。国や東電は責任を取る事、無責任だ。国や東電達の考えは先が見えない事だ。東電の不動産賠償金では土地を買って家を建てる事が出きない。便利の良い所は土地が高くて買えない。(60代)

【賠償の取り組みの迅速化、方針やスケジュール明確化について】

- 一日も早く土地、建物など早く賠償してもらいたい。若いなら良いが、中高層や高齢者など考えてほしい。残りの人生一日も早く建て直し生活をしたいと思う。双葉町とか福島県とか、帰りたい人が帰るので、一人一人考え方が違うので、とにかく早く賠償を進める様にしてほしい。(40代)
- 補償の問題を早く解決してほしい。決まらなければ、家を持つこともできない。いつまで不安な生活を送っていったらいいのか。双葉町に帰るといってもすぐに帰れるわけではない。(50代)
- 帰還困難区域にある個人所有の不動産(土地、建物)の今後の処置方針を早急に決定すべきである。現状では土地建物は荒廃するばかりであり、個人で維持管理するには多くの無理がある。(60代)

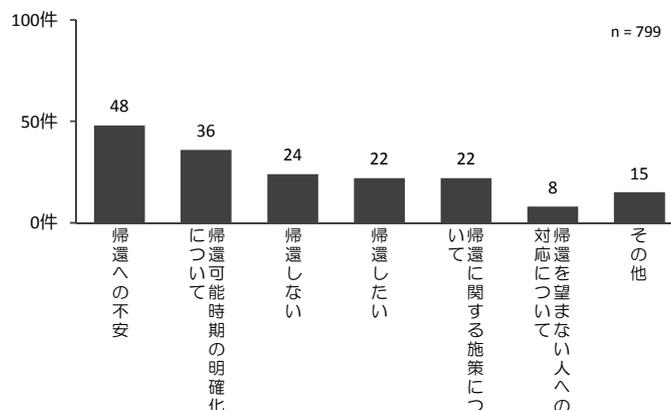
【その他所有する住まい・土地に対する賠償について】

- 国は、賠償を東電だけにまかせておかないで、国が全面に出て、不動産の買い上げも含めて対応してほしいと思っています。本当は代替地を求めたいと思っています。(60代)
- 現時点での原発賠償(不動産)では、新しい家も建てる事が出来ない状態です。先の事を考えると不安です。もう少し考えてほしいと思います。(60代)
- 賠償について新しい土地、家屋を購入する全額を保障するため、現在の基準を見直して欲しい。(70代以上)

(4) 帰還について

帰還についての具体的な意見としては、「帰還への不安」が48件と最も多く、次いで「帰還可能時期の明確化について」が36件、「帰還しない」が24件などとなっている。

<図表3-5-5 帰還について>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【帰還への不安】

- 復興に対する取組みが2年半経過した今も一向に進んでない感が強い。特に双葉町、大熊町の帰還困難地域に関しては、現実的に5～6年での帰還はまず無理だということを、国や自治体はわかっているはず。帰還ありきではなく、新しい土地での今後の生活をどう支援していくのかを早急に、具体的に進めていくことが重要であり、優先的に実施すべきではなかろうか。(40代)
- 双葉町が将来、本当に戻れるのかどうか明確にできないのか。現実的に具体的に呈示し、厳しい内容でも議論すべきである。線量が低くなったとしても、生活ができるかどうか分からない。原発を廃炉するにも30年、40年かかるとすれば、本当に戻れるか、分からない。(50代)
- もう戻れないならはっきり言ってほしい。いつまでも不安定な生活、残された人生、安心して暮らしたいと思います。国は高齢者の事をどう考えているのか？死ぬまで戻れないならはっきり言って欲しいし、2年半、ただ不安定な生活、無駄な時間を過ごしてしまった気がしてなりません。(70代以上)

【帰還可能時期の明確化について】

- 帰還の時期をはっきり明示して下さい。そうでなければ先の生活設計がたたない。将来像を描くことができない。(50代)
- 早期に双葉に帰れるか、否かの答えを出してほしい。長々と答えを出さなければ、次の事に進めず、このまま年老いてしまうだけ。国が土地を買い上げる事も大事なのではないか。とにかく国は早く答えを出してほしい。双葉に帰れるなら原発事故前のきれいなふるさとなるのが前提です。安心して生活を送れるのが強い要望です。(60代)
- 双葉町へできるだけ早く帰還したいと考えています。いつごろ帰還できるか、だいたいの情報でもよいから流してほしいと思います。高齢者の希望者は早めにはできないかと思っています。(70代以上)

【帰還しない】

- 双葉町に戻る、戻らないは個人それぞれの考えだと思うので、国は勝手に「戻れます」とか言わないでほしい。戻らない人には住まいの補償をきちんと責任を持ってほしい。私は子供の将来を考えると、双葉に戻ることは非常に危険だと思うので、低線量だから戻るとかじゃなくて、戻らない政策も必要だと思う。(40代)

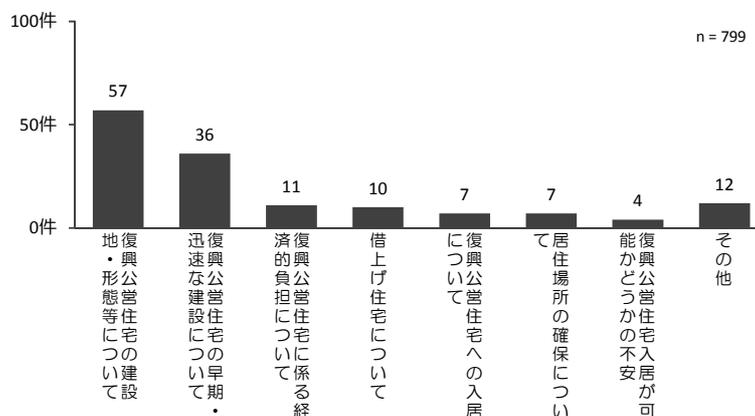
Ⅲ 調査結果

- 原子炉の溶融した核燃料の状況がわからないまま、廃炉に向けて東電は取り組んでいるようだが、汚染水の漏洩などトラブル続きで信用できない現状の中、国は除染すれば帰還できると考え、除染で出た汚染物を貯蔵する施設を作ろうとしている。40年以上もかかると言われている廃炉になるまで、双葉町に戻れるわけがないのだから、国には住めない町として、早く買い取っていただき、住民1人当たりまとめた代金を支払い、中間貯蔵施設でも最終処分場でも作り利用すればいいと考えている。荒れはてた我家を見るたび、双葉町に戻って何もする気になれない。先祖伝来の土地を手放すことは忍びないが、もう未練はない。(50代)
- 現在の双葉町をとりまく、放射性物質の物理的、化学的な特性を考える時、帰郷は断念せざるをえない状況にある。今後、国や自治体は、戻れない(戻らない)という前提で避難先(移住先)での生活再建の充実を計る方向にシフトすべきと考える。(60代)

(5) 避難期間中及び将来の住宅について

避難期間中及び将来の住宅についての具体的な意見としては、「復興公営住宅の建設地・形態等について」が57件と最も多く、次いで「復興公営住宅の早期・迅速な建設について」が36件、「復興公営住宅に係る経済的負担について」が11件などとなっている。

<図表3-5-6 避難期間中及び将来の住宅について>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

[復興公営住宅の建設地・形態等について]

- 宮城県でも復興公営住宅への入居を認めていただく様に是非お願いしたい。この事は福島県外避難者のうち、岩手、宮城、茨城、埼玉(?)各復興公営住宅を設置予定の他県で避難している人も同じ希望だと思います。(50代)
- 福島県外にも是非復興住宅を作ってほしい。建たなければ、自家を建てることとなる。この場合、双葉町への帰還は難しくなる。広域的な災害は今後も発生しうる。この時の避難所として、国民が活用できる。「復興公営住宅の検討状況について」の中で「福島県外に復興公営住宅の整備・・・との要望を伝えています。」と言っているが、町としても是非、避難している町民のためにも「伝える」ではなく、「町民と一緒に要望する。」ではないでしょうか。廃炉まで40年もかかると言われている中、是非、不安なく過ごせる公営住宅を要望いたします。(60代)
- 地域の中に用地が準備されていて、その用地に各人が自由に戸建の住宅を建て入居できる自由度の高い(間取り)ものもあってはどうでしょうか。(宅地の坪数には制限はある)。入居にあっては、町民が分散しないように、1か所にまとまって入居できるようにすることが、大事であると思います。(70代以上)

[復興公営住宅の早期・迅速な建設について]

- 借上げ住宅制度に、転居回数の制限がある為、健康に影響が出るような環境でも、転居することができない。復興公営住宅の早期整備と共に、その間のつなぎとなる緩和制度を両立して頂けると大変助かります。(30代)
- 現在、1DKのアパートで3年目を迎ようとしています。部屋でだんだん手狭になって不便な生活を送っています。今すぐにでも復興住宅を希望します。(60代)
- 一日も早い復興住宅の建設を望んでおります。高齢なので、先の見えない今の暮らしが不安でなりません。一日も早い復興住宅の建設を心から希望しております。(70代以上)

Ⅲ 調査結果

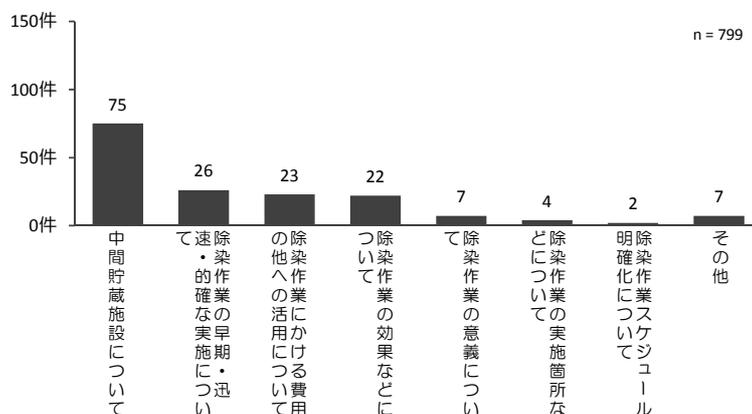
〔復興公営住宅に係る経済的負担について〕

- 復興公営住宅に入りたいと思ったが、家賃を見て皆おどろいているのではないのでしょうか？国の政策で原発推進して来たのに、原発の災害で故郷を追われた住民に住居を用意するのは当然のことと思うのですが。（もちろん無償で）（４０代）
- 復興公営住宅の家賃が年収の額によって差があるのは、納得出来ない。避難している者はすべて平等であるべきだ。自分の持家があるのに、なんで家賃を払ってまで公営住宅に入らなければいけないのか、理解に苦しむ。（５０代）
- 復興公営住宅の家賃は、出来るだけ低くなる様にしてほしい。（５０代）

(6) 除染について

除染についての具体的な意見としては、「中間貯蔵施設について」が75件と最も多く、次いで「除染作業の早期・迅速・的確な実施について」が26件、「除染作業にかかる費用の他への活用について」が23件などとなっている。

<図表3-5-7 除染について>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【中間貯蔵施設について】

- 放射線や原発の不安定さを考えると、やはり中間貯蔵施設の建設など社会に貢献できる場所を提供していくことを考えても良いのではないかと思います。(40代)
- 中間貯蔵施設について、どこかに建設しなければならないのだから、双葉町での建設も仕方ない事だと思う。現在、普通に生活している場所に受け入れる市町村はないと思うし、わざわざ建設する事もないと思う(50代)
- 中間貯蔵施設が、最終処分場となってしまう恐れがある。大熊、楡葉とちがい、双葉の場合は、施設予定地に、役場を含め3km以内に、町の中心部がスッポリ入ってしまう。(60代)

【除染作業の早期・迅速・的確な実施について】

- 除染作業など、何もしなければ、避難期間が長くなるばかりです。反対、調査中ばかりで、2年半もたつて、前進が見えません。家が自然に朽ちて行く姿が、いたいたしいです。(50代)
- 復興を急ぐ為に中途半端な除染をしてほしくない。時間がかかっても確実な除染を希望します。(現在の除染に疑問あり)(60代)
- 一日も早く放射線量を取り除かれる事を第一に願って居ります。双葉町が双葉郡として早急な復興を…と願います。先祖の地を捨てる事は忍びなく感じて居ります。(70代以上)

【除染作業にかかる費用の他への活用について】

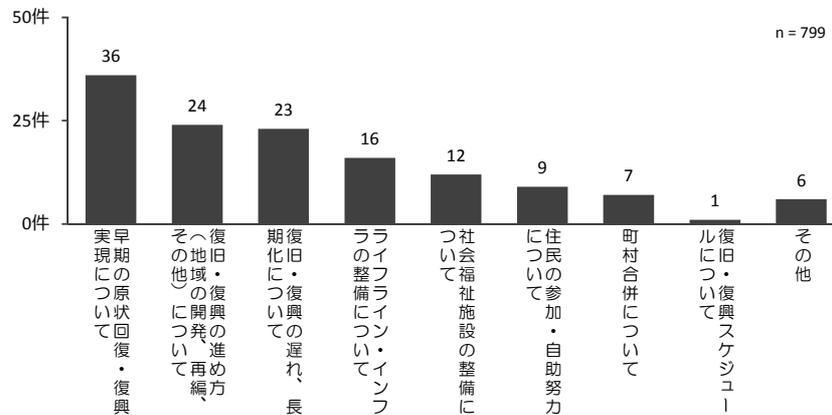
- 除染予算を町民の生活資金や復興住宅建設にまわしてほしい。除染の効果があると思えない。(30代)
- なぜ双葉町へ戻す為に除染やインフラ整備をするのか不明である。戻って何があるのだろうか？そんな事に莫大な費用をムダ使いしているのでは？支出しなければならない事が沢山あると思う。(30代)
- 除染はあまりにも広範囲の為に、意味はないと思う。それより、土地建物を処分しこれからを別の土地で前向きに生きていけるように考えてほしい。除染にかかる費用を新転地での費用に当ててほしい。(60代)

Ⅲ 調査結果

(7) 復旧・復興について

復旧・復興についての具体的な意見としては、「早期の原状回復・復興実現について」が36件と最も多く、次いで「復旧・復興の進め方（地域の開発、再編、その他）」について」が24件、「復旧・復興の遅れ、長期化について」が23件などとなっている。

＜図表3-5-8 復旧・復興について＞



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【早期の原状回復・復興実現について】

- 復興が進んでいるとは思わない。一時帰宅するたびに、何も変わらない町の姿を見ると、どこが復興なのか？と思う。国も、もっとスピードアップで1日でも1秒でもみんなが安心して生活できる様、やってほしいです。（70代以上）
- 何としても復興する事を念じて居ります。私はもう老年です。若い者が帰って来て双葉に住める様になる事を願って頭から離れません。息子と一緒に双葉に帰られる様にとその思いで一杯です。（70代以上）
- 国は私達の事をどう考えて居るのわからないけれど、国と東電が一体と成って早く元通りに復帰出来る様にして下さい。又各自治体の人達は一生懸命私達の事を考えて下さいまして、いつも感謝しております。これからも宜しくお願い致します。（70代以上）

【復旧・復興の進め方（地域の開発、再編、その他）について】

- 双葉町だけで復興を考えていくよりも、双葉郡として復旧、復興を考えたり、復興公営住宅建設をするにしても、双葉郡内に建設を考えた方がいいのではと思う。（40代）
- 国が本当の意味で東電まかせにせず、全力をあげて長期的に対応してほしい。双葉町だけでなく広域の合併等も視野にいれた長期的な復興計画が必要。（50代）
- 広野町、檜葉町を拠点として双葉市を作り上げ、双葉郡を集約して、教育、医療、ライフライン等を整備し、将来ある町づくりをするべきである。町単位で復興を考えている状況ではない。（60代）

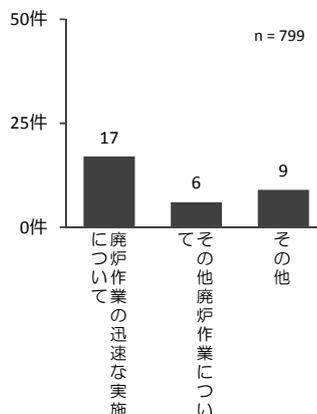
【復旧・復興の遅れ、長期化について】

- 住みなれた地を離れ2年と7ヶ月ですが、もっと長く大変だったようです。1人1人の意見は聞き届けないでしょうが、賠償や復興の問題も前に進んでも良いように思いますが…？（60代）
- 復興の着手が、遅れている事は確実である。今後、何年後に帰還をし普通の生活が出来るか不透明であるがゆえに、避難先の自治体等に住民票移し、居住する方法しか選択肢が無いのが、私の現状の考えである。（70代以上）
- 災害から2年7ヶ月双葉町は原発の事故もあり、他県よりも復興が遅れている様です。町でも全力で町民の皆様の事を考えて動いている事はわかっているのですが、国の方でもう少し協力的になって事を進めて頂きたいものです。（70代以上）

(8) 原発の安全性について

原発の安全性についての具体的な意見としては、「廃炉作業の迅速な実施について」が17件と最も多く、次いで「その他廃炉作業について」が6件などとなっている。

<図表3-5-9 原発の安全性について>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【廃炉作業の迅速な実施について】

- 原発廃炉無くして復興無し、汚染水も無くなりません。(40代)
- 原発の廃炉や汚染水問題等が、安全で安心して解決しなければ、本当の意味の復興はないと思う。国には前面に出て、電力会社や民間の有識者と協力しながら、解決してほしい。(50代)
- 廃炉が先で、帰る、帰らないの判断が出来ない。(60代)

【その他廃炉作業について】

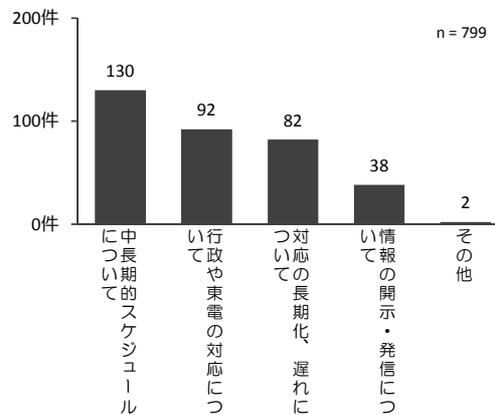
- 東電、国が汚染水でゴチャゴチャしているが、廃炉は本当に日本の技術でできないでしょう。(60代)
- 1F・2F共に使用済核燃料の取出しを急ぐべし。これがある限り冷却し続けなければならないので、可能なものから処分すること(福島県内では再稼動はしないこと)をやらないと、いつまでも不安な状況が続く。そしてそれが終わったら今度はメルトダウンした燃料の固まりを何としてでも取出すことを進めないと、何十年も住める環境はつくれない。(70代以上)
- 原発の安定した廃炉を願いたい。(70代以上)

III 調査結果

(9) 原発事故に対する対応について

原発事故に対する対応についての具体的な意見としては、「中長期的なスケジュールについて」が130件と最も多く、次いで「行政や東電の対応について」が92件、「対応の長期化、遅れについて」が82件となっている。

〈図表3-5-10 原発事故に対する対応について〉



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【中長期的なスケジュールについて】

- 復興が遅すぎる。せめて、明日のビジョンは示して欲しいものです。復興公営住宅についても、計画だけで何一つ目に見える形にはなっていません。宅地が決ったなら、早く測量して杭の一本でも打ってください。それだけでも、希望が見えるのではありませんか。(50代)
- 将来の生活設計が出来るよう、方向性、しっかりとした賠償を早期に進めるべき(国が全面責任をもって)。(60代)
- 双葉町はほんとうに復興出来るのか?復興するとすればいつ頃になるのか?今後町としてどういう方向にするのか、はっきりと示して欲しいと思います。日時を具体的に。(60代)

【行政や東電の対応について】

- 原発事故の責任を国、東電もはっきりと示して欲しい 未だに先が見えず、被害者が納得できる賠償でなければいけないのに、年数の経過と共に事案が認められず不信感が募る。国政は国民の生命と財産を守るべきなのに東電を守ろうとする真意が分かりません。(50代)
- 復興庁の存在感がない。復興に係る各省庁への要望等は復興庁が取りまとめて各省庁へつないでいるようであるが、要望等がどうなったか担当省庁部局へ問い合わせしてみると他人事のような回答ばかりで問題の解決が図られていない。(50代)
- 復興に対する取組もスピード感が無く、これに賭けてみようというものが示されず、全てが中途半端に思える。国も東電も避難者の気持が萎えるのを待っているのだろうか。(60代)

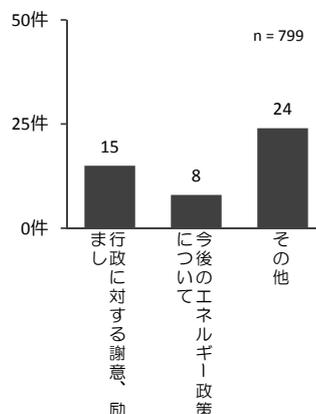
【対応の長期化、遅れについて】

- 国、自治体が、今後どうしたいのか、又どんなことが考えられるのかを、早く、正確に知りたい。町民の意見も大切だとは思いますが、できないことをいつまでも議論してもなにも進まないの、できることの中から選択して行って、一日でも早く復興してほしい。(30代)
- 机上の空論では、なにも前へ進んでいくことはできない。あれから2年半も過ぎて、まだ不安だらけの生活をこれからも続けるのは、とても、とてもつらいことです。(50代)
- 何事においても対応が遅い。避難住民が前に進める様な対策をしてほしい。言葉だけでなく実行してほしい。(70代以上)

(10) その他

その他についての具体的な意見としては、「行政に対する謝意、励まし」が15件と最も多く、次いで「今後のエネルギー政策について」が8件、「その他」が24件となっている。

＜図表3-5-11 その他＞



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【行政に対する謝意、励まし】

- 今後も困難な事が続いていくのに対して、町長さんを始め、行政当局の方々も双葉町、町民の復興に向けて頑張ってください。(60代)
- 双葉町民は、全国に避難しているので、町長以下役場職員は、全力で町民サービスを行っている事に感謝すると共に国及び県の支援を一層お願いしたい。(70代以上)
- 自分達夫婦と長男・婚約者の4人で何でも相談をして、できるだけ協力して生活をしています。役場から仮設へ来た人達にも声をかけていただき、ホッとする気になります。又、集会所で仕事をしている人達にもお世話になって感謝の毎日です。(70代以上)

【今後のエネルギー施策について】

- 今後、我々のような故郷を失なうケースが起きないように、災害対策をお願いしたい。地震国の日本では原発は危険だと思うので、他のエネルギー政策を進めて欲しい。(50代)
- 町全体郡全体をソーラー発電基地として、エコエネルギーの発進をしてほしい。町はいずれ「エコの森」(旧双葉町)として後世に名を残す事でしょう。(50代)
- 「もしも」の時を考えなかった安全神話がもろくも崩れ去ったのに、未だに原発推進とは何を考えているのかと思う。原発建設に多額の費用、廃炉にも多大の費用、今回の事故により、命をかけた作業、大気、土壌汚染、処理方法も原始的、海が汚染されたら隣国からの問題も生ずるのに、すべての原発は止めるべきです。電力は水力、火力、風力、そしてメタン等で賄うよう、開発、個々の節電でできるはず。(60代)

IV 參考資料

4-1 使用調査票

双葉町住民意向調査

記入上の注意

● 調査をお願いする方

ご回答は、**世帯の代表者の方**にお願いいたします。現在世帯が何か所かに分かれて避難されている場合は、**それぞれの場所にお住まいの代表者の方**に、ご回答をお願いいたします。

● ご回答方法

ご回答は、あてはまる番号を選び、その番号に○をつけてください。

「その他」に○をされた場合は、() 内に具体的な内容もご記入ください。

[] の中に具体的な内容の記入をお願いしている問には、具体的な内容(地名、数など)をご記入ください。

➤ 個人情報について

- ・調査票は記名式でお願いしております。(最終ページに「住所」、「氏名」、「連絡先」のご記入をお願いします)。
- ・調査票に記載いただいた個人情報は、双葉町、福島県及び復興庁において適切に管理するとともに、各種施策の検討目的以外には使用致しません。
- ・また、回答はすべて統計的な処理を行い、個別内容が公表されることはありません。

● ご提出方法

ご記入済みの調査票は、**10月24日(木)まで**に、同封の返信用封筒に入れ、郵便ポストにご投函ください(切手は不要です)。

【お問い合わせ先】

調査の趣旨、記入方法について

復興庁
「住民意向調査」
問い合わせセンター

フリーダイヤル 0120-966-295

[設置期間：10月11日(金)～10月24日(木)

10時～17時]

土・日・祝を除く

復興公営住宅について

福島県

〒960-8670 福島県福島市杉妻町2番16号

企画調整部避難地域復興局

Tel：024-521-8617

双葉町に関することについて

双葉町

〒974-8212 福島県いわき市東田町二丁目19番地の4

双葉町いわき事務所

復興推進課

Tel：0246-84-5203

IV 参考資料

はじめに、ご記入いただくあなたご自身のことについて教えてください。

【すべての方にうかがいます。】

問 1 あなたの現在の年齢(○は1つ)

- | | |
|-----------|------------|
| 1. ~19歳 | 8. 50~54歳 |
| 2. 20~24歳 | 9. 55~59歳 |
| 3. 25~29歳 | 10. 60~64歳 |
| 4. 30~34歳 | 11. 65~69歳 |
| 5. 35~39歳 | 12. 70~74歳 |
| 6. 40~44歳 | 13. 75~79歳 |
| 7. 45~49歳 | 14. 80歳以上 |

【すべての方にうかがいます。】

問 2 現在のあなたの職業を教えてください。

仕事に就いている方は、業種・就業先の所在自治体も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っている場合は、主な収入源になっている職業を教えてください。

(1) 職業(就業形態) (○は1つ)

- | | |
|---------------------------|------------------------|
| 1. 自営業・会社経営者(継続中もしくは再開済) | 7. パート・アルバイト |
| 2. 自営業・会社経営者(休業中) | 8. 学生 ⇒問 3 へ |
| 3. 会社員(勤め人)(事務や内勤を主とする業務) | 9. 無職(職を探していない) ⇒問 3 へ |
| 4. 会社員(勤め人)(労務や外勤を主とする業務) | 10. 無職(職を探している) ⇒問 3 へ |
| 5. 団体職員 | 11. その他 [具体的に] |
| 6. 公務員 | |

【仕事に就いている方(問 2 (1) で「1」から「7」、「11」と回答した方)にうかがいます。】

(2) 業種 (○は1つ)

- | | |
|-------------------|-----------------|
| 1. 農・林・漁・畜産業 | 7. 金融・保険業 |
| 2. 建設業 | 8. 医療・福祉 |
| 3. 製造業 | 9. 教育 |
| 4. 電気・ガス・水道業 | 10. 公務 |
| 5. 運輸業 | 11. その他 [具体的に] |
| 6. 卸・小売り・飲食、サービス業 | |

【仕事に就いている方(問 2 (1) で「1」から「7」、「11」と回答した方)にうかがいます。】

(3) 就業先の所在自治体

- | |
|--|
| 1. 現在避難している(住んでいる)市町村と同じ |
| 2. 現在避難している(住んでいる)市町村と異なる(具体的にご記入ください) |

(都・道・府・県)

(市・町・村・区)

東日本大震災発生時および震災前の、あなたの状況について教えてください。

【すべての方にうかがいます。】

問3 震災発生当時にお住まいだった行政区を、以下から教えてください。(○は1つ)

- | | | |
|-------|---------|-------------------------------|
| 1. 新山 | 8. 長塚一 | 15. 中田 |
| 2. 下条 | 9. 長塚二 | 16. 両竹 |
| 3. 郡山 | 10. 下長塚 | 17. 浜野 |
| 4. 細谷 | 11. 羽鳥 | 18. その他 |
| 5. 三字 | 12. 寺松 | 19. (わからない場合は住所
を記載してください) |
| 6. 山田 | 13. 渋川 | |
| 7. 石熊 | 14. 鴻草 | [] |

【すべての方にうかがいます。】

問4 あなたは、震災発生当時、世帯主でしたか。(○は1つ)

- | | |
|-------------|----------------|
| 1. 当時世帯主だった | 2. 当時世帯主ではなかった |
|-------------|----------------|

【すべての方にうかがいます。】

問5 震災発生当時の、あなたの職業を教えてください。

当時、仕事に就いていた方は、業種・就業先の所在自治体も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っていた場合は、主な収入源になっていた職業を教えてください。

(1) 職業(就業形態) (○は1つ)

- | | |
|-------------------------------|---------------------------|
| 1. 自営業・会社経営者 | 7. 学生 ⇒問6へ |
| 2. 会社員(勤め人)(事務や内勤を主とする
業務) | 8. 無職(職を探していなかった)
⇒問6へ |
| 3. 会社員(勤め人)(労務や外勤を主とする
業務) | 9. 無職(職を探していた) ⇒問6へ |
| 4. 団体職員 | 10. その他 (具体的に |
| 5. 公務員 | |
| 6. パート・アルバイト |) |

【仕事に就いていた方(問5(1)で「1」から「6」、「10」と回答した方)にうかがいます。】

(2) 業種 (○は1つ)

- | | |
|-------------------|---------------|
| 1. 農・林・漁・畜産業 | 7. 金融・保険業 |
| 2. 建設業 | 8. 医療・福祉 |
| 3. 製造業 | 9. 教育 |
| 4. 電気・ガス・水道業 | 10. 公務 |
| 5. 運輸業 | 11. その他 (具体的に |
| 6. 卸・小売り・飲食、サービス業 |) |

IV 参考資料

【仕事に就いていた方（問5（1）で「1」から「6」、「10」と回答した方）にうかがいます。】

(3) 就業先の所在自治体

1. 双葉町	9. 福島県内のその他の市町村(具体的にご記入ください。)	
2. 大熊町	<input type="text"/>	(市・町・村)
3. 浪江町		
4. 富岡町	10. 福島県外(具体的にご記入ください。)	
5. 南相馬市	<input type="text"/>	(都・道・府・県)
6. 楡葉町	<input type="text"/>	<input type="text"/>
7. いわき市		(市・町・村・区)
8. 広野町		

【すべての方にうかがいます。】

問6 震災発生当時にお住まいだった住宅は、どのような形態でしたか。(○は1つ)

1. 持ち家(一戸建)	6. 給与住宅(社宅、公務員宿舎など)
2. 持ち家(マンションなど)	⇒問7へ
3. 民間賃貸住宅(一戸建) ⇒問7へ	7. 家族のどなたかのお住まい・実家
4. 民間賃貸住宅(アパート・マンションなど)	⇒問7へ
⇒問7へ	8. 親戚・知人宅 ⇒問7へ
5. 公営住宅 ⇒問7へ	9. その他〔具体的に〕⇒問7へ

【問6で「1. 持ち家(一戸建)」「2. 持ち家(マンションなど)」と回答した方にうかがいます。】

問6-1 震災発生当時にお住まいだった住宅は、現在どのような状況ですか。(○は1つ)

1. 解体せざるを得ないほどの被害、劣化等がみられる
2. 修理すれば住める状況である
3. 特に損傷はない ⇒問7へ
4. 津波により、家が流出している ⇒問7へ
5. わからない ⇒問7へ

【問6-1で「1. 解体せざるを得ないほどの被害、劣化等がみられる」「2. 修理すれば住める状況である」と回答した方にうかがいます。】

問6-2 震災発生当時にお住まいだった住宅は、現在どのような被害や劣化等がありますか。(○はいくつでも)

1. 地震の影響と思われる大きな損壊等がある	5. 雨漏りの形跡がみられる
2. 津波被害を受けている	6. カビが多く発生している
3. 火災被害を受けている	7. 屋内の放射線量が高い
4. 動物等が侵入した跡があり荒れている	8. その他〔具体的に〕

避難状況について教えてください。

【すべての方にうかがいます。】

問7 あなたが現在避難されている先の自治体を教えてください。(○は1つ)

1. いわき市	7. 福島県内のその他の市町村(具体的にご記入ください。)
2. 郡山市	<input type="text"/> (市・町・村)
3. 福島市	8. 埼玉県加須市
4. 白河市	9. 茨城県つくば市
5. 南相馬市	10. 新潟県柏崎市
6. 会津若松市	11. 福島県外(具体的にご記入ください。)
	<input type="text"/> (都・道・府・県) <input type="text"/> (市・町・村・区)

【すべての方にうかがいます。】

問8 現在と震災発生当時の世帯構成についてうかがいます。

(1) 現在、あなたを含めて一緒に住んでいる方の人数を教えてください。

あなた自身を含めて、現在の年齢・学齢にあてはまる人数でご回答ください。(人数で回答)

ア) 未就学児(小学校入学前)	人	エ) 高校生	人
イ) 小学生	人	オ) 15～64歳(中学・高校生を除く)の方	人
ウ) 中学生	人	カ) 65歳以上の方	人

(2) 震災発生当時ご一緒にお住まいであったご家族は、現在、何か所に分散してお住まいですか。(○は1つ)

1. 世帯でまとまって避難している(一人暮らし含む)	3. 合計3か所に分散
2. 合計2か所に分散	4. 合計4か所以上に分散

【すべての方にうかがいます。】

問9 現在お住まいになっている住宅はどのような住居形態ですか。(○は1つ)

1. 応急仮設住宅(プレハブ型)	6. 家族のどなたかのお住まい・実家
2. みなし仮設住宅(民間住宅・公営住宅・公務員住宅・雇用促進住宅などの借り上げ型(家賃無償))	7. 親戚・知人宅
3. 公営住宅(2.は除く。有償)	8. 持ち家(ご本人またはご家族所有)
4. 民間賃貸住宅(有償)	9. その他 (具体的に)
5. 給与住宅(社宅など)	

IV 参考資料

【すべての方にうかがいます。】

問 10 現在、自動車は何台保有していますか。(○は1つ)

1. 1台
2. 2台
3. 3台以上
4. 保有していない

【すべての方にうかがいます。】

問 11 現在、ペットを飼っていますか。(○はいくつでも)

1. 中小型犬(両手で抱えられる程度の大きさ)を飼っている
2. 大型犬(「1」以外)を飼っている
3. 猫を飼っている
4. 犬、猫以外のペットを飼っている(具体的に)
5. ペットは飼っていない

ここからは、①避難期間中の住居②将来に関するご意向③その他について、三段階でお聞きします。

まずは、避難期間中の住居についてお聞かせください。

本調査は、今後の復興公営住宅整備に向けて、住民のみなさまのご意見や要望などをおうかがいすることを目的として実施しておりますので、アンケートの回答によりみなさまの今後の生活に特段の不利益を及ぼすものではございませんのでご安心ください。

福島県における原発避難者向け復興公営住宅について

福島県では、原発事故により避難されている方々のコミュニティの維持・形成の拠点となる復興公営住宅の整備計画を策定しています。

平成27年度までの入居を目指し、全体で概ね、3,700戸を整備する予定です。現在、受入自治体毎に、整備に向けた具体的な協議を進めているところです。

<整備戸数・箇所>

いわき市	南相馬市	郡山市	福島市	会津若松市	二本松市・桑折町・川俣町・大玉村・三春町 他
1,800 戸	410 戸	390 戸	170 戸	100 戸	830 戸

※ 整備戸数は、平成24年度に実施した住民意向調査の結果を基に算出した概ねのものであり、今後の関係市町村との協議や住民意向調査の結果等により、適宜見直しを行います。

現在、第1期分として、平成26年春からの入居を目指し、会津若松市、いわき市、郡山市において、下記の通り合計500戸の整備を進めています(第1期分は集合住宅タイプ)。

建設市町村名	地区名	予定戸数
いわき市	小名浜地区	200戸
	常磐地区	50戸
	郡山市	喜久田町地区
郡山市	富田町地区	40戸
	安積町地区	30戸
	日和田町地区	20戸
	富久山町地区	20戸
	会津若松市	門田町地区
	古川町地区	20戸

注：上記の「復興公営住宅」とは、原子力災害により避難指示を受けている方が、低廉な家賃で入居できる公営住宅です。

同封している「復興公営住宅の検討状況について」をよく読んでお答えください。

IV 参考資料

【すべての方にうかがいます。】

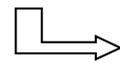
問 12 現在、福島県は前ページに記載しました通り、復興公営住宅の整備を予定しています。あなたのご家族は、復興公営住宅への入居を希望しますか。(○は1つ)

1. 入居を希望する ⇒問 12-1 へ
2. 現時点では判断できない ⇒問 12-2 へ
3. 入居を希望しない ⇒問 12-8 へ

【問 12 で「1.入居を希望する」と回答した方にうかがいます。】

問 12-1 復興公営住宅への入居を希望する理由は何ですか。(○はいくつでも)

- | | |
|-------------------------------|--------------------------------|
| 1. 賠償金で新たな住居を購入することができないから | 5. 自宅を探すのが大変だから |
| 2. 将来双葉町に戻って暮らしたいと考えているから | 6. 復興公営住宅は、安価に住むことができるから |
| 3. 復興公営住宅は町民が集まって住めるので安心だから | 7. 復興公営住宅は福祉サービスが手厚いことが期待できるから |
| 4. 自宅を買ったとしても将来の管理(手入れ)が大変だから | 8. 将来の見通しが立っていないから |
| | 9. その他〔具体的に〕 |



問 12-3 へお進みください

【問 12 で「2.現時点では判断できない」と回答した方にうかがいます。】

問 12-2 復興公営住宅への入居を現時点で判断できない理由は何ですか。(○はいくつでも)

- | | |
|------------------------------|---|
| 1. 集合住宅に住むことに抵抗があるから | 5. 近所にどういう人が住むかわからないから |
| 2. どの地域の復興公営住宅に入居できるかわからないから | 6. 自身の生活の見通し(仕事や学校など)が立っていないから |
| 3. 復興公営住宅の家賃、間取り等が詳細に分からないから | 7. 復興公営住宅以外(持家取得、民間賃貸住宅への入居等)の住宅支援策が定まっていないから |
| 4. 周辺にある施設や住環境がわからないから | 8. その他〔具体的に〕 |

【復興公営住宅へ入居を検討する方（問12で「1. 入居を希望する」、「2. 現時点では判断できない」と回答した方）にうかがいます。】「2. 現時点では判断できない」と回答した方は、入居するとすればという仮定でお答えください。

双葉町は、現時点において「双葉町復興まちづくり計画(第一次)(平成25年6月)」において、「双葉町外拠点」としている「いわき市」「郡山市」「南相馬市」に整備される復興公営住宅に町民がまとまって入居できるよう、福島県に要請しています。
 ※詳細については添付の資料(「復興公営住宅の検討状況について」)をご参照ください。

問12-3 復興公営住宅に入居するに当たって、希望する地域と家族構成をお聞かせください。
 なお、全員がまとまって同じ住戸に入居する場合と世帯の一部しか復興公営住宅には入居しない(例:親世帯は復興公営住宅に入居するが、子供世帯は賃貸住宅に入居する等)場合は「1世帯目」のみご記入ください。
 現在は一緒に住んでいるが、復興公営住宅に入居する際には、別々に入居したい(例:親世帯と子供世帯はそれぞれ一戸の住戸に住みたい等)場合は「1世帯目」と「2世帯目」の両方にご記入ください。

<1世帯目>

(1)最も希望する自治体を教えてください。(○は1つ)

双葉町外拠点として位置づけられている自治体	7. 川俣町 8. 大玉村 9. 三春町 10. 桑折町 11. 須賀川市 12. 喜多方市 13. 田村市 14. 本宮市	15. 鏡石町 16. 小野町 17. 広野町 18. 檜葉町 19. 川内村 20. その他 (具体的に)
1. いわき市 2. 郡山市 3. 南相馬市 4. 福島市 5. 会津若松市 6. 二本松市		

(2)入居する家族構成をご記入ください。(人数で回答)

ア)未就学児(小学校入学前)	人	エ)高校生	人
イ)小学生	人	オ)15~64歳(中学・高校生を除く)の方	人
ウ)中学生	人	カ)65歳以上の方	人

うち、車いすを使用されている方	人
うち、在宅介護を必要とされる方	人

IV 参考資料

<2世帯目>

(3)復興公営住宅へ分散して入居する場合、2世帯目はどちらを希望しますか。(○は1つ)

- | |
|---|
| 1. 1世帯目と隣接する住戸 ⇒問 12-3(5)へ |
| 2. 1世帯目と同じ敷地内の別の住棟又は近接している復興公営住宅の住戸 ⇒問 12-3(5)へ |
| 3. 別の地域の復興公営住宅 ⇒問 12-3(4)へ |
| 4. 分散して入居する希望はない ⇒問 12-4 へ |

【問 12-3(3)で「3. 別の地域の復興公営住宅」と回答した方にうかがいます。】

(4)最も希望する自治体を教えてください。(○は1つ)

双葉町外拠点として位置づけられている自治体 1. いわき市 2. 郡山市 3. 南相馬市 4. 福島市 5. 会津若松市 6. 二本松市	7. 川俣町	15. 鏡石町
	8. 大玉村	16. 小野町
	9. 三春町	17. 広野町
	10. 桑折町	18. 檜葉町
	11. 須賀川市	19. 川内村
	12. 喜多方市	20. その他
	13. 田村市	〔 具体的に 〕
	14. 本宮市	

(5)入居する家族構成をご記入ください。(人数で回答)

ア)未就学児(小学校入学前)	人	エ)高校生	人
イ)小学生	人	オ)15~64歳(中学・高校生を除く)の方	人
ウ)中学生	人	カ)65歳以上の方	人

うち、車いすを使用されている方	人
うち、在宅介護を必要とされる方	人

【現在分散して避難されている方(問 8(2)で「2. 合計 2 か所に分散」「3. 合計 3 か所に分散」「4. 合計 4 か所以上に分散」と回答した方)にうかがいます。】

問 12-4 復興公営住宅に入居する場合、分散して避難している家族との同居について、どのような形を希望しますか。(○はいくつでも)

1. 同じ住戸での生活	5. その他〔具体的に〕
2. 隣接する別の住戸で生活	
3. 同じ敷地内の別の住棟又は近接している復興公営住宅で生活	6. 分散して避難している家族は、復興公営住宅への入居を希望しない
4. 隣接、近接しない別の復興公営住宅で生活	

【復興公営住宅へ入居を検討する方（問 12 で「1. 入居を希望する」、「2. 現時点では判断できない」と回答した方）にうかがいます。】「2. 現時点では判断できない」と回答した方は、入居するとすればという仮定でお答えください。

問 12-5 あなたが希望する自治体としてご回答になられた理由はどのような理由ですか。（○はいくつでも）

- | |
|---------------------------------|
| 1. 放射線量や原子力被害の危険性が少ない(ない)から |
| 2. 気候や風土が良いから |
| 3. 双葉町に近いから |
| 4. 現在の避難先に近いから |
| 5. 人間関係やコミュニティ活動を大切にしたいから |
| 6. 双葉町の地域の方が多く住んでいるから |
| 7. 分かれて住んでいる家族が近くにいるから |
| 8. 電車やバスなど公共交通機関が整っているから |
| 9. 医療機関(病院・診療所)が整っているから |
| 10. 介護・福祉サービスが整っているから |
| 11. 学校など教育施設が整っているから |
| 12. 子どもに適した教育(保育)環境があるから |
| 13. 商店やスーパーなど生活に必要な商業施設が整っているから |
| 14. 働く場所や機会が多いから |
| 15. 自分の事業用地や事業に適しているから |
| 16. 従業員を雇用しやすいから |
| 17. その他(具体的に) |

【復興公営住宅へ入居を検討する方（問 12 で「1. 入居を希望する」、「2. 現時点では判断できない」と回答した方）にうかがいます。】「2. 現時点では判断できない」と回答した方は、入居するとすればという仮定でお答えください。

問 12-6 復興公営住宅に入居する場合に、その住宅に近接する施設、機能として必要だと思うものは何ですか。（○は3つまで）

- | | |
|------------------------|---------------|
| 1. 医療施設(診療所など) | 6. 役所(役場)出張所 |
| 2. 介護・福祉施設(デイサービス施設など) | 7. 公園・広場 |
| 3. 学校 | 8. 貸し農園、家庭菜園 |
| 4. 保育施設 | 9. その他(具体的に) |
| 5. 商店(食堂・喫茶店を含む) | |

【復興公営住宅へ入居を検討する方（問 12 で「1. 入居を希望する」、「2. 現時点では判断できない」と回答した方）にうかがいます。】「2. 現時点では判断できない」と回答した方は、入居するとすればという仮定でお答えください。

問 12-7 復興公営住宅に入居する場合に、快適な生活を送るために必要だと思うものは何ですか。（○は3つまで）

- | | |
|-------------------|---------------|
| 1. 避難住民同士の交流会等の開催 | 4. 子どもの学習支援 |
| 2. 地元住民との交流会等の開催 | 5. 健康相談員の設置 |
| 3. 高齢者向けの見守り(巡回等) | 6. その他(具体的に) |

IV 参考資料

【問 12 で「2.現時点では判断できない」「3.入居を希望しない」と回答した方にうかがいます。】「2.現時点では判断できない」と回答した方は、入居しないとすればという仮定でお答えください。

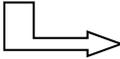
問 12-8 あなたは今後の避難期間中の住居をどのようにお考えですか。(○は1つ)

1. 今の住居で当面、継続して暮らしたい ⇒問 12-9 へ
2. 現在居住している市町村内の別の住居へ引っ越したい ⇒問 12-11 へ
3. 現在居住している市町村以外へ引っ越したい ⇒問 12-10 へ
4. 現時点ではわからない、判断できない ⇒問 12-14 へ

【問 12-8 で「1.今の住居で当面、継続して暮らしたい」と回答した方にうかがいます。】

問 12-9 今の住居で継続して暮らしたい理由は何ですか。(○はいくつでも)

- | | |
|------------------------|-----------------------------------|
| 1. 今の地域コミュニティになじんでいるから | 7. 子どもを転校させたくないから |
| 2. 立地が気に入っているから | 8. 自分又は家族の持ち家だから(避難後に自宅を購入したから) |
| 3. 間取り等今の住宅が気に入っているから | 9. 今の住宅の家賃が無償だから(家賃が賠償対象になっているから) |
| 4. 現在の職場が近くて便利だから | 10. 引っ越しを繰り返すのがいやだから |
| 5. 買い物等の日常生活に便利だから | 11. その他 { 具体的に |
| 6. 防犯上安心だから | } |

 問 12-14 へお進みください

【問 12-8 で「3. 現在居住している市町村以外へ引っ越したい」と回答した方にうかがいます。】

問 12-10 避難期間中に、転居を希望される自治体を教えてください。(○は1つ)

<p>【 浜 通 り 】</p> <p>1. いわき市</p> <p>2. 相馬市</p> <p>3. 南相馬市</p> <p>4. 広野町</p> <p>5. 檜葉町</p> <p>6. 川内村</p> <p>7. 新地町</p>	<p>【 会 津 】</p> <p>21. 会津若松市</p> <p>22. 喜多方市</p> <p>23. 会津美里町</p> <p>24. 福島県内のその他の市町村(具体的にご記入ください。)</p> <p>→ <input type="text"/> (市・町・村)</p> <p>25. 福島県外(具体的にご記入ください。)</p> <p>→ <input type="text"/> (都・道・府・県) <input type="text"/> (市・町・村・区)</p>
<p>【 中 通 り 】</p> <p>8. 福島市</p> <p>9. 郡山市</p> <p>10. 白河市</p> <p>11. 須賀川市</p> <p>12. 二本松市</p> <p>13. 田村市</p> <p>14. 伊達市</p> <p>15. 本宮市</p> <p>16. 桑折町</p> <p>17. 川俣町</p> <p>18. 大玉村</p> <p>19. 西郷村</p> <p>20. 三春町</p>	

【問 12-8 で「2. 現在居住している市町村内の別の住居へ引っ越したい」「3. 現在居住している市町村以外へ引っ越したい」と回答した方にうかがいます。】

問 12-11 避難期間中の現在の居住地から他への避難先への移動を希望する場合、希望する住宅はどのような形態ですか。(○は1つ)

<p>1. 持ち家(一戸建) ⇒問 12-12 へ</p> <p>2. 持ち家(マンションなど) ⇒問 12-12 へ</p> <p>3. 民間賃貸住宅(一戸建) ⇒問 12-13 へ</p> <p>4. 民間賃貸住宅(アパート・マンションなど) ⇒問 12-13 へ</p> <p>5. 公営住宅(原発避難者向けの復興公営住宅を除く通常の都道府県営住宅や市町村営住宅) ⇒問 12-13 へ</p>	<p>6. 給与住宅(社宅など) ⇒問 12-14 へ</p> <p>7. 家族のどなたかのお住まい・実家 ⇒問 12-14 へ</p> <p>8. 親戚・知人宅 ⇒問 12-14 へ</p> <p>9. その他 (具体的に</p> <p style="text-align: right;">) ⇒問 12-14 へ</p>
--	---

IV 参考資料

【問 12-11 で「1. 持ち家(一戸建)」「2. 持ち家(マンションなど)」と回答した方にうかがいます。】

問 12-12 持ち家を購入または建築されるにあたって困っていることはありますか。(○はいくつでも)

- | | |
|---------------------------------|---|
| 1. 希望する場所(自治体)の土地(物件)が少ない | 6. 銀行から融資が受けられない |
| 2. 賠償額の範囲内では、希望する土地(物件)が見つからない | 7. 双葉町に所有していた住宅のローンを抱えており、そのローンを解消することができない |
| 3. 賠償の支払いが遅れているため、購入資金が用意できない | 8. 工期が従前よりも延びている |
| 4. 希望する場所(自治体)の土地(物件)が値上がりしている | 9. 建築業者が見つからない |
| 5. 希望する場所(自治体)の土地(物件)の情報が入手できない | 10. 困っていることは無い |
| | 11. その他 (具体的に) |

【問 12-11 で「3. 民間賃貸住宅(一戸建)」「4. 民間賃貸住宅(アパート・マンションなど)」「5. 公営住宅(原発避難者向けの復興公営住宅を除く通常の都道府県営住宅や市町村営住宅)」と回答した方にうかがいます。】

問 12-13 復興公営住宅を希望しなかった理由は何ですか。(○はいくつでも)

- | | |
|------------------------------|-----------------------------|
| 1. 居住を希望する地域に復興公営住宅が整備されないから | 5. 町民同士がまとまって住むことに魅力を感じないから |
| 2. 復興公営住宅の整備まで時間がかかりそうだから | 6. 職場や学校の近くに住宅を見つけることができるから |
| 3. 復興公営住宅の家賃、間取り等が詳細に分からないから | 7. その他 (具体的に) |
| 4. 住宅の選択肢が広いから | |

【すべての方にうかがいます。】

問 12-14 避難期間中の住宅や居住環境についてご意見があればお書きください。

【すべての方にうかがいます。】

問 12-15 避難期間中の生活において困っていること、改善を求めることがあればお書きください。(医療、教育、介護・福祉、就労、コミュニティなど)

次に、将来に関するご意向についてお聞かせください。

【すべての方にうかがいます。】

問 13 将来、双葉町の避難指示が解除された後の双葉町への帰還について、現時点でどのようにお考えですか。(現在一緒にお住まいの家族の一部だけでも戻りたいと考えている場合は「1」を選んでください)(○は1つ)

- | | | |
|--------------------------------|-------------------------------|---|
| 1. 現時点で戻りたいと考えている
⇒問 13-3 へ | 2. 現時点でまだ判断がつかない
⇒問 13-1 へ | 3. 現時点で戻らないと決めている(「戻れないと考えている」を含む)
⇒問 13-6 へ |
|--------------------------------|-------------------------------|---|

【問 13 で「2. 現時点でまだ判断がつかない」と回答した方にうかがいます。】

問 13-1 双葉町へ戻ることを判断する上で必要と思う情報等について、あてはまるものをすべて教えてください。(○はいくつでも)

1. 避難解除となる時期の目安に関する情報
2. 道路、鉄道、学校、病院などの社会基盤(インフラ)の復旧時期の目途
3. どの程度の住民が戻るかの状況
4. 放射線量の低下の目途、除染成果の状況
5. 中間貯蔵施設の情報
6. 原子力発電所の安全性に関する情報(事故収束や廃炉の状況)
7. 放射線の人体への影響に関する情報
8. 働く場の確保の目途
9. 受領する賠償額の確定
10. その他(具体的に)
11. 現時点ではどのような情報があれば判断できるかわからない ⇒問 13-3 へ

【問 13-1 で「1」から「10」と回答した方にうかがいます。】

問 13-2 上記(問 13-1)で選んだ情報等のうち、重視したいものを3つまで選んで、選択肢番号の欄にご記入下さい。

そして、その情報等について、どのような条件であれば戻りたいと考えますか。

具体的な条件の内容をお書きください。

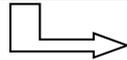
選択肢番号	具体的な内容
(例) 3	元の人口の半分でも戻ってくるのであれば

IV 参考資料

【問 13 で「1.現時点で戻りたいと考えている」「2. 現時点でまだ判断がつかない」と回答した方にうかがいます。】

問 13-3 帰還まで何年まで待つことができますか(○は1つ)

1. 何年かかってもいずれ双葉町に戻りたい
2. 5年以内に戻れるなら戻りたい
3. 10年以内に戻れるなら戻りたい
4. 20年以内に戻れるなら戻りたい



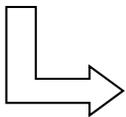
問 13 で「2. 現時点でまだ判断できない」と回答した方は問 14-1 へお進みください

【問 13 で「1.現時点で戻りたいと考えている」と回答した方にうかがいます。】

問 13-4 帰還した場合のお住まいは、どのような形態を希望されますか。(○は1つ)

- | | |
|-----------------------------|--------------------|
| 1. 元の持ち家(自宅)(建替える場合を含む) | 7. 給与住宅(社宅など) |
| 2. 自宅とは別の場所に新たに一戸建の持ち家を建てたい | 8. 家族のどなたかのお住まい・実家 |
| 3. 自宅とは別の場所に分譲マンションを購入したい | 9. 親戚・知人宅 |
| 4. 民間賃貸住宅(一戸建) | 10. その他 (具体的に) |
| 5. 民間賃貸住宅(アパート・マンションなど) | 11. 現時点では判断できない |
| 6. 公営住宅 | |

「1.元の持ち家(自宅)(建替える場合を含む)」を選んだ方 ⇒ 問 14-1 へお進みください



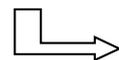
「2. 自宅とは別の場所に新たに一戸建ての持ち家を建てたい」から
「10.その他」を選んだ方 ⇒ 問 13-5 へお進みください

「11.現時点では判断できない」を選んだ方 ⇒ 問 14-1 へお進みください

【問 13-4 で「2」から「10」と回答した方にうかがいます。】

問 13-5 元の持ち家以外を希望される理由は、何ですか。(○はいくつでも)

- | | |
|------------------------------|-------------------------|
| 1. 元の持ち家(自宅)周辺の放射線量の高さが心配だから | 4. 今後、津波の被害を受けることが心配だから |
| 2. 元の持ち家(自宅)周辺に住む人が少ないと思うから | 5. 元の持ち家(自宅)が荒廃しているから |
| 3. 双葉町内の新たな場所で生活を開始したいから | 6. その他 (具体的に) |



問 14-1 へお進みください

【問 13 で「3. 現時点で戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

問 13-6 現時点で戻らないと決めている理由はどのようなことですか。(○はいくつでも)

【帰還の前提・健康に関わるもの】

1. 放射線量が低下せず不安だから
2. 原子力発電所の安全性に不安があるから
3. 水道水などの生活用水の安全性に不安があるから

【町内の復旧状況に関わるもの】

4. 双葉町に戻っても仕事がなさそうだから
5. 双葉町での事業の再開が難しいから
6. 営農などができそうにないから
7. 家が汚損・劣化し、住める状況ではないから
8. 双葉町外への移動交通が不便だから
9. 道路、鉄道等の交通インフラに不安があるから
10. 医療環境に不安があるから
11. 介護・福祉サービスに不安があるから
12. 教育環境に不安があるから
13. 生活に必要な商業施設などが元に戻りそうにないから

【今後の生活に関わるもの】

14. 高齢者・要介護者だけの世帯なので生活が不安だから
15. 他の住民も戻りそうにないから
16. 今後の津波被害を受ける可能性があるから
17. 帰還までに時間がかかるから
18. 避難先で仕事を見つけているから
19. 今の環境で子どもの教育を継続させたいから
20. 避難先の方が生活利便性が高いから
21. その他

（具体的に

IV 参考資料

【問 13 で「3. 現時点で戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

問 13-7 帰還しない場合に、居住を希望する自治体はどちらですか。その自治体を教えてください。

(1) 避難先の自治体にそのまま居住されるご予定ですか。(○は1つ)

- | | |
|---|-----------|
| 1. 避難先にそのまま住むつもり(問 12-3、問 12-8 で回答した市町村) | ⇒問 13-9 へ |
| 2. 現状ではどうするか決まってない | ⇒問 13-9 へ |
| 3. 避難先とは別の自治体に転居したい(問 12-3、問 12-8 で回答した場所とは別の市町村) | |

【問 13-7(1) で「3. 避難先とは別の自治体に転居したい」と回答した方にうかがいます。】

(2) 転居を希望される自治体を教えてください。(○は1つ)

<p>【 浜通り 】</p> <ol style="list-style-type: none"> いわき市 相馬市 南相馬市 広野町 檜葉町 川内村 新地町 	<p>【 会 津 】</p> <ol style="list-style-type: none"> 会津若松市 喜多方市 会津美里町
<p>【 中通り 】</p> <ol style="list-style-type: none"> 福島市 郡山市 白河市 須賀川市 二本松市 田村市 伊達市 本宮市 桑折町 川俣町 大玉村 西郷村 三春町 	<p>24. 福島県内のその他の市町村(具体的にご記入ください。)</p> <p>→ <input type="text"/> (市・町・村)</p> <p>25. 福島県外(具体的にご記入ください。)</p> <p>→ <input type="text"/> (都・道・府・県) <input type="text"/> (市・町・村・区)</p>

【問 13-7(1) で「3. 避難先とは別の自治体に転居したい」と回答した方にうかがいます。】

問 13-8 転居する場合に、希望する住宅はどのような形態ですか。(○は1つ)

- | | |
|---|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 持ち家(一戸建) 持ち家(マンションなど) 民間賃貸住宅(一戸建) 民間賃貸住宅(アパート・マンションなど) 公営住宅 給与住宅(社宅など) 家族のどなたかのお住まい・実家 親戚・知人宅 その他(具体的に 現時点では判断できない |) |
|---|---|

【問 13 で「3. 現時点で戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

問 13-9 震災時に居住されていた双葉町に戻らない場合に、今後の生活においてどのような支援を求めますか。(○はいくつでも)

1. 住宅の確保の支援
2. 継続的な健康管理の支援
3. 雇用確保の支援
4. 仮設住宅・借り上げ住宅の継続的利用
5. 役場からの継続的な情報提供
6. 一時帰宅支援
7. その他(具体的に)

【問 13 で「3. 現時点で戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

問 13-10 震災時に居住されていた双葉町に戻らない場合、あなたの世帯で所有していた不動産はどうされるおつもりですか。(○は1つ)

1. 売却したい
2. 継続して保有し、自ら管理したい
3. 継続して保有したいが、自ら管理できないので、第三者に管理をお願いしたい
4. 第三者に貸与したい
5. その他(具体的に)
6. 世帯で保有している不動産は無い
7. 現時点では判断できない

IV 参考資料

次に、その他の件についてお聞かせください。

双葉町に設置されていた特別養護老人ホームの再開について、現在、社会福祉法人が準備を進めておりますが、今後、福祉施設の整備の参考とさせていただくため、以下の問いにご回答ください。

【すべての方にうかがいます。】

問 14-1 現在、ご家族に介護が必要な方がいらっしゃいますか。(○は1つ)

1. いる ⇒問 14-2 へ
2. いない ⇒問 14-5 へ

【問 14-1 で「1. いる」と回答した方にうかがいます。】

問 14-2 現在、介護保険施設等を利用していますか。(○は1つ)

1. 利用している ⇒問 14-3 へ
2. 利用していない ⇒問 14-4 へ

【問 14-2 で「1. 利用している」と回答した方にうかがいます。】

問 14-3 現在、どのような施設を利用されていますか。(○は1つ)

1. 特別養護老人ホーム
2. 老人保健施設
3. 療養型医療施設
4. グループホーム
5. その他〔具体的に

【問 14-2 で「2. 利用していない」と回答した方にうかがいます。】

問 14-4 現在利用していない理由は何ですか。(○は1つ)

1. 施設が満床で利用できない
2. そもそも利用する必要がない(在宅介護等で対応できる)
3. その他〔具体的に

【すべての方にうかがいます。】

問 14-5 今後、双葉町の社会福祉法人が特別養護老人ホームを再開した場合、利用したいと考えますか。現在、避難先で利用されている方もご回答ください。

なお、時期、場所については明確になっていませんが、場所については双葉町民が多い方面で検討中です。(○は1つ)

1. ぜひ利用したい
2. 場所が希望に近ければぜひ利用したい
3. 現在のところ、利用する必要はないが、将来的に介護が必要になれば利用したい
4. 利用したいとは思わない
5. 現時点では判断できない
6. 介護者がいないので、特別養護老人ホームを利用する必要はない

問 15 から 17 は、町の情報発信に関するものです。今後の情報発信の参考とさせていただきますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

【すべての方にうかがいます。】

問 15 あなたは町からの情報をどのような方法で入手していますか。(○は3つまで)

1. 広報ふたば
2. 町公式ホームページ(パソコン)
3. 町公式ホームページ(スマートフォン)
4. 町公式ホームページ(携帯電話)
5. 町公式フェイスブック
6. 町公式ツイッター
7. 電子回覧板(デジタルフォトフレーム)
8. メールマガジン
9. その他〔具体的に

【すべての方にうかがいます。】

問 16 あなたが特に知りたい、関心がある情報は何か。(○は3つまで)

1. 住宅・暮らしの情報
2. 健康・医療・福祉関連
3. 子育て・教育関連
4. 雇用・就労・就農関連
5. 復興まちづくり関連
6. 放射線量・除染情報
7. 原子力損害賠償関連
8. 原子力発電所関連情報
9. イベント・交流会に関する情報
10. その他〔具体的に

IV 参考資料

【すべての方にうかがいます。】

問 17 全世帯のみなさまへの配布を前提として、町民同士が連絡を取り合うことができる仕組みとなる、電話帳(携帯電話番号や避難先住所などが掲載されたもの)の作成というアイデアがあります。一方で、電話帳の全戸配布については、町外や第三者への個人情報流出の危険性を懸念する意見もあります。

あなたは、現時点の状況下での電話帳の作成について、どのようにお考えですか。(○は1つ)

1. 電話帳を作成してほしい(自分の連絡先も載せたい)
2. 電話帳を作成してほしいが、自分の連絡先は載せたくない
3. 現時点の状況下では電話帳の作成は必要ない

【すべての方にうかがいます。】

問 18 国や自治体への要望、復興に対するあなたの展望やお気持ちなどご自由にお書きください。

最後に、あなたご自身のことについて教えてください。

本調査は、今後の復興公営住宅整備に向けて、住民のみなさまのご意見や要望などをおうかがいすることを目的として実施しております。今後、改めて、復興公営住宅について、詳しくご意向をお聞きする場合がありますので、現在のご住所とご連絡先のご記入をお願いいたします。

なお、当該欄にご記入いただくことによって、復興公営住宅への入居申し込みや入居の確約となるわけではありません。

F1 現在のあなたの住所(番地、アパート名・部屋番号までご記入ください)

F2 あなたの氏名

F3 あなたの連絡先(電話番号)

以上でご回答いただく内容は終わりです。

ご協力いただきまして、誠にありがとうございました。

同封の返送封筒にご記入済み調査票を入れて、
10月24日(木)までに郵便ポストに投函してください(切手は不要です)。

**双葉町 住民意向調査
報告書**

**平成26年3月
復興庁**

調査機関：株式会社サーベイリサーチセンター